

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 238 集

# ゴッソー遺跡発掘調査報告書

町道種市漁港線建設関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

# ゴッソー遺跡発掘調査報告書

町道種市漁港線建設関連遺跡発掘調査

# 序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成5年度の岩手県教育委員会のまとめでは8,700箇所を超えております。先人の残したこれらの文化遺産を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました町道種市漁港線のごとく、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であり、また県民にとっての切実な願いでもあります。このような埋蔵文化財の保護・保存と開発という相容れない要素をもつ事業の調和のとれた施策は今日的な課題であります。

財団法人岩手県文化振興事業団では、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむをえず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、九戸郡種市町の町道種市漁港線建設に関連して、平成6年度に発掘調査をした種市町ゴッソー遺跡の調査結果をまとめたものであります。同遺跡からは縄文時代前期初頭の土器とそれに伴うと考えられる多くの礫石器が出土し、県北沿岸部における縄文時代前期の貴重な考古学的資料を提供することとなりました。

本書が広く活用され、考古学の研究に寄与すると共に埋蔵文化財に対する理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまで発掘調査及び報告書作成に御協力・御援助を賜りました岩手県土木部久慈土木事務所、種市町教育委員会をはじめとする関係各位に感謝申し上げますと共に、今後の御指導・御協力をお願い致します次第であります。

平成8年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 千葉 浩 一

# 例 言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡種市町第 18 地割字 <sup>しょうじあい</sup>小路合 29-13 ほか<sup>しょうじあい</sup>に所在するゴッソー遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、町道種市漁港線建設に伴う事前の緊急発掘調査であり、岩手県教育委員会文化課の指導と調整のもとに、岩手県土木部久慈土木事務所の委託を受け、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施したものである。
3. 本遺跡の岩手県遺跡台帳番号は I F 58-0341、当センターの調査略号は G S -94 である。
4. 野外調査および室内整理の期間、担当者等は次の通りである。

野外調査	期間	平成 6 年 4 月 13 日～7 月 29 日
	面積	3,456 m <sup>2</sup>
	担当者	千葉孝雄、木戸口俊子
室内整理	期間	平成 6 年 11 月 1 日～平成 7 年 3 月 31 日
	担当者	千葉孝雄
5. 出土品の鑑定・保存は次の方々、機関に依頼した。(順不同・敬称略)

石器・石製品の石材鑑定	佐藤 二郎 (長内水源工業)
火山灰同定	三辻 利一 (奈良教育大学)
6. 本報告書の執筆は、「I 調査に至る経過」は高橋與右ヱ門、それ以外は千葉孝雄が担当した。
7. 使用した地図は、建設省国土地理院発行の 5 万分の 1 および 2 万 5 千分の 1 の地形図と、種市町役場建設課が作成した 5 千分の 1 の地形図である。
8. 調査および室内整理に際しては、次の方々・機関にご指導・ご協力をいただいた。(順不同・敬称略)  
酒井久雄、三浦圭介、大湯卓二、畠山 昇、神 康夫、福田友之、工藤 大、小原眞一、佐藤嘉広、浜田宏、岩手県土木部久慈土木事務所、種市町教育委員会、種市町歴史民俗資料館、種市町役場建設課
9. 野外調査は横手春蔵氏・平 ナヲ氏をはじめとする地元の方々に作業員として協力いただいた。
10. 発掘調査に伴う出土遺物および諸記録は、G S -94 の略号を付し岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。



# 目次

序  
例言

## 本文

I 調査に至る経過	2	2. 陥し穴	18
II 野外調査と室内整理	2	3. 焼土遺構	22
1. 野外調査	2	4. 柱穴状小土坑	26
2. 室内整理	3	V 遺構外出土遺物	31
III 遺跡の位置と環境	5	1. 土器	31
1. 遺跡の位置	5	2. 石器・石製品	36
2. 地理的環境	5	3. 古銭	42
3. 地形・地質概観	5	VI まとめと考察	84
4. 周辺の遺跡	6	1. 遺構	84
5. 基本層序	11	2. 遺物	86
IV 検出された遺構と遺物	17	3. まとめ	101
1. 土坑	17	付編 鑑定報告	118

## 表

第1表 時期別遺跡数	6	第12表 土器観察表(4)	105
第2表 周辺の遺跡一覧	7	第13表 石器一覧表(1)	106
第3表 柱穴状小土坑注記	29	第14表 石器一覧表(2)	107
第4表 大グリット別土器出土量	31	第15表 石器一覧表(3)	108
第5表 石器・石製品出土点数	36	第16表 石器一覧表(4)	109
第6表 溝状陥し穴の計測値一覧	85	第17表 石器一覧表(5)	110
第7表 石斧の完形品・欠損品	97	第18表 石器一覧表(6)	111
第8表 石器計測値集計	99	第19表 石器一覧表(7)	112
第9表 土器観察表(1)	102	第20表 石器一覧表(8)	113
第10表 土器観察表(2)	103	第21表 石器一覧表(9)	114
第11表 土器観察表(3)	104	第22表 石器一覧表(10)	115

## 図

第1図 遺跡の位置	1	第6図 時期別遺跡位置(2)	10
第2図 地形分類図	5	第7図 基本層序概念図	12
第3図 各段丘面の被覆火山灰	6	第8図 遺跡周辺の地形	12
第4図 周辺の遺跡	7	第9図 遺物集中区の状況	13
第5図 時期別遺跡位置(1)	9	第10図 調査区土層断面	14

## 版

第11図	遺構配置図	15	第42図	遺構外出土遺物 石器 (10)	63
第12図	第1号・2号土坑	17	第43図	遺構外出土遺物 石器 (11)	64
第13図	第1号・2号陥し穴	19	第44図	遺構外出土遺物 石器 (12)	65
第14図	第3号・4号陥し穴	21	第45図	遺構外出土遺物 石器 (13)	66
第15図	第5号・6号陥し穴	23	第46図	遺構外出土遺物 石器 (14)	67
第16図	焼土遺構 (1)	25	第47図	遺構外出土遺物 石器 (15)	68
第17図	焼土遺構 (2)	26	第48図	遺構外出土遺物 石器 (16)	69
第18図	柱穴状小土坑 (1)	27	第49図	遺構外出土遺物 石器 (17)	70
第19図	柱穴状小土坑 (2)	28	第50図	遺構外出土遺物 石器 (18)	71
第20図	柱穴状小土坑 (3)	29	第51図	遺構外出土遺物 石器 (19)	72
第21図	遺構内出土遺物	30	第52図	遺構外出土遺物 石器 (20)	73
第22図	遺構外出土遺物 土器 (1)	43	第53図	遺構外出土遺物 石器 (21)	74
第23図	遺構外出土遺物 土器 (2)	44	第54図	遺構外出土遺物 石器 (22)	75
第24図	遺構外出土遺物 土器 (3)	45	第55図	遺構外出土遺物 石器 (23)	76
第25図	遺構外出土遺物 土器 (4)	46	第56図	遺構外出土遺物 石器 (24)	77
第26図	遺構外出土遺物 土器 (5)	47	第57図	遺構外出土遺物 石器 (25)	78
第27図	遺構外出土遺物 土器 (6)	48	第58図	遺構外出土遺物 石器 (26)	79
第28図	遺構外出土遺物 土器 (7)	49	第59図	遺構外出土遺物 石器 (27)	80
第29図	遺構外出土遺物 土器 (8)	50	第60図	遺構外出土遺物 石器 (28)	81
第30図	遺構外出土遺物 土器 (9)	51	第61図	遺構外出土遺物 石器 (29)	82
第31図	遺構外出土遺物 土器 (10)	52	第62図	遺構外出土遺物 石器 (30)・石製品・古銭	83
第32図	遺構外出土遺物 土器 (11)	53			
第33図	遺構外出土遺物 石器 (1)	54	第63図	溝状陥し穴の長軸方向	85
第34図	遺構外出土遺物 石器 (2)	55	第64図	第II群土器底部形状	91
第35図	遺構外出土遺物 石器 (3)	56	第65図	石器の器種組成	92
第36図	遺構外出土遺物 石器 (4)	57	第66図	石器の石質組成	93
第37図	遺構外出土遺物 石器 (5)	58	第67図	石器計測値分布 (1)	95
第38図	遺構外出土遺物 石器 (6)	59	第68図	石器計測値分布 (2)	96
第39図	遺構外出土遺物 石器 (7)	60	第69図	石器計測値分布 (3)	98
第40図	遺構外出土遺物 石器 (8)	61	第70図	石器計測値分布 (4)	99
第41図	遺構外出土遺物 石器 (9)	62	第71図	円礫の重量分布と出土分布	100

## 写 真 図 版

写真図版 1 航空写真

写真図版 2 土層と遺物出土状況

写真図版 3 遺物出土状況と調査終了後の状況

写真図版 4 土坑・陥し穴 (1)

写真図版 5 陥し穴 (2)

写真図版 6 焼土遺構 (1)

写真図版 7 焼土遺構 (2)・柱穴状小土坑

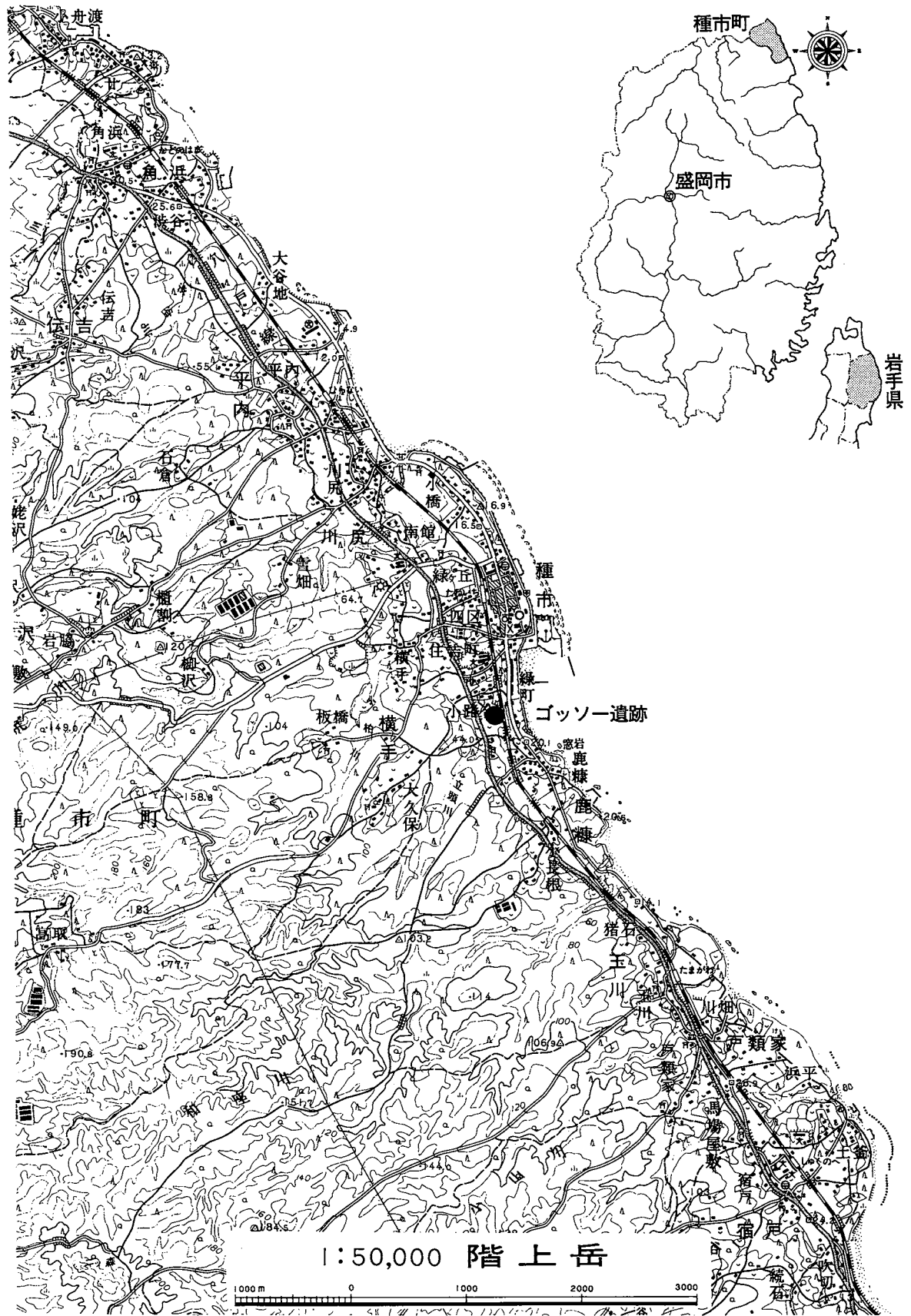
写真図版 8 遺構内出土遺物

写真図版 9 遺構外出土遺物 土器 (1)

写真図版 10 遺構外出土遺物 土器 (2)

写真図版11 遺構外出土遺物 土器 (3)  
写真図版12 遺構外出土遺物 土器 (4)  
写真図版13 遺構外出土遺物 土器 (5)  
写真図版14 遺構外出土遺物 土器 (6)  
写真図版15 遺構外出土遺物 土器 (7)  
写真図版16 遺構外出土遺物 土器 (8)  
写真図版17 遺構外出土遺物 石器 (1)  
写真図版18 遺構外出土遺物 石器 (2)  
写真図版19 遺構外出土遺物 石器 (3)  
写真図版20 遺構外出土遺物 石器 (4)  
写真図版21 遺構外出土遺物 石器 (5)  
写真図版22 遺構外出土遺物 石器 (6)  
写真図版23 遺構外出土遺物 石器 (7)  
写真図版24 遺構外出土遺物 石器 (8)  
写真図版25 遺構外出土遺物 石器 (9)

写真図版26 遺構外出土遺物 石器 (10)  
写真図版27 遺構外出土遺物 石器 (11)  
写真図版28 遺構外出土遺物 石器 (12)  
写真図版29 遺構外出土遺物 石器 (13)  
写真図版30 遺構外出土遺物 石器 (14)  
写真図版31 遺構外出土遺物 石器 (15)  
写真図版32 遺構外出土遺物 石器 (16)  
写真図版33 遺構外出土遺物 石器 (17)  
写真図版34 遺構外出土遺物 石器 (18)  
写真図版35 遺構外出土遺物 石器 (19)  
写真図版36 遺構外出土遺物 石器 (20)  
写真図版37 遺構外出土遺物 石器 (21)  
写真図版38 遺構外出土遺物 石器 (22)・石製品・  
古銭



第1図 遺跡の位置

## I 調査に至る経過

県最北三陸沿岸に位置する種市町は、沿岸漁業と農業を基幹とする町であるが、町発展のために種市漁港地域活性化プロジェクト事業が策定され、その一貫として昭和62年10月から、岩手県林業水産部漁港課で種市漁港関連道概略設計及び他省庁との協議を始めた。

平成4年4月に工事施行の所管が水産庁から建設省にかわり、種市町が（仮称）町道種市漁港線道路改良事業として詳細設計及び他省庁との協議を開始した。

平成4年9月7日に、道路予定路線が周知の「ゴッソー遺跡」内に位置するのではないかと指摘があり、その取扱について平成4年9月9日に種市町の関係3者で協議をし、同日に岩手県教育委員会事務局文化課（以下文化課）に顛末の報告をし指導をあおいだところ、久慈管内遺跡パトロール員に相談するように、との指導を受けた。

指導を受けた町教委はパトロール員とさらに協議をかさねた結果、平成4年9月18日に関係者が現地調査をすることとなり、その結果はパトロール員から文化課に報告された。報告を受けた文化課は、平成4年10月6日に、事業予定地は埋蔵文化財の周知区域であり試掘が必要である旨の連絡をした。連絡を受けた事業者は文化課あてに「埋蔵文化財の発掘調査依頼書」を提出した。提出を受けた文化課は、平成5年2月4日付けで発掘調査の通知書を交付し、平成5年3月15～16日に試掘調査を実施し、その結果は平成5年3月26日付けで本調査が必要である旨を付記し事業者に報告され、本調査は平成6年度の（財）岩手県文化振興事業団の受託事業として実施することとした。

実際の調査は、平成6年4月1日の契約によって平成6年4月13日から開始され、平成6年7月29日に終了した。その後、平成6年11月1日から同7年3月31日まで室内整理を行い、平成7年度に報告書の発刊となった。

## II 野外調査と室内整理

### 1. 野外調査

#### (1) 調査区画の設定（第11図）

本遺跡の調査区域は、南北方向・東西方向ともに約160mの範囲に及ぶ不整形である。これらすべてを共通の座標でカバーするために、平面直角座標X系にのせて区画を設定した。区画原点は第X系X=44,724m、Y=75,072mである。この原点から東方および南方へ一辺40mの大区画を設定し、この一辺をそれぞれ10等分して4m毎の小区画とした。区画名は、大区画に対しては東方向へローマ数字、南方向へ大文字アルファベットを順に与え、小区画に対しては東方向へアラビア数字を0～9まで、南方向へ小文字アルファベットをa～jまで順に与えた。これらの組み合わせにより、大区画名はIA、IIB、小区画名は大区画名を冠してIA1a、IIB2bのように表した。

測量のための基準杭は4点設定したが、その成果は次の通りである。

基準点 1 (III B 1 e)	X=44,628 m	Y=75,156 m	H=20.454 m
基準点 2 (IV B 2 e)	X=44,628 m	Y=75,200 m	H=20.729 m
基準点 3 (V B 7 a)	X=44,644 m	Y=75,260 m	H=20.810 m
基準点 4 (V A 7 f)	X=44,664 m	Y=75,260 m	H=75.260 m

## (2) 遺構の名称

遺構の名称は、調査時では調査区画名を用いたが、遺構数が少なかったことから、室内整理に当たって命名法を変更し、遺構種別毎に番号を冠して、第1号土坑、第5号陥し穴のように呼称することとした。概ね西から東、北から南にむかって順次若い番号をつけた。本報告書は変更後の遺構名に拠るほか、保管する図面や写真などはすべて新遺構名に変更してある。

## (3) 粗掘りと遺構検出

本調査区域の西側の大部分は畑地であったが、耕作土内に遺物が包含されることから、粗掘り・検出とも人力によった。東側VA区の一部とVIA区は荒地であり、人力では不能率と考え、2 m幅の試掘トレンチを南北方向に2本入れて土層の確認と遺物の出土状況を見ながら、重機を用いて粗掘りを行った。

検出作業はII層からIV層の各層上面で行ったが、随時小区画境のベルトを残し断面観察を並行して遺漏のないように努めた。

## (4) 精査と実測

検出された遺構は土坑・陥し穴・焼土遺構であり、すべて二分法によった。遺構の性格・遺存状況によって適宜方法を変えて行った。

実測は簡易遣り方を採用し、小区画線を基準に1 m間隔のメッシュを測量基線として、縮尺20分の1を基本に行った。必要に応じて10分の1で行うこともあった。

## (5) 写真撮影

使用したカメラおよびフィルムは、モノクロームが35 mm判と6×7 cm判各1台、カラー・リバーサル35 mm判1台である。航空写真は、概ね終了と判断された時点で撮影を実施した。

## (6) 広報活動

埋蔵文化財に対する啓蒙活動の一環として、調査の成果を町民に公開する機会を設定した。また、小学校・中学校・子供会育成会・地元の歴史研究団体等から見学要請があり、調査の妨げにならない範囲で適宜調査員が対応した。主なものは次の通りである。

遺跡公開	7月14日	54名参加
発掘体験学習	平内小学校	6年(28名)
遺跡視察・見学	町教育委員会(8名)	町文化財調査委員会(10名)
(順不同)	種市町歴史民俗の会(15名)	町教研社会科部会(13名)
	角浜小学校(25名)	種市中学校(17名) 角浜中学校(36名)
	小路合子供会(30名)	鹿糠子供育成会(23名) 大町子供会(25名)

## 2. 室内整理

### (1) 遺物の処理

土器については、水洗・接合・復元の作業後に、口縁部や底部など器形のわかるもの、文様の特色のあるものなどを判断材料に報告書に掲載するものを選定し登録した。

石器については、剥片石器はフレイク・チップ類を除き、二次的な剝離を有するものはすべて登録した。二次的な加工がされていても道具と認め難いものはリタッチドフレイク(Rフレと略称する)、二次的な剝離が微小なもので加工とは認め難く使用痕と考えられるものはユーティライズドフレイク(Uフレと略称する)という名称をつけて台帳に記載した。礫石器は、使用痕を有するものを登録した。登録した石器の全てにつ



いて報告書に取り上げることはできなかったので、任意の分類基準を設け、同一分類に属するもののうち完形品を中心に代表的なものを図化した。図示しなかった石器については整理時点の番号を付し、分類・法量・石質などを表で示した。

土器および石器の図示した点数は、各分類に属する出土点数を全く無視したものではないが、直接出土割合を反映するものでもない。

(2) 図版について

遺構図版は、遺構種類で大別し、大調査区毎に北西から南東の順に掲載してある。遺物図版は、遺構種別毎に一括して掲げた。

遺構外出土遺物については、出土地点や出土層位を捨象し任意に設けた分類に沿って掲載した。

縮尺は、遺構図版は原則として40分の1で表し、柱穴状小土坑は60分の1とした。遺物については、土器実測図は3分の1、拓影図は3分の1、剥片石器は2分の1、礫石器は3分の1を原則としたが一部異なるものもある。各図版にスケールで示した。

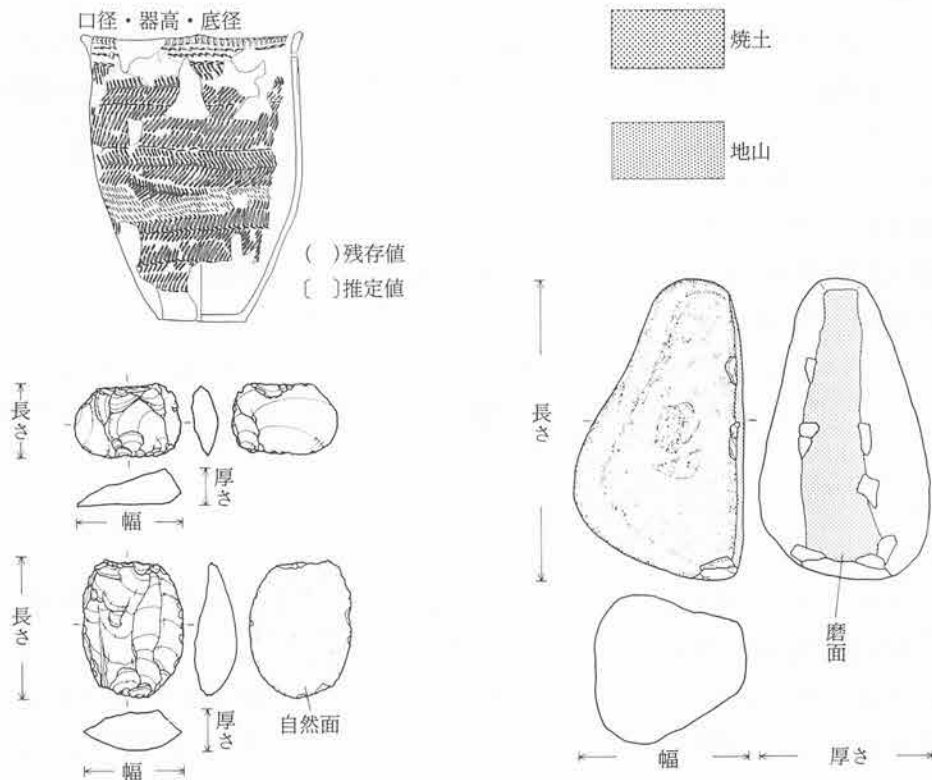
写真図版については、遺構・遺物とも不定縮尺である。写真図版の遺物番号は、図版の遺物番号に照応する。

(3) 計測値

遺物の計測位置および用いたスクリーントーンについては図に示した。計測値は土器・石器とも推定値は[ ]、残存値は( )で示した。

(4) 土色

農林水産省農林水産技術会議監修の「新版標準土色帖」(1989年版)による。



凡例

### III 遺跡の位置と環境

#### 1. 遺跡の位置 (第1図)

本遺跡の所在する種市町は、岩手県最北端に位置し、北は青森県三戸郡階上町、東は太平洋、西は軽米町・大野村、南は久慈市に接する。県都盛岡市からは91.8 kmの距離にあり、総面積は167.57 km<sup>2</sup>である。本遺跡は、東日本旅客鉄道八戸線種市駅から南約1 km、東に太平洋を臨む段丘上にあり、北緯40°23'54"、東経141°43'06"付近に位置する。

本遺跡は、縄文時代前期の土器・石器の散布地として周知の遺跡であり、昭和36年に岩手大学草間俊一教授によって調査されている。同教授の調査地点は標高50 mほどの丘陵と記され、今回の調査地点より西約300 m付近の中位段丘上と考えられる。

今回調査した区域は標高19~20 mの低位段丘であり、現況は畑地を主体とし一部は原野である。

#### 2. 地理的環境

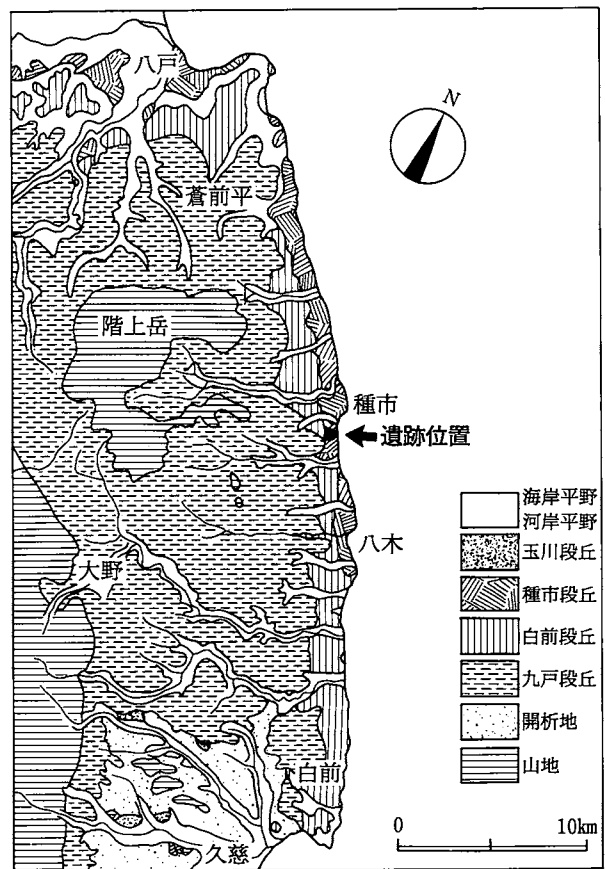
種市町は、西は北上山地の北端にあたり階上岳(種市岳、740.1 m)、久慈平岳(706.3 m)など山岳地帯があり山林地帯が大部分を占める。それらの山裾部から川尻川、和座川・大浜川、有家川・高家川がそれぞれ並行し東流して太平洋に注ぐ。東側は沿岸沿いに狭隘ではあるが平地が展開し、集落を形成する。東日本旅客鉄道八戸線は同平地を南北に縦断し、これに並行して国道45号線が通る。主要地方道軽米一種市線は内陸方面の主要集落を連絡している。

気候は年平均気温が10.4°Cで三陸地方特有のやませが海霧をもたらし、低温と日照不足が農業に大きな影響を与えている。気温は、海岸部では夏は涼しく、冬は内陸部より高い。

#### 3. 地形・地質概観 (第2・3図)

本遺跡の周辺では、南北方向にほぼ同一の地形配列が観察される。すなわち町境をなす階上岳・久慈平岳を中心とする山地が西側に展開し、その東側には時期を異にする海岸段丘が、数段の階段状ないし緩斜面状に展開し、最後に狭隘な海岸平野を伴って太平洋へと続く。

西側に連なる山地群は、階上岳山地・久慈平岳山地・黒間山地に大別される。階上岳は、頂上部は緩傾斜を示すが、高度を減ずるにしたがって傾斜の度合いを増し、下部の段丘面に接する付近から再び傾斜が緩やかになる凹型斜面である。南東側斜面は他の斜面に比し侵食が進み、傾斜も急である。久慈平岳は、階上岳よりは低いものの頂上南西部に緩斜面をもち、太平洋側へ連なる斜面形状も階上岳に等しい。東方には高取山・二ツ森などの小山塊が残丘状に存在する。黒間山地は大野村との境界にあたり高度は400 m程度で、起伏量も少ない。これら山地群



(石田ら、1969を部分使用)

第2図 地形分類図

は、岩質学的には粗粒石英閃緑岩～花崗閃緑岩～石英モンゾニ岩によって構成され、硬質である。

山地群から延びる凹型斜面は九戸段丘へと移化する。九戸段丘は北上山地東縁部および東麓に沿って分布し、種市周辺では標高 120 m～240 m で、内陸方へ高さを増すとともに傾斜も急となって、起伏量が増大する。その

形状はむしろ丘陵の名に相応しい。この起伏は、原初的なものである可能性もなしとしないが、段丘面形成後の開析によるところが大きい。この段丘には、基盤の花崗岩類の上に九戸火山灰をのせる。

九戸段丘の外縁には白前段丘が分布する。標高 60 m～100 m 程度の小段丘の集合で、海方へ緩斜面をなしている。九戸段丘と接する高位面では扇状地状の形状を特徴とする。

種市段丘は、八木付近から八戸市湊まで海岸線に沿って帯状によく発達し、本遺跡周辺では 15 m～25 m 前後の標高値を示す。段丘面は平坦で、比較的柔らかい上部白亜系種市層を基盤とし、その上に水成堆積物・種市火山灰・八戸火山灰・完新世テフラをのせる。

本調査区は種市段丘上にあり、前述の地質構成を呈する。

#### 引用・参考文献

- 岩手県 1979：『北上山系開発地域土地分類基本調査 三戸・階上岳』
- 平凡社 1990：『岩手県の地名』日本歴史地名体系 3
- 種市町教育委員会 1983：『ふるさと読本<地質編>』
- 石田琢二他 1969：「東北地方における第四紀海水準変化」地団研専報 15 号

#### 4. 周辺の遺跡 (第 4 図)

種市町管内に所在する遺跡は、岩手県遺跡台帳 (岩手県教育委員会文化課 1994、以下台帳という) によると 52 遺跡である。<sup>(注1)</sup>

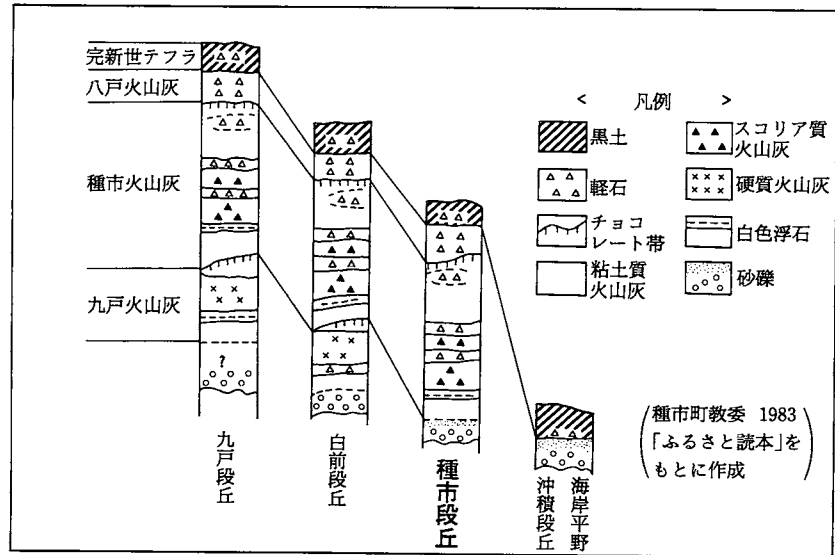
旧石器時代の遺跡は台帳には記載はまだないが、鉄山 (大谷) と有家の 2 遺跡で、高館火山灰の上層から石器が確認されている。<sup>(注2)</sup> (文献 4. p 1015)。

縄文時代に入ると遺跡数は 28 を数える。時期別の内訳は次の通りである。

時期	早期	前期	中期	後期	晩期	計
遺跡数	4	7	7	10	13	28

第 1 表 時期別遺跡数

( 時期が複合する遺跡があり、時期別の合計は遺跡数と一致しない。 )



第 3 図 各段丘面の被覆火山灰



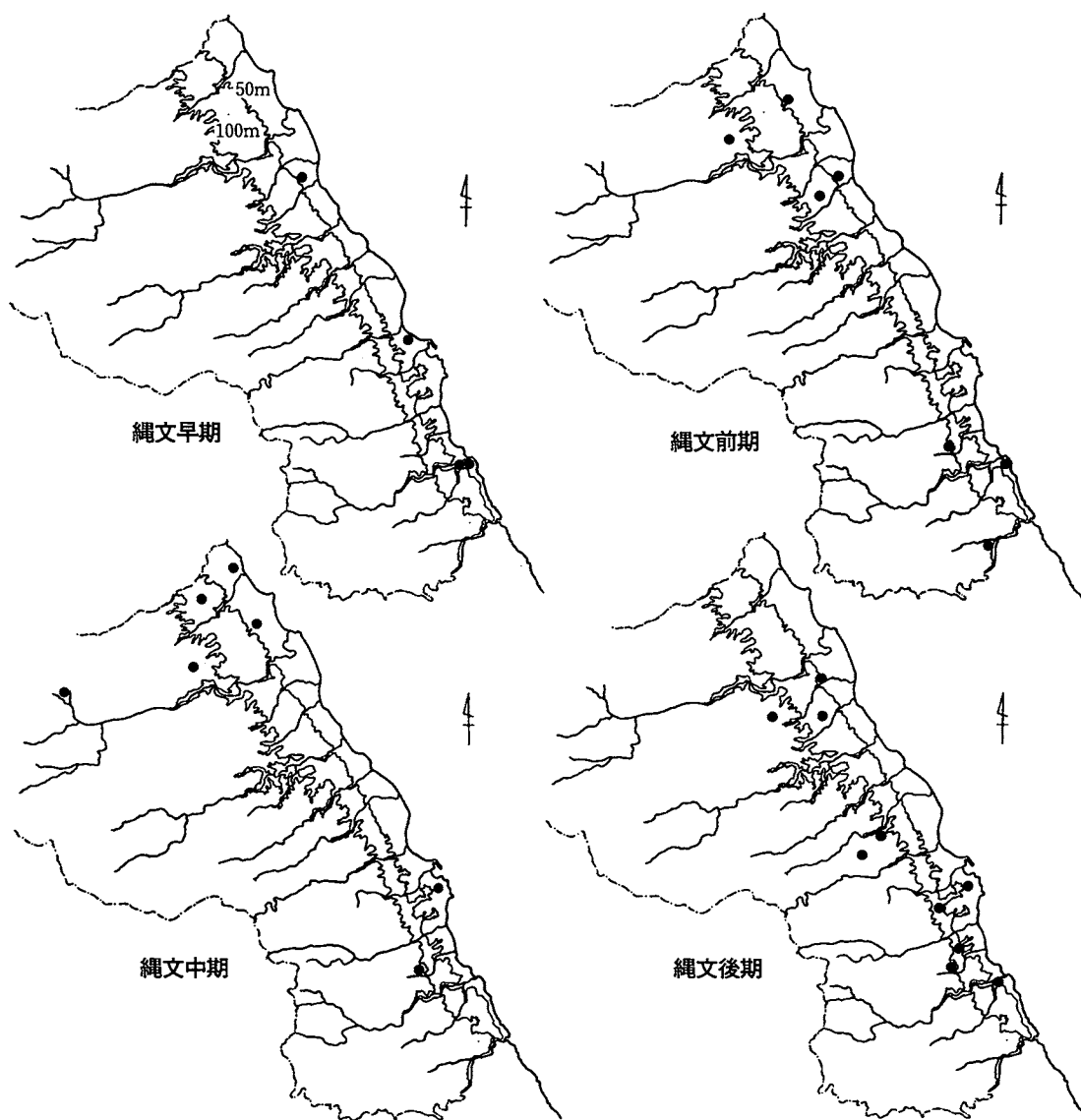
第4図 周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	備考
1	種市城(山城)	城館跡	堀	中世	城内	
2	角ノ浜	散布地	縄文土器	縄文	角ノ浜	
3	伝吉	集落跡	縄文土器(中期)、石斧、石鏃他	縄文中期	伝吉	
4	蝦夷森(アイヌ森)	集落跡	縄文土器(中期・晩期)、フレイク	縄文中期・晩期	角ノ浜字蝦夷森	
5	千敷平	集落跡	縄文土器(前期・中期)、フレイク	縄文前期・中期	麦沢字千敷平	
6	平内	集落跡	縄文土器(前期・中期)、フレイク	縄文前期・中期	平内	
7	南館	城館跡	無	中世	川尻	59年調査
8	横手	散布地	縄文土器(晩期)、土師器	縄文晩期、古代	横手	
9	トチの木	散布地	縄文土器(後期・晩期)	縄文後期・晩期	横手字トチの木	
10	荒巻	集落跡	縄文土器(中期)、弥生土器	縄文中期、弥生	荒巻	
11	八幡館	城館跡	堀	中世	滝沢	59年調査
12	城内	集落跡	土師器(長胴甕、壺)	古代	城内	
13	荒屋敷館	城館跡	堀の一部	中世	荒屋敷	59年調査
14	館野館	城館跡	堀	中世	館野	59年調査
15	小手野山金山	砂金採取跡	石垣	江戸	麦沢	
16	土橋	屋敷跡	無	中世	麦沢	59年調査
17	種市城(平城)	城館跡	無	中世	城内	59年調査
18	小手野沢館	城館跡	五重堀	中世	荒屋敷	59年調査
19	板橋館	城館跡	二重～三重堀	中世	板橋	59年調査
20	ゴッソー	散布地	縄文土器(早期・前期)	縄文早期・前期	小路合字ゴッソー	
21	たけの子	散布地	縄文土器(後期・晩期)	縄文後期・晩期	たけの子	
22	大久保	散布地	縄文土器(前期・後期・晩期)、土師器、石斧	縄文前期・後期・晩期、古代	大久保	
23	ノソウケ金山	砂金採取跡	石垣	江戸	大沢	
24	小芽生館	城館跡	無	中世	大沢	59年調査
25	和座館	城館跡	二重堀	中世	和座	59年調査
26	大谷鉄山	製鉄跡	鉄滓	江戸	大谷	
27	西の館	散布地	縄文土器(後期・晩期)、石器	縄文後期・晩期	上岡谷	
28	宿戸館	城館跡	堀	中世	宿戸	59年調査
29	西の館	城館跡	堀、土塁	中世	宿戸	59年調査
30	西館の田	散布地	縄文土器(晩期)、石器、土偶	縄文晩期	上岡谷字西館の田	
31	上岡谷	散布地	縄文土器(後期)	縄文後期	上岡谷	
32	大平	集落跡	縄文土器(早期・晩期)、弥生土器	縄文早期・晩期、弥生	八木字大平	
33	ホクリ貝塚	貝塚	縄文土器(晩期)、製塩土器、カキ	縄文晩期	八木字ホクリ	
34	細沢鉄山	製鉄跡	鉄滓	江戸	大谷	
35	濁川鉄山	製鉄跡	鉄滓	江戸	大谷	
36	小田の沢鉄山	製鉄跡	鉄滓	江戸	八木	
37	八木貝塚	貝塚	縄文土器、製塩土器、鹿角	縄文晩期	八木	
38	袖山	集落跡	縄文土器(中期・後期)	縄文中期・後期	八木字袖山	
39	長坂	散布地	縄文土器(後期・晩期)	縄文後期・晩期	大字小字内字長坂	
40	小字内貝塚	貝塚	貝、染付磁器	縄文	大字小字内字長坂	
41	黒マッカ貝塚	貝塚	縄文土器(後期)、土師器、石器	縄文後期、古代	大字有家	
42	向折戸	集落跡	縄文土器(晩期)、石斧	縄文晩期	大字有家	
43	上のマッカ	集落跡	縄文土器(前期・中期・後期)、フレイク	縄文前期・中期・後期	大字有家	
44	有家館	城館跡	堀(埋められている)	中世	大字有家	昭和59年調査
45	芦毛渡鉄山	製鉄跡	鉄滓	江戸	大字中野	
46	有家御陣屋	砲台場跡	土塁	江戸	有家	昭和59年調査
47	大宮II	散布地	縄文土器(早期)、弥生土器	縄文早期、弥生	大字中野字大宮	
48	大宮I	集落跡	縄文土器(早期・前期・晩期)、弥生土器	縄文早期・前期・晩期、弥生	大字中野字大宮	
49	長根塚	散布地	縄文土器	縄文	大字中野字長根	
50	中野館	城館跡	堀(埋められている)	中世	中野	昭和59年調査
51	蝦夷塚	集落跡	縄文土器	縄文	大字中野字粒来	
52	藤好沢	集落跡	縄文土器(前期・晩期)、石刀	縄文前期・晩期	大字中野字藤好沢	

第2表 周辺の遺跡一覧

表で明らかなように、早期から晩期にいたるまで遺跡数は漸増傾向を示している<sup>(註3)</sup>。他地域では通例ピークを示す中期の時期については、文献2・3においても遺物掲載はそれほど多くはない。このことは、中期が少ないと見るよりも、後期・晩期の方が多いと見るべきであろう。十腰内様式・亀ヶ岡様式の土器文化の範囲内であってその盛行に直接関わる区域であると言えることができるかも知れない。

縄文時代各時期の遺跡についてその立地や特徴を見る。早期は貝殻文の時期が中心である。4遺跡とも、海岸沿いの低位段丘上で、概ね中小河川の河口部付近に立地しているということができよう。前期になると遺跡の標高値はほぼ倍増し、最も低い大宮I遺跡で標高40~50m、上のマッカ遺跡で90~100m、千敷平遺跡では120mに及ぶ。その分布も現海岸線から1~4km離れた位置に見られるようになる。ゴッソー遺跡に於いても今回調査した標高20m付近には集落は見られなかった。このことは、いわゆる縄文海進との関連で把握することが可能であろう。中期は荒巻遺跡のように標高190m、現海岸線から8kmの距離にある遺跡から、蝦夷森遺跡のように標高20m、現海岸線に近接する遺跡もあり、全体的に拡散傾向がうかがえる。後

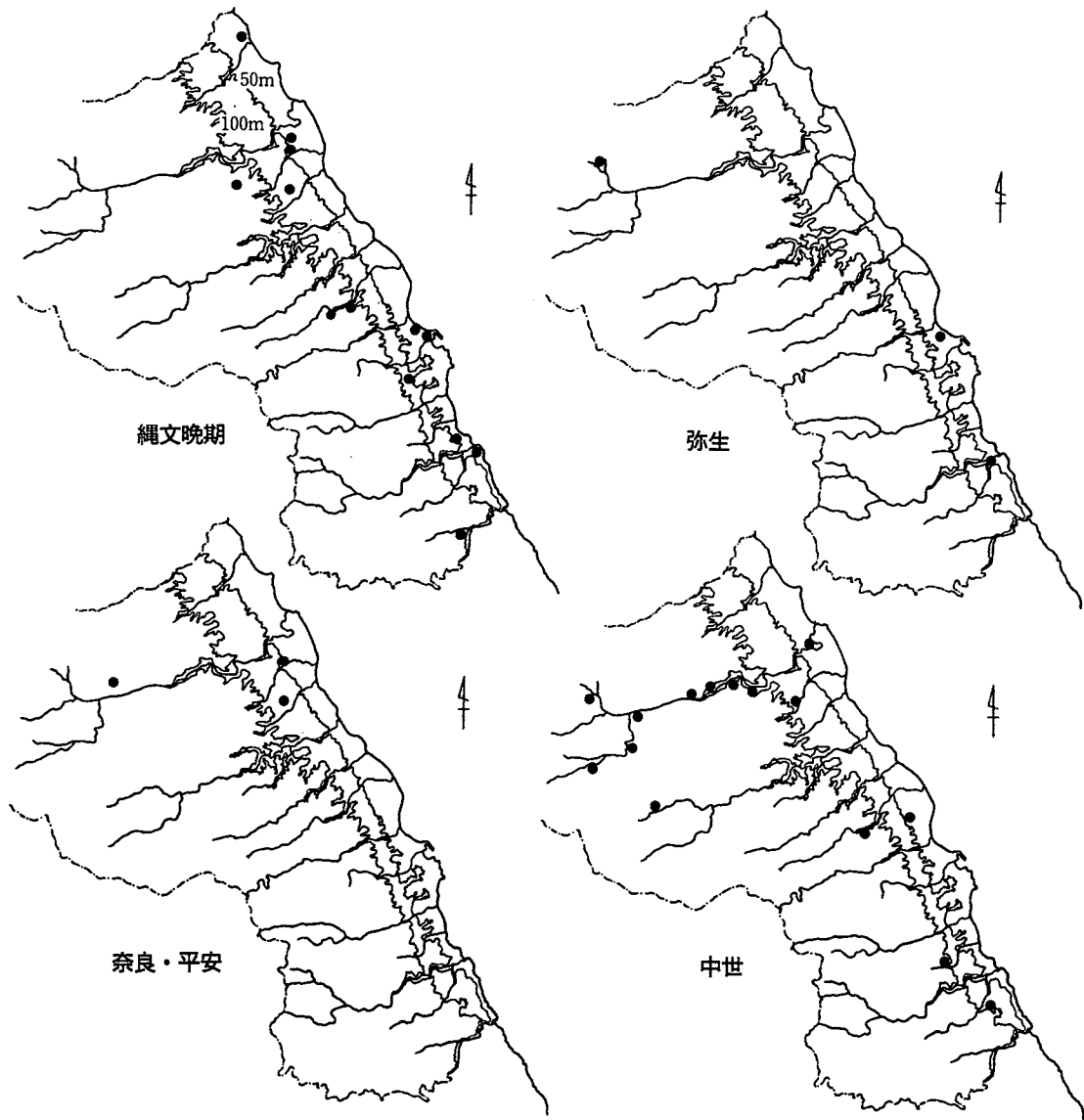


第5図 時期別遺跡位置(1)

期は、現海岸線から1～3 km 程度離れた中位段丘上かあるいは高位段丘上の東側に位置する遺跡が多い。海岸線に近い袖山遺跡にあっても、標高値 30～40 m を示す台地状の地形に立地する。晩期にいたると遺跡分布は再び拡散し、製塩土器の出土で名高いホックリ貝塚は現在は漁港施設と化しており、一方たけの子遺跡のように山間の奥まった位置にある遺跡もある。

弥生時代から古代に属する遺跡は7を数える。これ以外にもアメリカ式石鏃、赤穴式の土器などが出土している遺跡があり、今後さらに登録遺跡は増加すると思われる。特筆すべき遺物として、後期古墳時代に属するといわれる袖山遺跡出土の石製模造品がある。畿内地方の文化の影響を強く受けた仙台地方との交流・交渉を示すものといえよう。

中世城館跡は、昭和 59 年に分布調査が行われたが、種市町管内では同調査によって新たに 11 か所を確認するという成果をあげ現在 15 遺跡が登録されている（文献5）。うち 8 遺跡は川尻川沿いにあり、同河川が開析した谷底平野を眺望できる丘陵上に立地している。残る 7 遺跡も位置こそ異なれ同様の地形上に占地す



第6図 時期別遺跡位置(2)



る。ただし、館主や存続期間等については不明なものが多い。種市城は、戦国後期南部晴継の股肱の臣種市中務の居城であるが、天正20年(1592)の「諸城破却書上」には破却の対象となっている(文献4、P1015)。

近世の遺跡としては有家御陣屋跡、鉄山跡4遺跡、金山跡2遺跡が台帳に登載されている。最近の文献研究では、砂金採取場所が4か所(沢尻、雪畑、小手沢、野そうけ)あり、寛永期に操業したものという(文献6、p8)。有家御陣屋跡は南部藩が正保2年に船遠見番所20か所を設けた際の1つと考えられ、八戸藩日記に文政8年の記録が残っている(文献6、p4)。

以上、町内の遺跡を概観してきたが、時代・遺跡によってその内容に疎密はあるものの、旧石器時代から連続と続く人間の営みをたどることができる。しかし、文献史学的研究が推進されている一方で、発掘調査は殆ど行われておらず未解明の部分が多いこともまた事実である。分布調査がさらに進められ、地域の歴史を復元する作業が今後とも続けられることと思う。

(注1): 第1表は、遺跡については台帳に登載されたものに限定し、時期については下記文献を参考に記入したものである。

文献2に記載がある次の17遺跡は、台帳には登録されていない。あるいは同一遺跡異名称であるかも知れない。

高取、にしゃくどう、梅内、向ながれ、館野、和座、向山、渋谷、北野沢A・B、浜通り、石倉、櫃割、大谷地、久慈平、麦沢、戸類家

同様に文献3では、八幡堂、滝沢、いくつなみ貝塚、船渡、西山、宿戸の各遺跡名が掲載されているが台帳には同名での登録はない。

(注2): 鉄山遺跡から石刃と剝片、有家遺跡から石斧と剝片が出土しているという。

(注3): この傾向は、注1に記した遺跡(台帳に登載のない遺跡)についても同様である。

#### 引用・参考文献

- 1 小岩末治 1961 『岩手県史』 岩手県
- 2 草間俊一 1963 『種市の歴史』 種市町役場
- 3 種市町歴史民俗資料館 1975 『種市の土器・石器』
- 4 角川書店 1985 『角川 日本地名大辞典3 岩手県』
- 5 岩手県教育委員会 1986 『岩手の城館跡』 岩手県文化財調査報告書第82集
- 6 種市町教育委員会 1983 『ふるさと読本<歴史編>』
- 7 種市町教育委員会 1991 『ふるさと読本 むかしのたねいち』

#### 5. 基本層序(第7~10図)

調査区は、23~19mの範囲にあり、ごく緩やかに東傾するが、景観上はほぼ平坦といってよい。調査区の西側は国道45号線が南北に走り原地形をとどめないが、さらに西側は中位段丘の段丘崖に接続する斜面を形成している。調査区東端は、標高19mの等高線で区切られ低位段丘の段丘縁に当たり、東方向および北方向は急崖となる。調査区の現況は畑地を主体とし、町道の東側は原野であった。

調査区内の層順は概ね等しいが、地点によっては層厚を異にしたり欠落する層がある。また旧地形や河道のために異なる土層を示す区域もある。

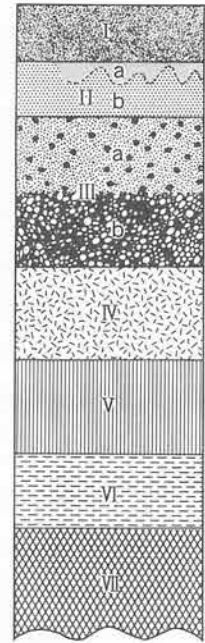
ほぼ標準的な層序を示すのはⅢB区東側とⅣB区西側である(第10図④)。また、ⅤA区・ⅥA区も層厚は異なるが層順は等しい(第10図⑤)。これらを模式的に表した(第7図)。

I層 7.5 YR 3/1 黒褐色土 層厚 10 cm～35 cm。耕作土または表土。耕作や植生根によって攪乱を受けている。締まりを欠く。耕作土内に縄文時代前期の土器小片・剝片石器・フレークを少量含む。

II a層 10 YR 2/2 黒褐色土 層厚 5 cm～25 cm。黒ボク土。植生根による攪乱を受けており、締まりを欠く。遺物はほとんど含まない。II B区では層厚 40 cm を示す一方で、III B区東側・IV B区東半部では本層を欠落する。また、一部II a層とII b層が分離できず混土状態の区域もある。

II b層 10 YR 3/3 暗褐色土 層厚 5 cm～25 cm。中礫浮石を混入する。粘性・締まりを欠く。縄文時代前期の土器片・剝片石器・礫石器を含む。遺物集中区での出土層位は本層主体である。II A区、III B区北半分、III C・D区、IV E区では本層を欠落する。

III a層 10 YR 2/3 黒褐色土 層厚 20 cm～40 cm。南部浮石を混入する。やや粘性あり。締まりあり。遺物は上面から縄文時



第7図 基本層序概念図



第8図 遺跡周辺の地形

代前期の土器小片を出土する場合がある。

III a 層 10 YR 2/3~4/4  
黒褐色~褐色土

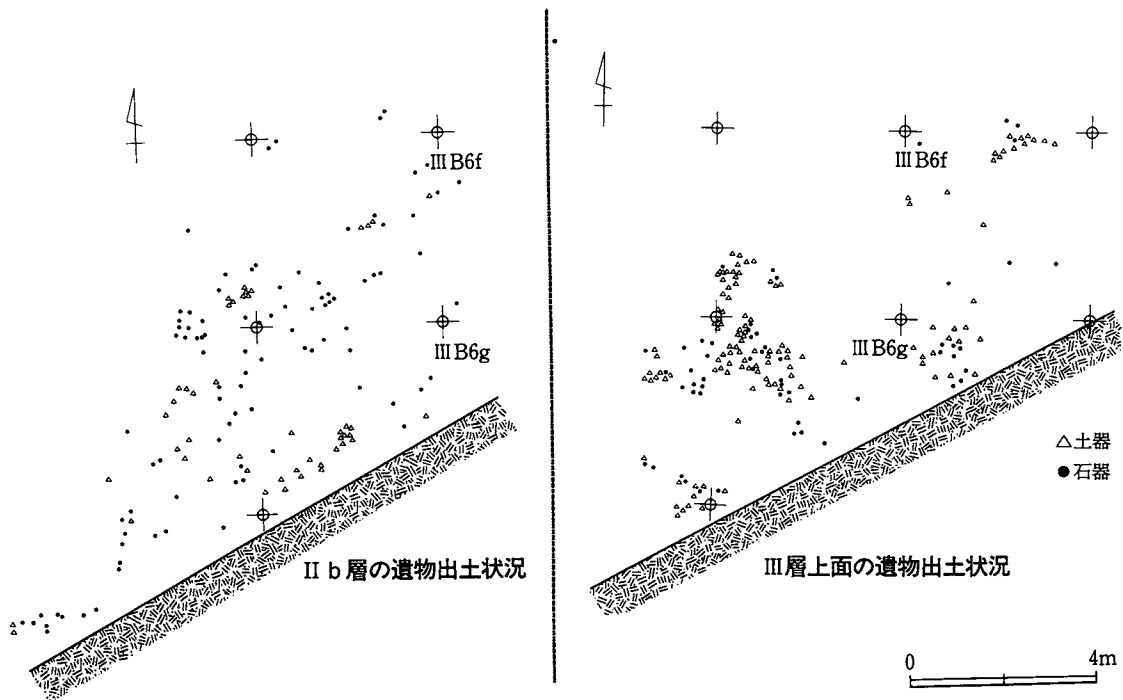
層厚 20 cm~45 cm。III a 層より浮石粒を多く含み、IV層へ漸移する。下位には浮石の風化と考えられるやや粘性ある褐色土層が存在するが、明確な層理面を確定できずIV層への漸移層として把握した。締まりあり。本層下位からは縄文時代早期の押型文期並行土器、貝殻文の土器が出土した。III B区西半部より西側では本層を欠落する。

IV層 10 YR 3/4 暗褐色土

粘性ややあり。締まりあり。八戸火山灰に相当する。遺物は出土しない。

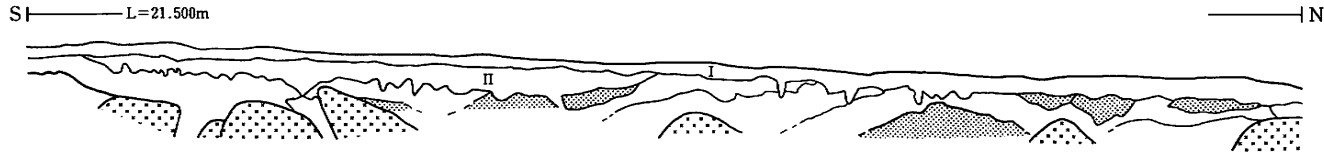
II B区は黒褐色土が厚く堆積し、標準的な層序を示さない。土層断面を第10図①に示したが、粗砂を含む層、酸化鉄を含む層が弧状に堆積し、その下位には花崗岩質の礫が分布する。さらに下位からは湧水が見られる。このことから、II B区は旧流路跡と考えられる。現流路は同断面図の北側直近にあるが、粗砂が形成する弧は2単位あることから、流路を少なくとも2回変えて現在に至ると考えられる。一括土器(43・45、写真図版3)は、旧流路跡と考えられる地点からの出土である。

また、III B区の一部から遺物が集中的に出土した。II b層を主体に、若干その上下の層の近接する地点に及ぶものもある。平面的分布状況を第9図に、垂直的分布を第10図②に示した。本遺物集中区から出土した土器は、ほぼ同一の時期のものと思われるが、小破片が多くほとんど接合しなかった。また同区域は、第10図③に見られるように花崗岩質の礫が散在すること、層理面が不明瞭で漸移的に変化すること、酸化鉄が広く分布することなどから、氾濫など水の営力が形成した地形と考えられ、これらの多量の出土遺物も他に供給源を考える必要がある。

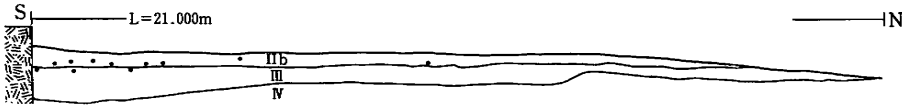


第9図 遺物集中区の状況

① <II B7j~II B9j>



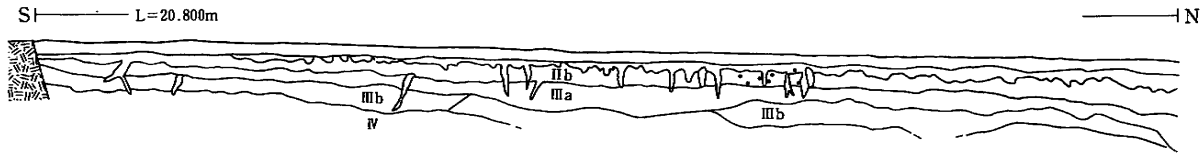
② <III B4d~III B5g> (I層、II a層除去後)



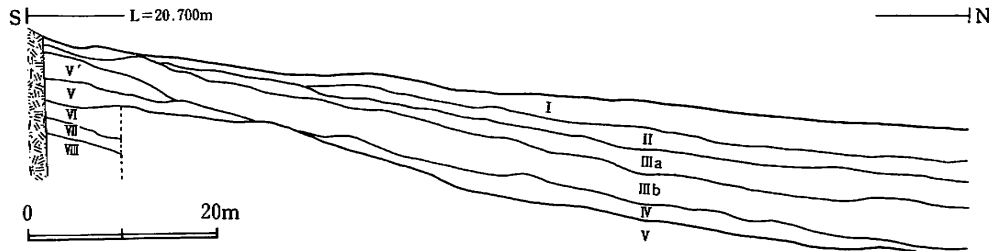
③ <III B6f~III B7f>



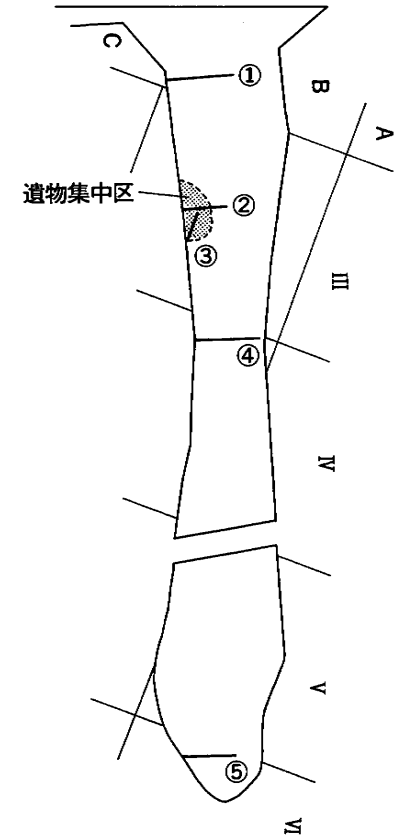
④ <III B9b~IV B0e> (I層~III a層除去後)



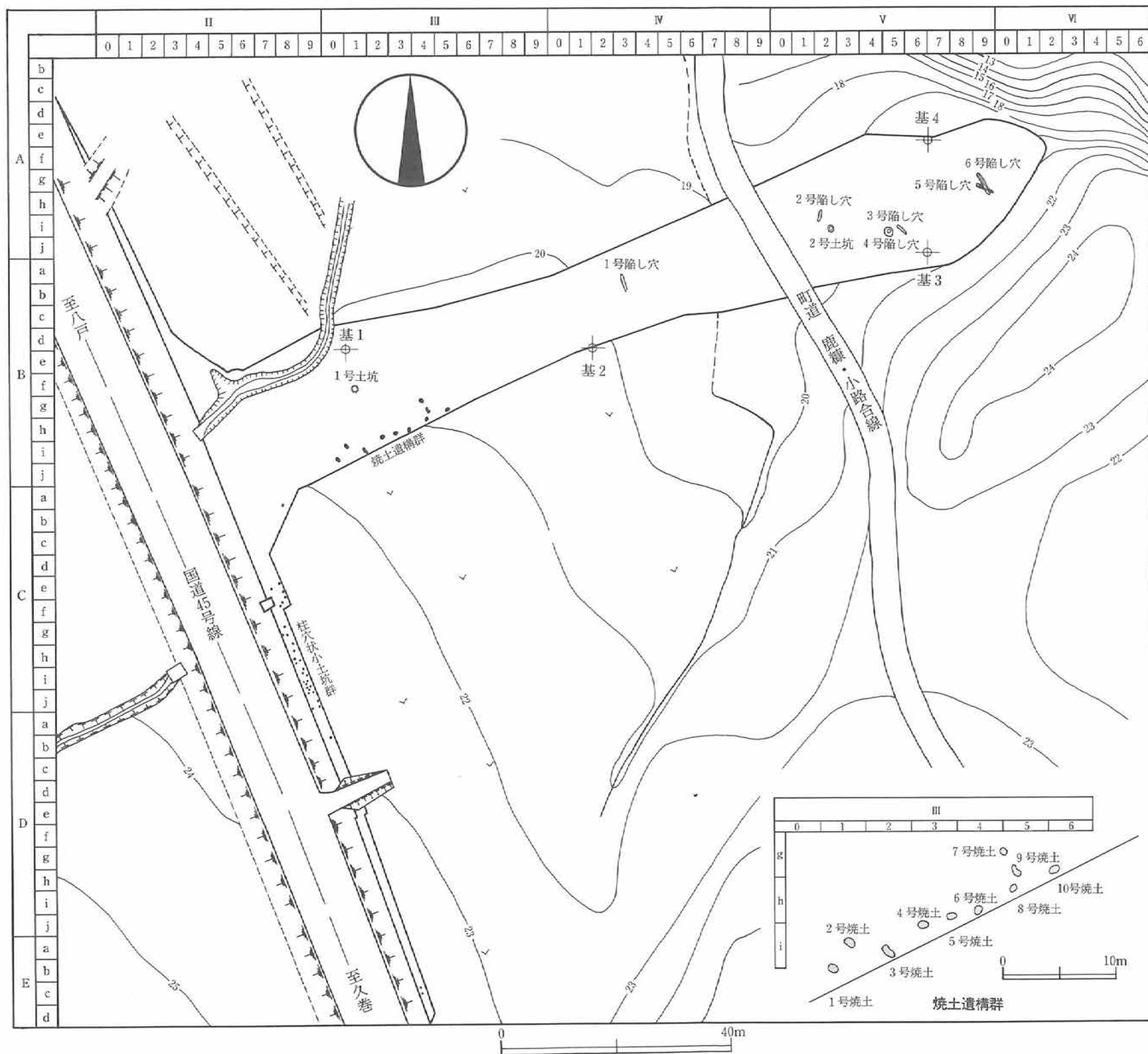
⑤ <V A9f~VI A0h>



- 凡例
- 礫
  - 砂
  - 調査区外
  - 遺物



第10図 調査区土層断面



第11図 遺構配置図

## IV 検出された遺構と遺物

調査の結果、土坑2基・陥し穴6基・焼土遺構10基・柱穴状小土坑33基が検出された。遺構内からの出土遺物はごく少量である。

### 1. 土坑

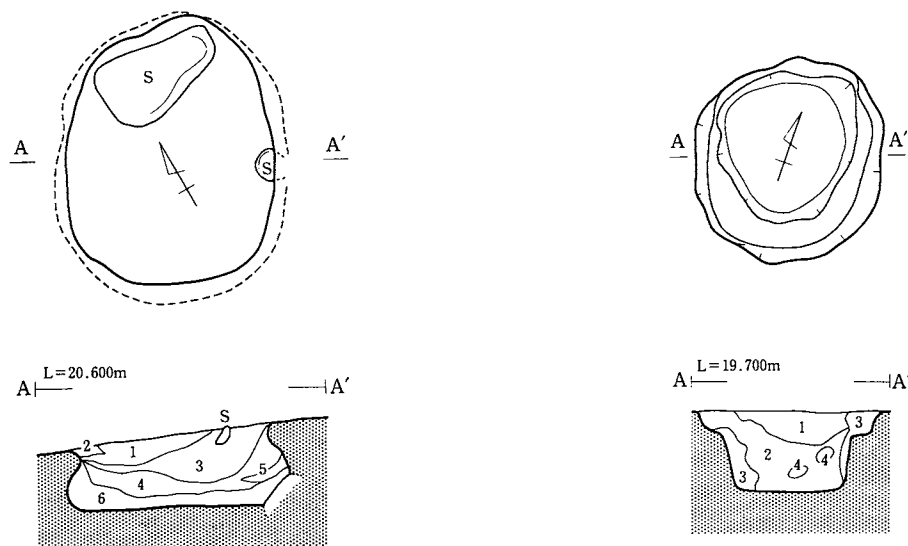
#### 第1号土坑

遺構（第12図、写真図版4）

調査区西側のIII B 1 f 区に位置する。本区域はワウザイ川現河道に近接し、全体に北西方向にやや傾斜する。耕作土の下層に黒色土が厚く堆積する。本遺構は黒色土を除去後の第III層上面で検出した。本区画周辺では第III層は南部浮石粒を含む暗褐色土を基調とし、浮石粒は酸化鉄の影響を受けて赤褐色を呈する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-38°-Eである。開口部より底径がやや大きく断面形は若干フラスコ状となる。規模は、開口部で120×140 cm、底面は120×152 cm、深さ46 cmである。底面の北東部には花崗岩質の亜角礫があるが、本遺構周辺にも同様の礫が存在することから、埋設や埋没によるものではなく遺構構築前の旧流路にかかわるものと考えられた。底面はほぼ平坦である。壁は上半部は第III層、下半部は第IV層の褐色粘土質層で構成される。埋土は黒褐色土を基調とし、南部浮石が混入する度合いによって細分したが大差はない。最下層には鉄分が沈着する。

遺物（第21図、写真図版8）

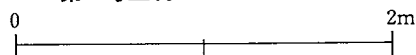
土器は、繊維を混入する縄文土器片29点が出土したが、極小片もあり4点のみを図示した。斜縄文・組縄



- |   |  |
|---|--|
| 1. 7. 5YR3/1 黒褐色土 しまりあり。南部浮石粒を2%含む。     | 1. 7. 5YR2/1 黒色土 しまりなし。極暗褐色土をブロック状に含む。   |
| 2. 10YR2/2 黒褐色土 しまりあり。南部浮石粒を7%含む。       | 2. 7. 5YR3/1 黒褐色土 しまりあり。粘性ややあり。          |
| 3. 10YR2/2 黒褐色土 しまりあり。南部浮石粒を5%含む。       | 3. 10YR3/3 暗褐色土 しまりあり。褐色土（崩落土）をブロック状に含む。 |
| 4. 7. 5YR3/1 黒褐色土 しまりあり。南部浮石粒をほとんど含まない。 | 4. 10YR5/6 黄褐色火山灰 粘性なし。                  |
| 5. 10YR2/3 黒褐色土 しまりあり。                  |  |
| 6. 7. 5YR3/1 黒褐色土 しまりあり。酸化鉄を含む。         |  |

第1号土坑

第2号土坑



第12図 第1号・2号土坑



縄文・結束羽状縄文などがある。石器は5の他に、フレイクが1点埋土から出土した。5は上辺は線状であるが下辺は点状に潰滅痕がある。

## 第2号土坑

遺構（第12図、写真図版4）

調査区東側のVA2i区に位置する。本区域はII層・IIIa層を欠き、表土除去後IIIb層からIV層への漸移層で検出した。平面形は円形、断面形はピーカー状を基調とするが、開口部から10cmの深さで段を有し、規模を縮小させて底面へ続く。規模は、開口部で103×115cm、底面は65×75cmである。段を形成する部分は、小さな凹凸がありやや不整であるが、径72×82cmを測る。段形成は崩落によるとも考えられるが、埋土にそれに相当する量の崩落土は観察されない。底面は第IV層の粘土質褐色土で構成され、小さな凹凸はあるが全体としては平坦である。埋土はややしまりある黒褐色土を主体とし、中位には火山灰（付編 参照）をブロック状に、壁際には若干の崩落土を含む。

遺物（第21図、写真図版8）

土器は、繊維を混入する縄文土器片11点が埋土から出土したが、殆どが極小片であり1点のみを図示した。石器は出土していない。6は非結束の羽状縄文で、下段のRLの施文庄により上段と明瞭に区画されている。内面は滑らかなまでに調整されている。胎土・色調・縄文施文法から縄文早期に属する土器と考えられる。

## 2. 陥し穴

### 第1号陥し穴

遺構（第13図、写真図版4）

調査区のほぼ中央IVB3b区で検出した。本区域はIIa層を欠き、表土除去後IIb層上面で検出した。本遺構から東側は緩やかに東傾する。平面形は溝状で、長軸方向はN-23°-Wを示し、等高線にほぼ平行する。断面形はY字状を呈する。規模は、開口部で62×333cm、底面で20×320cm、深さは95cmである。壁は上半部はIIb層・III層、下半部はIV層で構成される。底面は幅8～10cmと狭く、やや凹凸があるが全体としては中央部が最も深くなるような緩い弧を描く。埋土は5層に分けたが、上位は黒褐色土、中位は黄褐色土、下位は暗褐色土の3層に大別される。いずれもしまりを欠いている。底面や壁に副穴などの施設は確認されない。

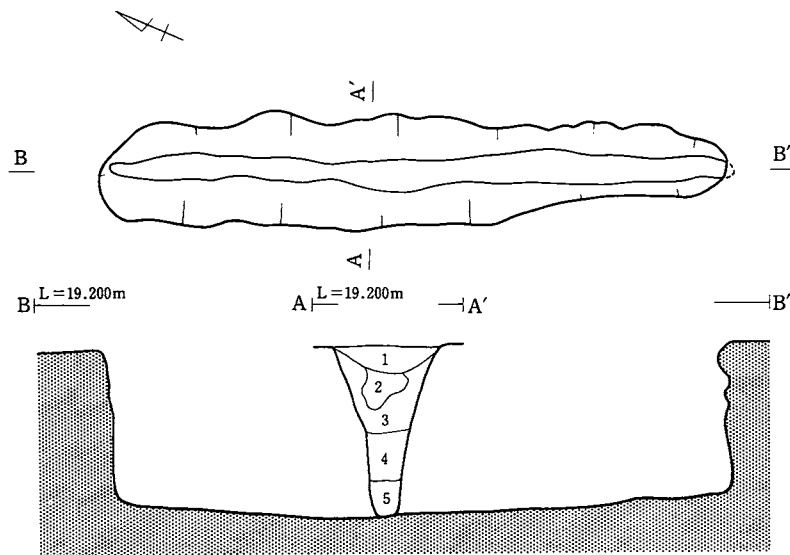
遺物（第21図、写真図版8）

土器は出土していない。7は埋土中位から出土したものである。偏平な自然礫の側辺と端部に剝離が観察されるもので、一応石斧の類として把握した。

### 第2号陥し穴

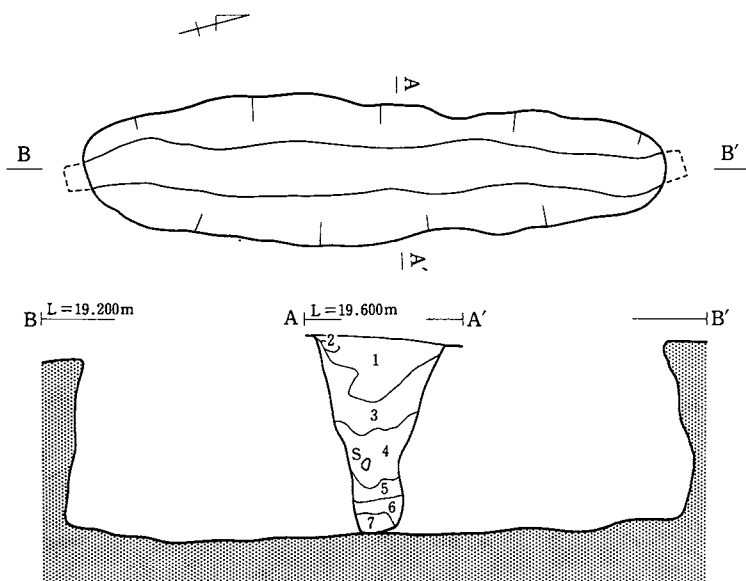
遺構（第13図、写真図版4）

調査区の東側VA2i区に位置する。本区域はII層・IIIa層を共に欠き表土除去後にIIIb層からIV層への漸移層で検出した。本遺構の北側約20mには比高約8mを示す段丘縁の傾斜変換点がある。平面形は溝状で、長軸方向はN-12°-Eを示し、等高線に斜交する。断面形はU～Y字状を呈する。規模は、開口部で79×314cm、底面で27×328cm、深さは108cmである。両端部はややオーバーハングするが、端部壁面は平坦な形状を示し壁側面とは明瞭な稜線を形成して交わる。底面はほぼ平坦である。埋土は、黒褐色土～暗褐色



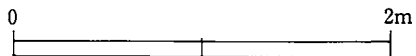
1. 10YR 2/2 黒褐色土 しまりなし。
2. 10YR 2/1 黒褐色土 しまりなし。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 しまりなし。黄褐色土（崩落土）を少量含む。
4. 10YR 5/6 黄褐色土 しまりあり。粘性ややあり。黒褐色土を少量含む。
5. 10YR 3/3 暗褐色土 しまりなし。黄褐色土を少量含む。

第1号陥し穴



1. 10YR 1. 7/1 黒色土 しまりあり。
2. 7. 5YR 2/1 黒色土 やや粘性あり。
3. 5YR 1. 7/1 黒色土 しまりあり。南部浮石粒を5%含む。
4. 7. 5YR 3/4 暗褐色土 粘性ややあり。南部浮石粒を2%含む。黄褐色土を少量含む。
5. 10YR 3/4 暗褐色土 しまりなし。
6. 10YR 5/6 黄褐色土 しまりなし。
7. 5YR 2/2 黒褐色土 しまりなし。明褐色土を少量含む。

第2号陥し穴



第13図 第1号・2号陥し穴

土を主体とする。下半には崩落土である黄褐色土が、最下層には黒褐色土が堆積する。底面や壁に副穴などの施設は確認されない。

遺物（第 21 図、写真図版 8）

土器は、繊維を混入する縄文土器片 10 点が埋土から出土したが、極小片もあり 3 点のみ図示した。石器は出土していない。9 は口縁部に近い部分で、横位の沈線が施文される。8・9 の地文の特徴および内面調整は 6 に等しい。

### 第 3 号陥し穴

遺構（第 14 図、写真図版 5）

調査区の東側 V A 5 i 区に位置する。本区域は概ね標準的な土層を示すが、検出面は III b 層上面である。本遺構の東側約 2 m には円形の第 4 号陥し穴が所在する。平面形は溝状で、長軸方向は N-62°-W を示し、等高線に直交する。断面形は U~Y 字状を呈する。規模は、開口部で 44×238 cm、底面で 15×255 cm、深さは 72 cm である。両端部はややオーバーハングするが、端部壁面は幅 15 cm 程度の平坦な形状を示し、壁側面とは明瞭な稜線を形成して交わる。底面は両端部から中央部に向かって緩やかに傾斜する。埋土は 4 層に分けられる。上位から、黒褐色土・暗褐色土・褐色土が堆積し、最下層は黒褐色土が占める。いずれも締まりを欠く。底面や壁に副穴などの施設は確認されない。

遺物（第 21 図、写真図版 8）

土器は、埋土上位から繊維を混入する縄文土器片 5 点が出土したが、うち 2 点を図示した。石器はフレークが 1 点のみの出土である。12 は半截竹管状の平行沈線か。内面は大きく剝落している。

### 第 4 号陥し穴

遺構（第 14 図、写真図版 5）

調査区の東側 V A 5 i ~ 5 j 区に位置し、第 3 号陥し穴に近接する。検出面は第 3 号陥し穴と同じ III b 層上面である。平面形は円形で、壁形状は、開口部から播鉢状にすぼまり、深さ 80 cm で最もその径を減じて頸部を形成し、再びやや膨らんで底面へと続く。規模は、開口部で 155×160 cm、底面で 33×45 cm、頸部径 50 cm、深さは 128 cm である。埋土はやや粘性ある黒色~黒褐色土を主体とし、中位には火山灰（付編 参照）をブロック状に含み、下位には崩落土を堆積する。底面や壁に副穴などの施設は確認されない。

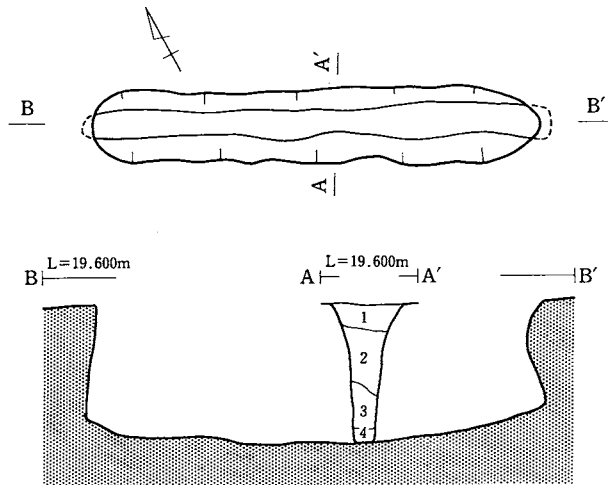
土器は、埋土上位から繊維を混入する土器片 1 点が出土したが、極小片のため図示はできない。

### 第 5 号陥し穴

遺構（第 15 図、写真図版 5）

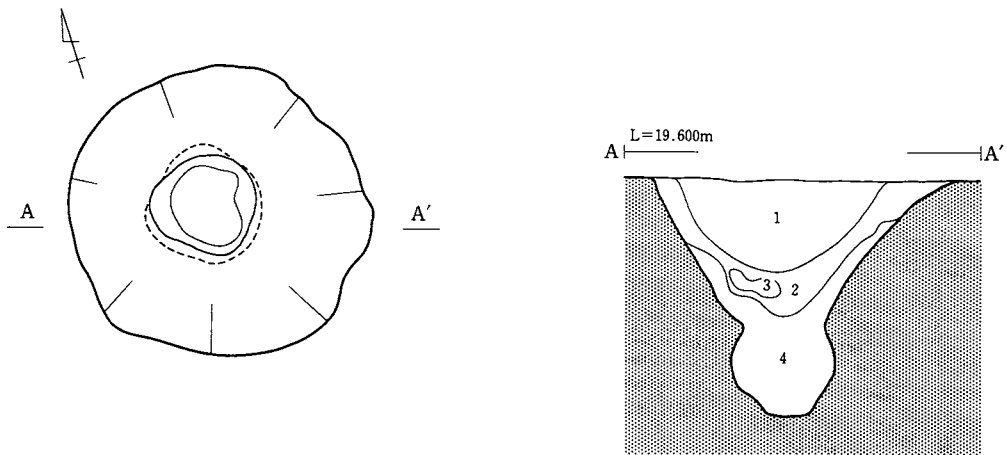
調査区の東側 V A 9 g ~ 9 h 区に位置し、第 6 号陥し穴と重複する。本区域は、標高 19 m の等高線が傾斜変換点となり段丘崖を形成しているが、その段丘縁に当たり、本調査区内では比較的勾配が大きく、傾斜角は表土で約 5°を示す。本遺構の北側約 10 m の地点に傾斜変換点が所在する。付近は概ね標準的な土層を示す。本遺構は、II b 層上面で黒色土が長形状に分布することから検出できた。当初は単独の方形土坑を想定して精査に入ったが、溝状陥し穴 2 基の重複であることが判明した。初期調査の誤りにより重複部分の埋土を観察することができず、新旧関係は不明である。西側のものを第 5 号、東側のものを第 6 号とする。

平面形は溝状で、長軸方向は N-54°-W を示し等高線にほぼ直交する。断面形は Y 字状を呈する。規模は、



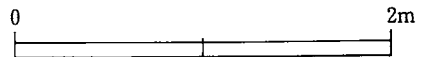
1. 7. 5YR2/1 黒色土 しまりなし。
2. 7. 5YR3/2 黒褐色土 しまりなし。南部浮石粒を3%含む。
3. 7. 5YR2/2 黒褐色土 しまりなし。
4. 7. 5YR2/1 黒色土 しまりなし。

第3号陥し穴



1. 7. 5YR2/1 黒色土 しまりあり。やや粘性あり。南部浮石粒を1%含む。
2. 7. 5YR3/1 黒褐色土 しまりあり。やや粘性あり。南部浮石粒を2%含む。
3. 10YR5/4 黄褐色火山灰 粘性なし。
4. 10YR2/3 黒褐色土 しまりあり。やや粘性あり。南部浮石粒を2%含む。壁際に崩落土を含む。

第4号陥し穴



第14図 第3号・4号陥し穴

開口部で70×290 cm、底面で23×320 cm、深さは90 cmである。端部は南側で10 cm、北側で20 cm程オーバーハングする。端部壁面は平坦な面を形成している。底面は中央部が最も深く両端部から緩い弧を描くが、全体としては地形なりに北側に傾斜する。第6号陥し穴と交差する部分では、本遺構の方が第6号陥し穴の底面より3～4 cm程高い。埋土は5層に細分したが、上位黒色～黒褐色土、中位褐色土、下位黒褐色土と大別できる。いずれも締まりを欠く。底面や壁に副穴などの施設は確認されない。

遺物（第21図、写真図版8）

土器は、繊維を混入する縄文土器片が埋土上位から2点、下位から1点が出土した。13は撚糸文であるが撚紐自体は細いのに対し条間は広い。他は極小片で図化できなかった。

### 第6号陥し穴

遺構（第15図、写真図版5）

検出は、重複する第5号陥し穴と同時である。平面形は溝状であるが、やや東側にせりだすように弧状に湾曲する。長軸方向はN-30°-W程度で、等高線にほぼ直交する。断面形はV～Y字状を呈する。規模は、開口部で54×415 cm、底面で20×390 cm、深さは93 cmである。北側端部がわずかにオーバーハングする。底面はほぼ平坦であるが、地形に沿って北側に傾斜し、比高最大値25 cmを測る。埋土は第5号陥し穴に酷似する。

遺物（第21図、写真図版8）

埋土上位において、琥珀が出土した。小塊状で出土したが取り上げ時点で破砕してしまった。14は短いが刃部と想定される二次加工が見られる。15はスクレーパーエッジではなく、階段状やリングの密な打滅痕が観察されることからピエス・エスキーユとした。

## 3. 焼土遺構

第1号焼土（第16図、写真図版6）

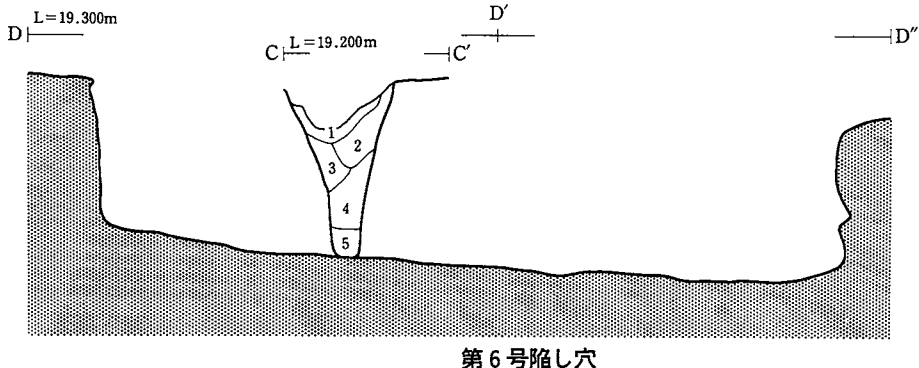
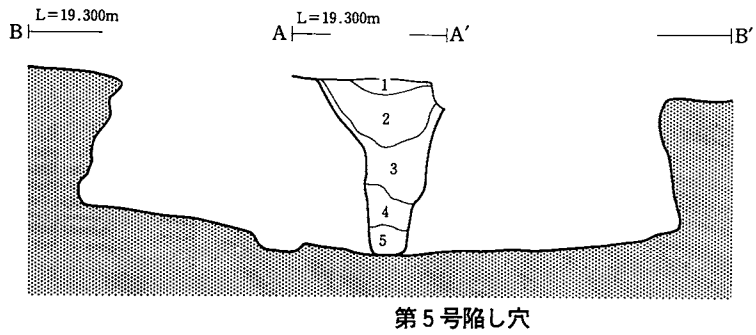
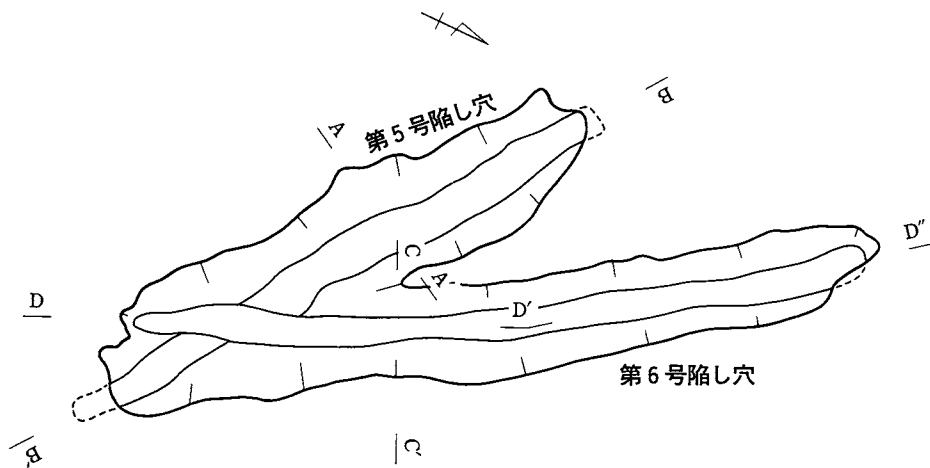
調査区西側のⅢB 0 i 区に位置する。本区域は第Ⅱ層・第Ⅲ a 層を欠き、表土下第Ⅲ b 層上面で明褐色の焼土と暗褐色土が混土状態で分布することから検出した。分布は44×49 cmの略円形の範囲である。断面では深さ5 cmまで焼土が分布する。耕作と植生による攪乱を受けているが、位置を大きく変えるものではないと考えられる。

第2号焼土（第16図、写真図版6）

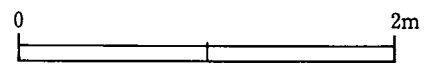
調査区西側のⅢB 1 i 区に位置する。本区域は第Ⅱ層・第Ⅲ a 層を欠き、表土下第Ⅲ b 層上面で検出した。明褐色の焼土と暗褐色土が混土状態で分布することから検出した。分布は80×110 cmの楕円形の範囲である。断面では、若干植生による攪乱を受けているが、厚さ10 cmの焼土が層状に形成されている。

第3号焼土（第16図、写真図版6）

第2号焼土と同様ⅢB 1 i 区に位置する。第Ⅲ b 層上面で明赤褐色の焼土と暗褐色土が混土状態で分布することから検出した。分布は62×173 cmの長楕円形の範囲である。断面では深さ12 cmまで焼土粒が分布する。近接して倒木痕が所在することからその影響を受けたものと考えられるが、原位置を大きく変えるものではないと考えられる。



- 1. 7. 5 YR 1. 7/1 黒色土 しまりなし。南部浮石粒を2%含む。
- 2. 7. 5 YR 1. 7/1 黒色土 しまりなし。南部浮石粒を10%含む。
- 3. 7. 5 YR 3/1 黒褐色土 しまりなし。南部浮石粒を30%含む。
- 4. 10 YR 4/4 褐色土 ややしまりあり。
- 5. 10 YR 2/2 黒褐色土 しまりなし。



第15図 第5号・6号陥し穴



#### 第4号焼土（第16図、写真図版6）

調査区西側のⅢB 2 h 区に位置する。本区域も第Ⅱ層・第Ⅲ a 層を欠き、表土下第Ⅲ b 層上面で橙色の焼土と暗褐色土が混土状態で分布することから検出した。分布は52×73 cmの楕円形の範囲である。断面では深さ10 cmまで焼土がブロック状～粒状に分布する。耕作と植生による攪乱を受けたものと考えられる。

#### 第5号焼土（第16図、写真図版6）

調査区西側のⅢB 3 h 区に位置する。本区域はほぼ標準的な土層を示すが第Ⅱ a 層および第Ⅲ a 層は明瞭でない。本遺構は第Ⅲ b 層上面で明褐色の焼土と暗褐色土が混土状態で分布することから検出した。分布は46×47 cmの略円形の範囲である。断面では深さ5 cmまで焼土がブロック状～粒状に分布する。

#### 第6号焼土（第16図、写真図版6）

第5号焼土と同様にⅢB 3 h 区に位置する。第Ⅲ b 層上面において明褐色の焼土が60×70 cmの略円形の範囲で分布する。断面は厚さ10 cmでレンズ状に硬質の焼土が形成されている。

#### 第7号焼土（第16図、写真図版7）

調査区西側のⅢB 4 f 区に位置する。本区域はほぼ標準的な土層を示すが第Ⅱ a 層および第Ⅲ a 層は顕著でない。本遺構は第Ⅲ b 層上面で橙色の焼土と暗褐色土が混土状態で分布することから検出した。分布は20×24 cmの略円形の範囲である。断面では深さ4 cmまで焼土がブロック状～粒状に分布する。

#### 第8号焼土（第17図、写真図版7）

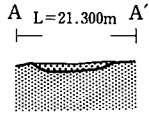
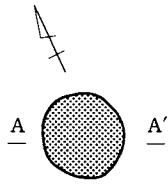
調査区西側のⅢB 4 g 区に位置する。本区域の土層もほぼ標準的であるが、第Ⅱ a 層は顕著でない。また、Ⅲ a 層とⅢ b 層の層理面は不明瞭である。本遺構はⅢ層上面で橙色の焼土と暗褐色土が混土状態で分布することから検出した。分布は20×27 cmの楕円形の範囲である。断面では深さ6 cmまで焼土がブロック状～粒状に分布する。

#### 第9号焼土（第17図、写真図版7）

第8号焼土と同一区画に位置する。本遺構はⅢ層上面での検出作業の時点でその東側の一部を誤って掘りすぎてしまった。分布域は残存値で27×45 cmの楕円形の範囲である。断面では深さ8 cmまで焼土がブロック状～粒状に分布する。

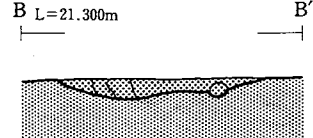
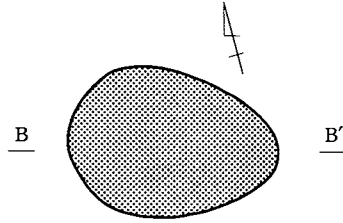
#### 第10号焼土（第17図、写真図版7）

調査区西側のⅢB 5 g 区に位置する。本区域の土層もほぼ標準的であるが、第Ⅱ a 層は顕著でない。またⅢ a 層とⅢ b 層の層理面は不明瞭である。本遺構はⅢ層上面で褐色の焼土と暗褐色土が混土状態で分布することから検出した。分布は22×32 cmの楕円形の範囲である。断面では厚さ8 cmまで焼土が層状に形成され、植生による攪乱が一部みられる。



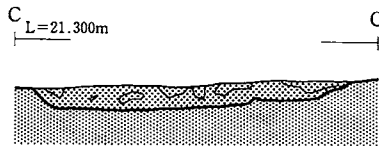
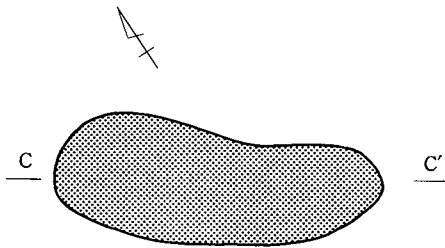
7. 5YR5/6 明褐色土 暗褐色土との混土。

第1号焼土



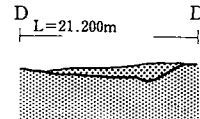
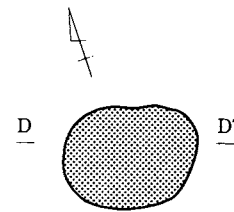
1. 7. 5YR5/8 明褐色土 固くしまる。  
2. 7. 5YR3/3 暗褐色土 焼土粒を含む。木根痕。

第2号焼土



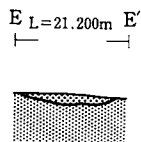
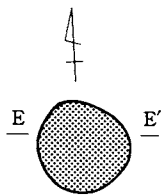
1. 5YR5/8 明褐色土 固くしまる。  
2. 7. 5YR3/4 暗褐色土 焼土粒を含む。倒木痕による攪乱。

第3号焼土



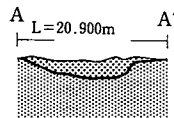
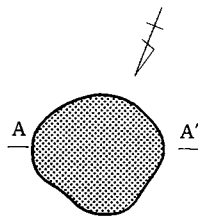
7. 5YR6/8 橙色土 固くしまる。

第4号焼土



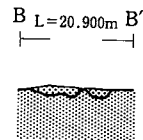
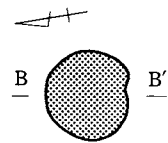
7. 5YR5/6 明褐色土 暗褐色土との混土。

第5号焼土



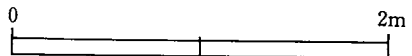
5YR5/8 明赤褐色土 固くしまる。

第6号焼土

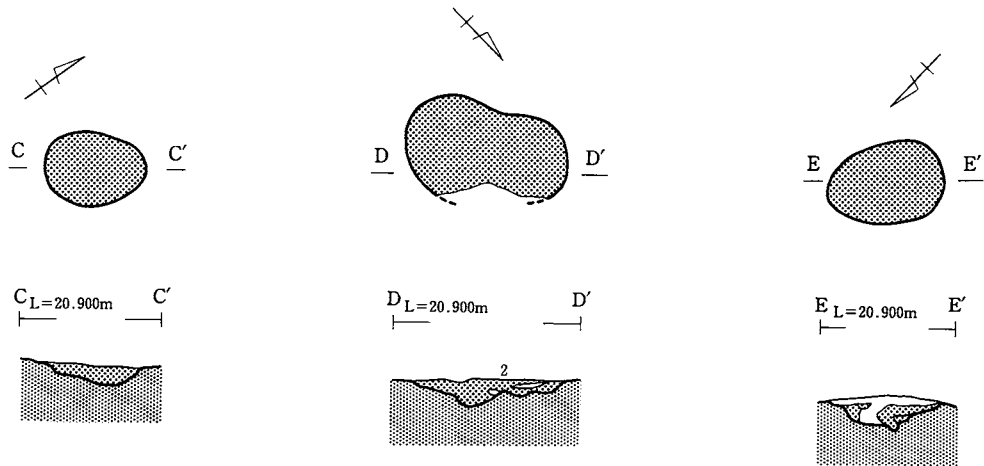


7. 5YR6/8 橙色土 暗褐色土との混土。

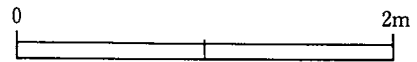
第7号焼土



第16図 焼土遺構(1)



- |                         |                           |                         |
|-------------------------|---------------------------|-------------------------|
| 7. 5YR6/8 橙色土 暗褐色土との混土。 | 1. 5YR5/8 明赤褐色土 暗褐色土との混土。 | 1. 10YR2/2 黒褐色土 しまりなし。  |
| <b>第8号焼土</b>            | 2. 7. 5YR3/1 黒褐色土 しまりなし。  | 2. 10YR4/6 褐色土 しまりあり。   |
|                         |                           | 3. 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒を含む。 |
|                         | <b>第9号焼土</b>              | <b>第10号焼土</b>           |



第17図 焼土遺構(2)

#### 4. 柱穴状小土坑

遺構 (第18~20図、写真図版7)

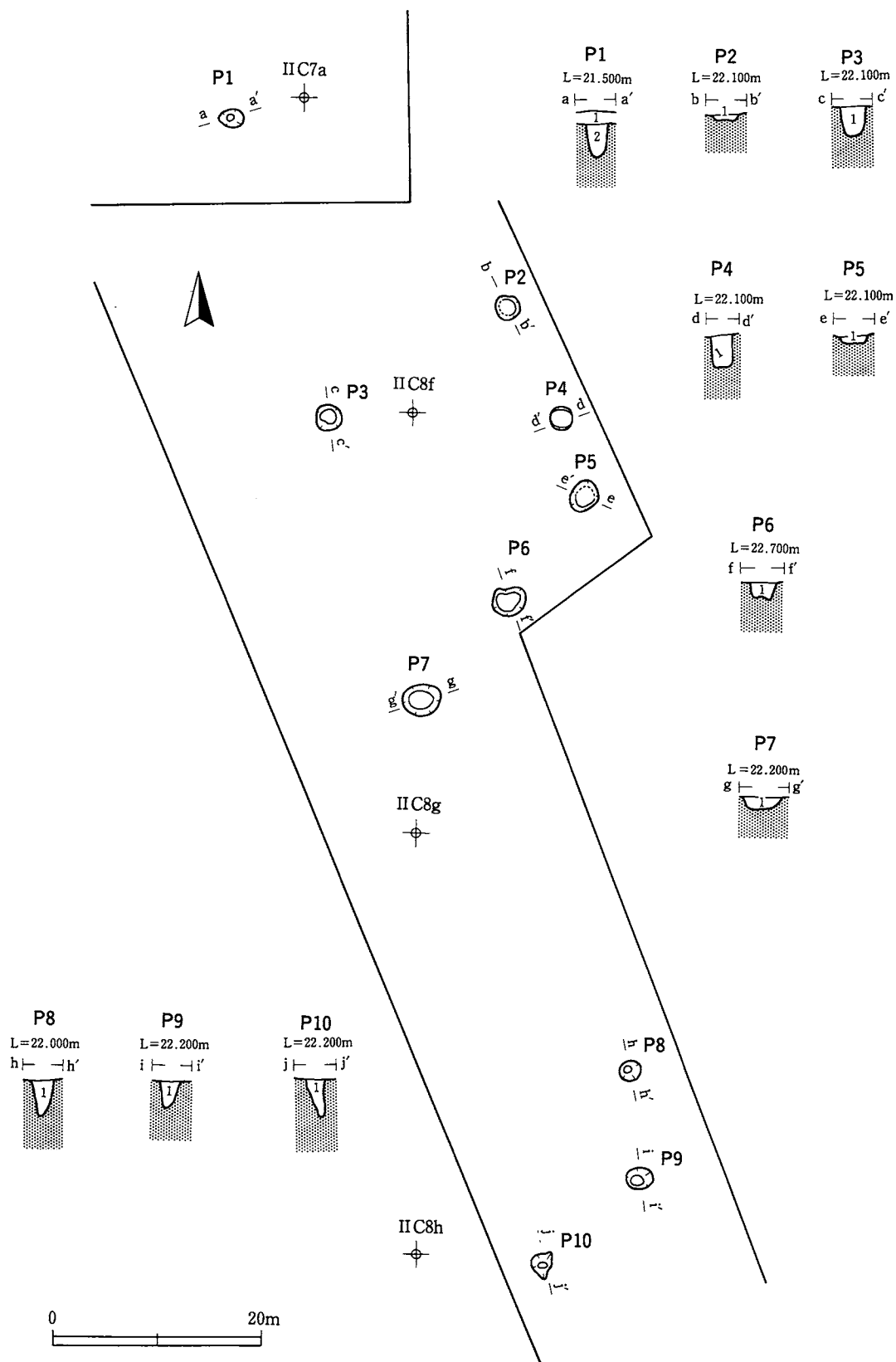
調査区西端のII C区を中心に33基が検出された。調査範囲は幅2m前後と狭かったため、遺構の配列の規則性を見出すことはできず、掘立柱建物跡になるかどうかは明らかでない。検出面は、耕作土直下の第II層上面である。一部第III層で検出したものもあるが、その埋土を検討すると第II層で検出した遺構と大差ないことから、本来の検出面を誤って掘りすぎたものである。

平面形は概ね円形基調であるが、やや不整となるものもある。規模は開口部径18~52cm、深さ7~62cmと多様である。出土遺物は、縄文時代前期の極小破片が混入する程度で、遺構に明らかに伴うものはなく、その時期を明らかににはできないが、その検出面や埋土から近世・近代など比較的新しい時期に属するものと考えられる。

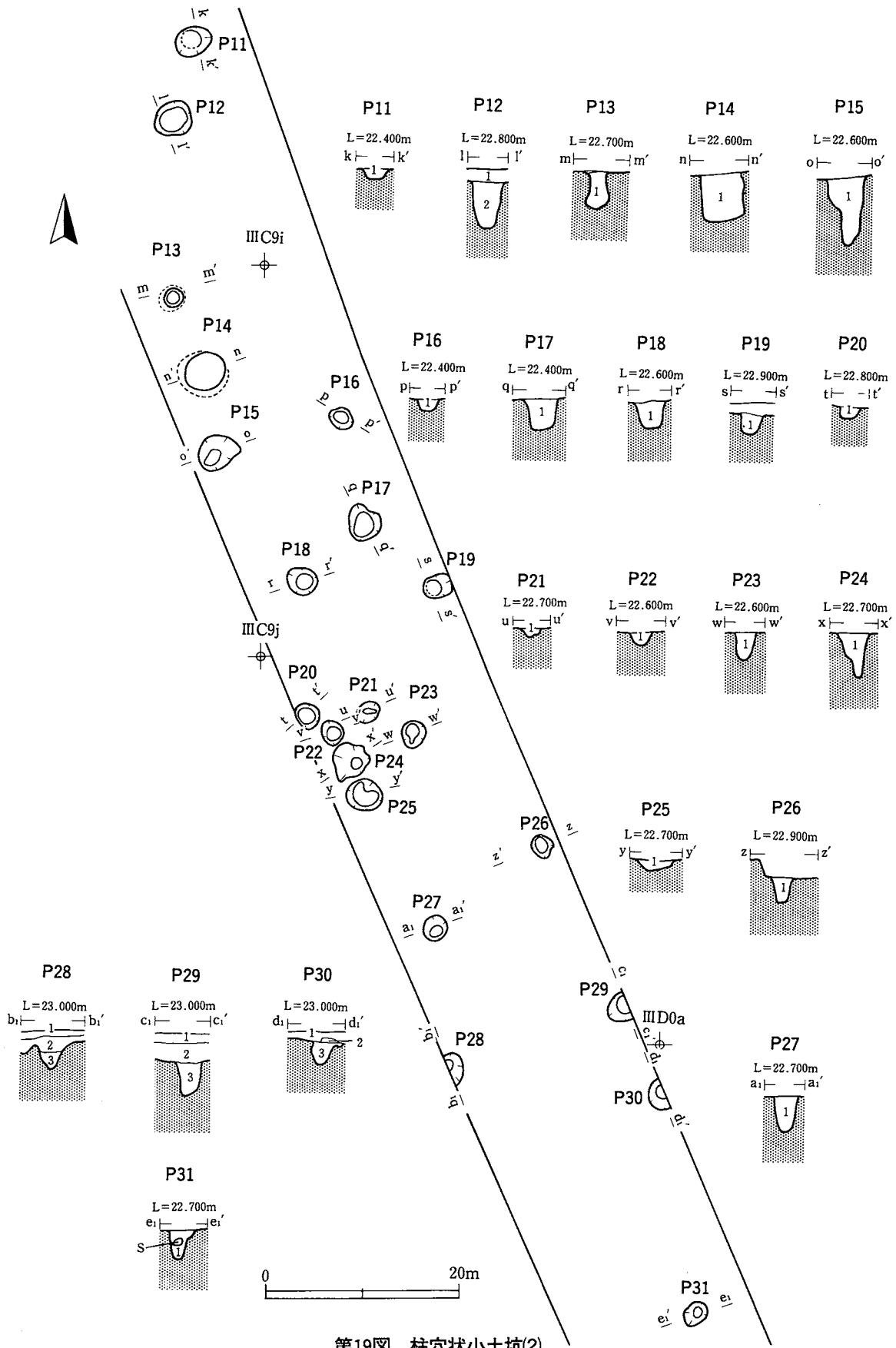
それぞれの遺構については、P1~P33の記号を付し、計測値と実測図を示すにとどめたい。

遺物 (第21図、写真図版8)

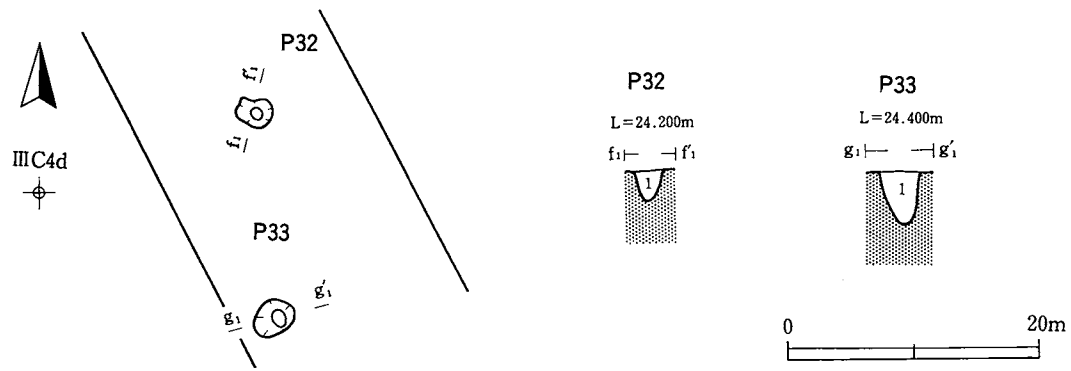
P6とP13から縄文土器破片が出土した。16・17は繊維を多量に含む縄文前期初頭の土器、18は多軸絡条体による回転文で、胎土から縄文前期後葉から末葉の土器と考えられる。



第18图 柱穴状小土坑(1)



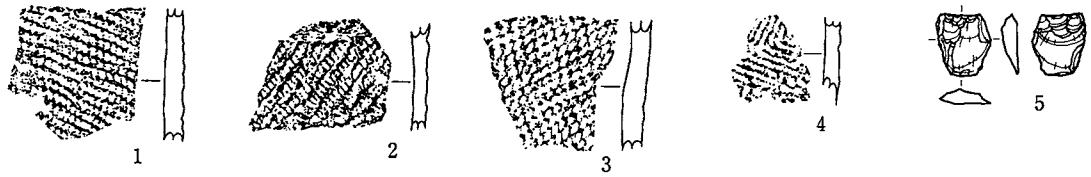
第19图 柱穴状小土坑(2)



第20図 柱穴状小土坑(3)

P番号	開口部径	深さ	埋	土	出土遺物
1	18×21	59	7.5 YR2/2	黒褐色土 しまりなし	
2	25×25	8	10 YR2/2	黒褐色土 しまりなし	
3	23×24	30	7.5 YR1.7/1	黒色土 しまりなし	
4	20×22	31	7.5 YR1.7/1	黒色土 しまりなし	
5	26×32	10	7.5 YR2/1	黒色土 ややしまりあり	
6	25×32	20	7.5 YR1.7/1	黒色土 しまりなし	埋土から土器片No.16
7	31×36	14	7.5 YR3/1	黒褐色土 しまりなし	
8	18×22	37	7.5 YR2/1	黒色土 しまりなし	
9	20×30	35	7.5 YR1.7/1	黒色土 しまりなし	
10	18×22	36	7.5 YR1.7/1	黒色土 しまりなし	
11	31×36	9	7.5 YR1.7/1	黒色土 しまりなし	
12	37×42	63	7.5 YR2/1	黒色土 しまりなし	
13	32×37	40	7.5 YR2/1	黒色土 しまりなし	埋土から土器片No.17・18
14	46×52	52	7.5 YR3/1	黒褐色土 しまりなし	
15	37×43	62	7.5 YR2/1	黒色土 しまりなし	
16	21×25	13	7.5 YR3/1	黒褐色土 しまりなし	
17	33×41	40	7.5 YR2/1	黒色土 しまりなし	
18	29×32	27	7.5 YR3/1	黒褐色土 ややしまりあり	
19	26×32	31	10 YR3/3	暗褐色土 しまりなし	
20	23×26	15	10 YR2/2	黒褐色土 しまりなし	
21	18×25	21	10 YR2/2	黒褐色土 しまりなし	
22	20×26	15	7.5 YR3/2	黒褐色土 しまりなし	
23	22×29	36	7.5 YR2/2	黒褐色土 ややしまりあり	埋土からフレーク1点
24	24×39	49	10 YR3/3	暗褐色土 しまりなし	
25	31×37	12	10 YR2/2	黒褐色土 しまりなし	
26	21×25	34	10 YR2/3	黒褐色土 しまりなし	
27	25×25	41	7.5 YR3/2	黒褐色土 ややしまりあり	
28	21×24	34	10 YR2/2	黒褐色土 しまりなし	
29	18×24	64	7.5 YR3/2	黒褐色土 ややしまりあり	
30	8×24	40	10 YR2/2	黒褐色土 しまりなし	
31	20×30	31	7.5 YR3/1	黒褐色土 しまりなし	
32	21×30	25	10 YR2/2	黒褐色土 しまりなし	
33	28×35	59	7.5 YR2/1	黒色土 しまりなし	

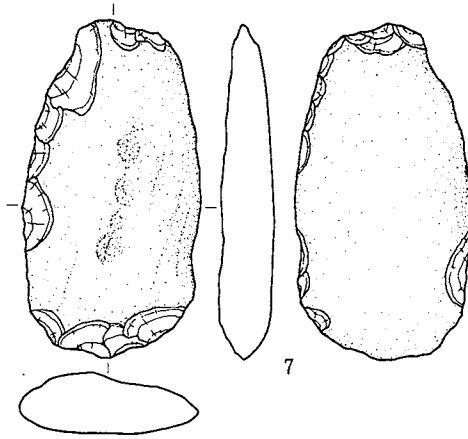
第3表 柱穴状小土坑注記



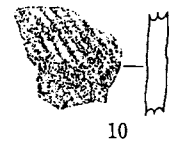
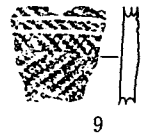
第1号土坑



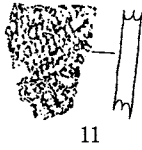
第2号土坑



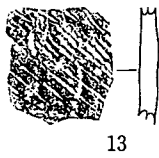
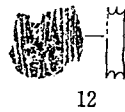
第1号陥し穴



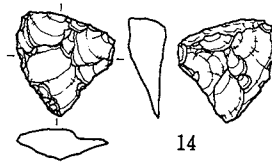
第2号陥し穴



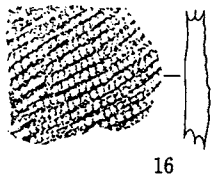
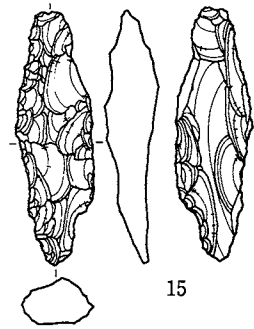
第3号陥し穴



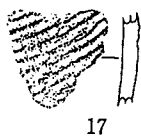
第5号陥し穴



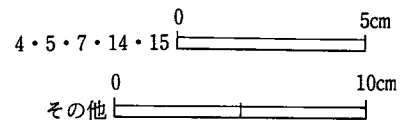
第6号陥し穴



P6



P13



第21図 遺構内出土遺物

## V 遺構外出土遺物

出土した遺物は縄文土器、石器・石製品および古銭で、土器は縄文時代前期初頭のを主体に中コンテナで約 18 箱、石器は礫石器を主体に小コンテナで約 40 箱、古銭は 1 点である。調査区の中央部にあたる III B 区 4～6 ラインが遺物出土の集中区である。II 層ないし III 層の上面からの出土が最も多い。

### 1. 土器

おおまかな出土量を大グリッド別に表した。

大グリッド	II B	II C	III B	III D	IV A	IV B	V A	V B	VIA	計
箱数	3	2	8	0.2	0.3	0.3	2	2	0.3	18

第 4 表 大グリッド別土器出土量

出土層位は I 層の場合もあるが、II a 層・II b 層と III 層の上面まで、すなわち大きくは II 層の中で把握すべきものが殆どである。地点によっては III b 層からも出土するが、それらは II 層出土のものとは時期を異にするものである。

遺物集中区から出土した土器は多くは小破片であり、接合を試みても器形を復元できるものは極めて少なかった。ここには、接合の結果器形の推定が可能なものは全て取り上げた。破片については、口縁部を主体に任意の基準を設定して分類し、その中から代表的なものや一定の特徴を示すものを選択して掲げた。分類基準はあくまでも破片を中心として設定したもので、復元土器はその基準に照応させて分類した。

分類基準の設定に当たっては、これまでの編年研究を念頭に置いて、概ね時期・型式に沿うように努めたが、本遺跡の主体をなす第 II 群土器の型式比定については不明な部分も多く、主に地文や文様の特徴によって分類した。

図版は、復元土器や反転実測によって口径または底径が推定できるものを先に掲げ、次に破片をまとめて拓本によって示した。胎土については含有されるものを示したが、植物性繊維については単に繊維と略称した。また粗砂は概ね 2 mm 以下、細礫はそれ以上を示す。焼成については、脆弱・良好の 2 段階とした。前者は、観察時に折損断面から粉状に土が落ちてくるものである。これについては風化の度合いによっても異なると思われ、また多分に主観的なものであることとお断りしておく。

### 第 I 群土器：縄文早期に属する土器群

第 1 類：早期押型文およびそれと並行する縄文を有する土器群（第 26 図 49～71、写真図版 10・11）

a 種：押型文を有する土器（49）

いわゆる日計型押型文である。調査区東側 V A 区の III b 層から 1 点のみ単独で出土した。重層 X 字状文または V 字状文のいずれかと思われるが、小破片でしかも施文の重複部であり、文様の単位・原体は不明である。

b 種：押型文土器に並行する時期の縄文を有する土器（50～71）

49 と同様に調査区東側 V A 区・V B 区の III b 層を中心に出土した。50～59 は口縁部破片である。50 は口唇端に篋状の工具により斜位に刻みが増えられ、口縁部は縄文施文後に横に沈線が施される。体部の地文は非結束の羽状縄文である。51～59 もモチーフとしてはほぼ同様であるが、口唇端への刻み



や沈線の手法が若干異なる。53～56 は口唇端の施文が刻みというより押圧による。工具は篋・棒・指頭などと考えられる。57～59 には口唇端への施文がない。58・59 の横位の沈線は浅い凹線である。60～62 は同一個体と思われるが、横位の文様は魚骨回転によるものと考えられる。<sup>(註1)</sup>63 は口縁部付近、64～71 は体部破片である。いずれも胎土に繊維を少量含有し、内面は滑らかなまでに丁寧に調整されている。

第2類：貝殻文を有する土器群（第22図19～23・第26図72～82、写真図版9・11）

本類土器は、第1類と同様いずれも調査区東側のVA区・VB区のIIIb層を中心に出土した。

19 は口唇端に貝殻腹縁刺突、口縁部には爪形圧痕、体部には貝殻腹縁圧痕が施され、下半部には貝殻条痕のみで装飾的な施文はない。20・21 もほぼ同様であるが、20 の体部には貝殻腹縁による押し引き文もある。22 は体部中ほど及び底部に爪形刺突列が3～5段施され、それ以外の体部には押し引き文が横位に展開する。粘土が固い状態で施文されたものか、全体に浅く条痕と化している部分もある。23 は区画線として沈線が一条引かれ、その下に沈線に沿って爪形刺突列が2段横走する。その上下には貝殻腹縁圧痕文が方向を変えて羽状に施文されている。24 は底部まで貝殻腹縁圧痕文が施された例である。破片資料の72・73 は口唇部断面は外削ぎで文様構成は19に似る。72 には横位の浅い沈線が観察される。74 は口縁部に爪形刺突がなく、口唇部断面の外削ぎは強くない。76 は貝殻押し引きにより幾何学的文様を構成している。77～81 は疑問もあるが一応本類に入れた。77～79 は同一個体であろう。竹管による円形刺突が特徴的である。81 は貝殻条痕施文後に刺突を加えたものであろう。82 は底部付近の破片で貝殻条痕によるミガキが顕著である。

第3類：表裏に縄文を有する土器（第27図83・84、写真図版11）

表土からII層にかけて数片が一括出土した。同一個体と思われるが接合しなかったので口縁部と体部破片を1点ずつ取り上げた。底部は出土していない。口唇部には指頭による深めの圧痕があり、内面には部分的に縄文が施される。口縁下は幅6mmほどをあけて深く縄文が施され、無文部が外側にやや張り出す。

第II群土器：胎土に繊維を多く含み、縄文前期初頭に位置づくと考えられる土器群

ここには192点を図化した。うち123点はIIIb区から出土したものである。

第1類：コンパス文および篋状または棒状工具による刺突文が特徴的な土器（第27図85～90、写真図版11）

85～88 は同一個体で、85・86 は口縁部付近、87 は体部上半部、88 は体部下半部と考えられる。口縁部に棒状工具で列状に数段刺突することによって、隆帯と同様の効果をだしている。刺突列の下にはコンパス文が横位に展開し、その直径は約1.5cmである。体部はLRとRLによって非結束羽状縄文を層状に施す。1層の幅は1cm程度である。底部付近には口縁部付近と同じ工具によって浅い刺突列が数段施文される。内面は丁寧に調整され滑らかである。89・90 は篋状工具による爪形の集合刺突を有するものである。

第2類：竹管による刺突・沈線が特徴的な土器（第24図34・第27図91～93、写真図版9・11・12）

34 は、尖底ないしは丸底の器形で、口唇部は面取りしたように平坦である。竹管（または棒状工具）の外面により縦位に浅い沈線が施文される。91・92 は口縁部に円形竹管刺突列を巡らし、その下に縦位の凹線が引かれたものである。93 は口縁部に2列の半截竹管刺突列が施されている。

第3類：ループ状の縄文が層状に重ねられる土器（第27図94～98、写真図版12）

93～97はII B区耕作土下の黒色土からの出土である。重層縄文の層の幅は広い所で2 cm、狭い所で1 cm、1.5～1.8 cmが多い。94には口唇端に押圧があるが95には見られない。97は撚り戻した緩いループ文である。98は施文法・出土地点が異なり、別種かも知れない。

第4類：結束羽状縄文が施文された土器（第27図99～103、写真図版12）

R LとL Rの両方が0段多条であるもの（100～102）と一方のみがそうであるもの（99・103）がある。口唇部断面は丸いもの・平坦なものなどバラエティーがある。

第5類：非結束羽状縄文が施文された土器（第23図25・第27図104～109、写真図版9・12）

いずれも0段多条によるR LとL Rを用いている。口唇部断面の形状はやはりバラエティーがある。

第6類：斜縄文主体の土器（第23・24図26～31・第28～30図110～182、写真図版9・12～15）

器形は平縁で、丸底となるものが主体であると考えられる。口縁部は、ほぼ直立するもの、緩やかに内湾気味に外傾するもの、わずかに外反するものなどがある。斜縄文の施文方向によって細分する。

a種：単一方向に施文されるもの（26～30、110～159）

110～130はR Lの斜縄文が施文されたものである。底部付近を除き横方向に回転したものである。0段多条が多用されている。114～117の口縁直下5～6 mmは無施文であり、縄文回転押圧によって無文部が浮き出した印象を与える。121～124は原体の末端処理による横位文が観察される。125・126は縄文を層状に施文しているが、2段目が強く行われたため1段目が一見盛り上がったように見える。口唇部断面形は、平坦なもの（110～113他）、内削ぎ状のもの（118～119他）、外削ぎ状のもの（117・120）、丸みを帯びるもの（127）、先細りとなるもの（128）がある。

26～30・131～154はL Rの斜縄文が施文されたものである。145は縦、139は斜位、他は全て横方向に回転したものである。やはり0段多条が多用されている。口縁直下に無文部が形成されるのは134・135である。136・137も縄文施文圧が強く口唇部が飛び出している。146～148は口縁部にループ文が施文されている。146は緩い波状口縁である。151は0段の条がより多いものであろう。152・153には原体の末端処理によると思われる結節回転文が横走している。154は小形の土器であるが縄文施文は口縁部のみで体部下半は無文である。口唇部断面形は、平坦なもの（131～133他）、内削ぎ状のもの（138・139他）、外削ぎ状のもの（140・141他）、丸みを帯びるもの（142・143）、先細りとなるもの（144・145）がある。

155～158は複節の斜縄文、159はL R 0段多条の縄にLを巻き付けたものか。

b種：同一原体を多方向に回転したもの（31・160～182）

同一原体を縦と横に回転させ、縦位の羽状の様相（31・171・172）や、横位の羽状の様相（177）を描出している。31・160～172はL Rの原体、173～177はR Lの原体、178～182は複節の原体を用いている。口唇部に施文されるもの（178）もある。口縁直下に無文部を形成するもの（168・181）があるのはa種と同様である。口唇部断面形もa種同様に各種存在する。

第7類：組縄縄文<sup>(註2)</sup>が施文された土器（第24図32・33・第31図183～188、写真図版9・15）

遺物集中区であるIII B区のII層を中心に出土した。繊維を多量に含む。

器形は、33に見られるように平縁で丸底風尖底になるものであろう。口縁部はわずかに外反するもの（33）、緩やかに内湾気味に外傾するもの（32）、ほぼ直立するもの（183～188）がある。本遺跡の組縄縄文が施文された土器には、口唇部への施文は見られない。

183～184 は原体を横回転、185 は縦および横に回転したものである。186～188 は高橋亜貴子氏のいうB種と考えたが確かではない。188 の口縁部に表出された原体端の回転痕がカギになるものと思われる。186 と 188 には 6 類と同様に口縁直下に無文部が形成される。

第 8 類：組紐回転文が施文された土器（第 31 図 189～191、写真図版 15）

II B 区と III B 区の境界部からの出土である。同一個体と思われる。平縁に山形状の突起を有する。189 からは、2 山で 1 単位になるものと推定される。体部は緩やかな曲線を描く。底部は出土しておらず不明である。

第 9 類：撚糸文が施文された土器（第 31 図 192～197、写真図版 15）

192～195 は細密な撚糸文が施文されている。193 と 194 は同一個体であると思われるが、施文が深く条間の粘土が盛り上がっている。192・195 は撚糸が交差して施文されていて、施文法が不規則な印象を与える。195 から、底部は丸底に近いものと考えられる。196 は L R を施文後に絡条体の回転を重ねたものと考えた。197 は L R の斜縄文と R 2 条による木目状撚糸文が施文された土器である。撚糸文の施文方向は、斜位である。

第 10 類：第 1 類～第 9 類に属さない土器（第 24 図 42・第 31 図 198～第 32 図 206、写真図版 10・15・16）

本類は胎土・焼成などが類似するが、第 9 類までに含めることができなかつたものである。時期を異にするものも入っている可能性がある。

a 種：縄の側面圧痕を有する土器（198・199）

b 種：押型文を有する土器（200・201）

繊維を含み、器厚 10 mm とやや厚手である。モチーフは明瞭ではない。201 からは連続山形状と推定される。

c 種：縦位の沈線を有する土器（202・203）

沈線は半截竹管の内面によるもので、203 は平行沈線として表れている。

d 種：無文土器（204）

縦位の条痕が観察されるが、貝殻によるものではない。

e 種：口縁部に結節回転文が施文された土器（205）

地文に結束羽状縄文を施文した後、口縁部に 3～4 条の結節回転文が施される。口唇部は平坦に調整されている。

f 種：太い原体により疎に施文された土器（206）

胎土に繊維を含むが、それ以上に多量の粗砂・細礫が含まれる。縄文原体も一見して 6 類とは異なる。L R を横と縦に回転したものと思われるが、条間が疎で撚糸文のようにもみえる。口縁部はわずかに外反し、体部は緩いカーブを描く。口唇部断面は丸い。器厚はむらが大いだが最大値 14 mm と厚手である。

第 11 類：底部資料（第 24 図 35～42・第 32 図 207～215、写真図版 9・10・16）

第 II 群土器の底部資料を集めた便宜的な類設定である。底部は尖底風の角度の小さなものから鈍角のものまであり、多様である。突端に突起を持つものと持たないものがある。39 は縄端による刺突が施されている。

第 III 群土器：胎土に繊維を含む平底の土器（第 25 図 43・44、写真図版 10）

43 はII C 区の耕作土下、黒色土から押し潰された状態で一括出土したものである。同層中には砂が群在していて、旧流路と考えられる一帯である。掘り込みは確認されない(写真図版3参照)。

口縁部には低平な山形状の突起が2個残存しており、4単位あったものと推定される。口縁はわずかに外反し、体部は緩やかなカーブを描いて底部につながる。口唇端には棒状工具により縦位の圧痕が加えられ、口縁部には結節回転文が横走して文様帯を構成する。体部は第1種結束の羽状縄文で、縄端処理による横位文が観察される。一部に無節の部分が認められるが、原体を代えたというより、結束したLRに撚り戻しがかかったものとして把握した。底部付近は無文である。内面は横方向のナデにより調整されている。

44 は結節回転文のみが施された土器である。底面が外側にやや張り出している。

#### 第IV群土器：胎土に繊維を含まず、第III群より後出する土器群

所属時期幅は広いが、出土量は極少量であることから一括した。文様や胎土の特徴および時期を勘案して第1～8類まで細分した。

第1類：多軸絡条体を地文とする縄文前期の土器(第32図216、写真図版16)

地文のみの体部小破片であるが、胎土から縄文前期と考えた。

第2類：複合口縁の土器(第32図217、写真図版16)

口唇直下に縄文が施文されている。波状口縁となる可能性もある。

第3類：体部の沈線による孤状文が特徴的な縄文中期後半の土器(第25図45、写真図版10)

45 はII C 区の耕作土下、黒色土から押し潰された状態で一括出土したものである。底部破片はない。検出は、43と同一層であり同じく旧流路と考えられる一帯である。掘り込みは確認されない(写真図版3参照)。

器形は4単位の頂部を持つ大波状口縁で、頸部から緩やかに外反している。体部はなめらかなカーブを描く。口縁は肥厚して凹線状の凹みが全周し、突起部には内外両面に突起を挟み込むように粘土紐を貼り付けて強調している。二山の頂部から粘土紐を垂下させ、山裾部分と口縁に全周する凹線との境界部にも粘土紐が貼り付けられ区画される。体部は上半部に沈線による孤状文が横位に展開する。地文となる単節斜縄文を全面に施文後に、竹管外面(または棒状工具)によって3本1単位で、浅めに描かれる。体部下半部は地文のみである。内面には丁寧なミガキがかけられ光沢が残る。

第4類：渦巻文が特徴的な縄文中期後半の土器(第32図218・219、写真図版16)

図示した2点のみの出土である。胎土には砂が多く含まれている。

第5類：縄文中期末葉の土器(第32図220～222、写真図版16)

図示した3点のみの出土である。220は0段多条のRLを縦に回転した後、沈線で区画して磨消している。竹管刺突は3点とも下方向からである。

第6類：縄文後期に属すると考えられる土器(第32図223・224、写真図版16)

図示した2点のみの出土である。小破片で文様モチーフが不明であるが、磨消縄文や沈線の特徴から縄文後期と考えた。224の沈線の外側は粘土がやや盛り上がっていて粗雑な印象がある。

第7類：弥生時代の土器(第32図225～228、写真図版16)

226・227は口縁部に無文帯が形成される。体部は摩耗していて詳細不明である。

第8類：無文で薄手の土器(第32図229・230、写真図版16)

図示した2点のみの出土である。器厚5 mmで17~18 mm幅の輪積痕が横走している。

第9類：底部資料（第25図46~48・第32図231~236、写真図版10・16）

第IV群に属する底部を一括した。1点を除き他は全て図示してある。46と235・236には網代痕がある。

（注1）：大沼 忠春 1985「魚骨文の新例について」『北海道考古学』第21輯

p.89~90の写真に酷似することから魚骨回転文とした。本例は2条ずつ並ぶ刺突痕が明瞭に見られ、ニシンタイプの骨と考えられる。

（注2）：高橋亜貴子 1992「東北地方縄文時代前期前葉組縄文について」『東北文化論のための先史学歴史学論集』

## 2. 石器・石製品

石器・石製品として、遺構内4点、遺構外684点、計688点を登録した。これには、使用痕・加工痕を有するものと、軽石を含めた。フレークやチップは登録から除外した。

剥片石器は205点、礫石器・石核石器は483点である。

剥片石器については、まず定形的な石鏃・石錐・石匙・石篋を抽出し、次に二次加工状況・刃部形状によって不定形石器を設けてI群とII群に分けた。残ったもののうち剥片の両極に剥離を有するものをピエス・エスキューとして取り上げた。最後に、二次加工を有するものの刃部とは認め難いものをリタッチドフレーク（Rフレと略称する）、二次加工は認められないが微小剥離が連続して使用したと考えられる剥片をユーティライズドフレーク（Uフレと略称する）とした。

礫石器・石核石器については、形態・使用痕・加工痕から、石斧・石錘・敲石・磨石・特殊磨石・凹石・台石・礫器という器種名を設けて分類した。

石製品は2点のみであり分類はしなかった。

以上の他に、遺物集中区（III B区4~6ライン）を中心に卵大から拳大の円礫が多数出土した。これらには使用痕・加工痕は観察されないが、石質・法量・形態が、後述する敲石にきわめて類似している。本来はこれらも登録すべきであるが、出土グリッドと点数のみを把握することとした。

登録した688点のうち、ここに図示したものは378点であり、全体の約55%である。剥片石器については、出土量が多くなかったことからその多くを図示することができた。礫石器は器種毎に任意の細分基準を設け、細分された中から代表的なものを取り上げるようにした。図示した点数は出土量を直接に反映するものではないが、おおよその傾向は把握できるであろう。

器種	石鏃	石錐	石匙	石篋	不定形石器	ピエス・エスキュー	石斧	石錘	敲石	磨石	特殊磨石	凹石	台石 石皿類	礫器	軽石	Rフレ	Uフレ	石製品	計
点数	41	2	29	3	30	76	142	3	147	2	72	9	21	82	2	14	11	2	688

第5表 石器・石製品出土点数

調査に当たっては、調査区画設定に先だって表面採集の作業を行った。調査区域は大半が畑地であり、耕作によって土器は極小細片と化していた。また邪魔な礫石器はとりのぞかれたものと考えられるが、剥片類は耕作土の表面に散在していた。ここに掲げた石器の中には、耕作者のご好意により調査区域外において採集した中から、図化したものがある。

## 石器

### (1) 石鏃 (第 33 図 237~270、写真図版 17)

扁平で左右対称、尖頭部とそれより幅の広い基部を有する小形の石器を石鏃とした。41 点中 34 点を図示した。茎の有無・基部の形状によって、I~V 類に分類した。

I 類 (平基無茎) : 基部形状が直線状で中心線に対しほぼ直交するもの (237~260)。

本遺跡出土の大部分はこの類に属する。側辺の形状は 3 タイプある。ほぼ直線状で、その結果平面形が正三角形ないし二等辺三角形を呈するもの (237~246)、やや外側に張り出して弧を描く、いわば外湾するもの (247~258)、逆に内側に弧を描く、内湾タイプのもの (259~260) である。加工状況では一次剝離面を両面に残すもの (240・242・243 他) や、両面とも丁寧な二次加工が施されるもの (238・244・251 他)、その中間型 (241・246・249 他) がある。242 は基部の加工は粗末である。260 は尖頭部に回転痕がないことから石鏃ではなく石鏃の未製品として把握したが疑問は残る。

II 類 (凹基無茎) : 基部が内側に緩い弧を描くもの (261~265)。

5 点のみの出土である。側辺形状は全て緩い外湾タイプである。基部の形状では、弧の半径が大きく、I 類と大差ないもの (261・265) もある。二次加工は表裏全面に施されている。263 は尖頭部断面が円形に近く、石鏃としても用いられた可能性がある。

III 類 (有茎) : 茎を有するもの (266~268)。

3 点のみの出土である。基部形状に相違が認められる。266 は基部がやや突出する凸基有茎鏃、267・268 は平基有茎鏃の範疇に入るであろう。

IV 類 (円基) : 基部が外側に弧を描くもの図示した 269 のみの出土である。

V 類 (尖基) : 基部が外側に尖る 270 が出土した全てである。

### (2) 石錐 (第 33 図 271・272、写真図版 17)

鋭い尖頭部を有し、孔を穿つのに用いられたと考えられる石器である。2 点のみの出土であり、細分は行わない。271 は半透明の石材で側辺に小剝離が施され棒状の平面形を呈している。272 は不定形剝片の一端に集中的に二次加工を施して尖頭部を作り出している。

### (3) 石匙 (第 33 図 273~第 34 図 295、写真図版 17・18)

両側辺から抉りを入れることによって作出されたつまみ部と、スクレーパーエッジによる刃部を有する石器である。平面形状によって細分する。

I 類 : つまみ部が、剝片の長軸方向に位置するもの (273~294)。

a 種 : 先端部が多少なりとも尖頭状を呈するもの (273~284)。

b 種 : 先端部が尖らないもの (285~294)。

本細分は便宜的なものであり、b 種のなかにも折損により尖頭部を失ったものが含まれている可能性なしとしない。しかし、a 種としたものの中には、刺突機能を有するものがあり、全く無意味とは言えないであろう。294 は平面形状は a 種に類似するが、刺突機能を持たないという観点から b に入れた。284 は本器種に分類するにはやや疑問もあるが、たまたまつまみ部の作りだしが弱いものとして把握した。しかし、他の個体は全てつまみ方向に打点を有する素材を用いていることから、あるいはスクレーパーとすべきかもしれない。

a 種には、左右対称形のもの (273)・左に張り出すもの (274~282)・右に張り出すもの (283) の

3タイプがあり、左張出しタイプが圧倒的に多い。b種には共通性を見出し難いが、長幅比が小さいもの(286~289)があることが特徴か。288を除き、a・b種ともに裏面に一次剝離面を残す。

II類：つまみ部が、剝片の長軸方向と直交する方向に位置するもの(295)。

本類に分類できるのは1点のみである。刃部の剝離は細かく急傾斜である。

#### (4) 石篋(第35図296~299、写真図版19)

平面形が撥形で、一端に刃部を有する石器である。出土した4点を全て図示した。296は裏面に一次剝離面を残す。刃部形成は弱い。297は両面に丁寧な二次加工が施され、断面形は偏平なレンズ状を呈する。スクレーパーとすべきかも知れない。298は表裏両面に一次剝離面を残し刃部は急傾斜で搔器状を呈する。299は粗く大きな剝離であるが、形態的には整っている。

#### (5) 不定形石器(第35図300~第36図323、写真図版19・20)

剝片に刃部と想定される二次加工が施された石器のうち、石鏃・石錐・石匙・石篋を除いたものを不定形石器として一括し、I類とII類に分けた。

I類：尖頭部を有する小形の石器で、石鏃・石錐には分類できないもの(300~304)

300~302は平面形がやや整っていて、断面は偏平、法量もほぼ近似する。これらはいわゆる「尖頭器様石器」<sup>(\*)</sup>としていいものとする。303・304は若干異なる様相を示すが、尖頭部形成という観点からここに入れた。

II類：器体に沿って刃部と想定される二次加工が施されるもの(305~323)

本類には、いわゆる削器と搔器の両者を含む。305・306は直線状の刃部を有する。307・308は刃部が内側に弧を描く、いわゆる凹刃を持つものである。307は挟りが大きいことから、挟入石器とすべきか。308は逆に極めて緩い弧であり、直刃に近い。309は外側に張り出す弧を描く刃部(凸刃)を有する。311~313は刃部が強く外側に突き出し、急傾斜の剝離(丸凸刃)を有するもので、搔器の用途を想定できる。310は凸刃と丸凸刃の中間形を示している。

314~320は、刃部と想定される二次加工が剝片の2辺に施されるものである。314~317は互いに対向する辺に、318~320は隣接する辺に二次加工が観察される。318・319は尖頭状を呈するが、I類とは異質なものである。

321~323は、刃部と想定される二次加工が剝片の3辺以上に施されるものである。321・322の剝離は階段状である。323は平面形は撥形であるが、二次加工が少なく刃部形成が弱いことから石篋には入れなかった。

#### (6) ピエス・エスキーユ(第36図324~第37図366、写真図版20・22)

対向する両側辺に、階段状またはリングの密な剝離や打滅痕が認められるものである。剝離の形状や対数により次のように細分した。77点を本器種に分類したが、そのうち43点を図示した。

I類：側辺に1対の剝離が認められるものうち、剝離が両方とも連続して線状となるもの(324~343)

剝離が剝片の長軸方向に認められるもの(324~333)と、短軸方向に認められるもの(334~343)とがある。剝離を伴って対になる辺は概ね平行であるが、やや傾斜するものもある(324・332・335他)。

II類：側辺に1対の剝離が認められるものうち、一方は線状であるが他方に剝離以前の平坦面を有するもの(344~348)。

344の平坦面は極く狭いものでI類に入れるべきかも知れない。348の対となる剝離は斜行している。

III類：側辺に1対の剝離が認められるものうち、一方は線状であるが他方は点状に潰れた状態を示すも

の (349~354)。

349・354 は上辺が点状・下辺が線状である。他は上辺が線状・下辺の一部に点状の打滅痕が認められる。

IV類：側辺に1対の剝離が認められるもののうち、一方は剝離前の平坦面を有し、他方は点状に潰れた状態を示すもの (355)。

平坦面は上辺にありやや傾斜している。

V類：側辺に1対の剝離が認められるもののうち、両方とも点状に潰れた状態を示すもの (356・357)。

VI類：剝離が2対認められるもの (358~366)。

9個体のそれぞれに剝離の状態によってI類~V類のような細分が可能であるが、組み合わせが複雑となることから、本類は一括した。平坦面を有するものは358・359・362・364・366の5点である。363は対になる剝離が互いに斜行する。

#### (7) 石斧 (第38図 367~第46図 451、写真図版 22~26)

ここにはいわゆる磨製石斧と打製石斧、およびそれらの未製品と思われるものを掲げた。一括した理由は、本遺跡から出土した石斧は、磨製・打製の境界・未製品の境界が曖昧で一線を画することが困難であることによる。

I類：全面に研磨の痕跡が著しいもの (367~372)。

いわゆる磨製石斧とそれに近似するものをI類とした。367・368は全面研磨されている。369~372は研磨以前のもと思われる敲打痕が残っている。373・374は小剝離と敲打痕が観察されるが全体としては研磨が卓越するので本類にいった。

II類：一部に研磨も観察されるが敲打痕や剝離が著しいもの (375~390)。

剝離が観察されるのは側辺に多い (375・376・380・387他) ことから、整形のためのものであると考えられる。382・383・388は剝離は認められず敲打痕と一部研磨が観察される。380・386などはそれらの中間形を示している。

III類：敲打痕や剝離が著しいもの (391~403)。

本類にいったものは、光沢のある明瞭な研磨は観察されない。敲打痕のみのもの (391~393) と剝離を伴うもの (394~403) とがある。剝離は刃部にも見られるが、側辺に横方向からの加撃によったものが多い。391・393・395などについては、剝離や敲打のみによって整形されたものかどうか疑問が残る。擦痕や光沢を有する研磨こそ観察されないが、形状が整っていることを見れば「研ぐ」という所作が加わっている可能性もあるが明瞭ではない。

IV類：片面に自然面を大きく残し、もう片面は打製による整形が施されたもの (404~432)。

いわゆる打製石斧である。404~409は、長さが7cm以下の小形のものである。405・409は側面観が湾曲している。410は片面が自然面であるという共通性から本類に入れたが、他に比し幅が狭くあるいは不定形石器の類かも知れない。411~432についても法量・形状に多少のパラエティーがある。平面形状では、基部側が細く刃部側が広い通常の斧形のもの (411・415・422他)、長方形に近いもの (413・425・432)、長円形に近いもの (416・417・421)、楕円形に近いもの (426) がある。断面形ではレンズ状でやや扁平なもの (411~414他) と肉厚のもの (424~426・429他) がある。片面が完全に剝離によって調整されているものが多いが、自然面を残しているもの (407・414・417・422他) や、片面だけでなく両面に剝離が伴うもの (414・424・425他) もある。



V類：自然礫の一端に剝離が施されたもの（433～451）。

平面・側面の形状が斧に類似することから石斧に分類したが、通常の打製石斧・磨製石斧とは異っており、厳密には斧状石器・斧形石器とすべきかも知れない。

433～446 は先端に刃部と想定される剝離を伴う。自然礫の一端に剝離を伴うという意味では、後掲する「礫器」として分類したものと共通する。明確な基準はないが礫の形状によって分離した。434 や 440 などに顕著に見られるように、多くは単位の大きな剝離の後に小さな剝離が施されている。前者を加工痕、後者を使用痕として把握した。小さな剝離のみのもの（439）は自然礫を未加工のまま斧として用いたものと想定した。大きな剝離のみが観察される 438・443・447 は、石器とすることにためらいもあるが、形状の類似性から未製品の可能性を考えた。

448～451 は側辺に連続する剝離を伴うものである。これらはII類～IV類が側辺からの剝離を伴うという共通性の上に未製品として把握したものである。450 は敲石として転用されたものか。

(8) 石錘（第 46 図 452・453、写真図版 27）

偏平な礫の、長軸または短軸に挟りを有するものである。本遺跡での出土はごくわずかで 607（第 62 図）を本器種に分類したとしても 4 点にすぎない。452 は磨耗していて剝離の単位は不明瞭である。453 は打ち欠きによる挟りは一端にしか観察されない。裏面は剥がれており、あるいは失敗品か。

(9) 敲石（第 46 図 454～第 52 図 523、写真図版 27）

自然礫の先端または側辺に敲打痕が集中するものである。敲打痕は面的構成をとるものが多い。これは、「敲く」他に「磨る」という行為が加わったことを想定させる。しかし、「磨石」や「特殊磨石」ほどの磨面（光沢ある磨面、ザラツキある減磨面）が観察されるわけでもない。敲打痕がみられる部位数によって I～III類に細分した。それ以外のものを便宜的にIV類とした。

I類：面的な敲打痕が一端にみられるもの（455～457）。

ほぼ円形に近い礫を用いたもの（455～464）と、長円形に近い礫を用いたもの（465～474）とがある。断面三角形の 475 は特殊である。473 は「特殊磨石」と同様の用途をもった可能性があるが、欠損が大きく詳細は明らかでない。

II類：面的な敲打痕が両端にみられるもの（476～500）。

I類と同様に、ほぼ円形に近い礫を用いたもの（476～487）と、長円形に近い礫を用いたもの（488～500）とがある。

III類：面的な敲打痕が 3 側面以上にみられるもの（501～508）。

長めの礫を用いて短軸方向に敲打痕が見られるのは 504 のみである。他は全て円形に近い礫である。

IV類：敲打痕が I類～III類のような面的な構成をとらず、従って「磨る」という所作は考えられないもので、その部位も一定しないもの（509～523）。

便宜的な類設定であるので、様々なタイプのものを含めている。円礫の側辺の一部に敲打痕が観察されるもの（513・516・522）や、両側辺に浅い敲打痕が観察されるもの（514・520・521）、主面に凹みに至らない敲打痕が観察されるもの（511・512・515）、長めの礫の側辺に敲打痕が観察されるもの（509・517・518・523）などがある。

(10) 磨石（第 52 図 524・525、写真図版 32）

円礫の主面に磨面がみられる石器である。2 点とも両面に光沢ある磨面が観察される。

(11) 特殊磨石（第 53 図 526～第 55 図 547、写真図版 32～34）

断面形が三角形を基調とする縦長の自然礫を用い、その稜に細長い磨面がみられる石器である。磨面の周囲に剝離を伴うものがあり、その有無によって細分できる。

I類：磨面の周囲に剝離を伴わないもの（526～532・542）。

526～532 は他器種と複合しない。542 は敲打痕が観察され、敲石・凹石としても用いられている。

II類：磨面の周囲に剝離を伴うもの（533～541・543～547）。

533～541 は他器種と複合しない。剝離が部分的で磨面の幅が広いもの（533・534）と大きな剝離が連続して磨面の幅が狭いもの（537～541）とがある。535・536 はそれらの中間形である。

543～547 は凹石または敲石と複合する。543～545 には凹みが観察される。545～547 には敲打痕が見られる。また、I・II類を通して、使用面とは別に平滑な部分が側面に見られるもの（531・539・540 他）があり、これらは調整の痕跡である可能性がある。

(12) 凹石（第55図548～第56図554、写真図版34）

礫の平坦面に凹みがみられるものである。凹みは浅いもの（548）から断面が皿状のもの（553）、連続するもの（554）などがある。

(13) 台石・石皿類（第56図555～第57図561、写真図版35）

比較的大きめの礫の平坦面に磨面や敲打痕が観察されるものである。555 と 558 は表面が平滑である。556・561 は磨面が凹みを形成している。557・559・560 は磨面は観察されず、全体的に表面に小さな凹凸がある。

(14) 礫器（第57図562～第62図608、写真図版35～38）

自然の円礫の一端に、一方向から連続的な打撃を加えて打ち欠き、鋭利な部分を作り出している石器である。剝離を有する面によって細分する。

I類：礫の片側だけを打ち欠いたもの（562～599）。

II類：両側からの剝離が認められるもの（600～605）。

III類：I類・II類に属さないもの（606～608）。

I類が73点と圧倒的に多く、II類は82点中6点に過ぎない。しかもII類には両面剝離という属性以外には形状・法量などに共通性は見いだせない。III類は便宜的に設けた類である。本遺跡・本器種を特徴づけるのはI類である。

I類を詳しくみると、刃部の断面形が比較的鋭利な形状を示すもの（562～582・595～599）と、刃部断面がそれほど鋭利ではなく、むしろ90°に近いもの（583～594）とがある。また、刃部が礫の長軸方向に作り出されるもの（562～573・583・584 他）と短軸方向に作り出されるもの（574～581・585～588 他）、どちらにも入れ難いもの（590・593 他）もある。595～599 は凹石または敲石と複合しているものである。599 の裏面は溝状の凹みとなっているが他は浅い敲打痕である。

II類はバラエティーに富む。600・601 は両面からの剝離が線状の刃部を形成する。602 の裏面の剝離は強い階段状であり、使用痕である可能性がある。片面の両端からの加撃による剝離はI類にはないのである。603 は平面形は斧の未製品に似るが、厚手である。604 の裏面の剝離は強い階段状であるが、使用痕と考えられる小剝離は観察されない。605 は扁平な材に多方向からの加撃が認められるが、線状の鋭利な刃部は形成されない。裏面の剝離は使用痕と考えられ、石鋏と同様の機能を有するものかも知れない。

III類は3点のみである。606 は扁平な礫の片面に両端からの剝離が認められる。608 は表面は全面に剝

離があり自然面を残さない。石斧IV類とは形状・法量が異なる。607は石錘からの転用と思われる。

(15) 軽石 (第62図 609、写真図版38)

産地は二戸地方と推定されている。使用痕・加工痕は観察されない。2点の出土のうち1点を図示した。

石製品 (第62図 610・611、写真図版38)

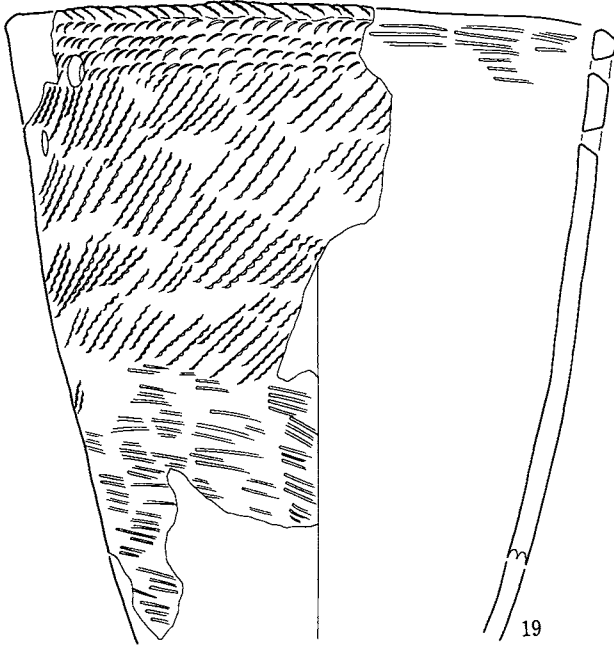
2点の出土である。610は石製円盤または円盤状石製品とよばれるものである。耕作による傷や風化のため、整形法について詳しくは分からないが、偏平な礫の周囲に急角度の剝離を施している。611は精巧な作りで、敲打と研磨によって整形したものと考えられるが、光沢はない。主面の中軸線上やや上寄りに山形状の高まりを作り、滑らかな曲線を描いて外縁にいたる。外縁の上下には装飾的な刻みを全周させている。裏面は欠損している。

(注)：岡村道雄 1979「縄文時代石器の基礎的研究法とその具体例—その1—」『東北歴史資料館研究紀要 No.5』

### 3. 古銭

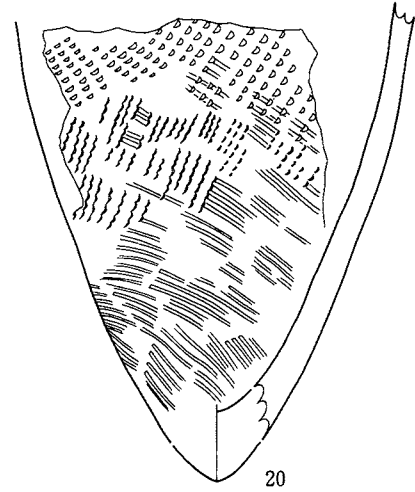
調査区東側の耕作土からの出土である。背面は錆による劣化が著しく文字の有無は確認できない。

[24.4] · (25.7) · —



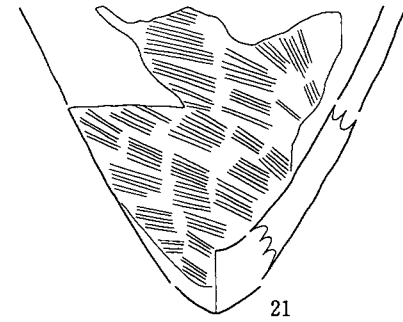
19

— · (18.3) · —



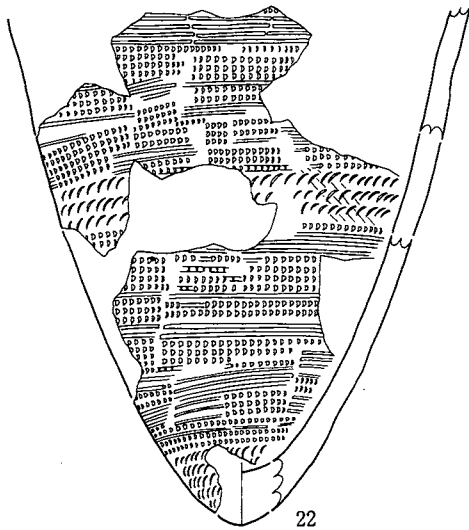
20

— · (12.2) · —



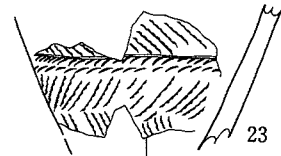
21

— · (20.0) · —



22

— · (5.0) · —



23

— · (3.2) · —

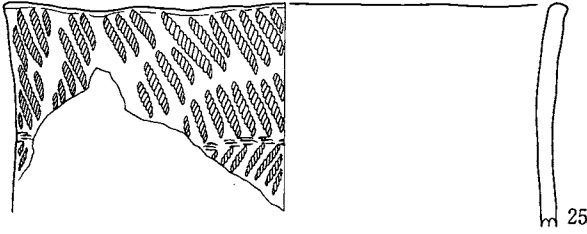


24

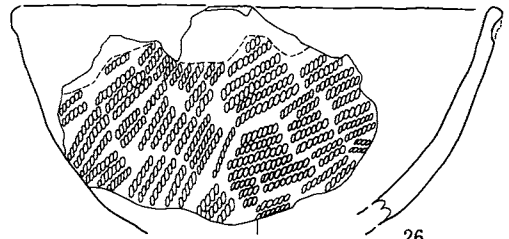


第22図 遺構外出土遺物 土器(1)

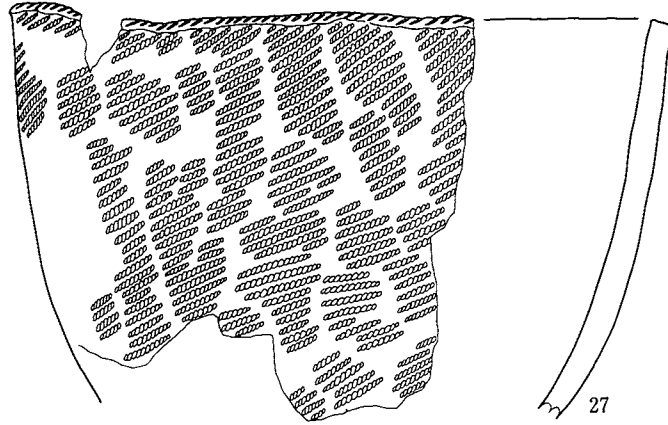
[22.6] · (8.3) · —



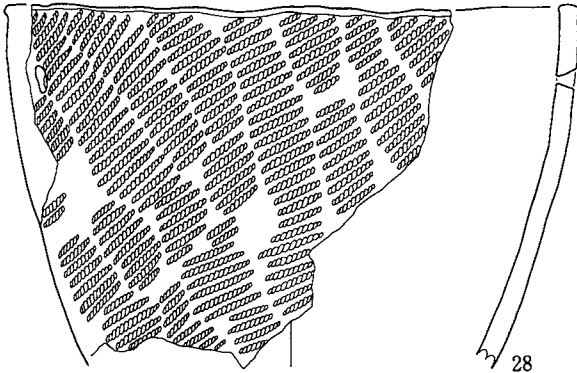
[19.5] · (8.6) · —



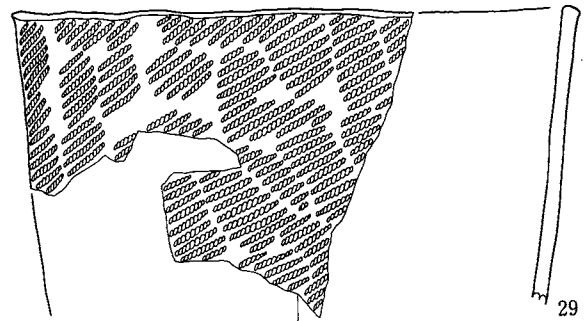
[26.5] · (16.2) · —



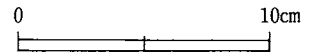
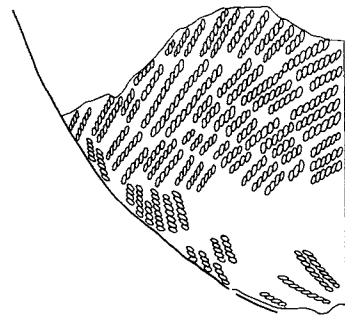
[23.0] · (14.4) · —



[22.8] · (12.2) · —

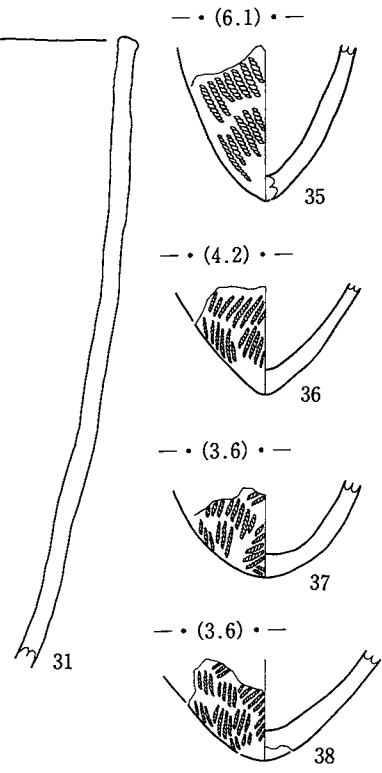
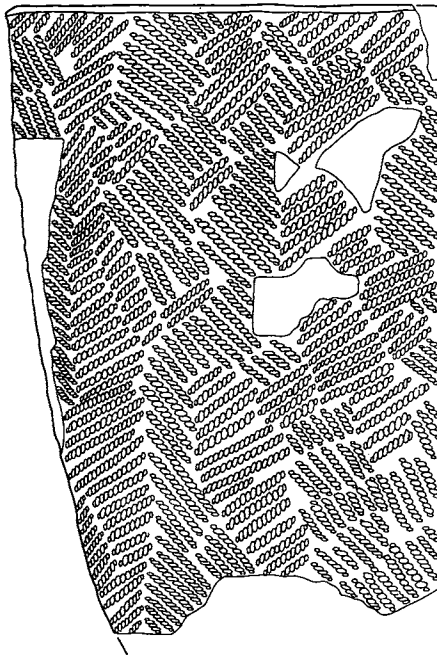


— · (11.8) · —

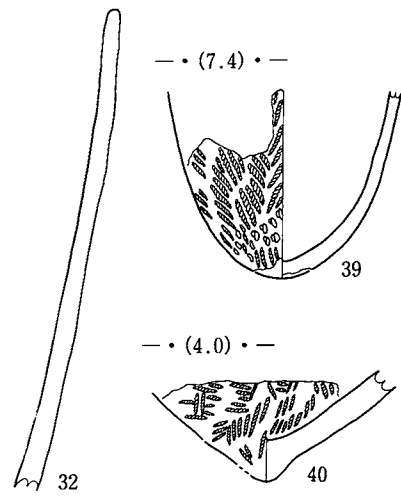
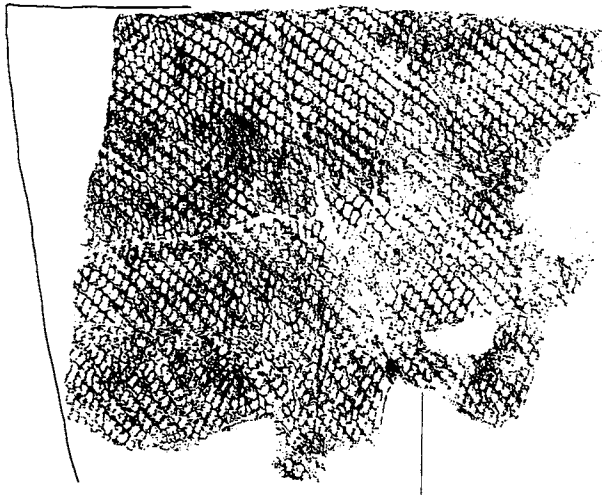


第23図 遺構外出土遺物 土器(2)

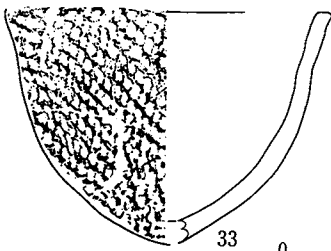
[34.5] · (25.1) · —



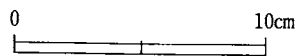
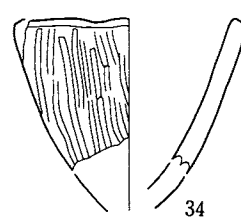
[33.9] · (19.4) · —



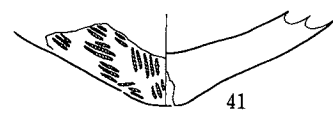
[13.1] · (9.3) · —



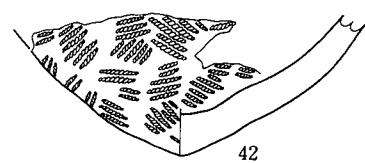
[9.2] · (6.1) · —



— · (3.3) · —

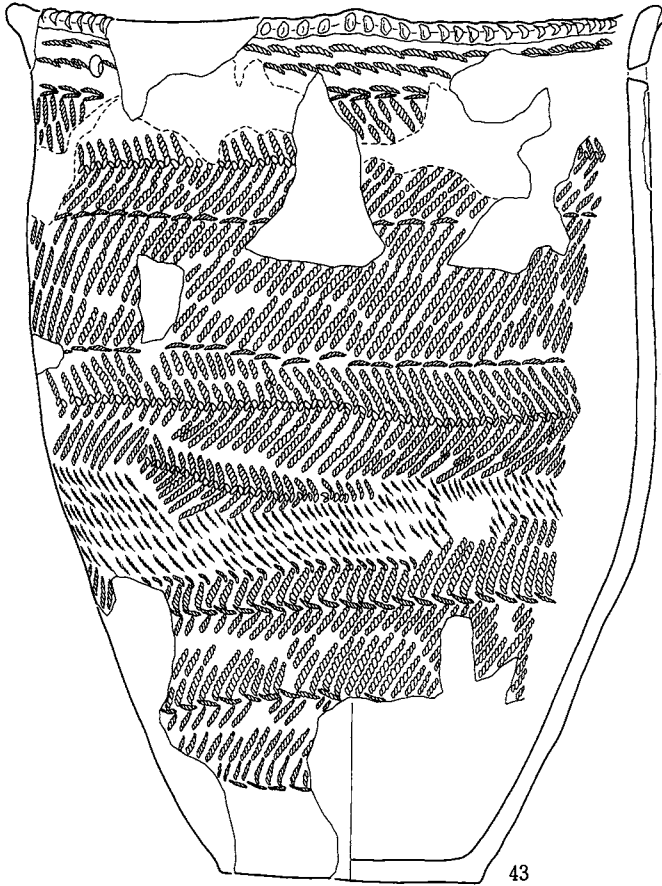


— · (5.5) · —

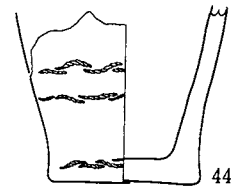


第24図 遺構外出土遺物 土器(3)

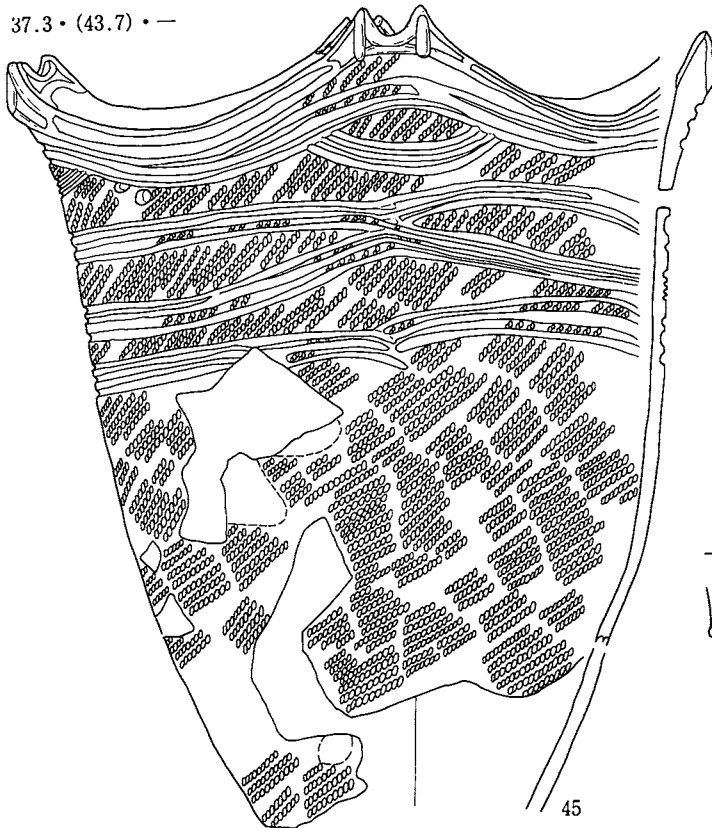
35.4 • 46.8 • 14.2



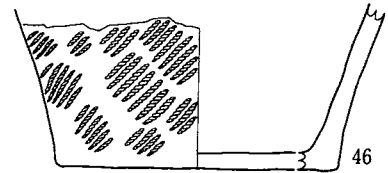
— • (7.1) • 6.1



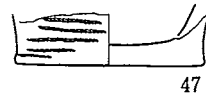
37.3 • (43.7) • —



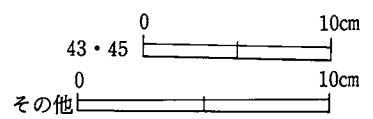
— • (6.3) • [11.4]



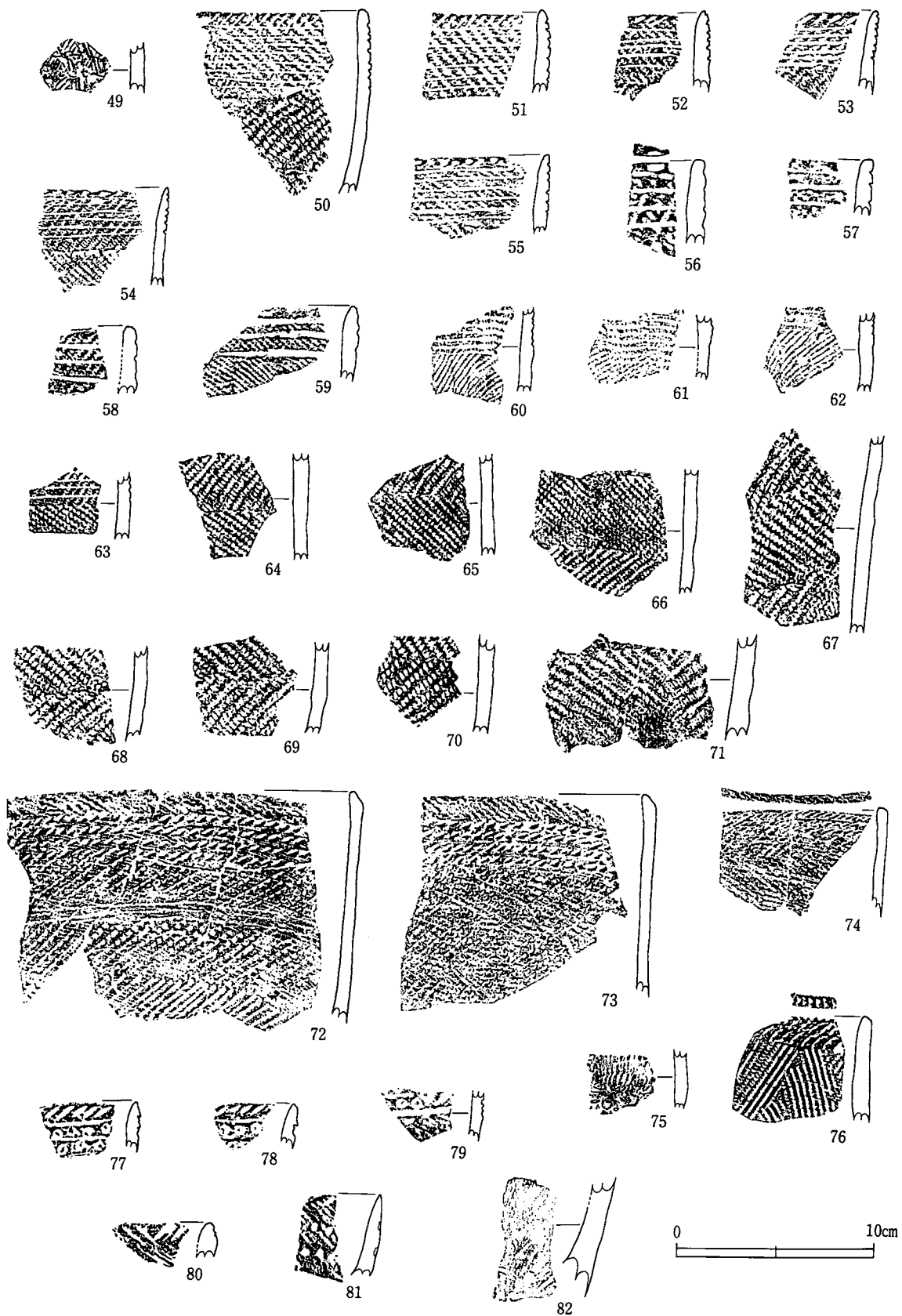
— • (2.1) • [7.6]



— • (1.2) • [5.8]

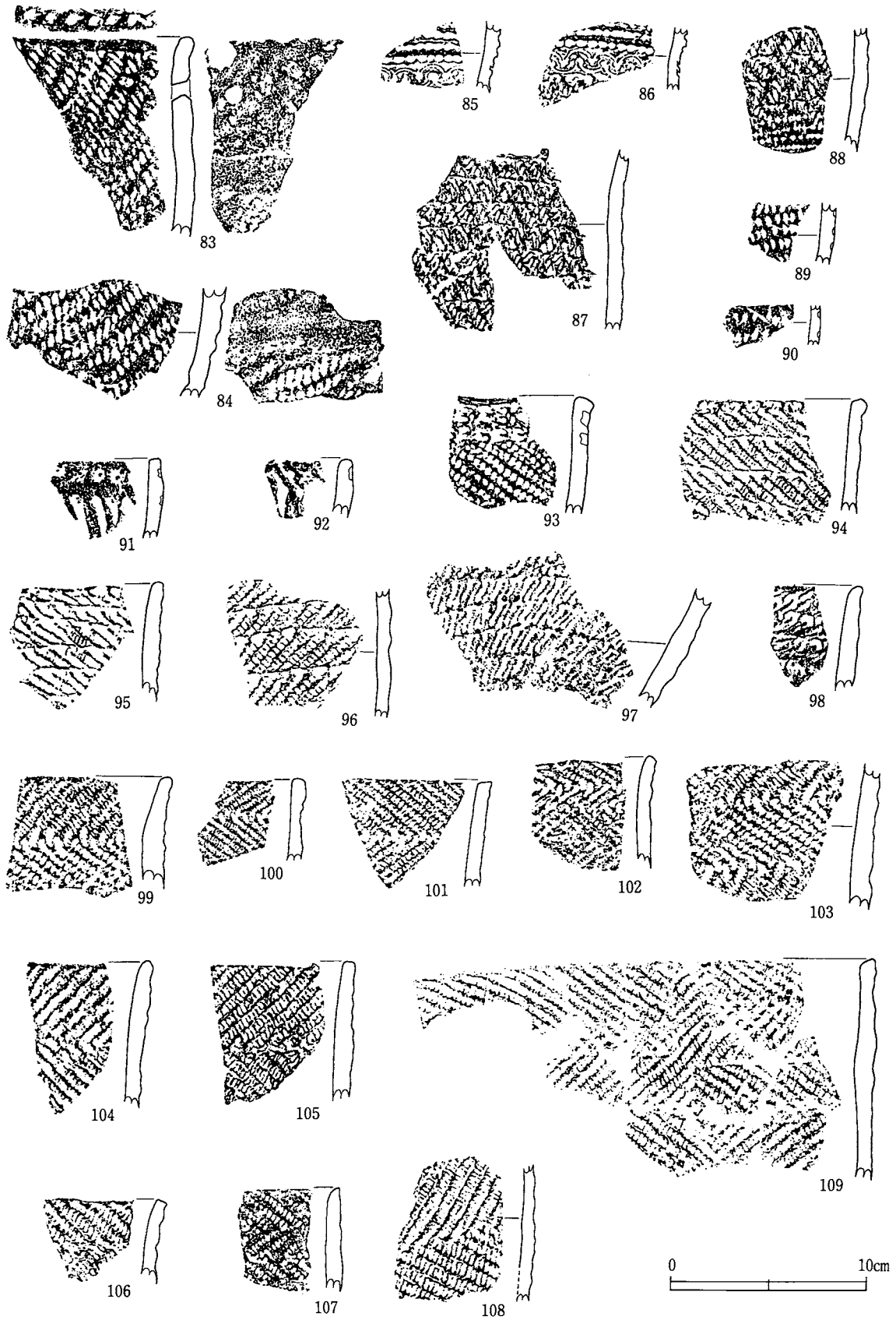


第25図 遺構外出土遺物 土器(4)

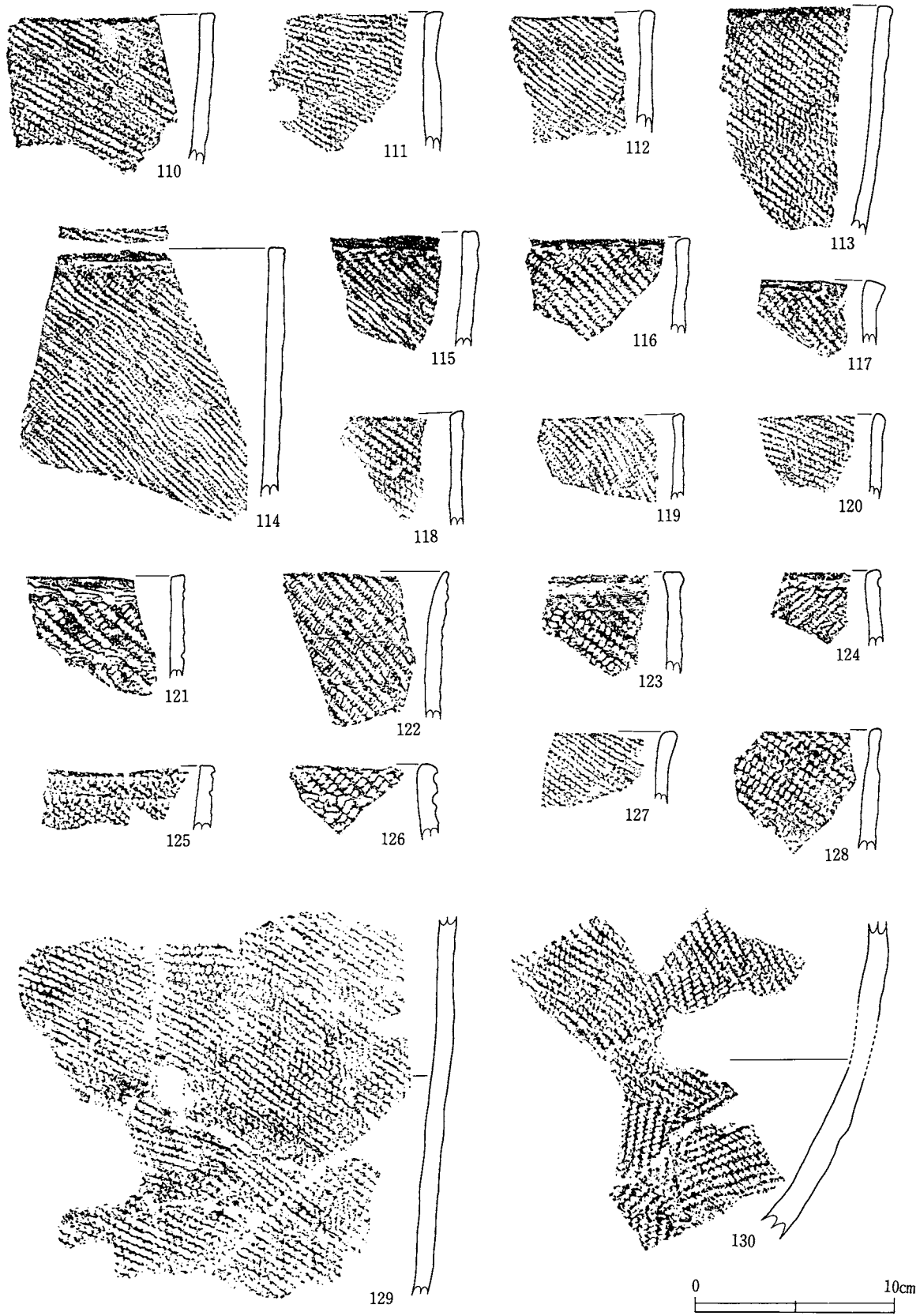


第26图 遺構外出土遺物 土器(5)

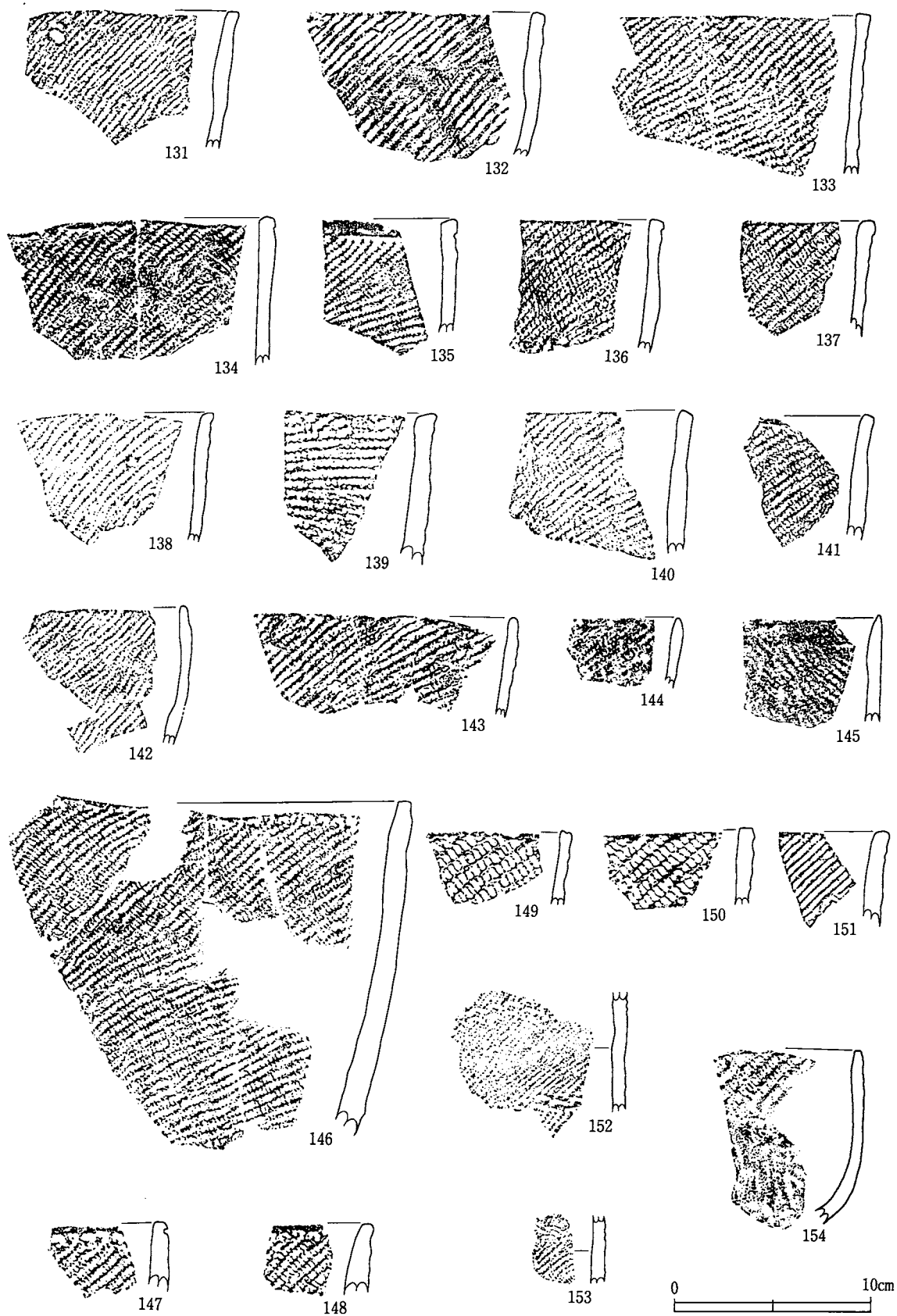




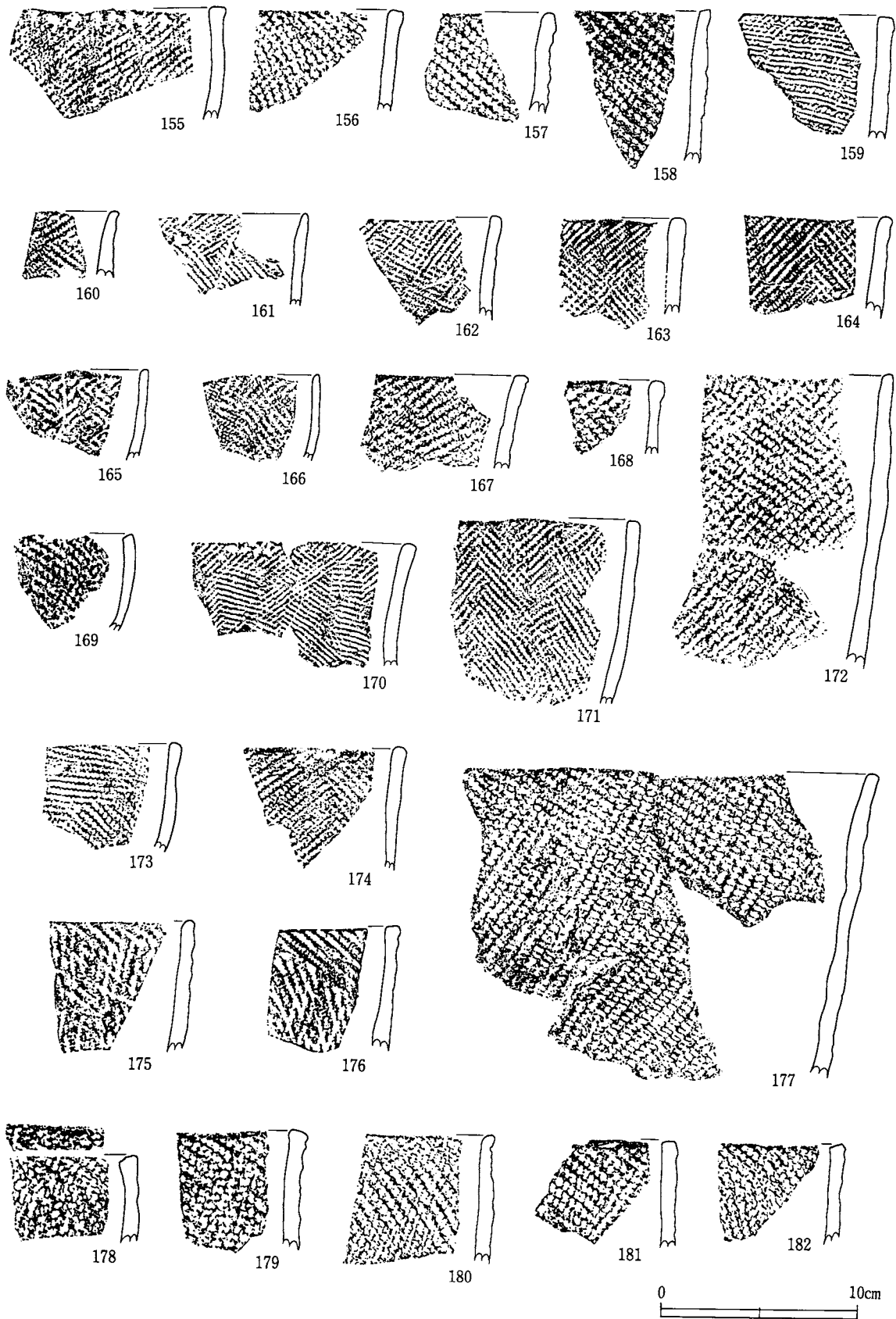
第27图 遺構外出土遺物 土器(6)



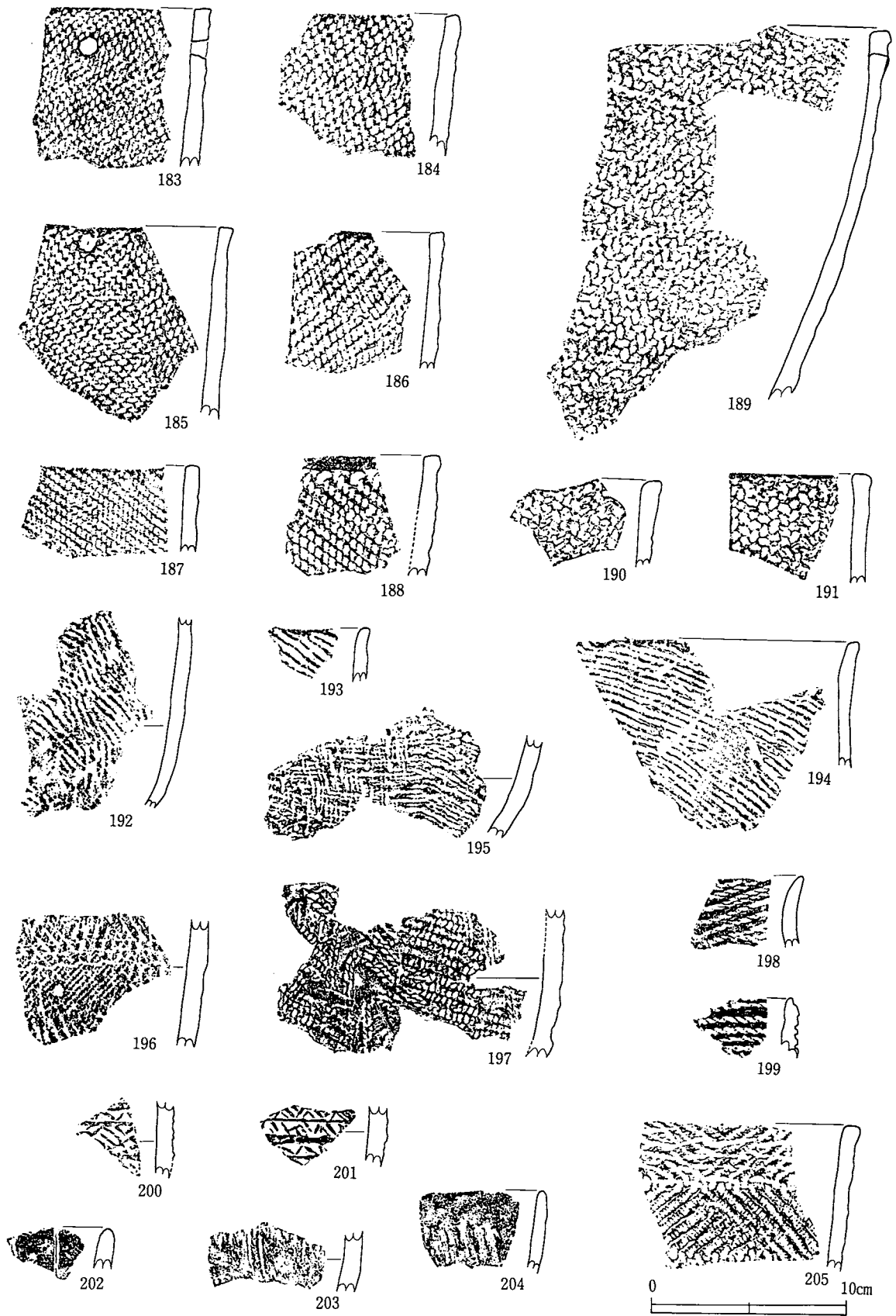
第28図 遺構外出土遺物 土器(7)



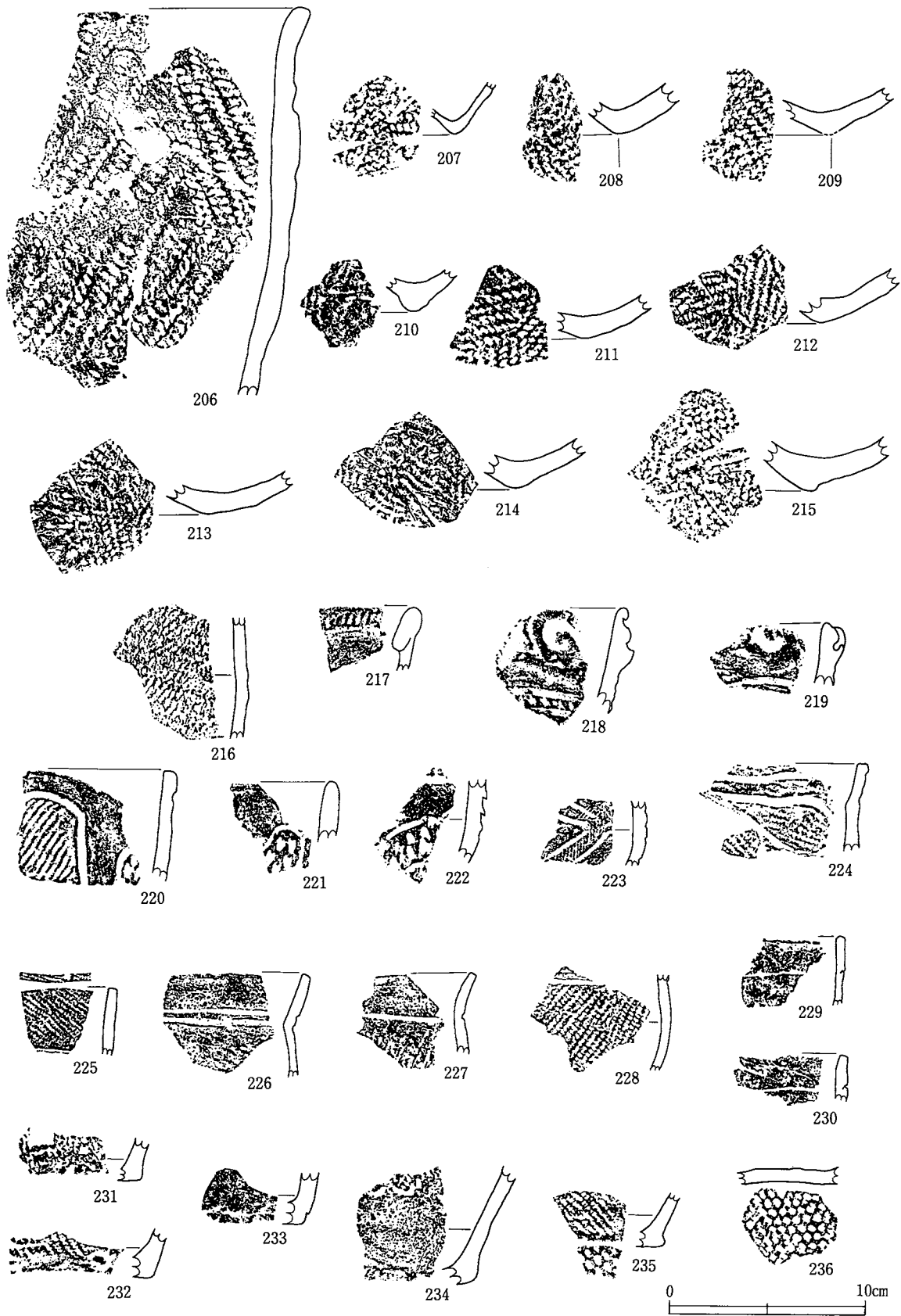
第29図 遺構外出土遺物 土器(8)



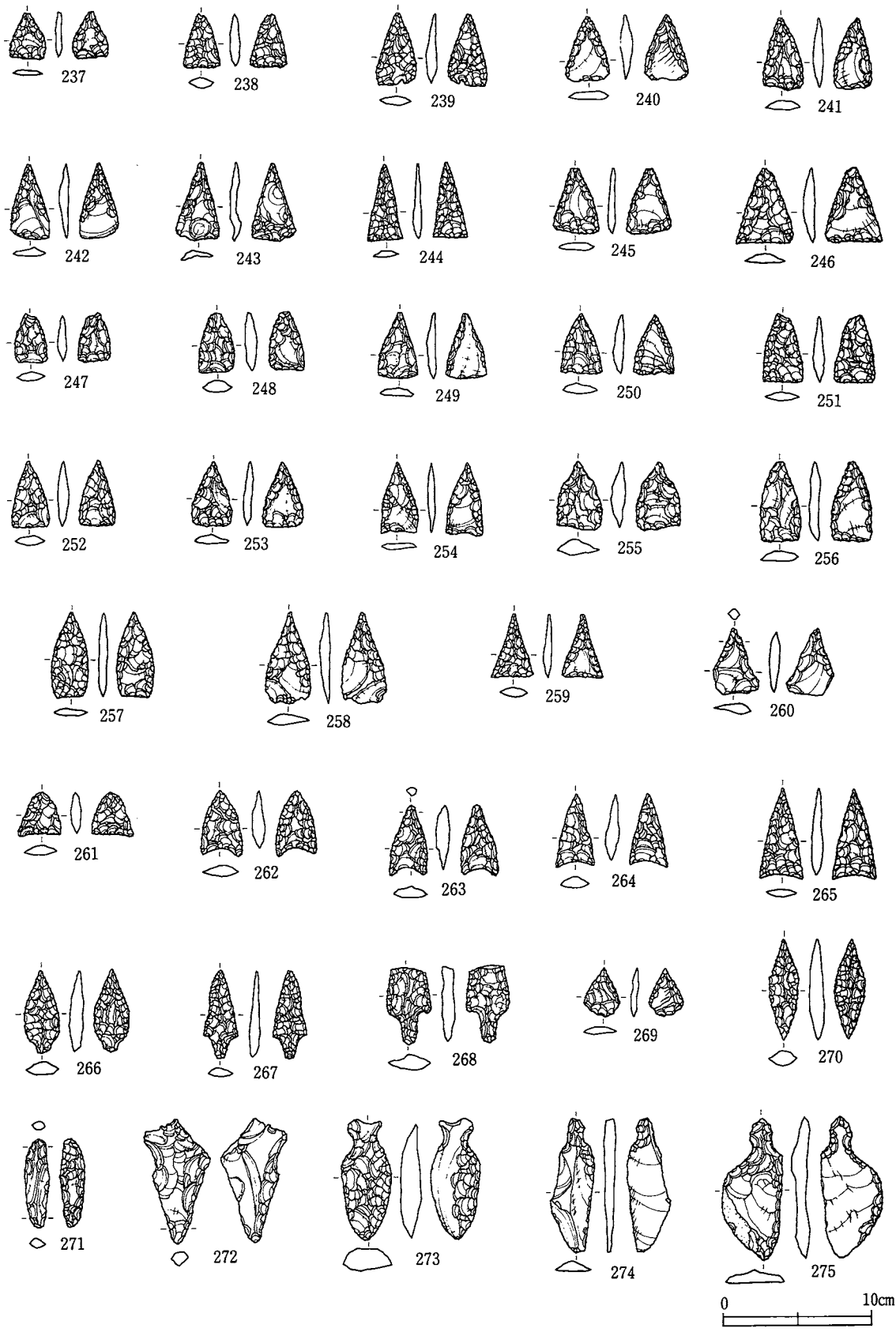
第30図 遺構外出土遺物 土器(9)



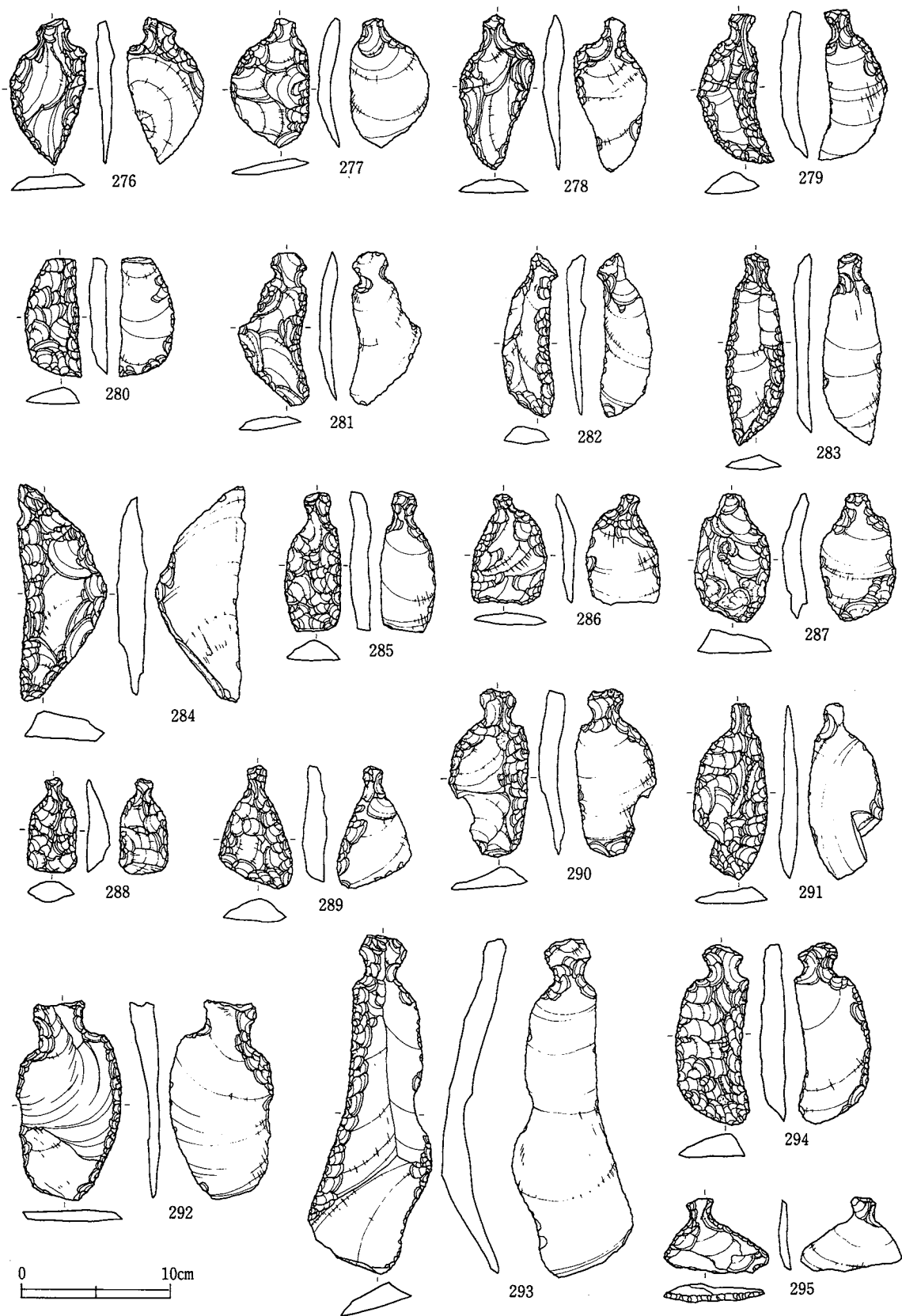
第31图 遺構外出土遺物 土器(10)



第32図 遺構外出土遺物 土器(11)

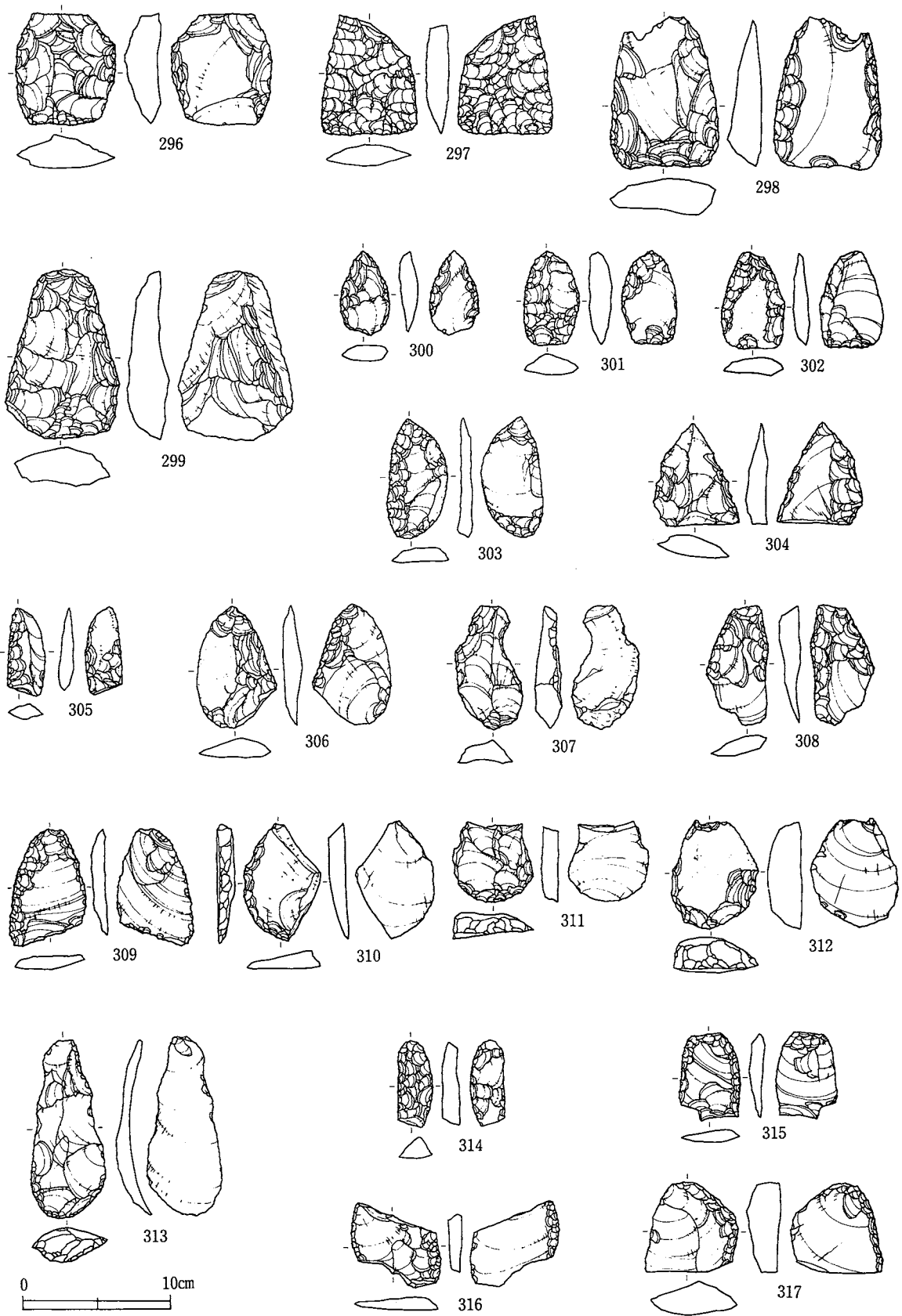


第33図 遺構外出土遺物 石器(1)

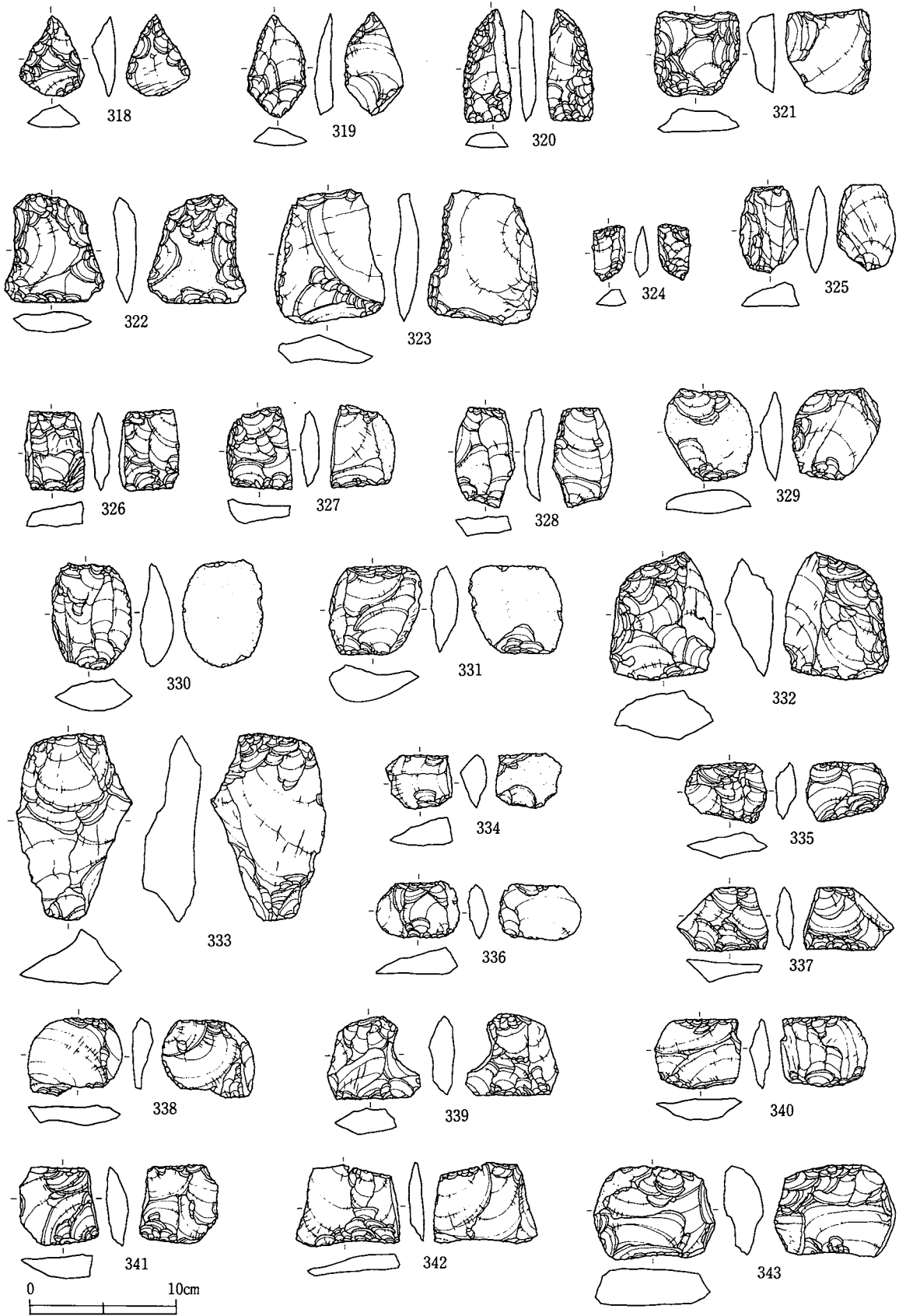


第34图 遺構外出土遺物 石器(2)

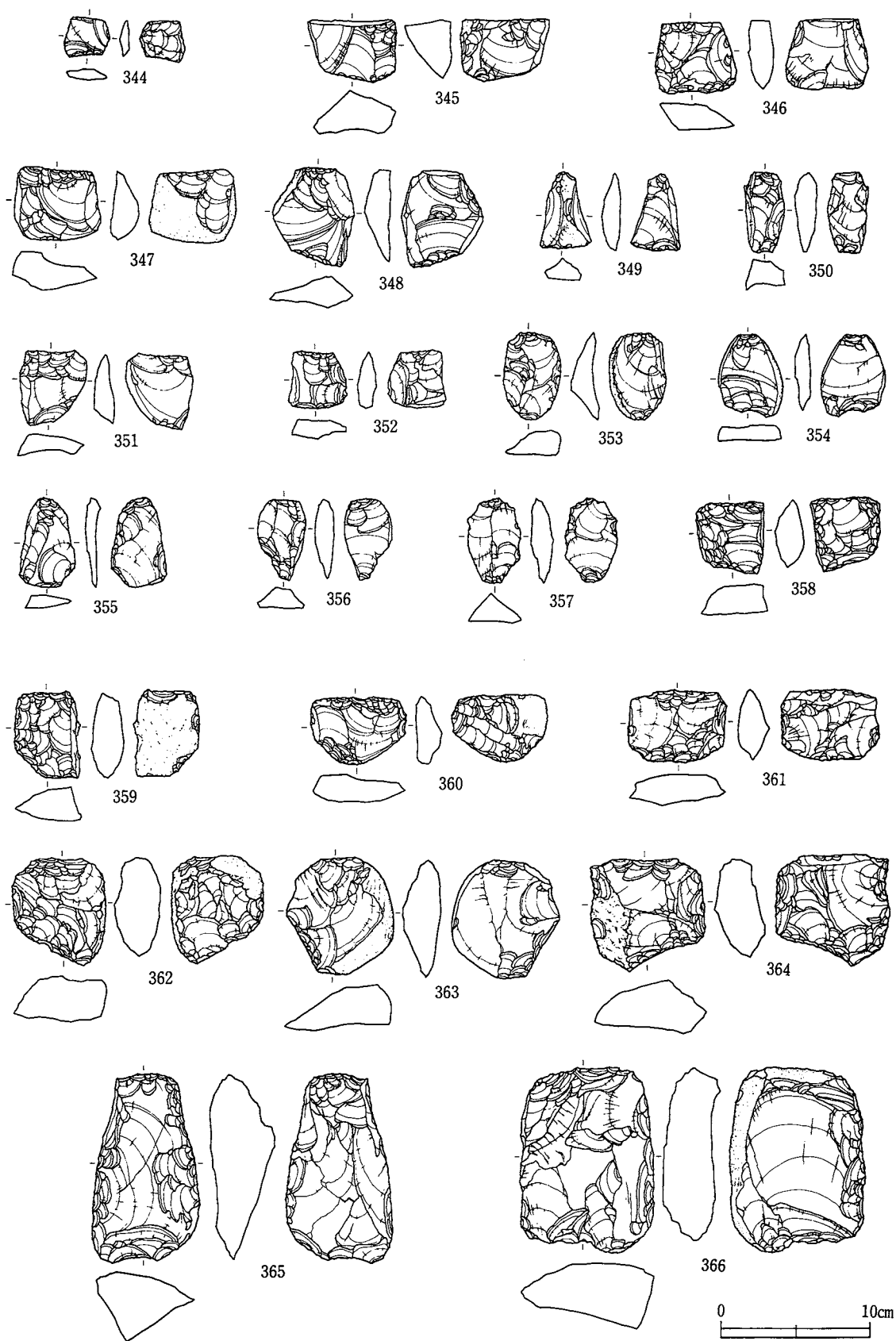




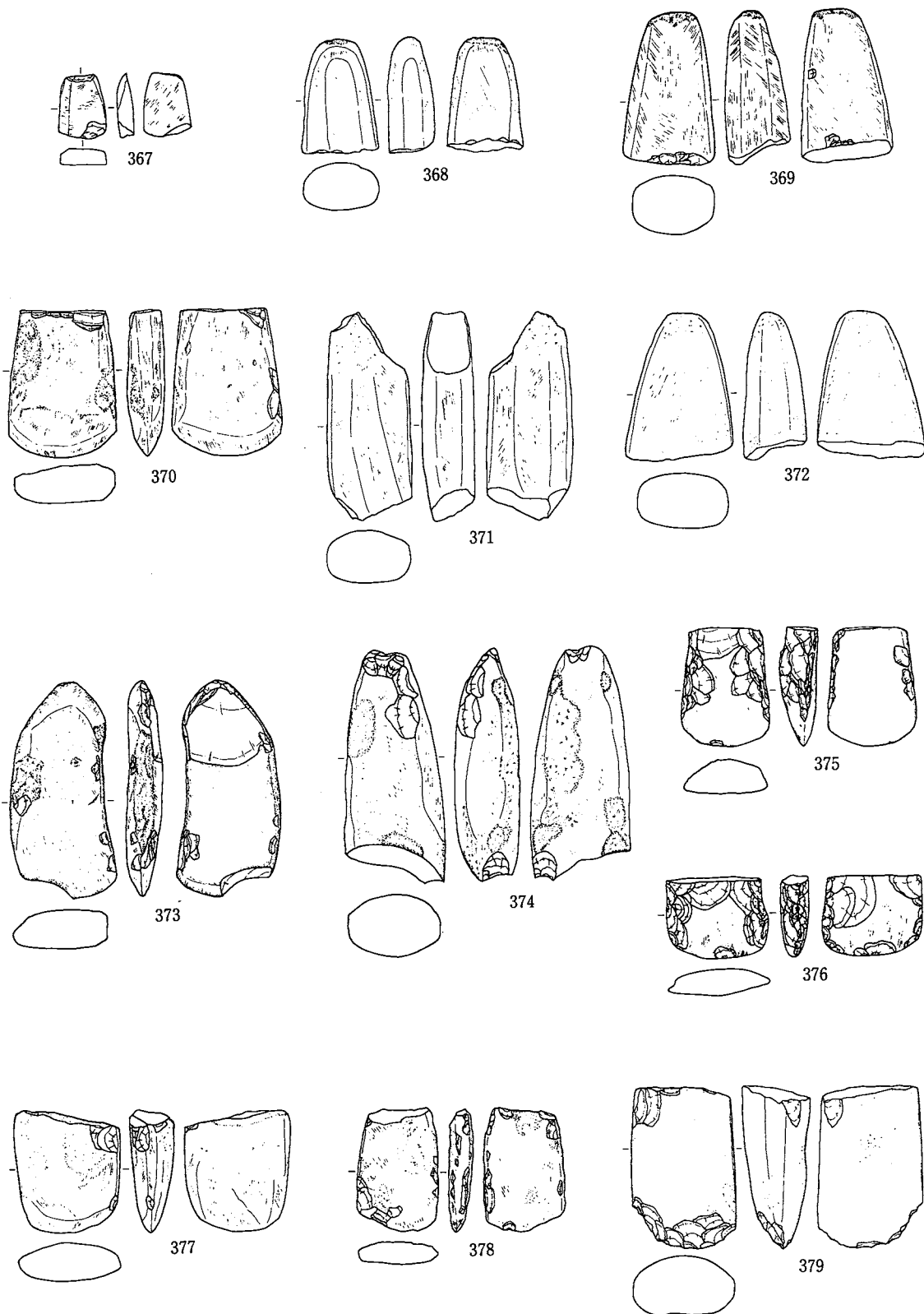
第35図 遺構外出土遺物 石器(3)



第36图 遺構外出土遺物 石器(4)

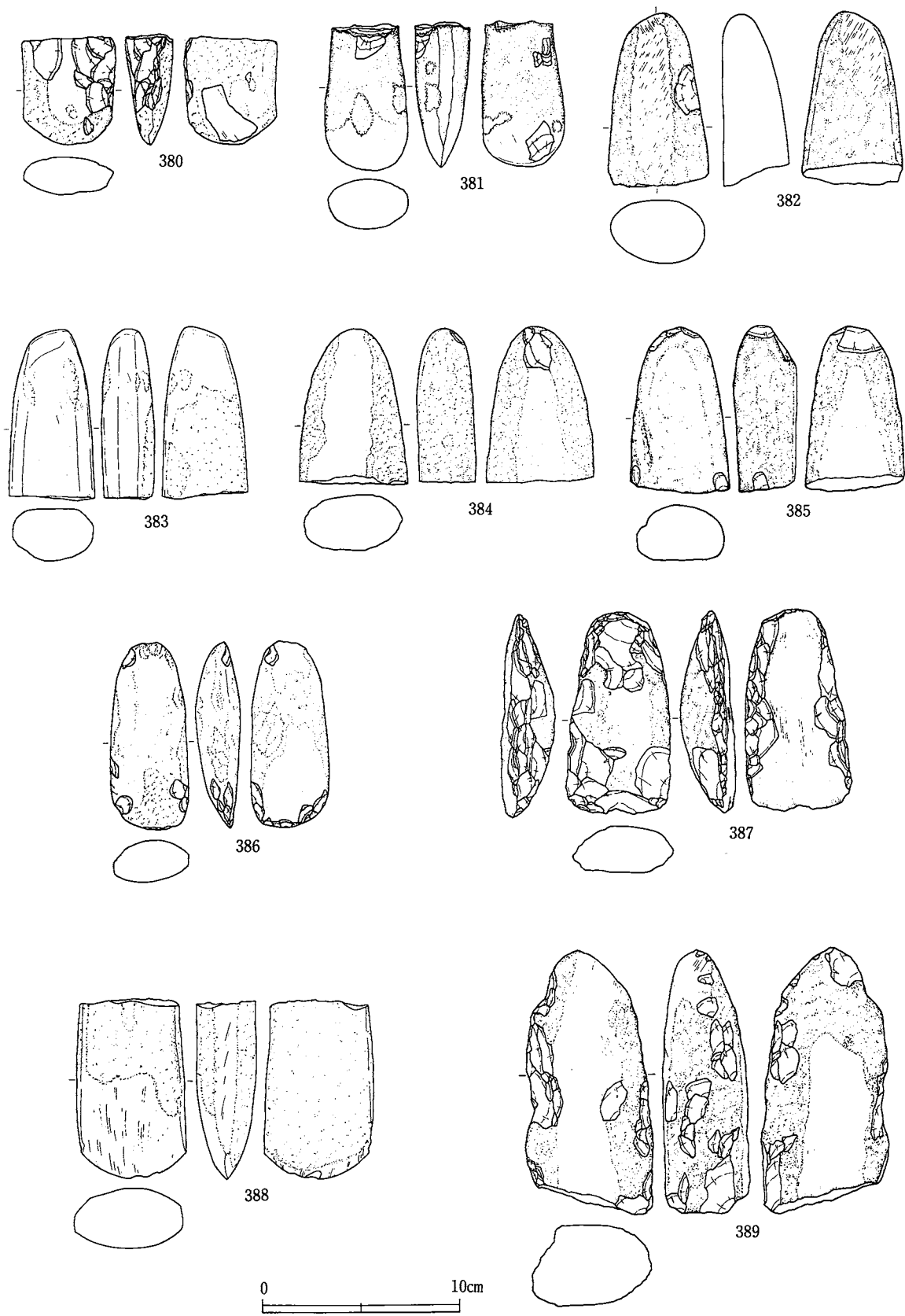


第37図 遺構外出土遺物 石器(5)

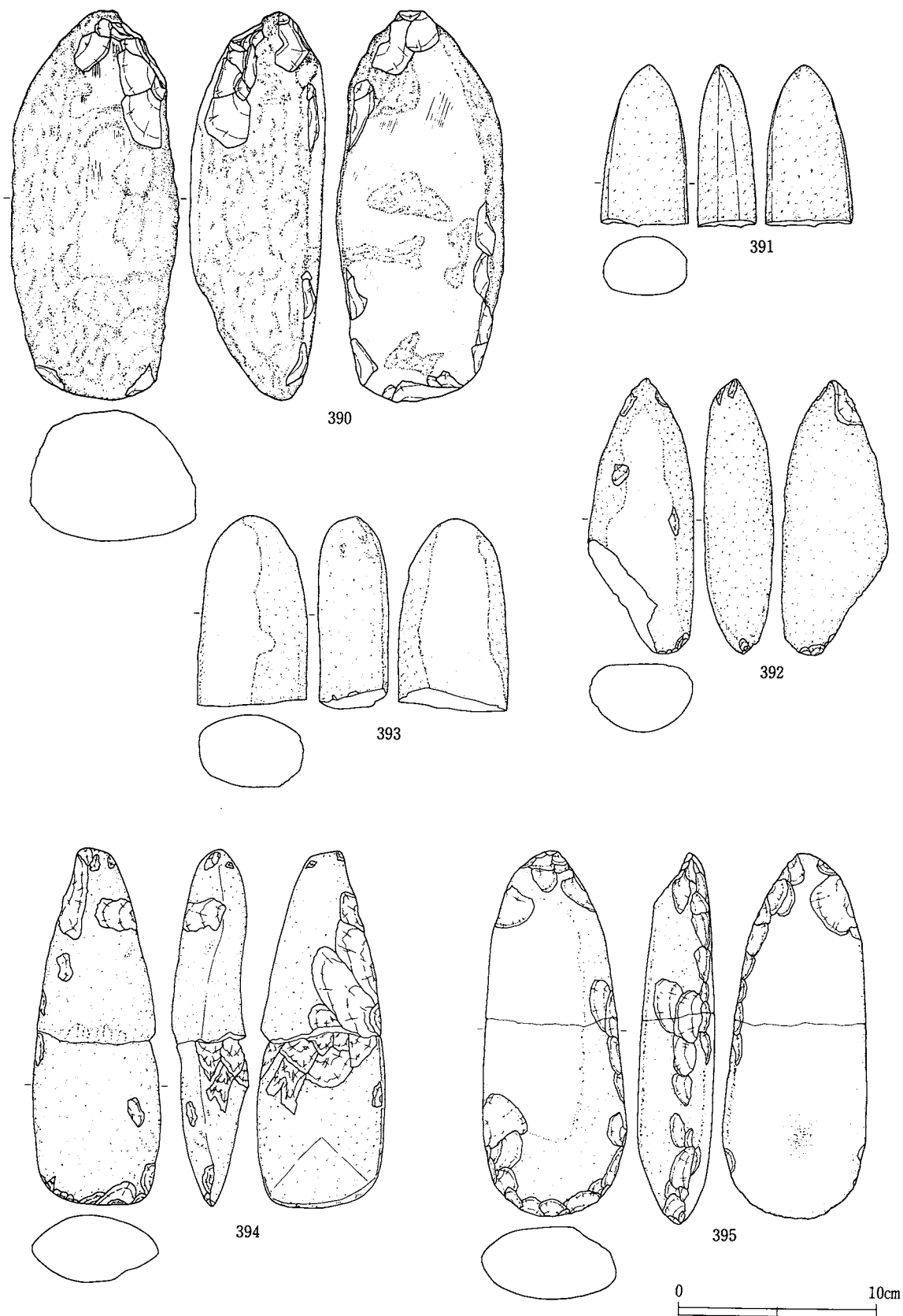


0 10cm

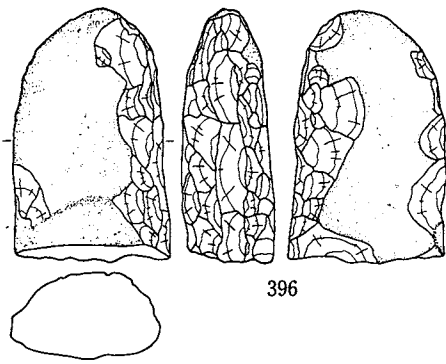
第38図 遺構外出土遺物 石器(6)



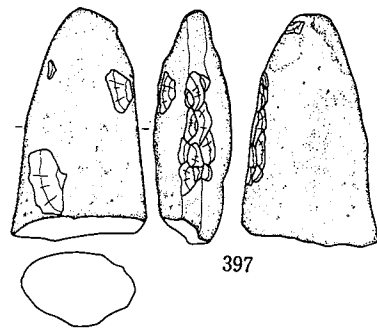
第39図 遺構外出土遺物 石器(7)



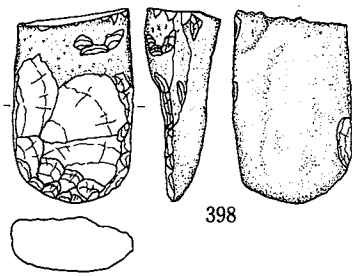
第40図 遺構外出土遺物 石器(8)



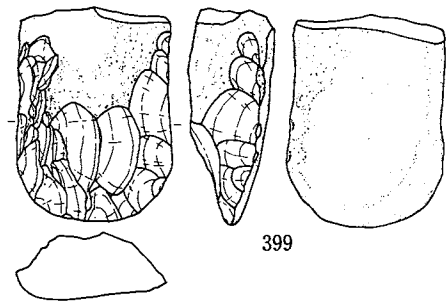
396



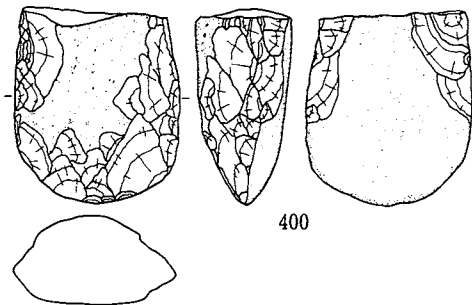
397



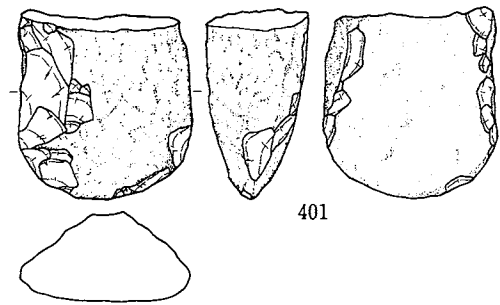
398



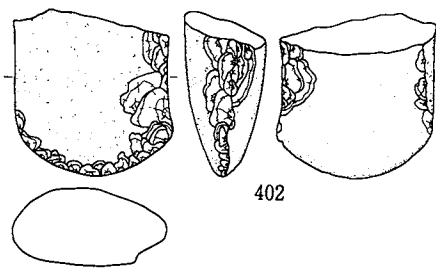
399



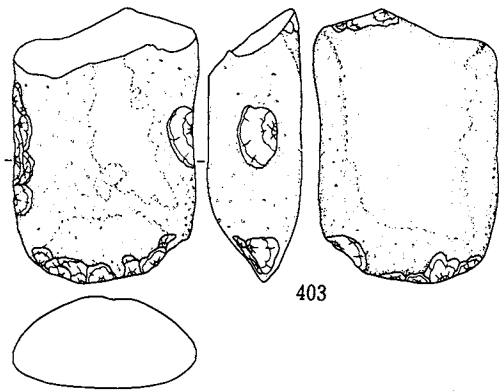
400



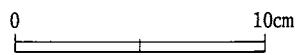
401



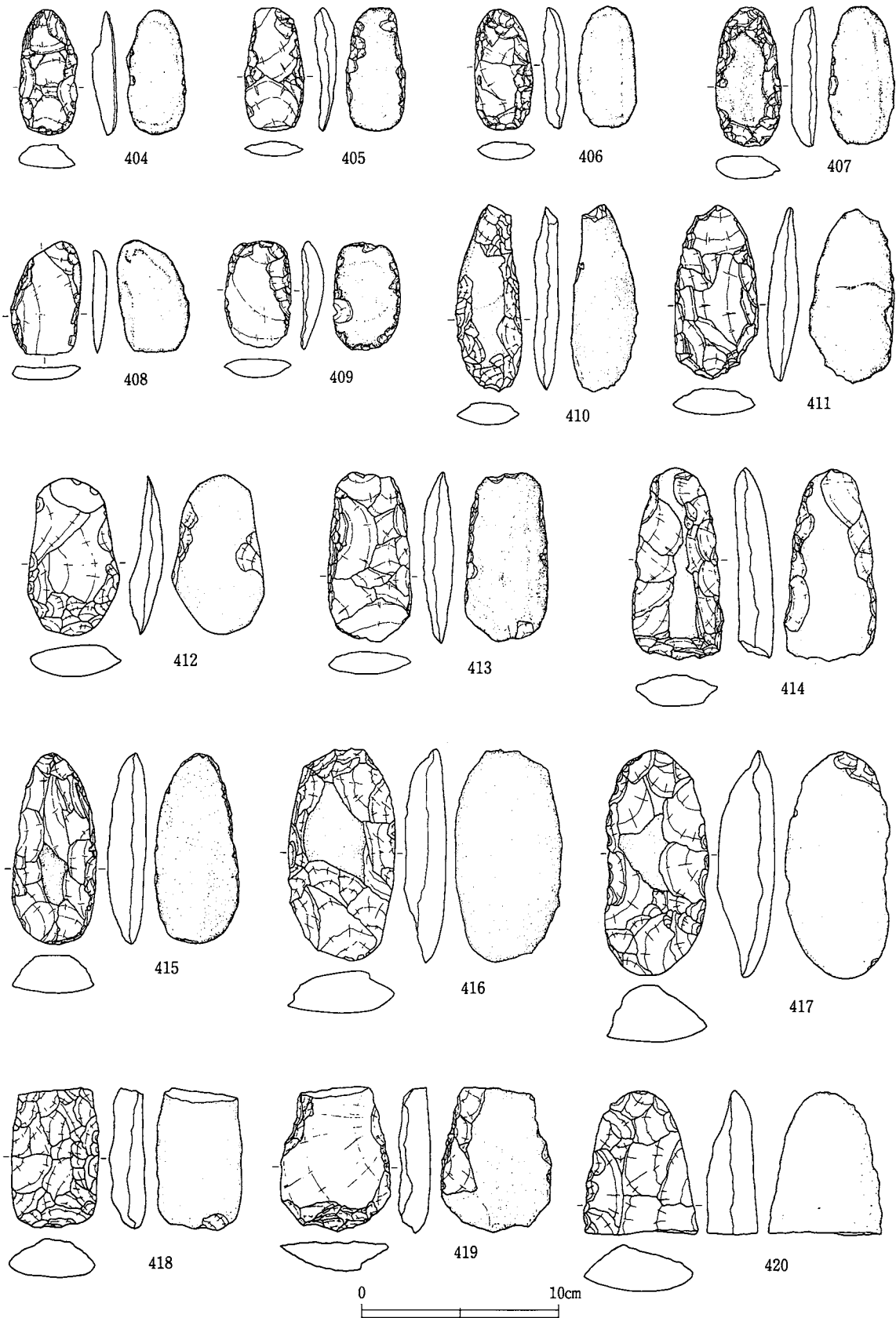
402



403

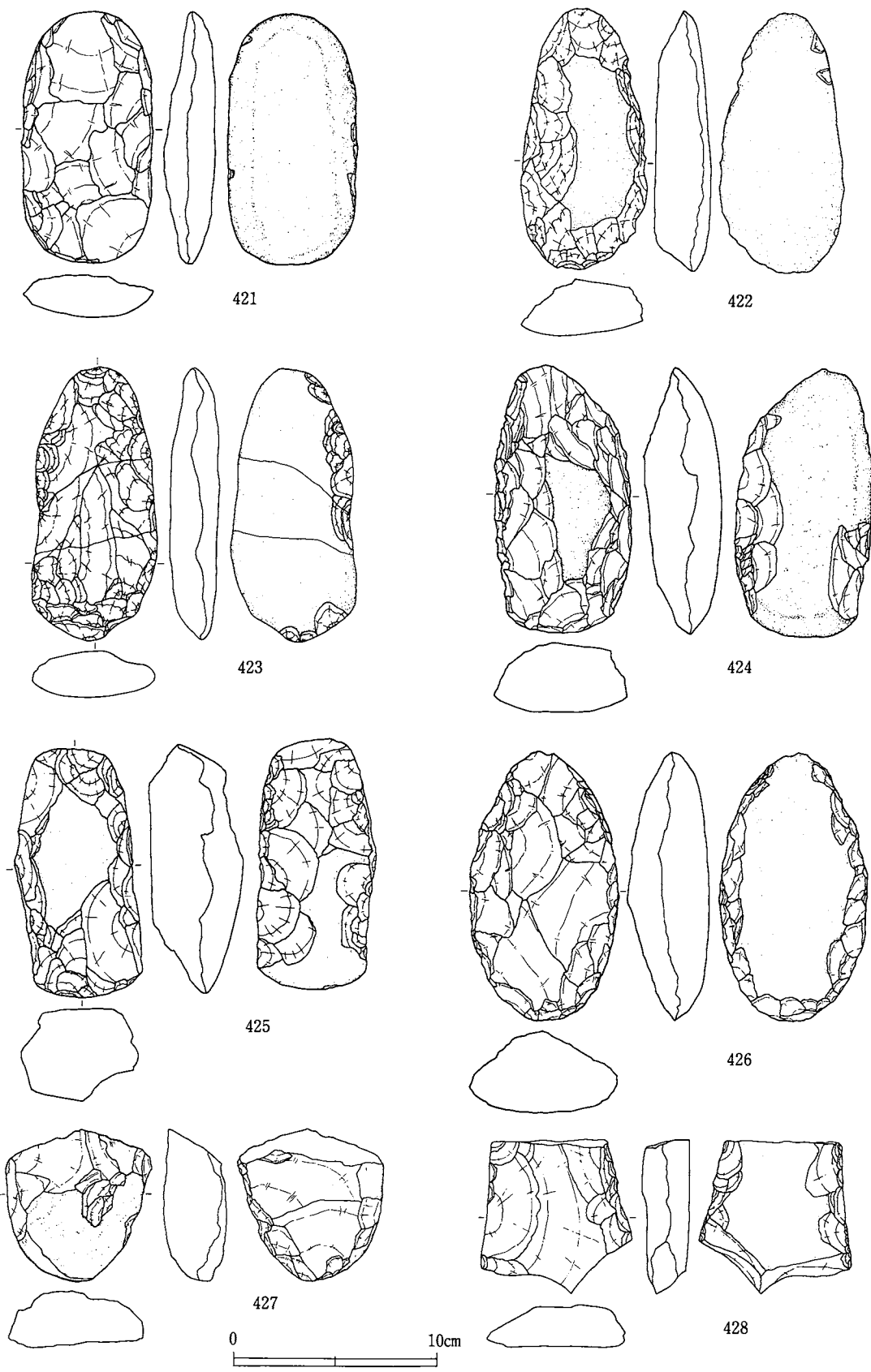


第41图 遺構外出土遺物 石器(9)

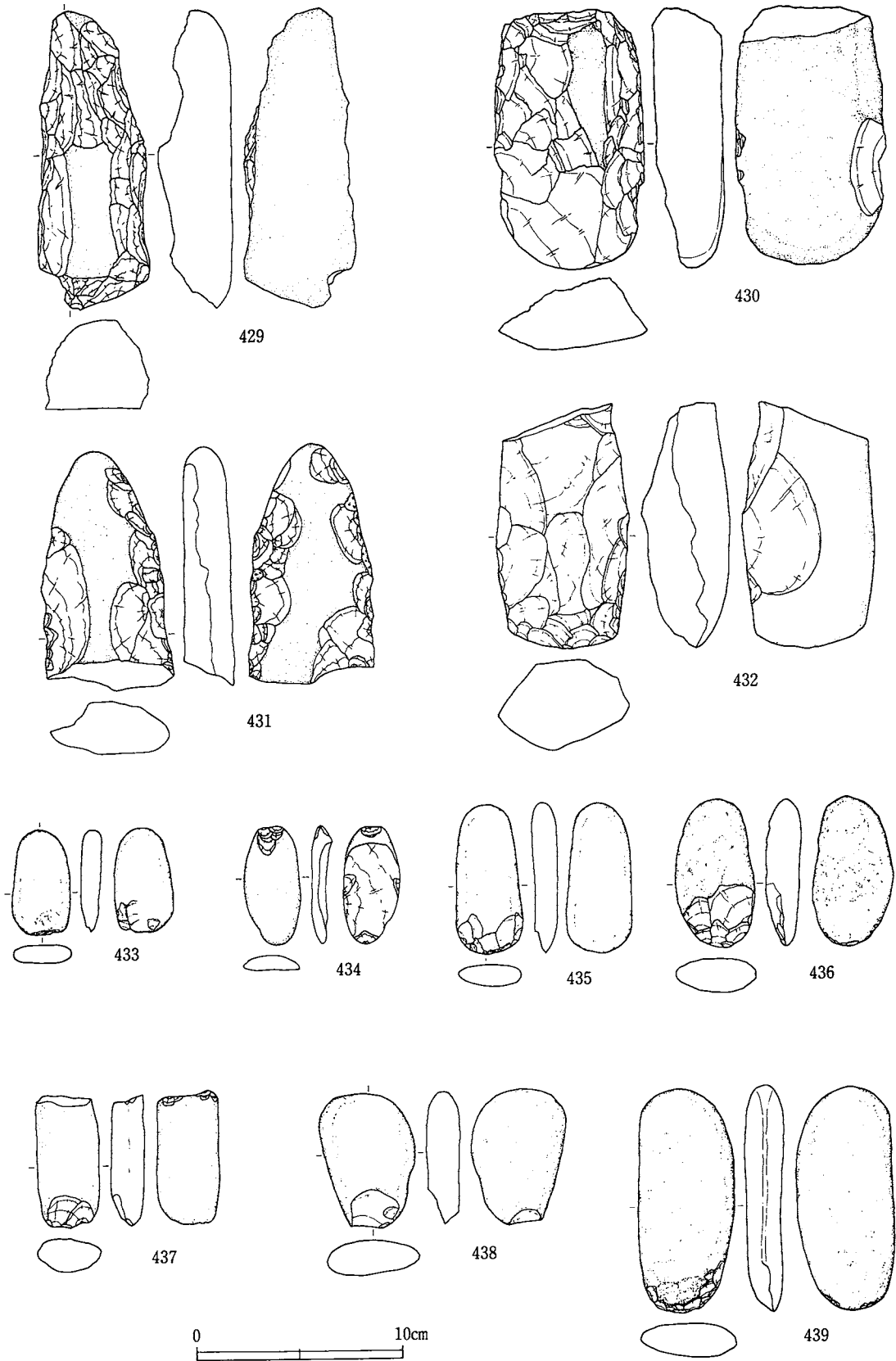


第42図 遺構外出土遺物 石器(10)

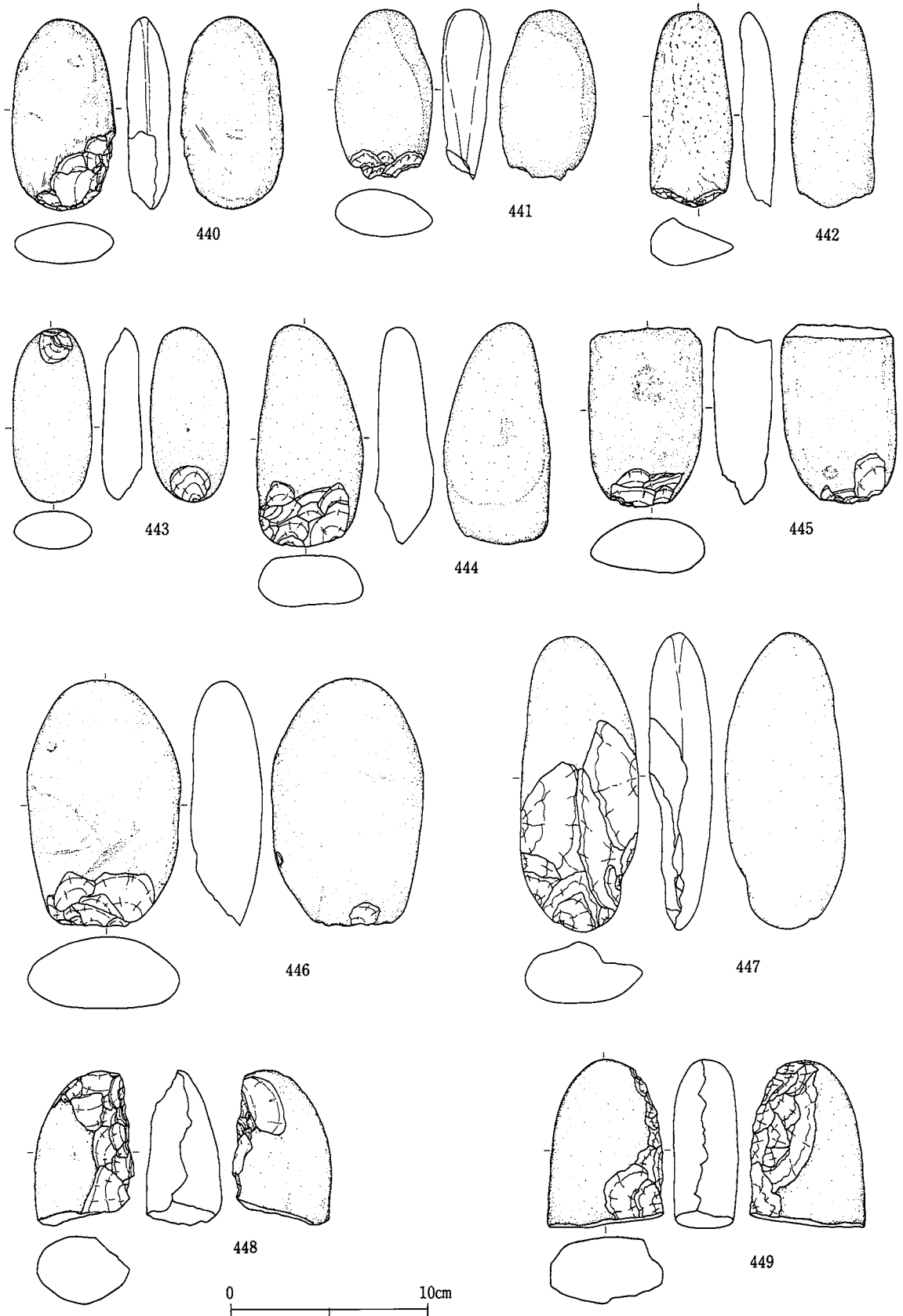




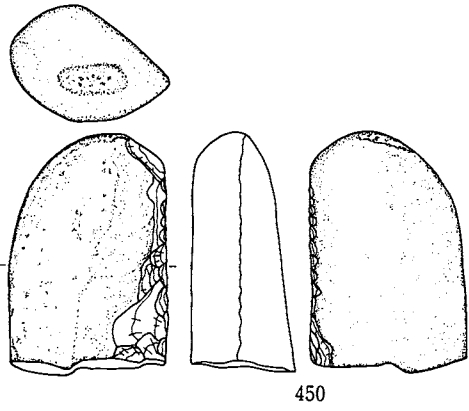
第43图 遺構外出土遺物 石器(11)



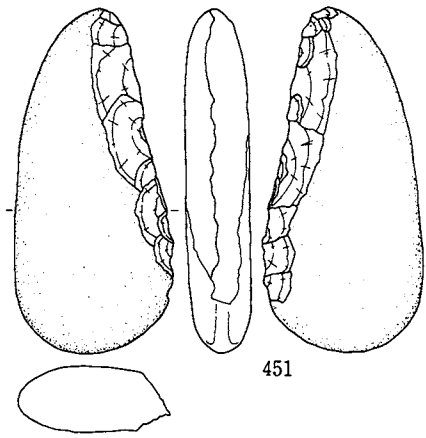
第44図 遺構外出土遺物 石器(12)



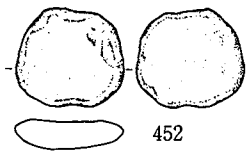
第45図 遺構外出土遺物 石器(13)



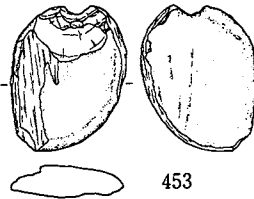
450



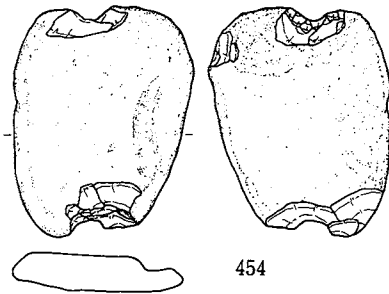
451



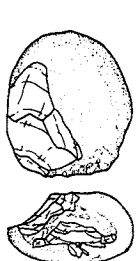
452



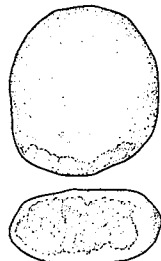
453



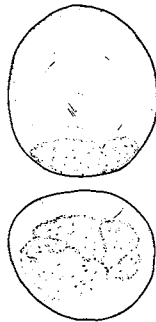
454



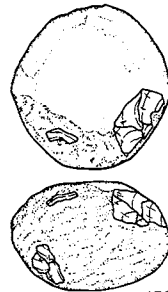
455



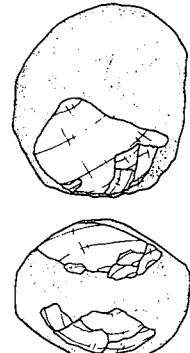
456



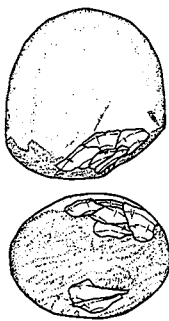
457



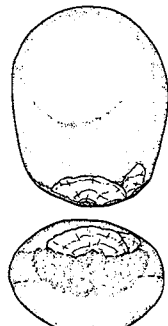
458



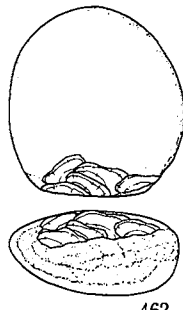
459



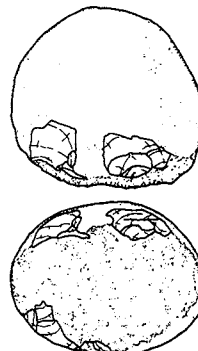
460



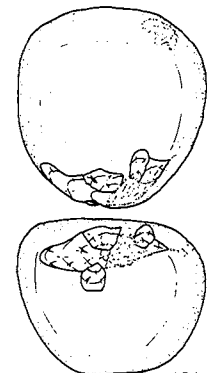
461



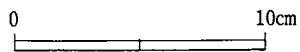
462



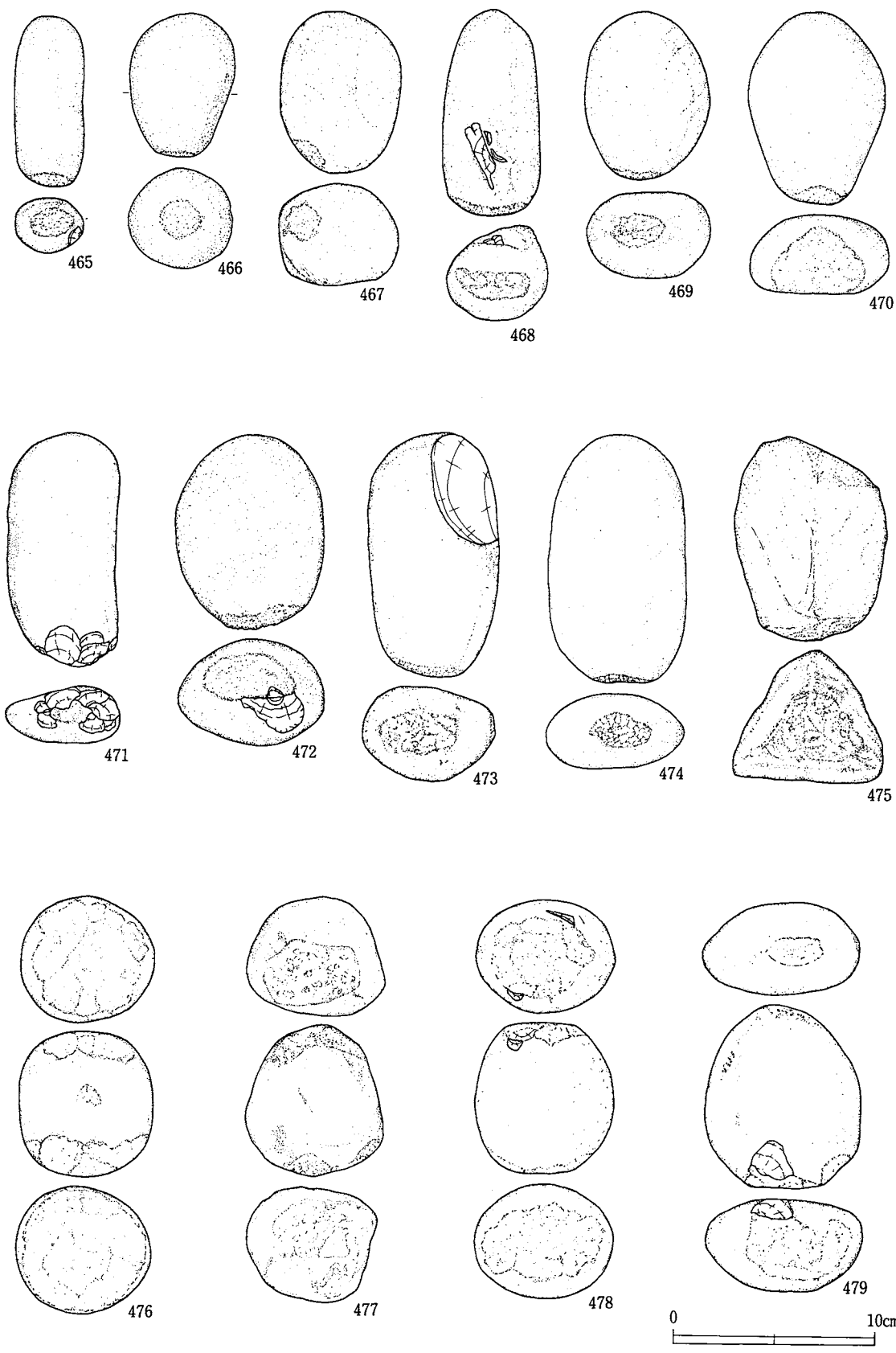
463



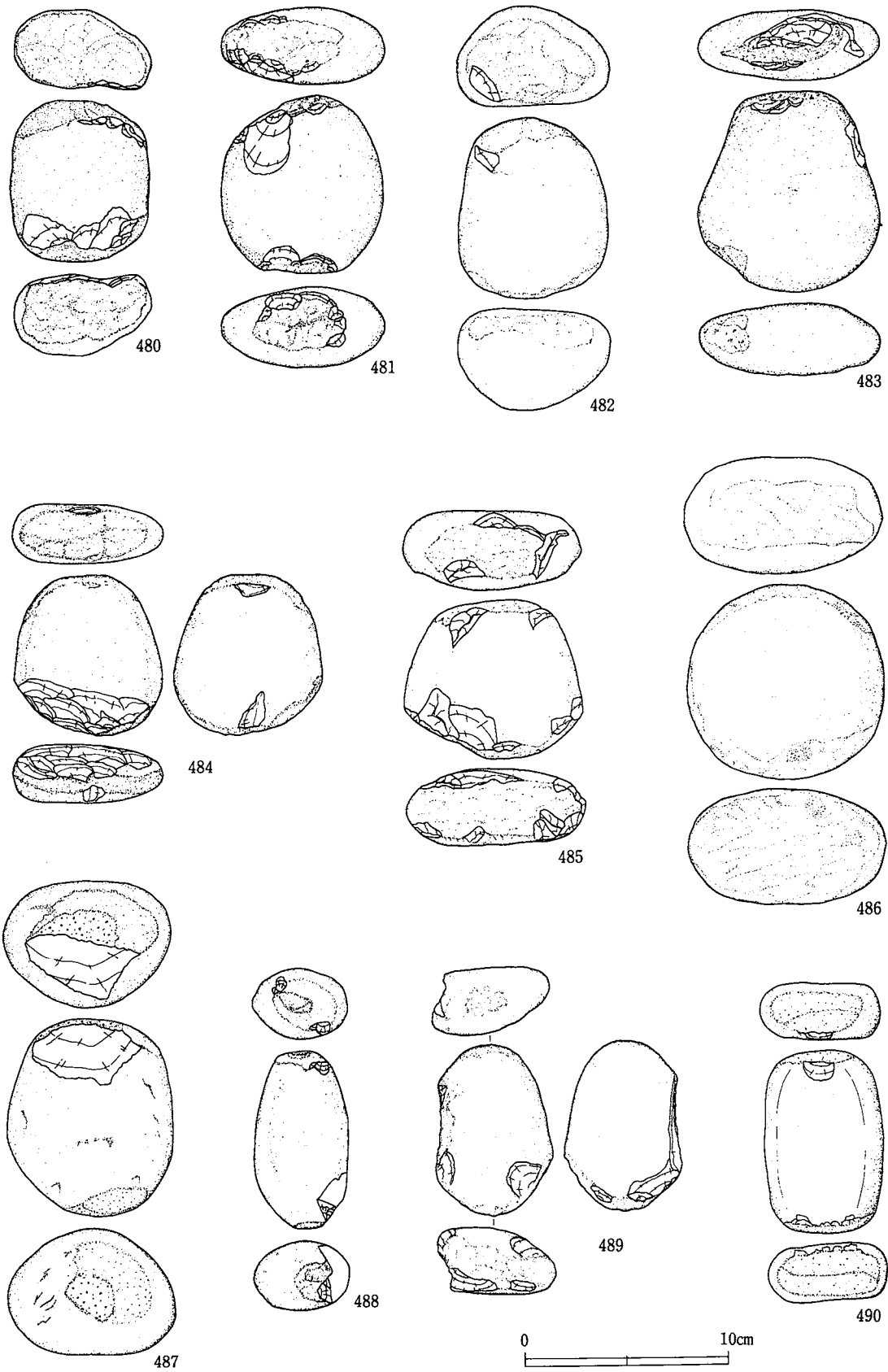
464



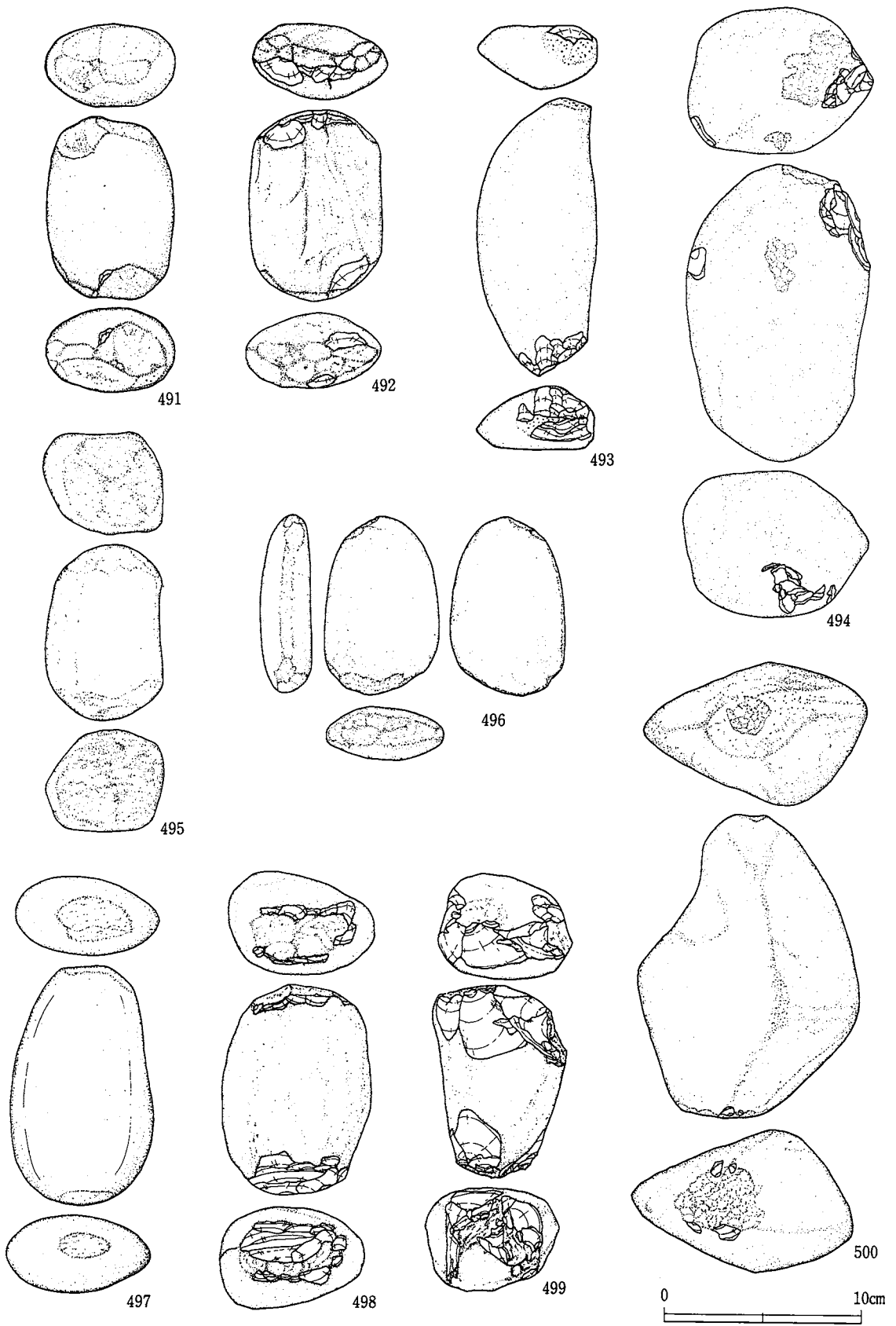
第46図 遺構外出土遺物 石器(14)



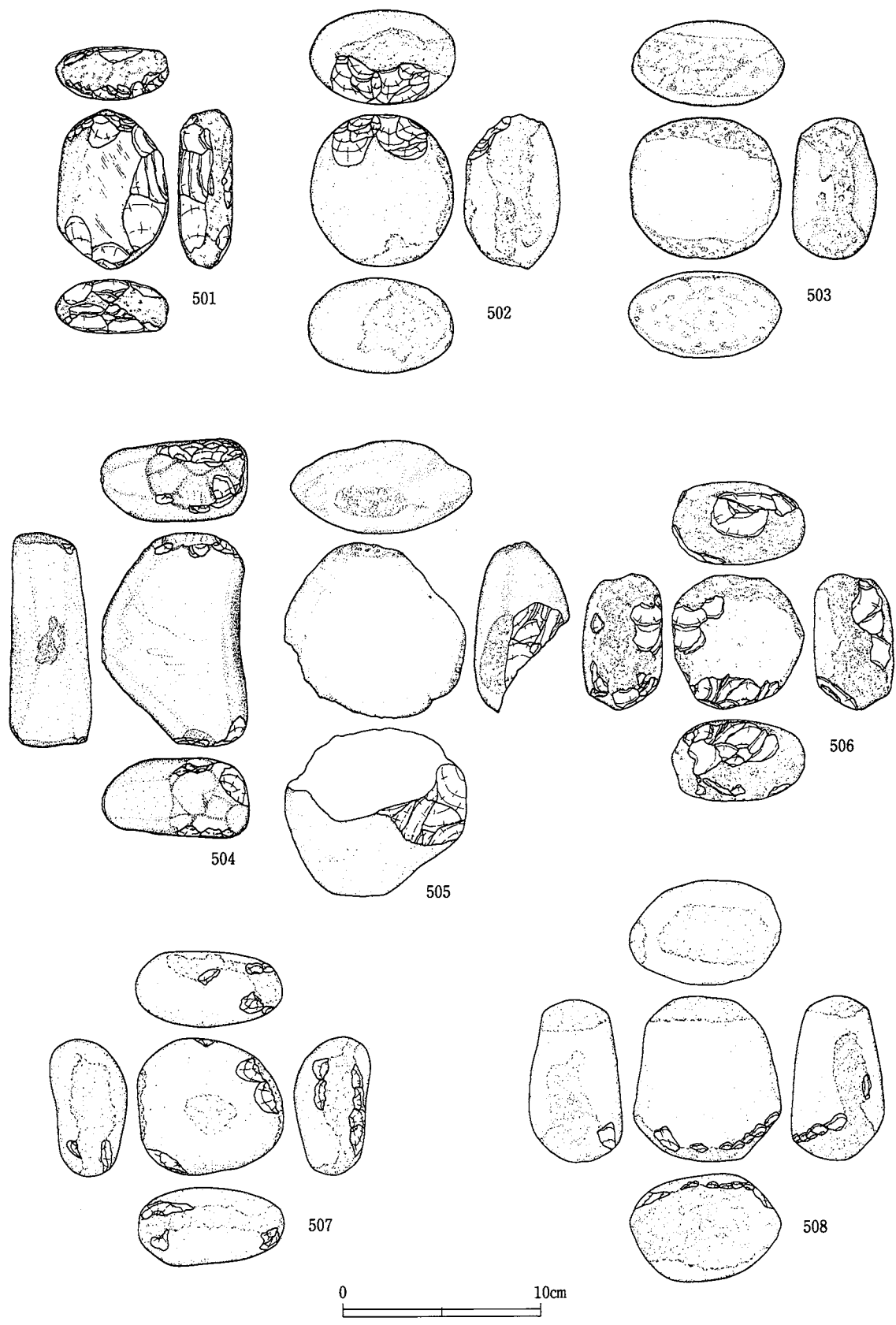
第47図 遺構外出土遺物 石器(15)



第48図 遺構外出土遺物 石器(16)

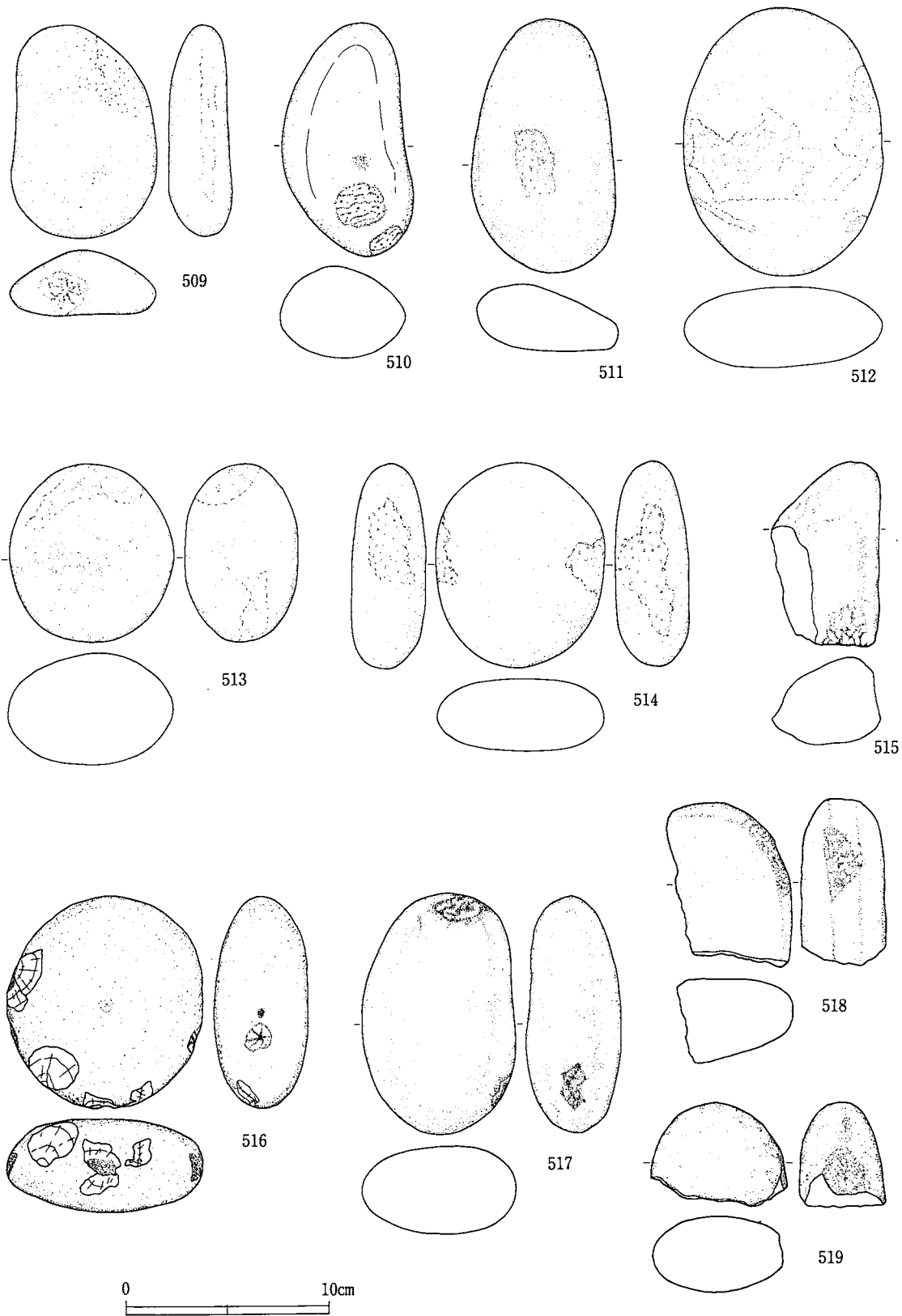


第49図 遺構外出土遺物 石器(17)

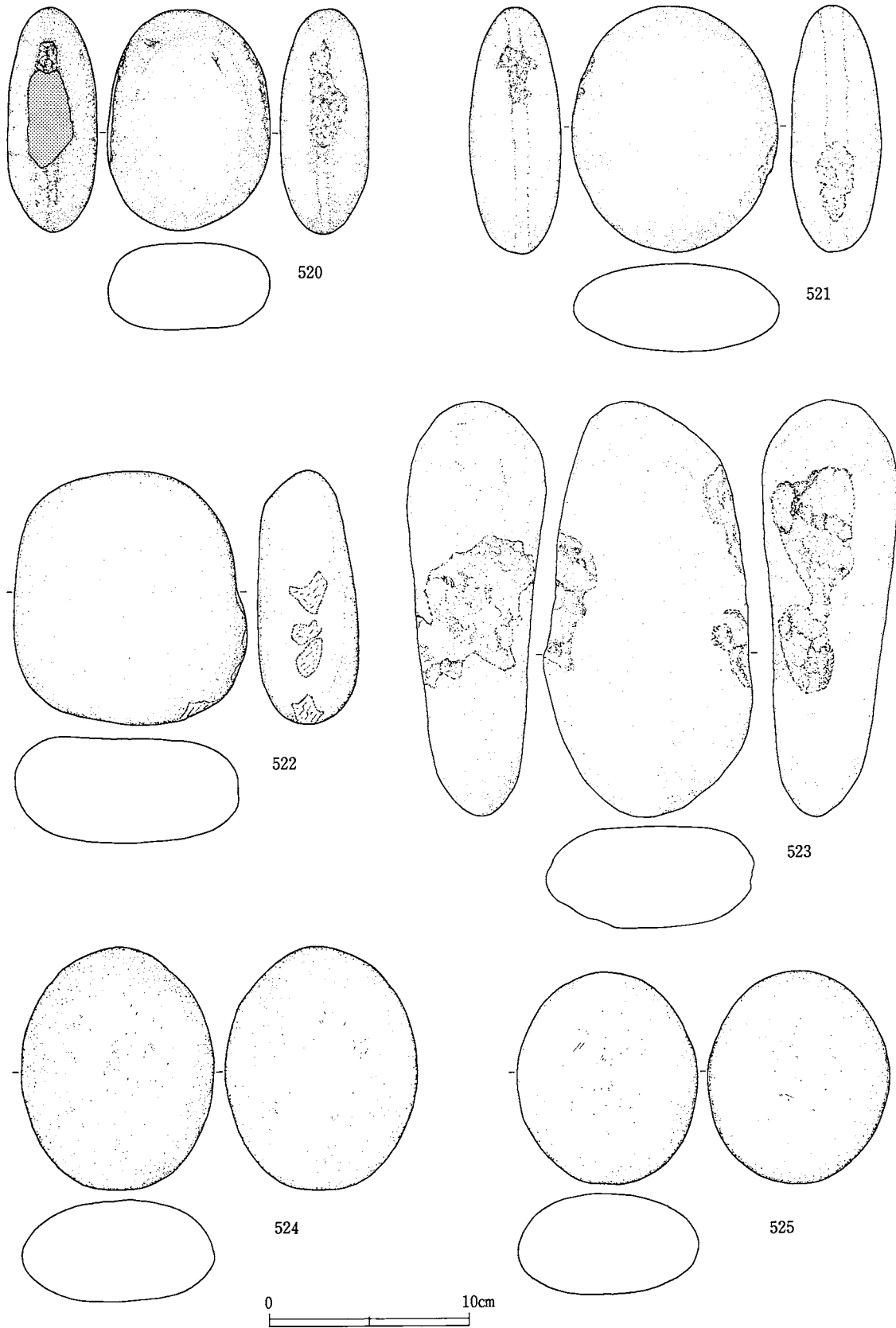


第50図 遺構外出土遺物 石器(18)

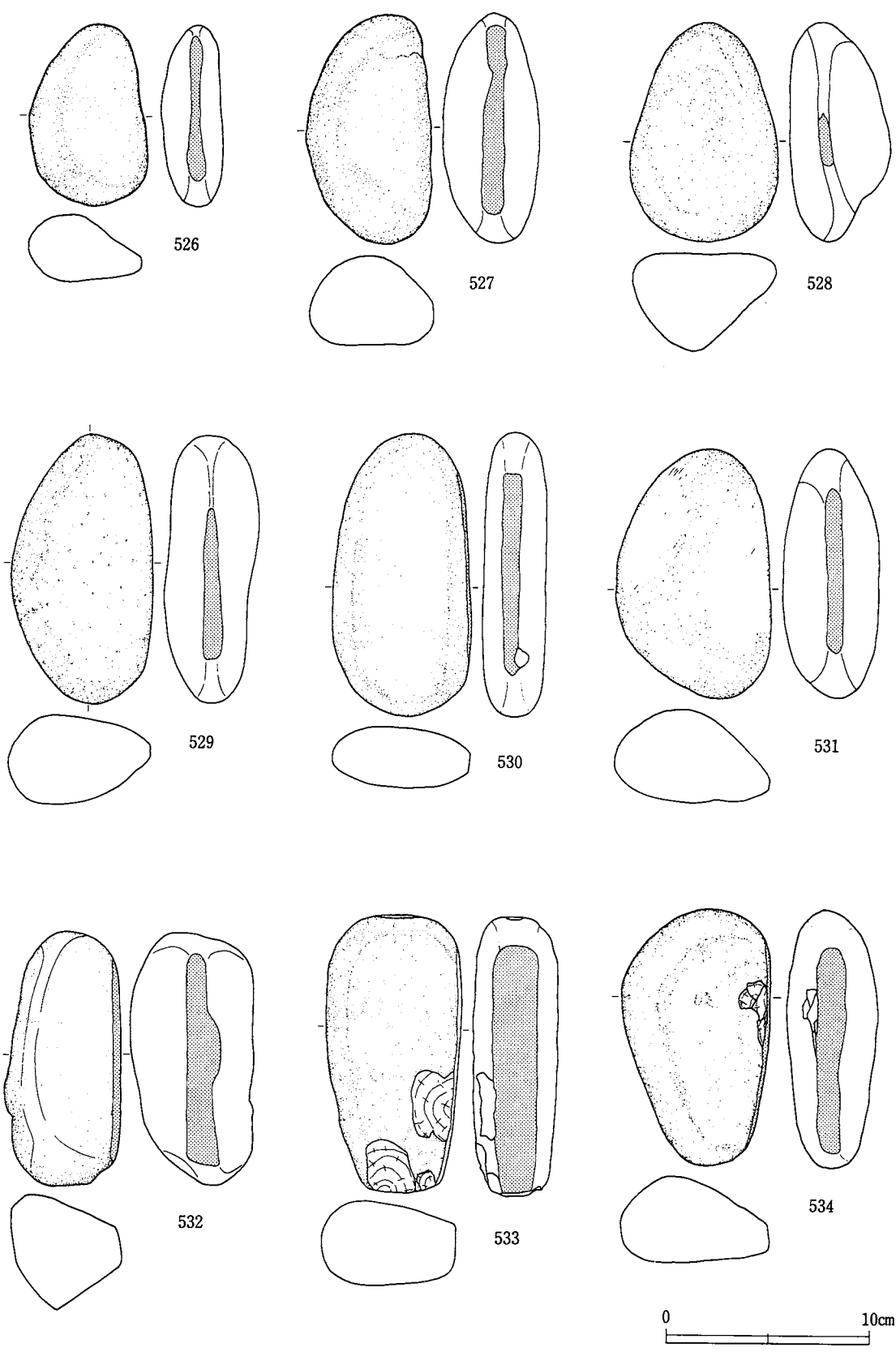




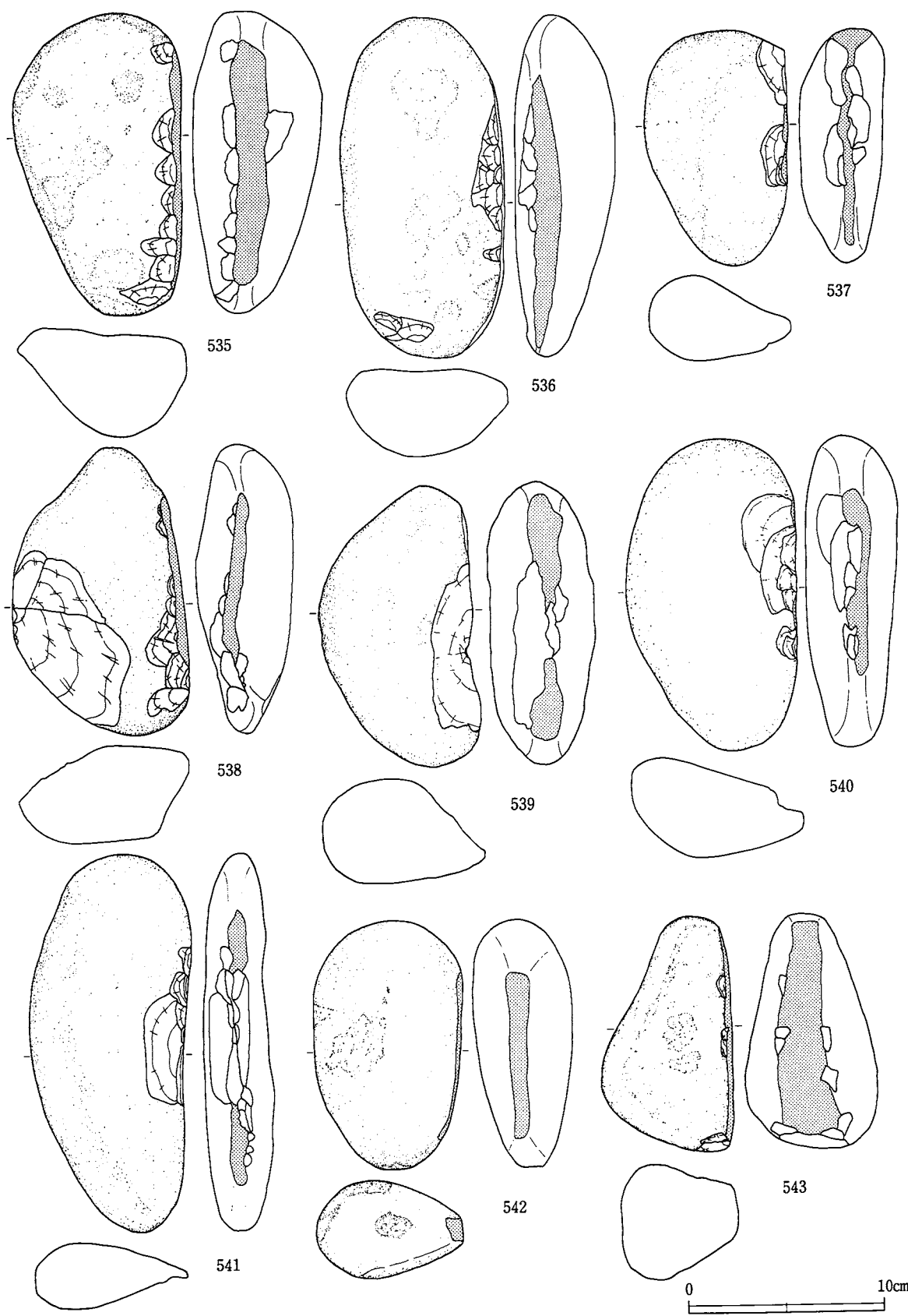
第51図 遺構外出土遺物 石器(19)



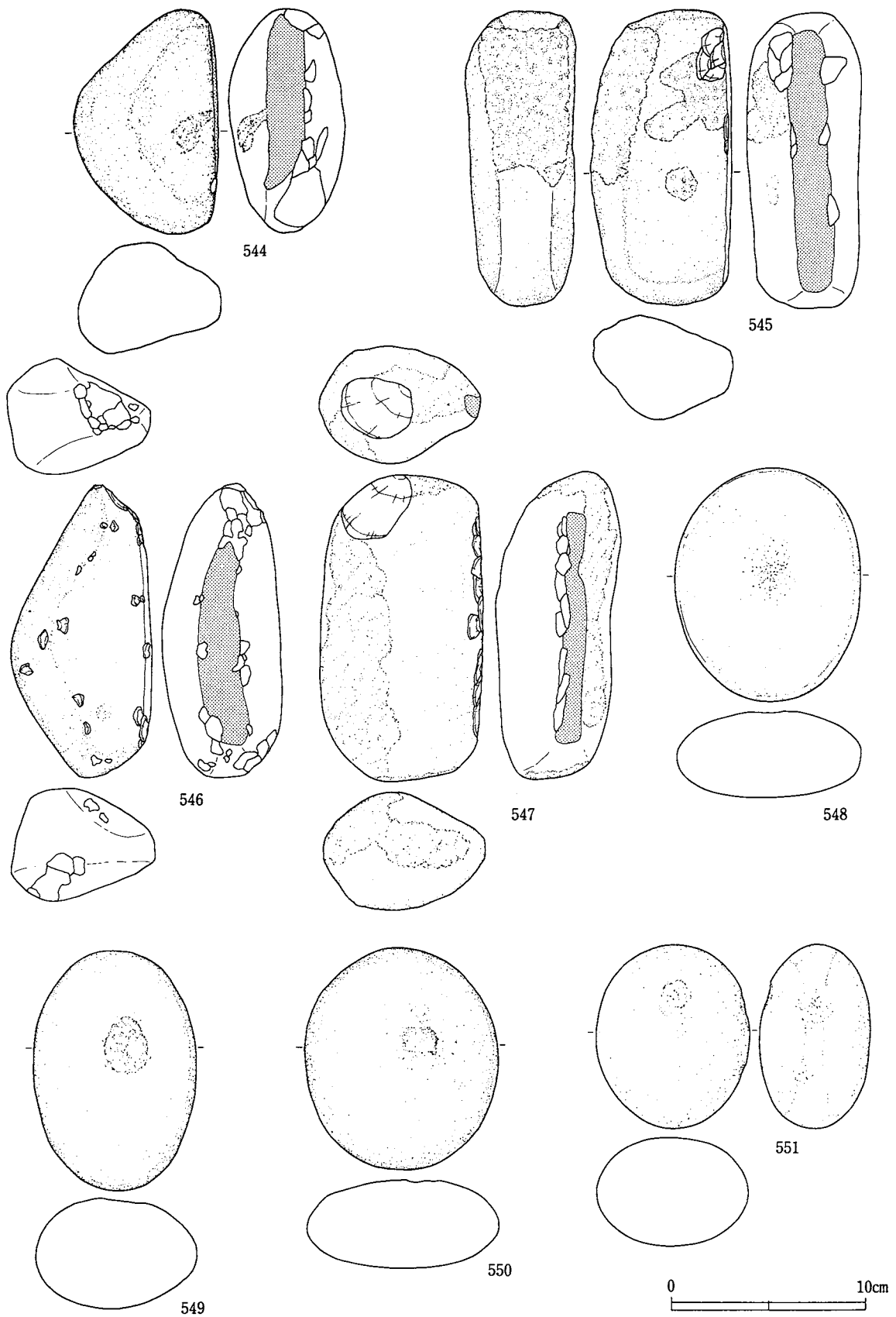
第52図 遺構外出土遺物 石器(20)



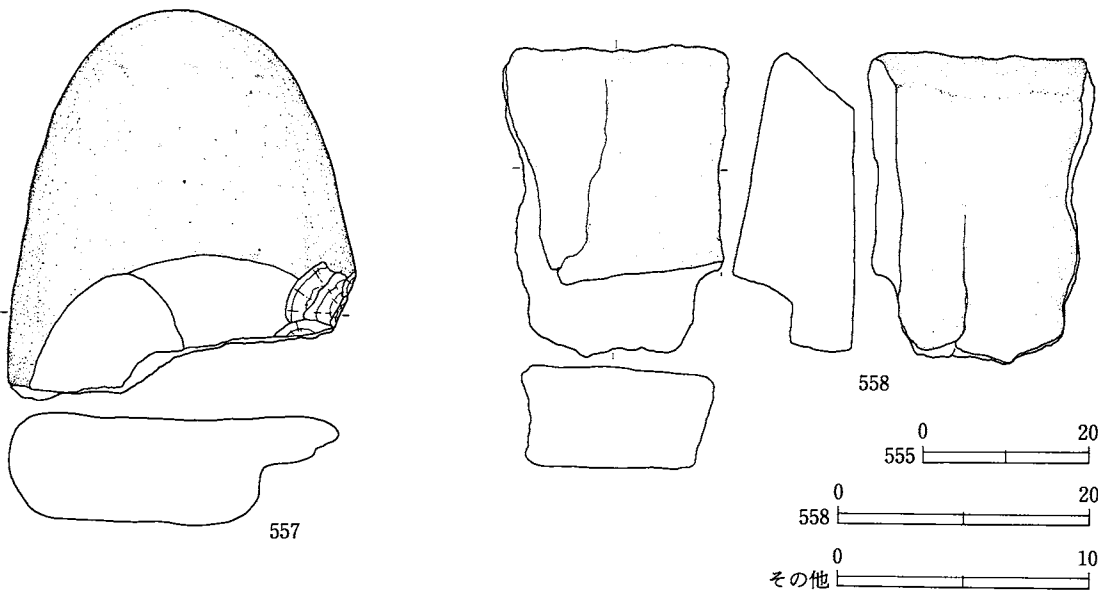
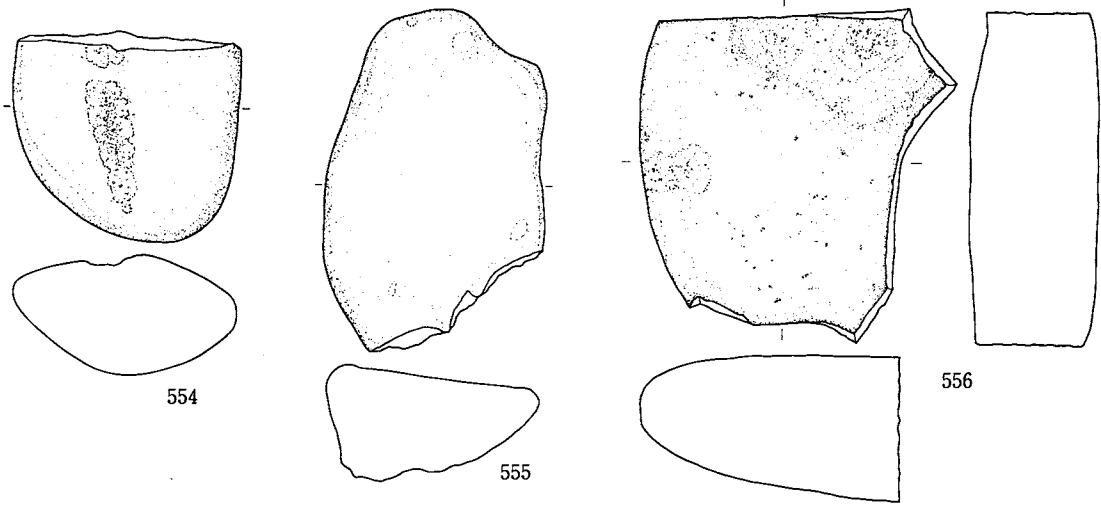
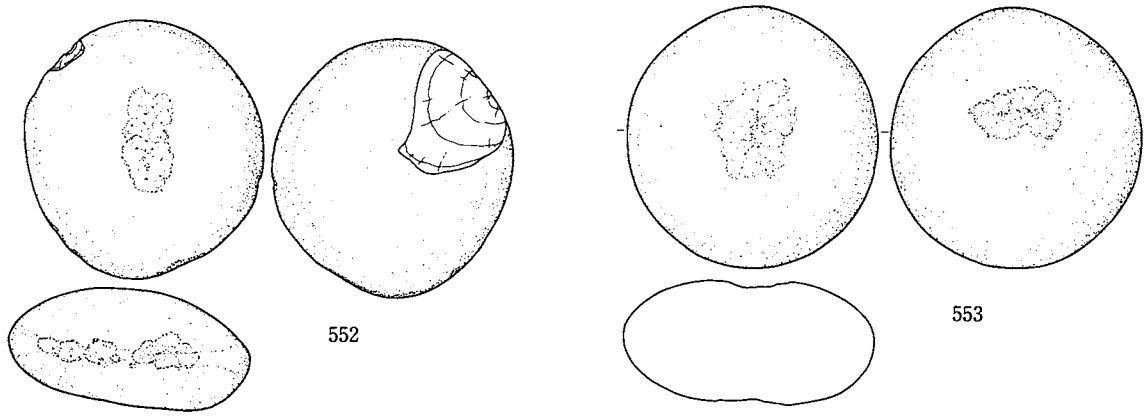
第53図 遺構外出土遺物 石器(2)



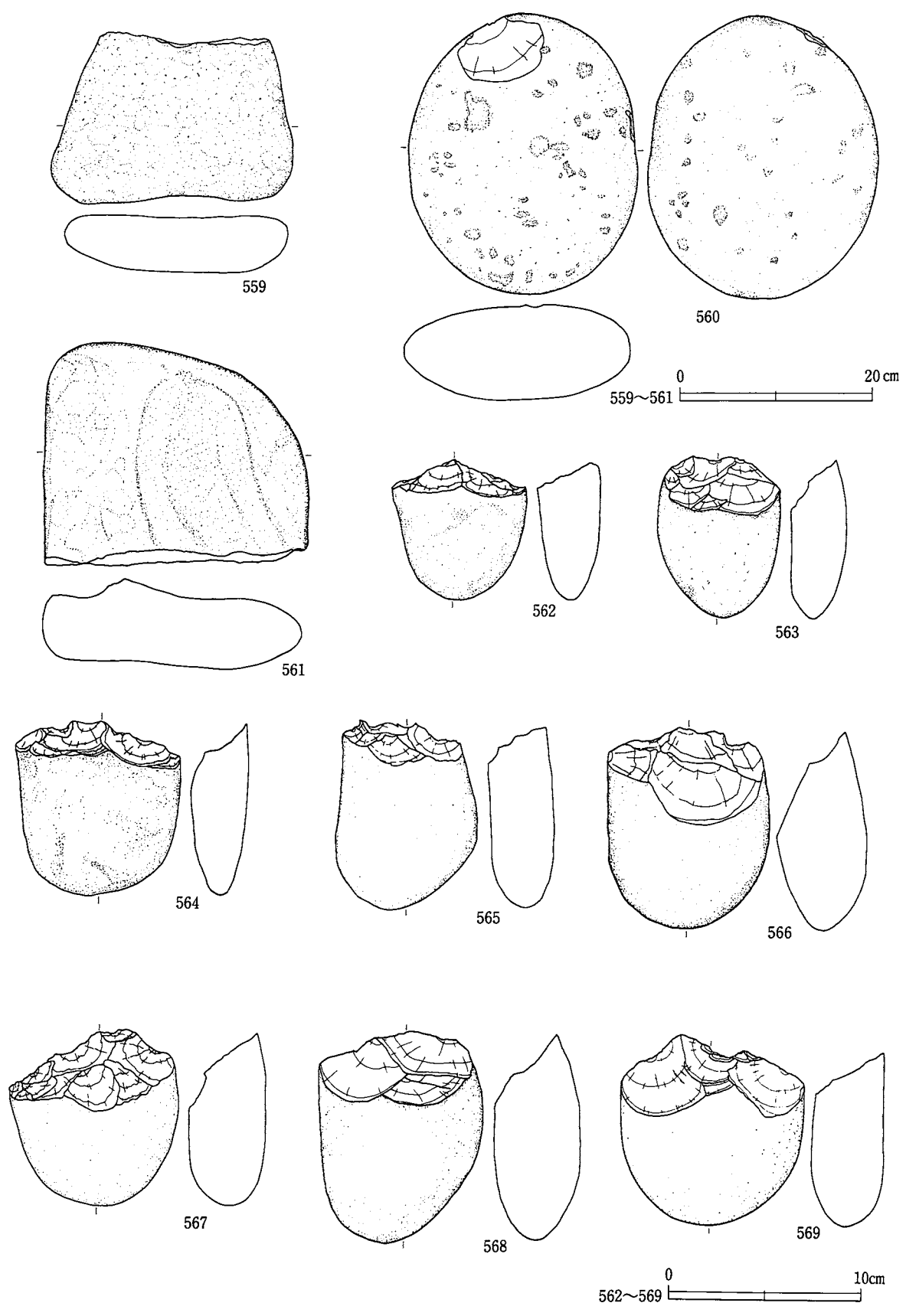
第54図 遺構外出土遺物 石器(22)



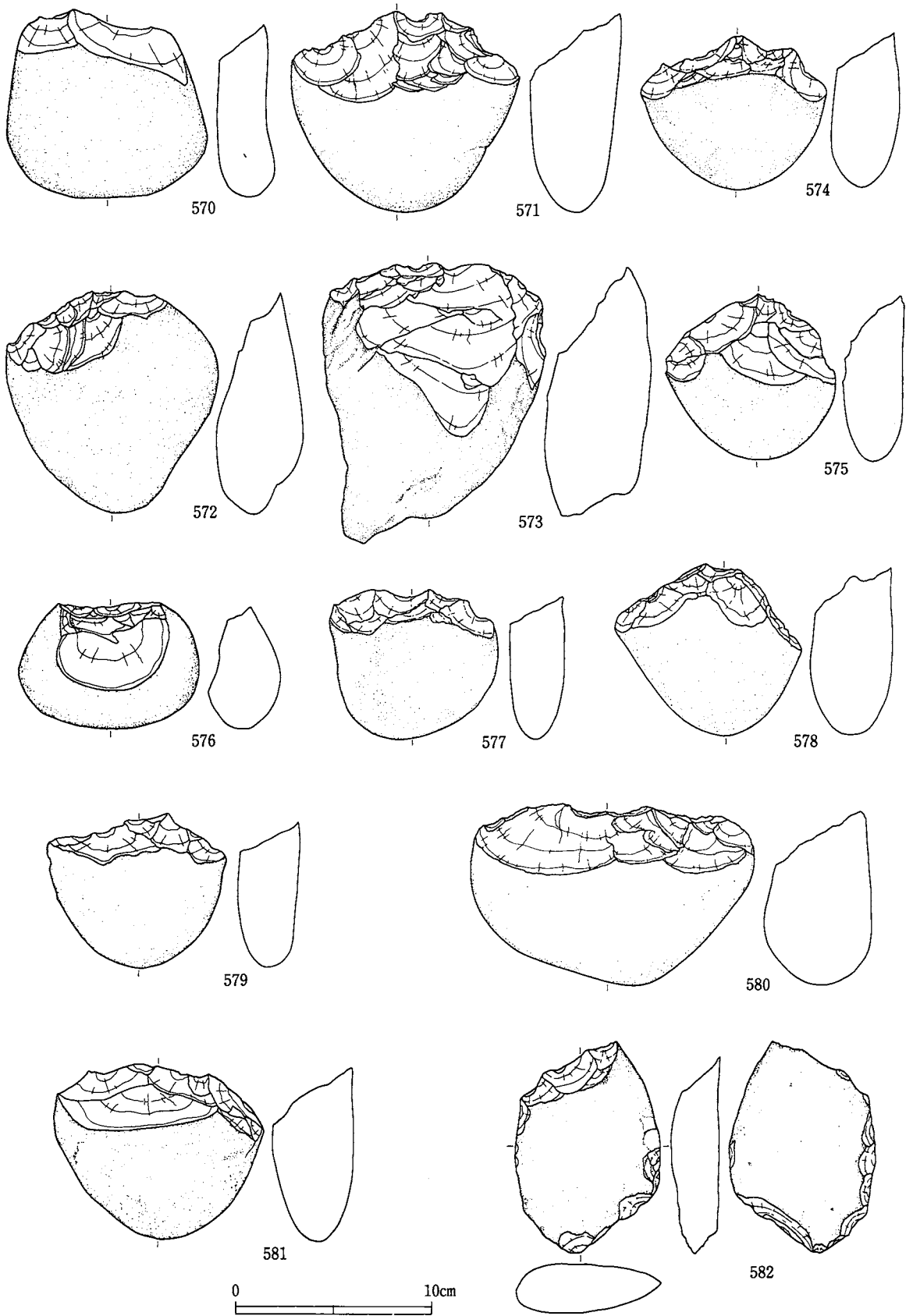
第55図 遺構外出土遺物 石器(23)



第56図 遺構外出土遺物 石器(24)

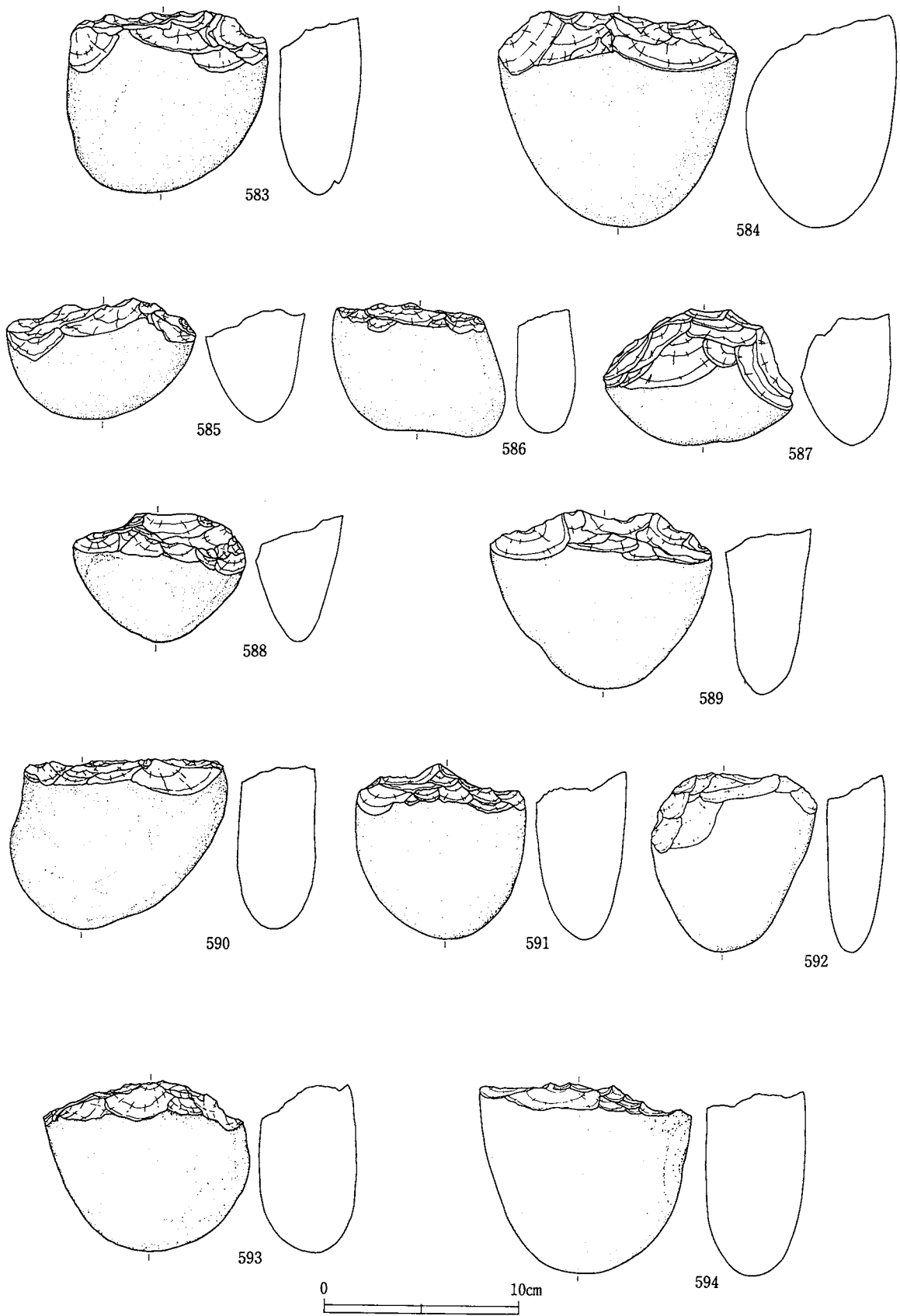


第57図 遺構外出土遺物 石器(25)

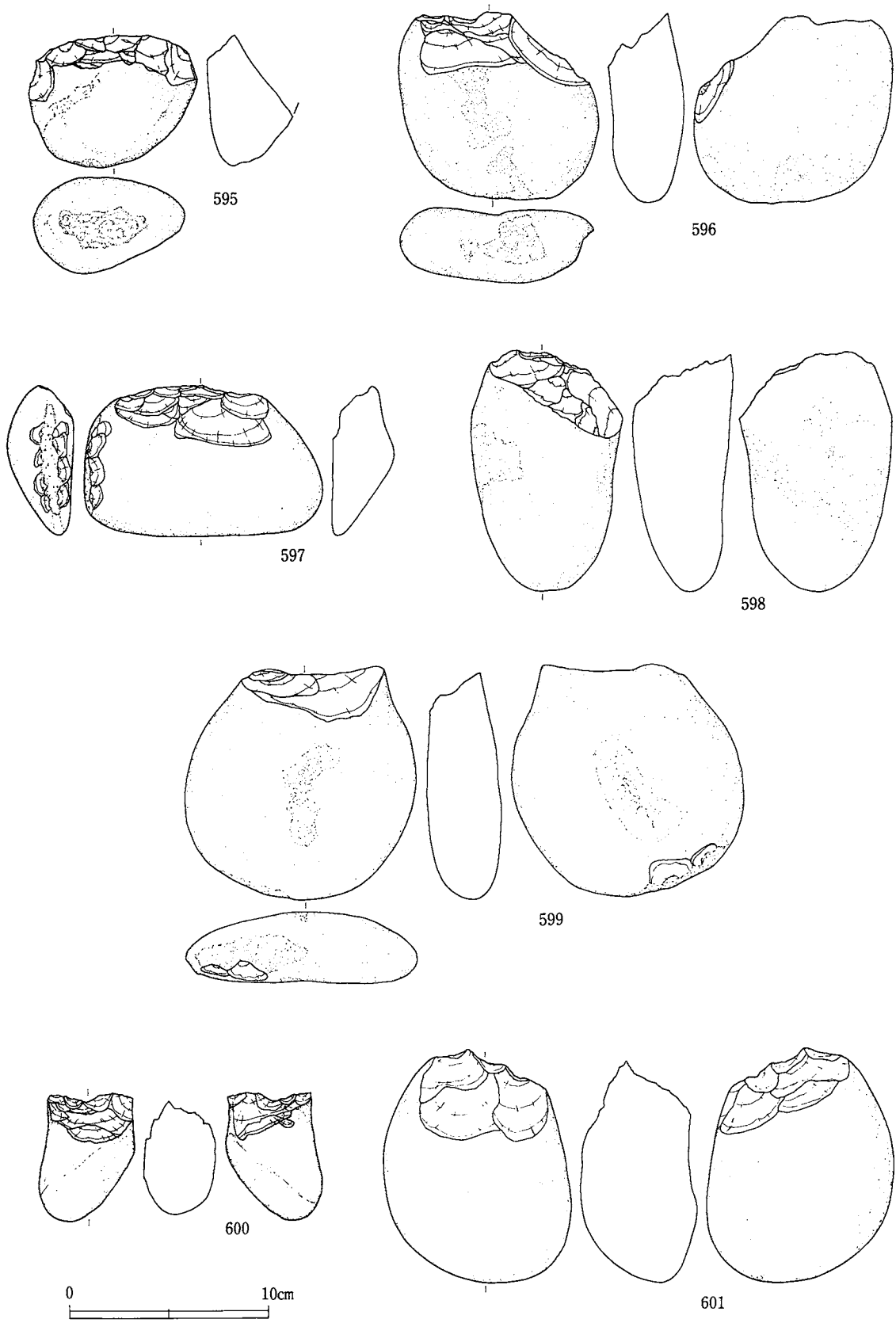


第58図 遺構外出土遺物 石器(26)

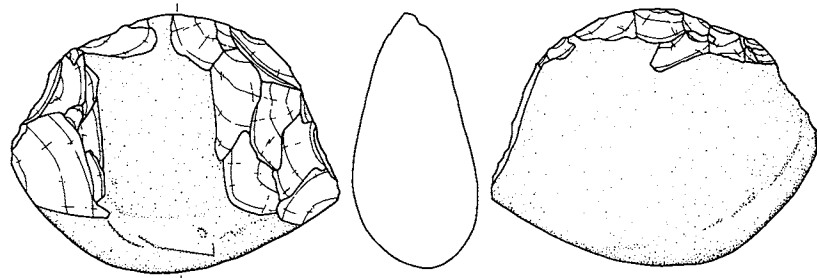




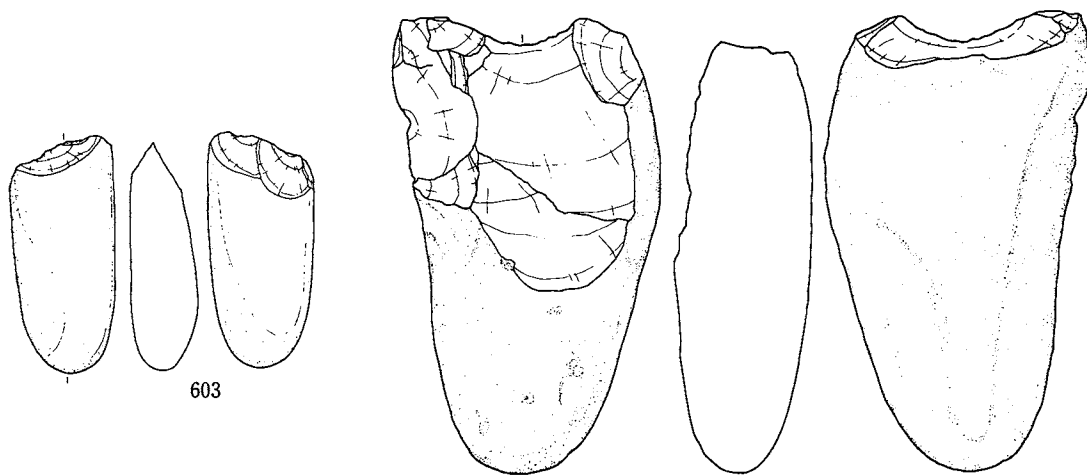
第59图 遺構外出土遺物 石器(27)



第60图 遺構外出土遺物 石器(28)

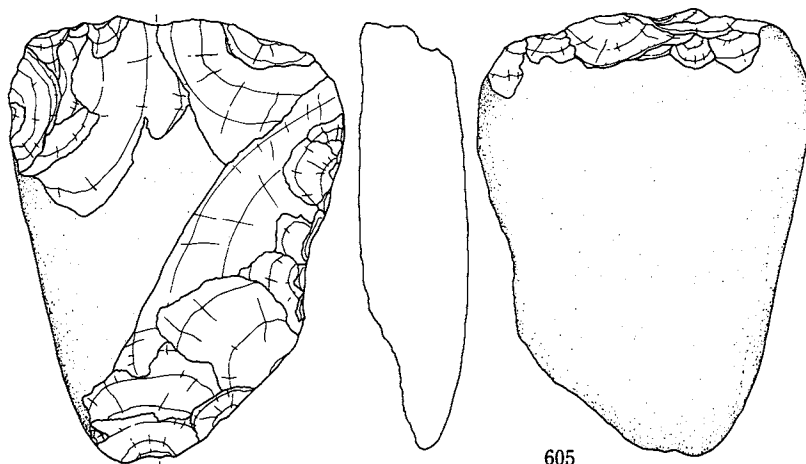


602

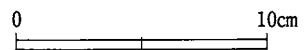


603

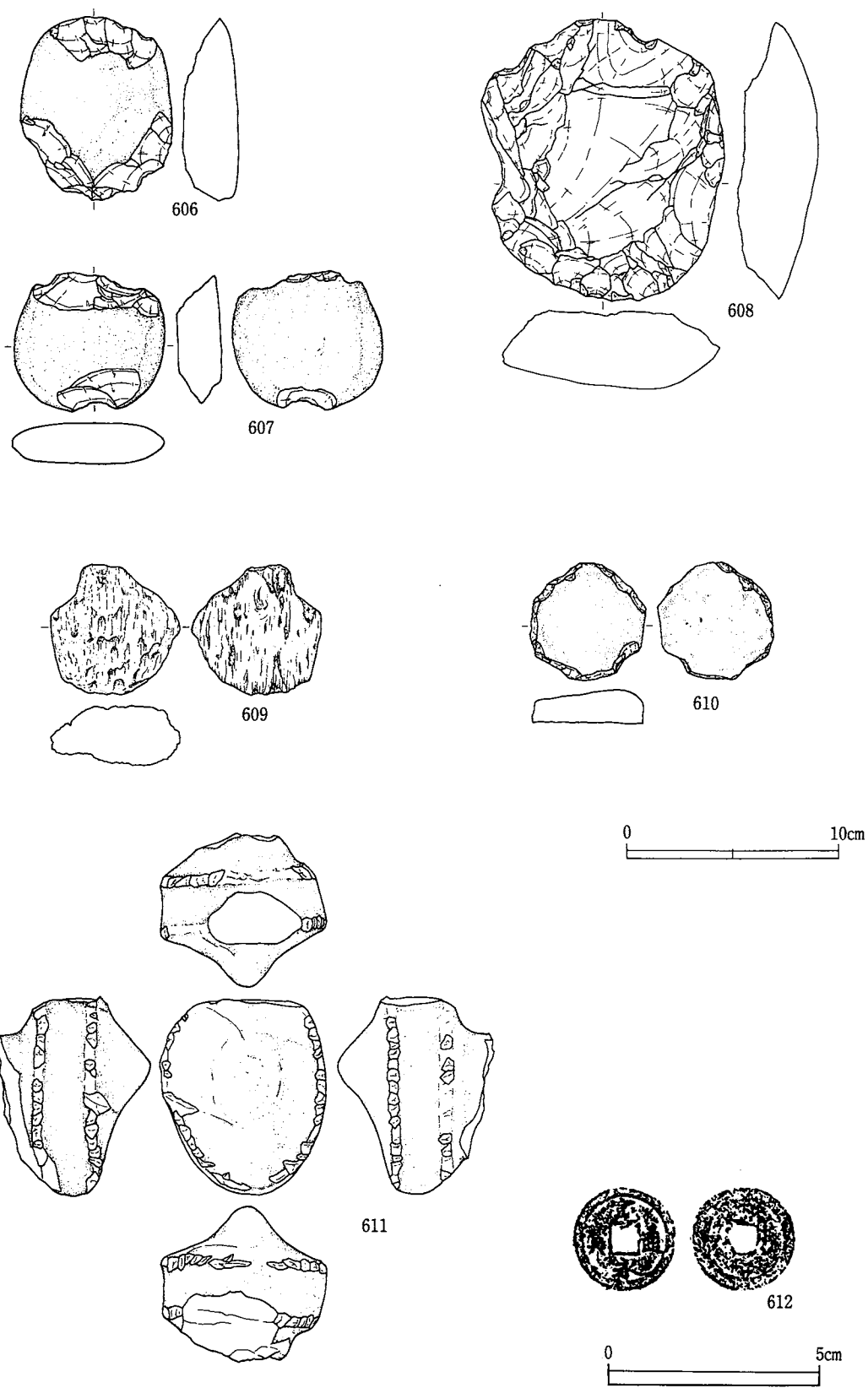
604



605



第61図 遺構外出土遺物 石器(29)



第62図 遺構外出土遺物 石器(30)・石製品・古銭

## VI まとめと考察

### 1. 遺構

本遺跡で検出された遺構は、土坑・陥し穴・焼土遺構・柱穴状小土坑である。それぞれの遺構の特徴と若干の考察を加え、遺構についてのまとめとしたい。

#### (1) 土坑

##### 第1号土坑

<構築時期>本土坑は、南部浮石粒を混入する黒色土層を掘り込んで構築されている。当該層は、縄文時代早期に降下した火山灰の二次堆積層と考えられるから、本土坑は縄文時代前期以降の所産と考えるのが妥当であろう。埋土から、繊維を多量に含む縄文前期初頭の土器片が出土していることもその考えを支持する。

<占地>本土坑の北8mにはワウザイ川という沢が東流しているが、同沢は何回か流路を変えている。本土坑はそれを避けて造られたものとは考えられるが、近接していたことは確かであろう。底面の礫と酸化鉄の沈着層の存在はそれを裏付けている。

<用途>フラスコ状の土坑は、通常は貯蔵穴と考えられているが、本土坑のフラスコ形状は微弱であること・やや小規模であること・占地在湿気の多い場所であること等通例とは異なる。また、竪穴住居跡が近隣に検出されなかったことも、貯蔵穴ではない可能性を高めている。用途を特定できる積極的根拠はないが、集落から離れていること、単独で存在していること、埋土が壁と同様に南部浮石粒を含む層であることなどが推定資料となるであろう。

##### 第2号土坑

<構築時期>本土坑はIII b層で検出したものであるが、それより上位の層を欠落している。また、埋土から縄文時代早期の押型文期と並行する土器小片が出土しているが、周辺からも同種の遺物が出土している。よって層位からも出土遺物からも構築時期を特定または推定できる資料は得られない。

<占地・用途>段丘崖に近い位置を占地しているが、用途・構築目的は不明である。

#### (2) 陥し穴

6基のうち5基がいわゆる溝状陥し穴、1基が円形の陥し穴である。

##### 溝状陥し穴

<構築時期>第1号陥し穴、第5・6号陥し穴はII b層上面で検出された。同層中に主体的に含まれる火山灰は、縄文時代前期初頭から前期末の間に降下したとされる中振浮石である<sup>(註)</sup>と考えられるから、構築時期は早くとも縄文前期中葉以降である。また、同層は黒褐色土を混入し二次的な堆積層と考えられるから、更に新しい時期の所産と考えるのが妥当であろう。これは、「縄文中期末から後期前葉までの時期には確実に使用されていた」とする田村壮一氏の研究成果(田村 1987)と矛盾しない。残る2基についても、大きくは異なる時期を想定すべきであろう。

<規模・形状>5基の計測値を表に示した。5基のうち第3号陥し穴はやや小振り、第6号陥し穴は逆にやや大振りであるが、概ね開口部・底部とも長さ3m前後、幅は開口部で60cm程度・底部で20cm程度、深さはおよそ90cmというのが、本遺跡での溝状陥し穴の規模である。同じ県北沿岸地方に所在する久慈市「鼻館遺跡」の例と比較する。同遺跡では、85基の陥し穴が検出されているが、その規

	1号陥し穴	2号陥し穴	3号陥し穴	5号陥し穴	6号陥し穴	平均値
開口部	62×333	79×314	44×238	70×290	54×415	62×318
底部	20×320	27×328	15×255	23×320	20×390	21×323
深さ	95	108	72	90	93	92

(単位 cm、平均値は小数第1位で四捨五入)

第6表 溝状陥し穴の計測値一覧

横をみると底部の長さは240～490 cmの範囲にあり、平均値は344 cmである。底部の幅は8～40 cmの範囲にあり平均値は19 cmである。同遺跡の場合は溝状と楕円形のものを含めた統計であり同一には比較できないとしても、規模の類似性は看取できる。

<占地> 5基のうち4基は調査区の東側、VA区に位置する。同区域は段丘崖に近接し、崖尻には沢が東流している。また、IVB区に位置する第1号陥し穴の東側にも沢があり(現在は部分的に暗渠による伏流となっている)、構築期の自然環境を直接は知り得ないとしても、現地地形からの類推として水場の近隣を占地していたと考えるのが自然であろう。このことは、本遺構が動物を捕獲する施設と考えられることの蓋然性を高めている。

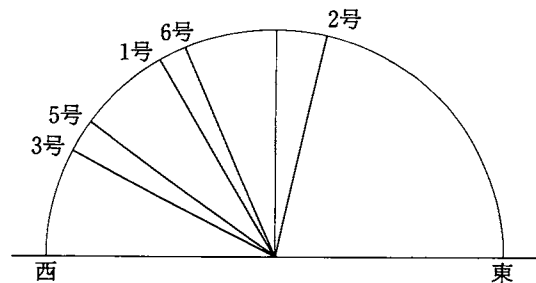
<長軸方向> 類例では、溝状陥し穴が列状に配される場合、長軸が列方向に直交しており、方位はほぼ近似している。これは「ケモノミチ」に沿って構築するからであって、同時存在を示すものと考えられる。本遺跡の場合、第2号のみが東側に偏り、4基は西側に偏る。第3号と第5号、第1号と第6号が近似し、セットとして同時に存在していた可能性が想定される。しかし、長軸方向は地形の規制を受けることは当然であり、それぞれが単独で存在した可能性を否定するものではない。第5号・第6号の重複関係から、少なくとも5基全ての同時存在はなく、最低2時期、セット関係が成り立つと仮定すれば2～3時期を考えることができる。

<形状他> 溝状陥し穴の形状について、第2号・第3号・第5号陥し穴に特徴的にみられた事柄を記す。これらの遺構の両端部の壁面は、極めて平面的であり、側壁とは明瞭な稜を有して接している。第1号陥し穴・第6号陥し穴の端部が自然なカーブを描くことは対照的である。これが構築主体者の個性として把握する事が可能であれば、前述したセット関係を補強する資料となる。

#### 円形の陥し穴

<構築時期> 検出面はIII b層上面であり、溝状陥し穴より古い時期のものと想定される。田村氏前掲論文によれば、県北地方に限定すると円形タイプは中礫浮石降下以前(縄文前期初頭以前)の可能性が高いとされ、本遺跡の検出状況と矛盾しない。本遺構の埋土中位には火山灰がブロック状に堆積しているが、同定によって時期の推定がより容易となる。

<形状他> 本遺跡の場合、平面形こそ円形であるが、断面形はロート状ないしY字状に近い。田村氏が円形タイプとしたものは主に円筒形のものであり、本遺跡例はその点では異なる。軽米町「大堤II遺跡」では溝状陥し穴の検出面より下層から「円筒状陥し穴」が検出され



第63図 溝状陥し穴の長軸方向

ており、その中に上半部がロート状に広がるタイプが存在している。本遺跡ほどくびれ部は狭くないものの、ここでは同じタイプとして把握し、時期も近似するものとしておきたい。

### (3) 焼土遺構

調査区西側、III B 区の南西部において 10 基の焼土を検出した。これらはIII層に形成されている。III B 区より西側ではII層を欠落し、耕作土下は直接III層となることから、時期を知ることができるとはなり得ない。東寄りではおおむね標準的層序を示し、そこではII層は焼成を受けていない。10 基全てが同時期の所産であるとの仮定を前提とすれば、これらはII層形成以前、おそらくは縄文時代に属する遺構であると考えられる。

この中には、発色がほぼ均一で断面が層状のものもあるが、平面的には明褐色～赤褐色の焼成土と暗褐色土との混土として検出され、断面では焼成土がブロック状ないしはシモフリ状となるものがある。前者は明らかに原位置を保っているものと考えられるが、後者は暗褐色土の混入が意味するものの判断を求められている。次の三仮説を立てた。第一は、焼成が弱く均一の発色が得られないというものである。III層そのものが浮石粒混入層であって均質でないことに基づく仮説である。第二は、植生根や倒木、耕作などの影響を受けて攪乱されたものという考えである。第三は原位置を保たない、廃棄された焼土との考え方である。断面観察からは第三の仮説は考え難い。第一・二あるいはその他の成因か、そのメカニズムは明らかではないが、原位置を大きく変えていないという立場にたち、遺構として取り上げたものである。

注目すべきは、これら焼土遺構の調査区範囲における分布は限定的で、おおむね 21 m の等高線に沿っているということである。調査区域の南側にも広がる可能性が大きく、その範囲が確定されればその意味も明らかになるものと考えられる。

### (4) 柱穴状小土坑

配列・規模等の規則性を見いだす資料は得られなかった。検出は耕作土直下で、II層を掘り込んでおり、近世から近現代の所産と考えるのが自然であろう。

## 2. 遺物

### (1) 土器

#### 出土状況

本遺跡から出土した土器は、縄文時代早期から弥生時代に至るまでのものがあり、時期幅が広い。主体を占めるのは縄文時代前期初頭に属すると考えられる、胎土に植物性繊維を多量に含む土器である。次に多いのが縄文時代早期の押型文期と貝殻文期の土器である。それ以外の時期の出土量は極めて少ない。

縄文早期（押型文期・貝殻文期の両者とも）の土器は、III b 層の下位からの出土が最も多く、それより上位からのものは殆どない。III b 層は浮石粒が多く混入する層であるが、その下位は浮石粒の風化層と考えられ、褐色が強く粘性を有する。あるいはIII b 層の浮石とは異なるものかも知れない。現地では層理面を明確に区画できなかったことから、IV層への漸移層として把握して一括した。出土した区域は調査区の東側VA区とVIA区を中心とし、他の区域からの出土はごく稀であり、その場合でも明らかにIII b 層下位からであった。

縄文前期初頭の土器は、III B 区の 4～6 ラインから集中的に出土し、II B 区・II C 区がそれに次ぐ。出土層位はII b 層からIII層上面が最も多い。II b 層は粘性・締まりを完全に欠く火山灰を主体とする暗褐色土層で、中掇浮石の二次堆積層と考えられる。同火山灰は前期初頭の早稲田 6 類期より後に降下したこと

が明らかにされており、これらの土器は廃棄・放棄された時点の原位置を保つものではなく、供給源を他に求めるべきであると考えられる。

次に分類別に時期の比定を試みる。

**第1群1類土器** 押型文とそれと並行期の縄文を有する土器である。縄文早期前葉の日計式土器と考えられる。岩手県内で日計型押型文を出土した遺跡は20遺跡程度<sup>(註1)</sup>である。県北地方では、浄法寺町飛鳥台地I遺跡・軽米町馬場野II遺跡・同町大日向II遺跡<sup>(註2)</sup>・一戸町平船III遺跡・同町北館B遺跡のわずか5遺跡が知られていたのみである。青森県では、南郷村鴨平(1)遺跡(以下鴨平遺跡という)や、型式名設定遺跡である日計遺跡など八戸周辺の10数遺跡で当該時期の遺物または遺構が確認されており、本遺跡の場合は地理的に見てそれらとの関連を考えるべきであろう。

本遺跡出土の遺物は破片のみで器形や文様全体を知り得ないが、I群1類b種とした口縁部に平行沈線を配し口唇部に押圧ないし刻みを加えるものは、鴨平遺跡・八戸市売場遺跡・同市和野前山遺跡などで類似した資料が出土している。この3遺跡と本遺跡の土器を比較する。

器形のわかるものは鴨平遺跡例のみであるが、平縁で砲弾型の尖底深鉢である。本遺跡も恐らくは同様の器形を示すものと思われる。口縁部に横位施文される沈線は、和野前遺跡では丸棒によるもののみ、鴨平遺跡では鋭利な工具によるもの、売場遺跡では両者がある。本遺跡でも両方あり売場遺跡に似る。口唇部への施文は、鴨平遺跡では「指頭様の柔らかいもので、圧痕に近い」、和野前遺跡では「棒状工具による斜位の短沈線」、売場遺跡では「スリット」と表現されそれぞれ若干異なっている。本遺跡の場合は棒状工具によるもの、鋭利な工具によるもの、篋状の平坦な面を押圧したもの、指頭状の圧痕と多様である。地文は、鴨平遺跡では1個体に3種の原体を用い部分的に羽状を呈する。和野前遺跡では無文・斜行縄文(無節・単節・複節)・羽状縄文、売場遺跡では無文・無節・単節・複節・燃糸文で羽状縄文はみられない。本遺跡の場合は、非結束羽状縄文が主体的であり、斜行縄文は少ない。地文を施文する場合、鴨平遺跡では「縄文帯を強調して縄端に強い圧痕を残す」としているが、本遺跡でも同じ手法が顕著である。

近隣の4遺跡のみで比較を試みたが、それぞれの比較項目について遺跡毎に異同があった。本遺跡例が、特に特定の遺跡に近似するとか、逆に全く異なるとかという傾向は窺えない。ある部分では類似し、またある部分では異なるといった様相を示している。このことは本遺跡例が地域性や時期差による特徴を示すものではなく、当該時期の多様性として把握すべきであって、資料としての内容を豊かにするものといえよう。

日計式土器は、東北各地での資料の増加により、その細分についての研究も進められるようになってきた。日計式から貝殻文への過渡形態として沈線文土器が位置付けられるとすれば、第1群1類b種土器は日計式のなかでも古い時期の所産といえよう。

さて、注目すべきは口縁部文様帯に魚骨回転文が施される例である。出土層位・地点・胎土・焼成などから横位の沈線が施文された土器群と同類とみられる。大沼忠春氏の研究成果(大沼 1985)から、使用された魚骨はニシンのそれと考えられる。同氏の研究によると魚骨回転文は、早期・前期・中期・弥生・続縄文期に出現し、最も古い時期のものは和野前山遺跡出土の日計式押型文期であるという。本遺跡例は、それに並ぶものであり、同時期の資料を補強するものである。また、本遺跡にとっては縄文時代早期前葉において、漁労が生業として成立していたことの傍証資料でもある。

**第1群2類土器** 本類土器のうち19~23、72~74は貝殻腹縁圧痕文・押引文・横位沈線および爪形刺突文



など特徴とする。これらに類似するのは寺の沢式、根井沼式の土器であろう。三沢市根井沼(1)遺跡、同市小田内沼(4)遺跡(以下それぞれ根井沼遺跡、小田内沼遺跡と略称する)では多量の貝殻文土器が出土し、その特徴から寺の沢式の前段階にあたる根井沼式を設定(根井沼遺跡第Ⅲ群土器)し、さらに寺の沢式と根井沼式の間をつなぐ土器群(小田内沼遺跡3類土器)が存在することも分かった。本遺跡出土土器の位置付けを考える上で、この2遺跡の例を参考にしたい。特徴を簡略に記す。

小田内沼遺跡において寺の沢式土器は、不均整波状口縁もあるが平縁が多い。口唇部形態は外削状のものが約8割を占め、体部には刺突文や沈線が施されず貝殻文のみのものが9割である。特に口唇部外削状のものは底部まで貝殻腹縁圧痕文のみが縦位ないし斜位に施文される。

根井沼式土器は、平縁、文様帯の幅が胴下部に及び文様構成は貝殻文・沈線文・刺突文により多様である。底部は無文が一般的である。口唇部に絡条体圧痕文が施される。

根井沼式と寺の沢式をつなぐ小田内沼3類土器は、不均整波状口縁のものを含み、刺突文・沈線文により文様帯が区画される。底部まで施文されるものが大半である。口唇部の絡条体圧痕は約半数に見られる。まさに、根井沼式と寺の沢式の間形態を示している。

ただし根井沼遺跡においては、根井沼式土器に波状口縁も存在するなど若干の相違も見られる。

さて、本遺跡の土器について、その特徴点をあげる。

- ・爪形の刺突文や沈線が区画的に横位に施文されるものがある。
- ・貝殻腹縁文の他に押し引き文や貝殻条痕が多用される。
- ・胴下半部は条痕文が主体である。
- ・不均整波状口縁はない。
- ・口唇部形態は明瞭な外削状のもの、いくぶん外削ぎ状のものがある。
- ・口唇部に絡条体が圧痕されるものはない。貝殻腹縁圧痕ないしは無施文である。

これらの特徴をもとに小田内沼遺跡・根井沼遺跡例と比較すると、本遺跡例は寺の沢式よりも古くかつ根井沼式よりも新しい段階に位置付くものと考えられる。しかし小田内沼3類とも異なり、より寺の沢式に近い様相を示す。長尾正義氏は、寺の沢遺跡例のみならず小田内沼3類と4類(寺の沢式)を合わせたものが本来の寺の沢式である可能性を指摘する<sup>(註3)</sup>。本遺跡例も、大きくは寺の沢式の範疇で把握すべきと考える。

77・78の横位沈線間に円形竹管を充填するものは、小田内沼遺跡(報告書p39.No.6)に類似するものか。75は吹切沢式であろう。

**第Ⅰ群3類土器** 表裏に縄文を施文する特徴から縄文早期末葉に属すると考えられる。表裏縄文は早稲田4類・赤御堂式に特徴的であるが、本類土器は縄文原体が太く粗い印象があること、口縁直下に幅狭の無文帯が形成されることなどから、早稲田5類に近い土器と考える。

(注1) 相原淳一氏の集成による。1978:「東北地方の押型文文化をめぐって」『縄文早期を考える』シンポジウム資料

(注2) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995:『大日向II遺跡発掘調査報告書—第2次～第5次調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第225集

(注3) 長尾正義 1991:『小田内沼(1)・(4)遺跡 発掘調査報告書』三沢市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集

**第II群1類土器** 竹管によるコンパス文や篋状・棒状工具による刺突文などを特徴とする本類土器は、県内では出土していない。二戸市上里遺跡にもコンパス状の文様を有する土器はあるが、趣を異にする。青森県では、六ヶ所村表館遺跡・同村大石平遺跡・金木町芦野遺跡・東通村前坂下(13)遺跡など多くの遺跡で出土している。これらは、縄文前期初頭の表館式とされ、北海道道南地方の石川野式と並行する。

本類土器のコンパス文とその上下の刺突文および地文の施文法については、芦野遺跡1群土器の中に酷似するものがあり、本類土器も表館式に比定される。底部は出土していないが、他遺跡の例から平底になるものと思われる。

**第II群2類土器** 本類土器は竹管刺突と沈線（凹線）を特徴とする。繊維を多量に混入し、竹管による文様が施されるものは、県内では二戸市上里遺跡・同市馬立I遺跡・浄法寺町飛鳥台地I遺跡で出土しており、早稲田6類b土器に比定している。本類土器は、前掲の各遺跡からの出土資料とはモチーフが異なり装飾性も低い。青森県に類例を求めると、93の口縁部に竹管刺突を横走させるものは八戸市和野前山遺跡第8群B類にあり、早稲田6類bに比定されている。34・91・92は明らかではないが、竹管を施文具とすること、尖底となるらしいこと（34）等から、本類は早稲田6類a・bに近似するものとしておく。

**第II群3類土器** 本類土器のように、地文としてループ文を層状に重ねる施文法は表館式（六ヶ所村弥栄平(4)遺跡・同村大石平遺跡など）と早稲田6類（六ヶ所村表館遺跡・同村上尾駮(1)遺跡など）の両者にある。本類土器は地文のみであり、いずれに帰属するものか判断はできない。

**第II群4類土器** 第1種結束羽状縄文の土器である。前期初頭の土器群の中で結束羽状縄文が用いられるのは、表館遺跡・鷹架遺跡などの早稲田6類土器にあるが、芦野遺跡1群土器のなかにも存在する。ただ芦野遺跡の場合は、結束部のみを回転させたものや羽の一方が短い片翼状のものなど、いわゆる「芦野型」である。本遺跡では芦野型は見られないことから、早稲田6類に位置付けておきたい。

**第II群5類土器** 非結束羽状縄文の土器である。0段多条の異なる原体を横回転させたものである。最も類似するのは長七谷地III群である。胎土・焼成が4類土器と大きな相違がない点でやや疑問もあるが、一応長七谷地III群土器としておく。

**第II群6・7類土器** 斜縄文・組縄文を地文とし、それ以外の文様を持たないものである。特徴を列記する。

- ・器形は、平縁で底部は丸底ないし丸底風尖底となる（26・30・33の他、第II群11類に示した底部は全て同類であろう。）
- ・原体に0段多条が多用される。
- ・口唇部断面形は多様であるが、面取りしたように平坦なものが特徴的で、面取り角度がやや内側または外側に傾いたもの（それぞれ内削ぎ状・外削ぎ状と表現してきたもの）を含めると、面取り状が主体的といえることができる。
- ・口縁直下に幅5mm程度の無施文部があり、施文が強いために無文部が外側に庇状にとびだしたようなものがある。
- ・同一原体の回転方向を変えて羽状縄文の様相を呈するものがあり、その最終段はLが多い。
- ・口唇部に施文されるものはない。

さて、岩手県においてこの種の土器は、二戸市沢内B遺跡・同市上里遺跡・滝沢村仏沢III遺跡・同村耳取遺跡等において出土している。特に口唇部断面の形状・口縁直下の無文部・同一原体による羽状縄文・

組縄縄文の存在などは沢内B遺跡と共通点が多い。仏沢III遺跡では組縄縄文が主体であるが、器形や口唇部断面形状などで類似する。沢内B遺跡・上里遺跡では、これらの土器を、早稲田6類a・bや表館に後出するものとして把握し、仏沢III遺跡では早稲田6類cに相当するとしている。また熊谷常正氏は沢内B遺跡例について、「口縁部文様がなく適格にとらえにくい」としながらも、「新城館・宮手例にやや後出する」とした(熊谷常正 1983)。氏によれば新城館・宮手例は、上里遺跡(早稲田6類b)より新しく大木1式の後半に相当するものである。これら先学の研究を踏まえ、本遺跡の場合も早稲田6類cに相当するものと考えておく。

ただ、青森県の例では口唇部が平坦なものは早稲田6類よりは表館式に多いという。また、口縁縁直下の無文部が庇状に飛び出すものは早稲田5類からあるという<sup>(註1)</sup>。

ここで、早稲田6類cの時間軸上の位置づけが問題となろう。早稲田6類と表館式、および早稲田6類のa・b・cそれぞれの前後関係は、層位的に区分された報告がなく型式学的な考察に頼らざるを得ない状況にある。現在は、「表館式→早稲田6類」という考えが主流であろう(武藤康弘 1988など)。早稲田6類では、「a→b」(佐藤達夫他 1960)、「c→a・b」<sup>(註2)</sup>などの見解がある他、早稲田6類cについて「早稲田6類第2段階、第3段階に属する土器のうちで口縁部に…(略)…文様帯をもたない土器」(武藤康弘 1988)とされたり、a・bと従属的に共伴するのではなく独立した型式の可能性がいわれ<sup>(註3)</sup>、それを補強するようにa・bとcの出土遺跡分布は異なるという指摘(高橋亜貴子 1992)がある。

本遺跡の場合も層位的裏づけがなく詳細は不明であり、早稲田6類cとはしたものの、早稲田5類から表館式・早稲田6類a・bの時期のものを全て含んでいる可能性なしとしない。口唇部に施文のある仏沢III遺跡や下田遺跡の例よりはやや時期が古いかも知れない。早稲田6類cの系譜・分布・時期がより明らかになった段階で、再検討すべきと考える。

**第II群8類土器** 組紐を地文とする山形突起を有する土器である。高橋亜貴子氏によると、組紐は東北地方南半部を中心とし、青森・岩手などでは稀薄であって、北半部を中心とする組縄縄文とは分布域を異にすることを指摘した(高橋亜貴子 1992)。組紐は組縄縄文に伴う文様の一つであって、南半部では宮田III群・関山式に用いられることなどをもとに、組縄縄文の時期を考察している。

本遺跡においても、組紐は同一個体の破片が数点存在するだけであり、極めて客体的である。組縄縄文も出土していることから、早稲田6類c期の所産としておく。

**第II群9類土器** 撚糸文の土器を一括したが、撚紐の太さや施文法に相違があり同種のものではない。192~195は、沢内B遺跡出土のものと類似する。前期初頭の撚糸文は、深郷田式や北海道東釧路IV式などに見られる。しかし、深郷田式の内容は太平洋側ではあまり明らかにされていない。沢内B遺跡出土土器を、早稲田6類に後続する段階の土器群の中に含めた(武藤康弘 1991)。本遺跡の場合も、その周辺に位置づくものと考えておく。

197の木目状撚糸文は、斜位に施文される点及び斜縄文を伴う点で特異である。木目状撚糸文のみが横回転施文されるものは白座遺跡にあり、大木2aとの関連が指摘されている。しかし、その施文は正整なものであり、本例と同列視することはできないかも知れない。196についても型式比定は避けておく。

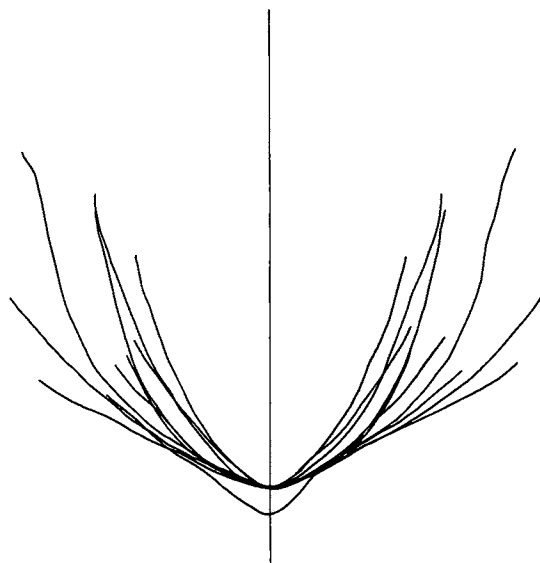
**第II群10類土器** 詳細が不明な土器を便宜的に集めた群であり、b種とした押型文の土器についてのみ記載する。200・201は繊維を多く混入し、胎土や焼成から前期初頭の土器と考えられた。これまで前期初頭の押型文は、岩手県内では初めての例である。

青森県では源常平遺跡・野口貝塚・長七谷地貝塚・表館遺跡II・発茶沢遺跡(2)等で出土している。野

口貝塚例は山形文で早稲田6類とともに確認された。他は正方格子目文であり、表館遺跡では早稲田6類に伴うものと考えられている。

本遺跡の場合は青森県の例とはモチーフが異なる。時期を判断する材料は得られていないが、出土地点からは表館式または早稲田6類cと共伴するものと考えられる。

**第II群11類土器** 底部破片を便宜的に集めた。本遺跡で出土した底部破片資料は34点であるが、うち23点が第II群土器であり、それらは全て丸底または尖底風丸底である。底の角度の開き具合のバリエーションを第64図に示した。これらが全て早稲田6類cに属するものかどうかは一概にいけない。早稲田6類a・bが尖底に近い器形であることを考え



第64図 第II群土器底部形状

ると、前述した早稲田6類cの位置づけの問題もからむが、やや時期差があるとみたほうが自然かも知れない。

39の土器は底面（底頂部）に近い部分に縄端による刺突が加えられている点が注目される。この刺突について谷地薫氏は、表館式の影響下において施文原体を変えて模倣したものと指摘している。<sup>(注3)</sup>

(注1)：三浦圭介氏のご教示による。

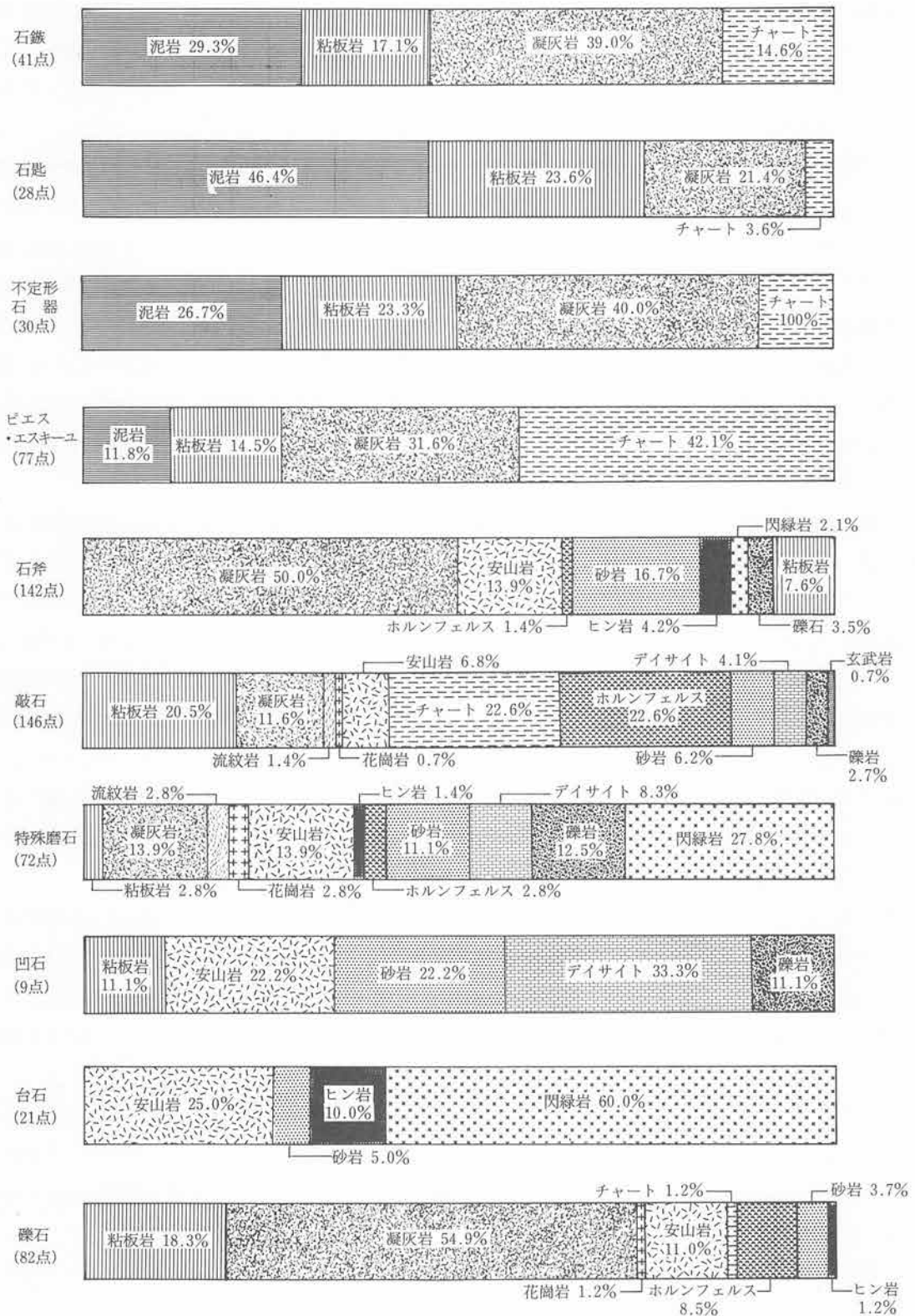
(注2)：成田 滋彦 1980：『鷹架遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第63集

(注3)：谷地 薫 1990：「下田遺跡」『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書IV』秋田県文化財発掘調査報告書189集

**第III群土器** 胎土に繊維を含む平底の土器群である。本群に最も近いのは、階上町白座遺跡の土器群であろう。白座遺跡の、口縁部施文原体が縄軸である点、体部結束羽状縄文は主体的でない点においては、本遺跡とはやや相違するが、器形・口唇部施文および口縁部文様帯に綾絡文を用いる点で類似する。白座遺跡では多くの遺物が出土し、その原体・施文法等の分析から、大木2a式と円筒下層a式が並行するとした。並行関係はさておき、本群土器は縄文前期前半、白座遺跡の時期の周辺に位置づくものと考えられる。

**第IV群土器** 第3類土器は、縄文中期後半に属する。体部に施文された孤状文は、円筒下層e式から榎林式までの時期を想定させるが、口縁部突起形状と文様は、渦文を主体とする榎林式とは異なることを示している。しかし、口唇部には榎林式につながる溝線が形成されていることから、鈴木克彦氏が円筒式土器からの過渡形態として示した中の平I式<sup>(注1)</sup>に最も類似するのではないかと考える。しかし、突起形状は独自の形状をしている。





第66図 石器の石質組成

**石鏃** 基部が平らなもの（Ⅰ類）がほとんどであり、その中で側辺が直線状のものと外湾するものが相半ばする。幅は2 cm以内・長さ3 cm以内が大半で、基部が突出するもの（Ⅲ類・Ⅴ類）は当然のことながらその分だけ長い。重量は1 g前後（0.8～1.2）が最も多い。石材は多い順に、凝灰岩・泥岩・粘板岩・チャートである。

三宅徹也氏は、石鏃の形態を青森県内の早期末から前期前半を中心とする遺跡について比較検討している<sup>(註1)</sup>。和野前山遺跡は早稲田5類・6類期を中心とする遺跡であるが、五角形（本遺跡ではⅠ類に含まれる）・柳葉形（本遺跡のⅤ類に近い）が多く、長幅比1：2.5以上のものが相当数みられる。長七谷地貝塚（第1次）もこれと同傾向を示す。表館遺跡では五角形鏃・三角形鏃（いずれも本遺跡のⅠ類）が多く、長幅比1：3を超えるものは例外的である。氏はこの相違を地域差として把握できることを示唆している。

本遺跡の場合は、和野前山遺跡・長七谷地貝塚よりは、空間的により離れた表館遺跡のほうに近似する傾向を示す。これは、氏が遺構一括出土遺物などから早稲田5類期を念頭においた分析をしているのに対し、本遺跡の場合は早稲田6類cを中心とするという時期差の問題、および出土層位が二次的堆積層で異なる時期の遺物も入り込んでいるということなどが関わるのであろう。

**石匙** 28点の出土のうち、いわゆる横形石匙は1点のみで他は全て縦形石匙である。この傾向は、仏沢Ⅲ遺跡（横2点、縦24点）・和野前山遺跡（横16点、縦148点）・鷹架遺跡（横0点、縦16点）など、時期が近い遺跡では同じ傾向を示す。法量的にも和野前山遺跡（平均値で長さ5.7 cm、幅2 cm、厚さ0.8 cm、重さ9.4 g）にほぼ近い。しかし本遺跡の場合は、縄文前期の石匙によくみられる、腹面の右側縁に二次加工を施し背面の稜線が右側に偏るものは多くない。断面が扁平で、先端が尖るものが多い点の特徴である。

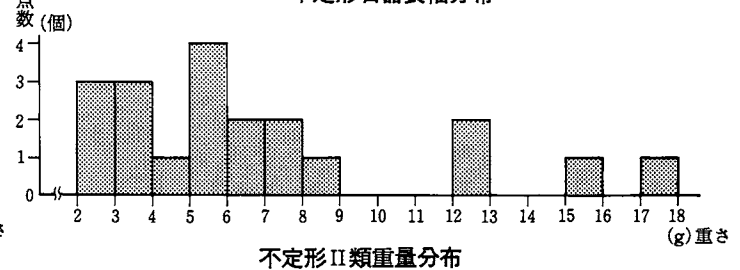
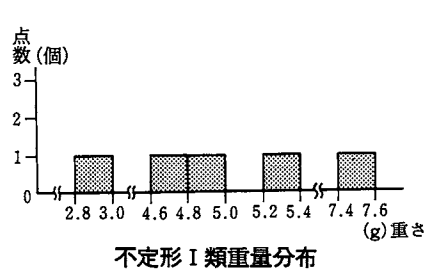
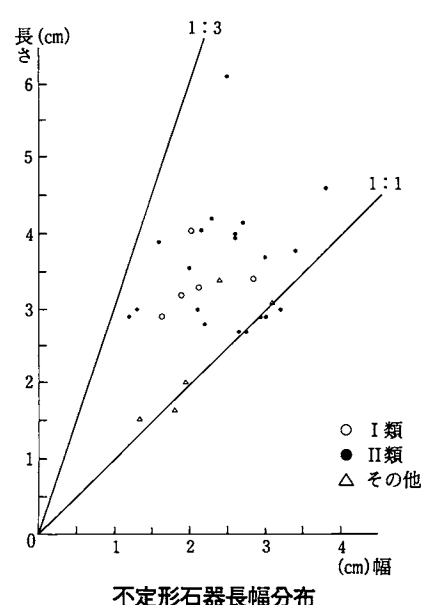
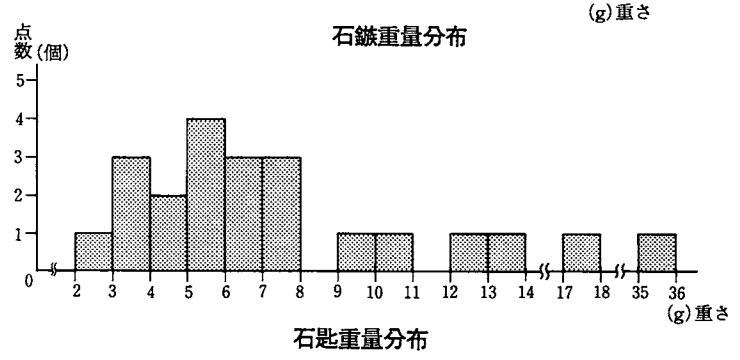
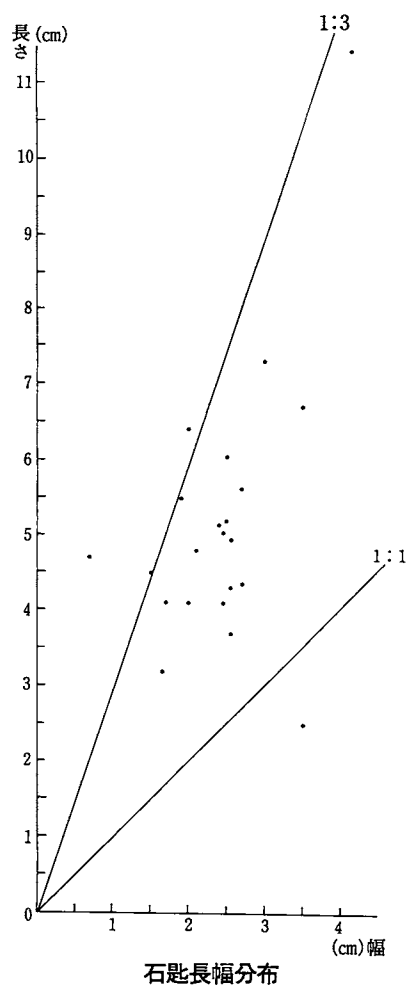
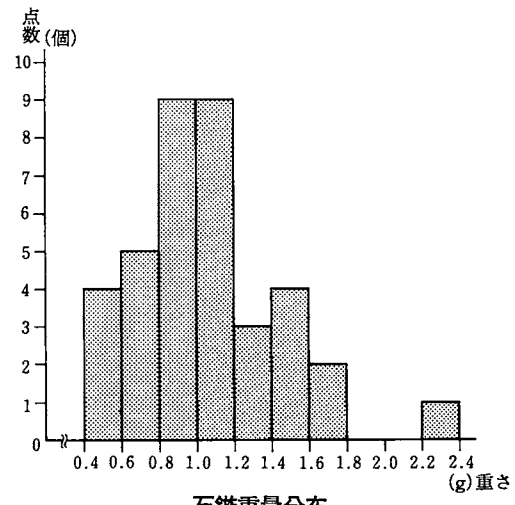
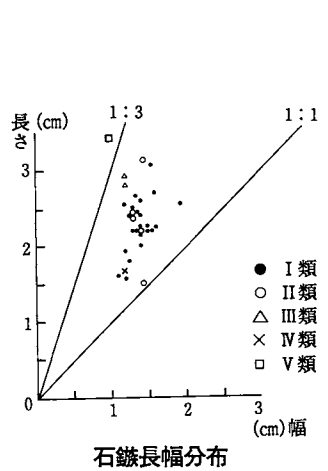
**不定形石器Ⅰ類** 本類は岡村道雄氏によって新器種として取り上げられ（岡村道雄 1979）、尖頭器様石器と称されるものに類似するものである。本遺跡の場合わずか5点での集計であるが、長さ2.9～4.05 cm・幅1.65～2.9 cmの範囲にあり、平均値はそれぞれ3.4 cm・2.1 cmである。氏の「長さ3.5 cm、幅2.0 cmに集中」という指摘に合致する。因みに本遺跡の石鏃の平均値は、長さ2.3 cm・幅1.4 cmである。形状・加工状況・法量において、石鏃と本類との違いは明瞭である。

**ピエス・エスキーユ** 77点と相対的に多量の出土をみた。対辺に向かってのびる剝離が、両極打法によるものであることを明瞭に示すものが多いが、単に通常の剝片の一部に対になる打滅痕が存在するものも含めており、器種認定として適切かどうか不安がある。大きさは2～3 cm前後に集中し、長幅比のグラフにみるように縦長・横長はあまり意識されていない。石材にチャートが多く用いられている点の特徴的である。

ピエス・エスキーユについては道具として作られたものか、使用の結果できたものかは意見の分れるところであり、また両極石核との区別の問題も存在するという（岡村道雄 1983）。岡村氏は「その多くがハンマーと台石によってまず作られた」と考えており、その根拠の一つとして多量の敲石と台石を伴って出土する遺跡を提示する。

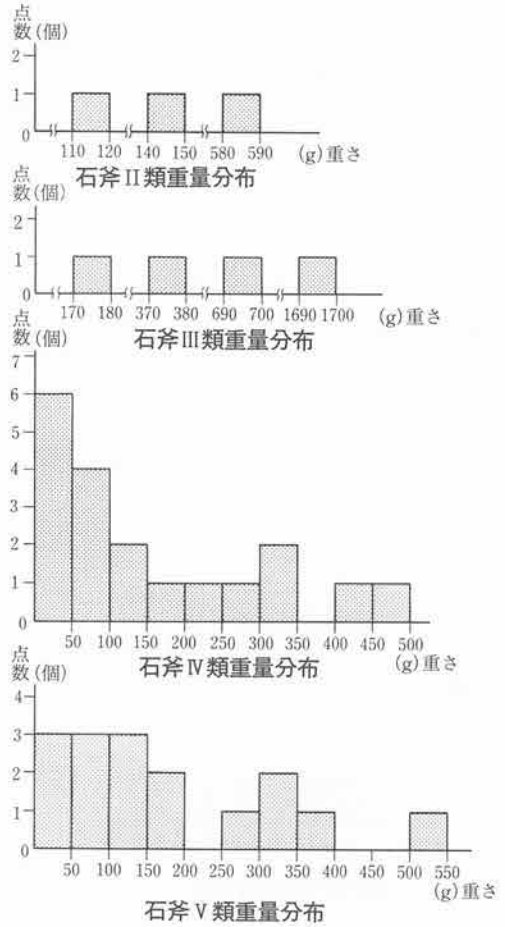
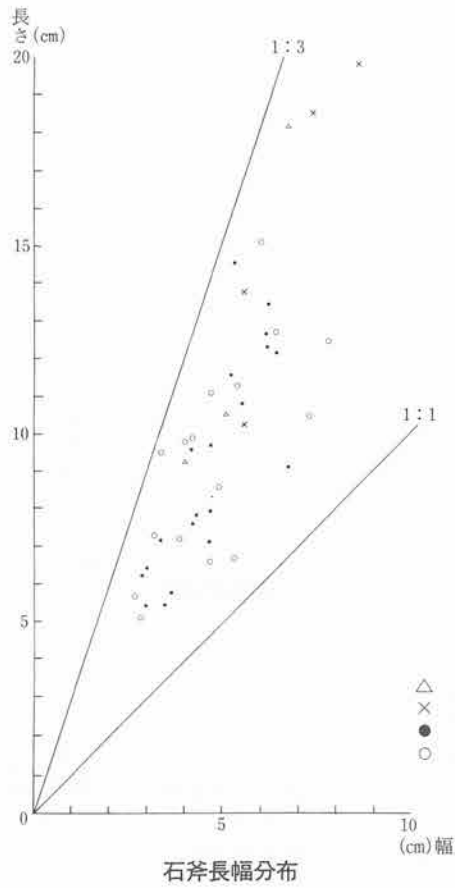
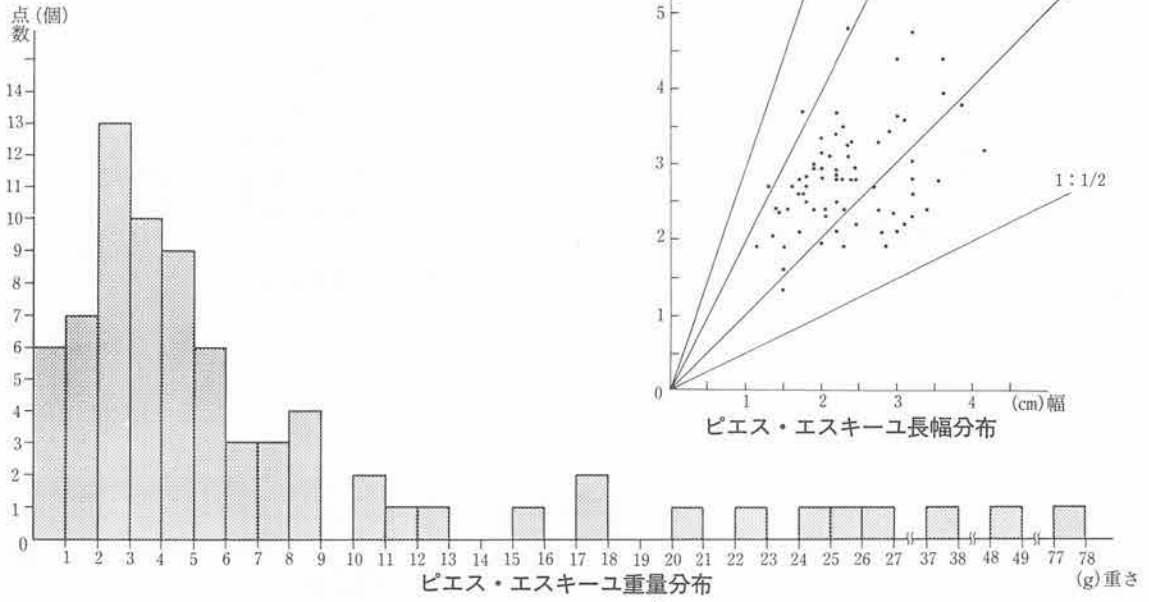
本遺跡からも多くの敲石が出土しているが、本遺跡で敲石としたものは石のような硬質のものを対象として用いたとは考えにくく、本器種の機能・用途・性格については、不明としておく。

**石斧** 全石器に占める割合が20.6%と、かなり高い値を示す。鷹架遺跡が類似傾向を示すが、当該時期の遺跡としてはむしろ例外的であろう。石材は凝灰岩やホルンフェルスを主体とする。計測値をみると大きさ・重量とも最小値と最大値の差が大きい。長幅分布では各類がほぼ均等に広がり、類別による顕著な有意性のあるまともはみられない。剝離と敲打によって整形したⅢ群の中に大型の石器が2点あるのが目



第67図 石器計測値分布(1)





第68図 石器計測値分布(2)

立つ程度である。

縄文早期後葉から前期前葉の石斧は、楕円形の偏平な礫に部分的に剝離を加え、刃部を中心に研磨したものが普遍的にみられ、重い重量の石斧が出現するのもこの時期の特徴であるという（工藤竹久 1993）。

前述したように本遺跡も、大きさ・形状・重量にばらつきがみられること、また 300 g を超えるものが稀ではないことは、氏の指摘する通りであり、当該時期の特徴として把握することができよう。本遺跡には 1695 g という飛び抜けて重いものがある（遺物番号 390）が、白鳥文雄氏がハンマーとしての役割を想定<sup>(註2)</sup>したものに該当する可能性がある。

さて、工藤氏は前掲論文において、偏平な楕円礫の片面全面に打撃が加えられ整形されたもの（本遺跡のIV類に相当）をはじめ、打製石斧として分類されてきたものの中には、石斧の未製品が多く含まれるとし、その根拠として使用痕が認められないこと、欠損品が少ないことなどをあげている。本遺跡においても、肉眼観察ではあるが明瞭な使用痕は認められない。しかし、欠損品はIV類・V類においても相当数みられる。欠損は使用中のみならず製作中もあるであろうから、欠損部位や欠損の方向などの分析、使用痕の精緻な観察が必要であるが今回は成し得なかった。欠損割合からは、本遺跡のIV類・V類には使用されたものが含まれると考えるのが自然であろう（V類には未製品と考えられるものを含めている）。

IV類の背面に大きく自然面を残す石斧については、県内では宮古市大付遺跡・同市千鶏遺跡で出土しそれぞれ報告者による考察が加えられている。現段階では、岩手県北部から青森県にかけての太平洋沿岸地域に特有のもので、縄文前期初頭の時期に使用された特徴的な石器であると考えられている。本遺跡の場合も、まさにそれに該当する。

分類	完形品	欠損品	出土点数
I	0	8	8
II	3	13	16
III	2	23	25
IV	34	22	56
V	10	16	26
計	49	82	131

第7表 石斧の完形品・欠損品

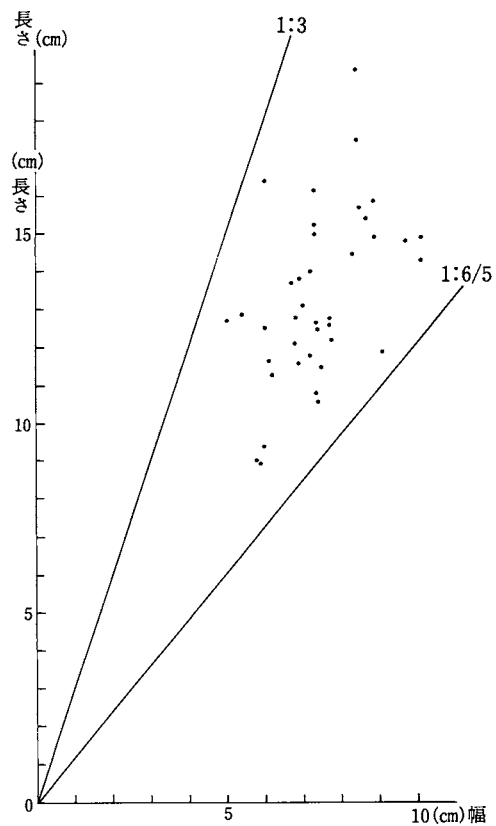
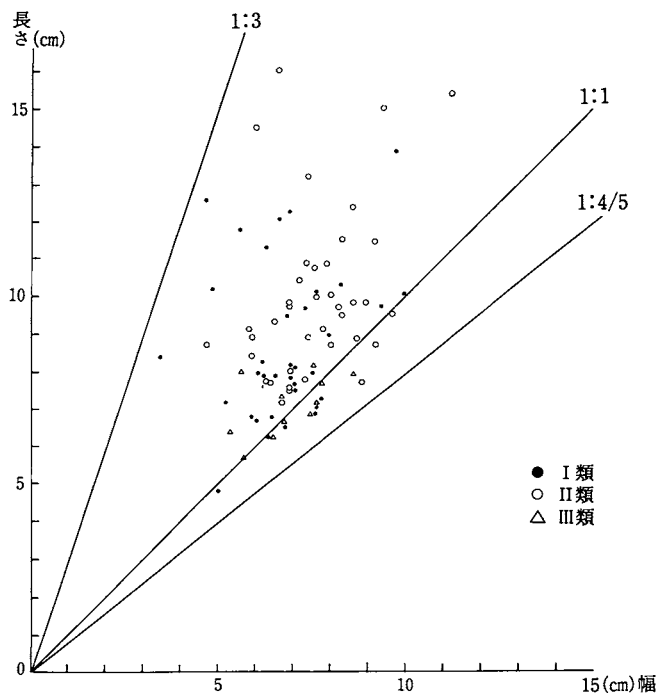
**敲石** 出土点数 146 点、全石器に占める割合は 21 % 強で、本遺跡を特徴づける石器の一つである。大きさは、雑多なものをまとめたIV類を除くと、ほぼ縦横 10 cm 内外を中心に分布する。類別では、III類が全体に他より小さい値を示している。III類は礫のほぼ全面に敲打痕が観察されるものであり、敲石としての最終段階を示すものであろう。重さは 250~550 g ぐらいが主体である。石材は粘板岩・チャート・ホルンフェルスなどを用いている。

本器種の用途については明らかではないものの、使用痕からは硬いものを対象としたとはあまり考えられず、コツコツと敲打を連続する所作が中心で、磨る活動が若干加わったものと考えられる。しかし、台となるべき石の点数が、敲石にみあうほどにはないことは、残される問題の一つである。

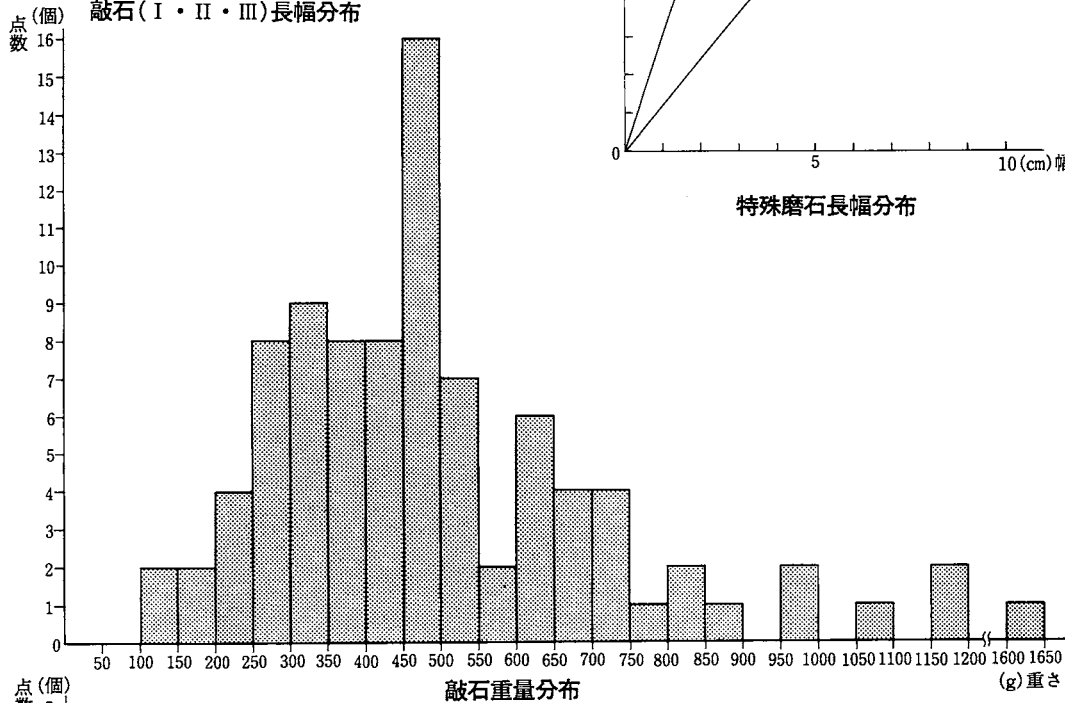
**礫器** 本器種も出土量が多く、全体の石器のうちの 12 % 弱を占めている。石材は凝灰岩を主体とし、粘板岩・安山岩がそれに次ぐ。大きさは 6 cm 以上 12 cm 以内に多く分布し、平均は長さ幅とも 9 cm 前後、厚さは 4 cm である。

礫器は、県内では宮古市千鶏遺跡（4 点）や久慈市平沢 I 遺跡（42 点）、青森県では八戸市売場遺跡（15 点）や大間町小奥戸（1）遺跡（11 点）などで出土している。本器種については、チョッパー的なものとされるが、刃角が鋭利ではないものもあり、これらも打割に用いたものかどうかは不明である。分布域や時期からの検討も必要であろう。

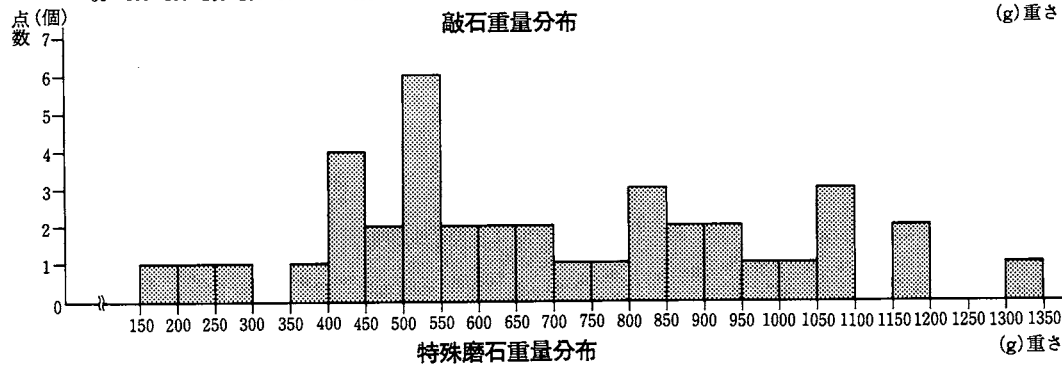
**円礫** 海岸または河原から持ち込まれたものと考えられるもので、合計 418 個である。100 g までの、ほぼ卵大のもの（偏平なものもある）が 161 個で 4 割弱を占める。拳大で重量 250~550 g には、2 割強にあた



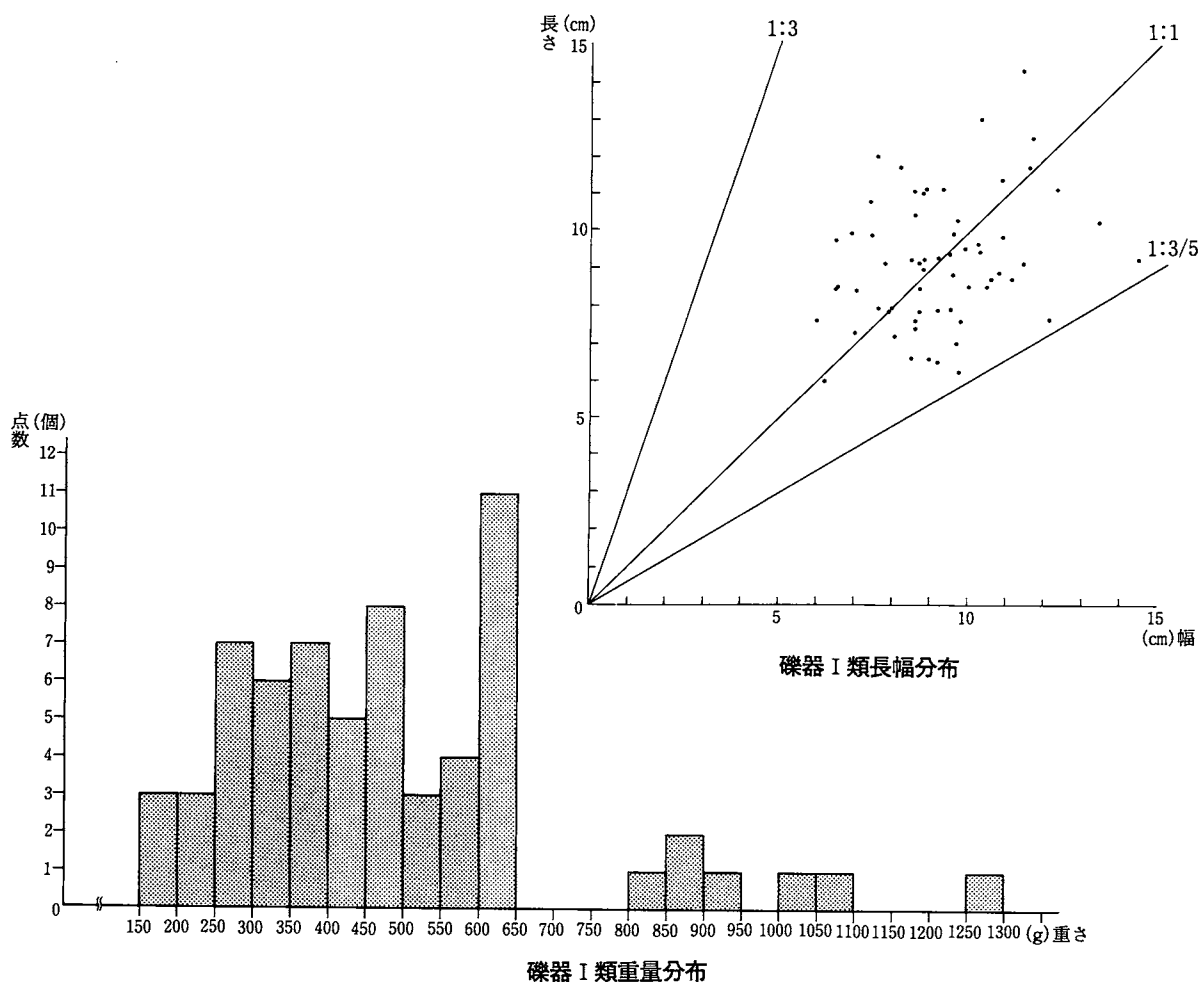
敲石 (I・II・III) 長幅分布



特殊磨石長幅分布



第69図 石器計測値分布(3)



第70図 石器計測値分布(4)

器種	長さ (cm)			幅 (cm)			厚さ (cm)			重量 (g)		
	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値
石鏃	1.5	3.4	2.3	1	1.95	1.4	0.2	0.55	0.4	0.44	2.37	1.1
石錐	2.95	4.2	3.6	0.85	2.25	1.6	0.3	0.45	0.4	1.28	6.3	3.8
石匙	2.5	11.45	5.2	0.7	4.15	2.4	0.3	2	0.8	2.5	35.17	8.3
石篋	3.8	5.7	4.9	3.25	3.9	3.5	0.8	1.3	1.1	16.85	34.43	24.7
不定形石器	1.5	6.1	3.3	1.2	3.8	2.4	0.4	1.3	0.7	0.82	17.64	5.9
ピエス, エスキュー	1.35	6.75	3	1.15	4.5	2.4	0.4	5.5	1	1.03	77.73	9.1
石斧	5.1	19.8	10.2	2.3	8.5	5.1	0.7	6.7	2.4	17.04	1695	230
石錘	3.9	9.15	6.3	4.3	7.3	5.4	1.2	1.6	1.4	26.14	129.29	67
敲石	4.8	20.1	9.6	3.49	11.9	7.4	2.4	8.35	4.7	114.66	2199	540.3
磨石	10.6	12.1	11.4	9.1	9.7	9.4	5	5.1	5.1	694	844	769
特殊磨石	8.9	19.35	13.3	5	10.1	7.4	3.1	8.1	5.1	197.7	1327	697
凹石	9.45	12.4	10.8	7.3	10	9	4.5	6.7	5.2	596	826	700.3
台石・石皿	14.65	20.4	17.5	12.05	15.5	13.8	5	6.3	5.7	2918	9500	6209
礫器	6	18.1	9.4	4.25	14.5	9.2	2.05	7.55	4	142.38	1381	506.8
軽石	6.2		6.2	6.1		6.1	2.8		2.8	19.83		19.83

第8表 石器計測値集計



る 95 個が入る。

出土分布を見ると、II B 区・II C 区と III B 区に出土量の多い地点がある。卵大のものは主に II B 区・II C 区の黒褐色土層から、拳大のものは主に III B 区の土器・石器出土層位から出土したものである。

円礫として一括して取り上げたが、性格の異なるものを含んでおり、拳大以上のものは敲石や磨石の未使用品と考えられる。卵大のものについては、本調査区に入り込んだメカニズムを明らかにできない。

石製品 No.611 は類例が見当たらない。裏面が欠損していることから、石棒の頭の部分が残ったものとも考えられるが、詳細は不明である。

(注 1) 三宅徹也 1984：『和野前山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 82 集

(注 2) 白鳥文雄 1984：『和野前山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 82 集

### (3) 古銭

寛永通寶は、寛永 13 年(1636 年)に初めて鑄造されて以来、明治初めまで使用される。本遺跡のものは「寶」の「貝」の下が「ハ」である特徴から、いわゆる「新寛永」といわれる寛文 8 年(1668 年)以降のものである。さらに、「通」の頭が「マ」であることから、享保(1716～1736)または元文(1736～1741)年間の所産であろう。当該時期には仙台藩石巻において寛永通寶が鑄造されており、それとの関わりが強いものと考えられる。

## 3. まとめ

今回の調査結果について、主なるものを箇条書き的に記載してまとめとしたい。

- ・今回の調査区域には、居住域は確認されなかったが、土器・石器などの他に、土坑・陥し穴・焼土遺構が検出されたことから、狩り場など縄文時代人の生活域の中にあつたことがより明らかとなった。
- ・陥し穴の年代は、縄文前期初頭にさかのぼると考えられるものがある。
- ・本遺跡は、縄文時代前期の遺跡と考えられていたが、早期前葉の日計型押型文期、中葉の貝殻文期の資料も豊かである。
- ・縄文時代早期前葉日計型押型文期の魚骨回転文土器の出土は、県内では初めてと考えられ、漁労活動の存在の傍証となった。
- ・縄文時代前期初頭の土器が豊富に出土し、当該時期の研究の資料増加に寄与した。その中でも、コンパス文土器と押型文土器は、県内では初めての出土と考えられる。前期初頭の押型文土器は、八戸周辺のものモチーフを異にする独特のものである。
- ・本遺跡の石器の主体を占めるのは、ピエス・エスキュー、石斧、敲石、礫器で、礫石器が主体を占める。
- ・県内では出土例のない石製品が出土した。

番号	出土地点	層位	特徴	地文	胎土	焼成	分類	図版	写真図版
1	第1号土坑	埋土	内面ミガキ	RL横	繊維	良好	II6a	21	8
2	第1号土坑	埋土	内面ミガキ、繩端処理による横位文	LR(O段多条)	繊維	良好	II6a	21	8
3	第1号土坑	埋土		組縄文	繊維	良好	II7	21	8
4	第1号土坑	埋土		LR×RL結束羽状縄文	繊維、沼鉄、粗砂	良好	II4	21	8
6	第2号土坑	埋土	内面ミガキ	LR+RL非結束羽状縄文	繊維少量、細礫	良好	I1b	21	8
8	第2号陥し穴	埋土	内面ミガキ	LR+RL非結束羽状縄文	繊維	良好	I1b	21	8
9	第2号陥し穴	埋土	沈線	LR+RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	良好	I1b	21	8
10	第2号陥し穴	埋土		RL横	繊維	良好	I1b	21	8
11	第3号陥し穴	埋土上位		LR(O段多条)	繊維、粗砂	良好	II6a	21	8
12	第3号陥し穴	埋土上位	沈線		繊維多量	良好	II10	21	8
13	第5号陥し穴	埋土上位		R擦糸文	繊維	良好	II9	21	8
16	p6	埋土		LR	繊維、沼鉄、粗砂	脆弱	II6a	21	8
17	p13	埋土	内面ミガキ	LR(O段多条)	繊維	良好	II6a	21	8
18	p13	埋土	内面ミガキ	LR多軸絡条体	粗砂	良好	IV1	21	8
19	VA5h	IIIb層	口唇部貝殻縁圧痕、口縁部爪形圧痕補修孔、口縁内面も条痕	貝殻縁圧痕、貝殻条痕	繊維少量、粗砂	良好	I2	22	9
20	VA5f	III層	貝殻縁押し引き(圧痕)、貝殻条痕	貝殻縁押し引き(圧痕)	繊維少量、粗砂、細礫	良好	I2	22	9
21	VA5h	IIIb層	貝殻条痕(押し引き)、爪形刺突	貝殻条痕(押し引き)	繊維、粗砂	良好	I2	22	9
22	VA5h	IIIb層	内面ミガキ	貝殻条痕	繊維少量、粗砂	良好	I2	22	9
23	VA5h	IIIb層	沈線、爪形刺突、内面ミガキ	貝殻縁圧痕	繊維少量	良好	I2	22	9
24	VA5g	III層		貝殻縁圧痕文		良好	I2	22	9
25	III B5g	II層	繩端処理?による横位文	RL+LR?(O段多条)	繊維多量、粗砂	脆弱	II5	23	9
26	III B4g	II層		LR(O段多条)	繊維	脆弱	II6a	23	9
27	III B4g	III層上面	口唇部にも縄文施文	LR横	繊維多量、粗砂	良好	II6a	23	9
28	III B6g	III層	口唇部平坦	LR横	繊維、粗砂	良好	II6a	23	9
30	II C8h	II層				良好	II6a	23	9
31	II B9i	III層下位		LR	繊維、粗砂、沼鉄	良好	II6b	24	9
32	III B5f	III層上面	内面ミガキ	組縄文	繊維、粗砂	脆弱	II7	24	9
33	III B4e	III層	丸底風尖底	組縄文	繊維多量、粗砂	脆弱	II7	24	9
34	III B4h	III層	縁位の沈線		繊維	脆弱	II10c	24	9
35	III B5f	II層	尖底	LR	繊維、粗砂	良好	II11	24	9
36	VB5a	IIIb層	尖底	LR(O段多条)	繊維、粗砂、浮石	良好	II11	24	9
37	III B5g	II層	丸底	LR	繊維、粗砂	良好	II11	24	9
38	II B4j	II層	丸底	LR(O段多条)	繊維	良好	II11	24	10
39	III b5j	III層上面	丸底、繩端による刺突	RL	繊維	良好	II11	24	10
40	III B4g	III層	丸底風尖底、乳房状突起	RL	繊維多量、粗砂	脆弱	II11	24	10
41	IV B0c	II層	丸底風尖底	RL	繊維多量	脆弱	II11	24	10
42	III B2g	III層上面	丸底風尖底	LR	繊維多量、粗砂、細礫	脆弱	II11	24	10
43	II C7c	II層	口唇部棒状工具による圧痕、口唇部横位絞絡文、補修孔	LR×RL結束羽状縄文	繊維、粗砂	脆弱	III	25	10
44	II C4a	I層			繊維、粗砂、長石	良好	III	25	10
45	II B7i	II層	内面ミガキ、口唇部肥厚・粘土紐張り付け、体部沈線による肋骨文	LR横	粗砂、細礫	良好	IV3	25	10
46	V B7a	II層	網代痕	RL縦	粗砂	脆弱	IV9	25	10
47	V A8h	I層		L擦糸文	砂	良好	IV9	25	10
48	V A4j	I層		LR横	細礫	良好	IV9	25	10
49	V A6h	IIIb層上面	押型文			良好	I1a	26	10
50	V B6a	IIIb層	篋状工具による刺突と沈線、内面ミガキ	LR+RL非結束羽状縄文	繊維	脆弱	I1b	26	10
51	V A5j	IIIb層	口唇部篋状工具による刺突、沈線	LR	繊維少量、粗砂	良好	I1b	26	10
52	V B4a	IIIa層	篋状工具による左方向からの刺突、沈線	LR+RL非結束羽状縄文	繊維多量	脆弱	I1b	26	10
53	V A2h	II層	篋状工具による押圧、沈線	LR	繊維	良好	I1b	26	10
54	V A3g	III層	篋状工具による押圧、沈線	LR+RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	脆弱	I1b	26	10
55	V A5i	IIIa層	棒状工具による押圧、沈線	RL	繊維、粗砂、細礫	脆弱	I1b	26	10
56	V A5j	III層	口唇部指頭状圧痕、沈線	LR	繊維	脆弱	I1b	26	10
57	V A4g	I層	篋状工具による沈線		繊維	脆弱	I1b	26	10
58	V B2h	III層	沈線	LR	線粗砂、粗砂	良好	I1b	26	10
59	V A5g	III層下位	沈線(浅い)	RL(O段多条)	繊維、粗砂	脆弱	I1b	26	10
60	V A2h	III層	魚骨回転文	LR(O段多条)	繊維	良好	I1b	26	10
61	V A3g	III層	魚骨回転文	LR(O段多条)	繊維、沼鉄	良好	I1b	26	11
62	V A7j	III層	魚骨回転文	LR(O段多条)	繊維、沼鉄	良好	I1b	26	11
63	V B3a	IIIb層	沈線	LR+RL非結束羽状縄文	繊維少量、粗砂	良好	I1b	26	11
64	V A3j	IIIb層	両方ともO段多条、内面ミガキ	LR+RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	良好	I1b	26	11
65	V A6j	IIIb層	LRはO段多条、内面ミガキ	LR+RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	良好	I1b	26	11
66	V B5a	IIIb層	LRはO段多条	LR+RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	良好	I1b	26	11
67	V B6a	IIIb層	内面ミガキ	LR+RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	良好	I1b	26	11
68	V A6j	IIIb層	内面ミガキ	LR+RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	良好	I1b	26	11
69	V B6a	IIIb層下位	内面ミガキ	LR+RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	脆弱	I1b	26	11
70	III B6f	IIIb層		LR+RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	良好	I1b	26	11
71	V A6j	IIIb層	両方ともO段多条	LR+RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	良好	I1b	26	11
72	V A7a	IIIb層	篋状工具による刺突、内面貝殻条痕	貝殻縁圧痕文	細礫	良好	I2	26	11

第9表 土器観察表(1)

番号	出土地点	層位	特徴	地文	胎土	焼成	分類	図版	写真図版
73	V A6f	Ⅲ層	篋状工具による刺突、内面貝殻条痕	貝殻腹縁圧痕文	細礫	良好	I 2	26	11
74	V A6g	Ⅲ層	篋状工具による刺突、内面貝殻条痕	貝殻腹縁圧痕文	細礫	良好	I 2	26	11
75	V A4i	Ⅱ層		貝殻腹縁圧痕文	細礫	脆弱	I 2	26	11
76	V B6a	Ⅲb層下位	貝殻押し引きによる幾何文		細礫	良好	I 2	26	11
77	V A6a	Ⅱb層	沈線、円形竹管刺突、口唇端刻み目		繊維	脆弱	I 2	26	11
78	V A4g	Ⅲ層	沈線、円形竹管刺突、口唇端刻み目		繊維	脆弱	I 2	26	11
79	V A4g	I層	沈線、円形竹管刺突		繊維	脆弱	I 2	26	11
80	V A8j	Ⅲ層	篋状工具による沈線		繊維	脆弱	I 2	26	11
81	V A3g	Ⅲ層	円形竹管刺突		繊維	脆弱	I 2	26	11
82	V A5h	Ⅲb層	貝殻条痕	無文	沼鉄	脆弱	I 2	26	11
83	IV B1b	Ⅱ層	口唇部指頭状圧痕	LR	繊維	良好	I 3	27	11
84	IV B0c	I層	内面にも同一原体で施文	LR	粗砂	良好	I 3	27	11
85	Ⅲ B5g	Ⅱ層	コンパス文、棒状工具による刺突		繊維少量	良好	Ⅱ1	27	11
86	Ⅲ B5g	Ⅱ層	コンパス文、棒状工具による刺突	RL+LR横	繊維	良好	Ⅱ1	27	11
87	Ⅲ B5f	Ⅲ層上面		LR+RL	繊維、粗砂	良好	Ⅱ1	27	11
88	Ⅲ B4e	Ⅲ層上面	棒状工具による刺突	LR+RL横	繊維	良好	Ⅱ1	27	11
89	Ⅱ B4c	I層	篋状工具による爪形刺突		繊維	良好	Ⅱ1	27	11
90	Ⅲ B3g	Ⅱ層	篋状工具による刺突		繊維	脆弱	Ⅱ1	27	11
91	Ⅲ B3g	I層	円形竹管刺突、縦位沈線		繊維多量、粗砂	脆弱	Ⅱ2	27	11
92	Ⅲ B4g	I層	円形竹管刺突、沈線		繊維、粗砂	脆弱	Ⅱ2	27	11
93	Ⅲ B0g	Ⅱ層	半截竹管による刺突、口唇部平坦	RL	繊維、粗砂	良好	Ⅱ2	27	12
94	Ⅱ B6g	黒色土	口唇部指頭による押圧、ループ文	RL横(O段多条)	繊維、沼鉄	良好	Ⅱ3	27	12
95	Ⅱ B9i	Ⅱ層下位	口唇部平坦	RL横(O段多条)	繊維、粗砂	良好	Ⅱ3	27	12
96	Ⅱ B9g	Ⅱ層上面	ループ文	LR横	繊維、粗砂	良好	Ⅱ3	27	12
97	Ⅱ B8j	Ⅱ層	ループ文	LR横(O段多条)	繊維多量、粗砂	良好	Ⅱ3	27	12
98	Ⅲ B5f	I層	ループ文	LR横(O段多条)	繊維、沼鉄、細礫	脆弱	Ⅱ3	27	12
99	Ⅱ B8j	Ⅲ層	LRはO段多条	LR×RL結束羽状縄文	繊維、砂	脆弱	Ⅱ4	27	12
100	Ⅲ B8c	Ⅲ層	両方ともO段多条、口唇部平坦	LR×RL結束羽状縄文	繊維	良好	Ⅱ4	27	12
101	Ⅲ B4g	Ⅱ層		LR×RL結束羽状縄文	繊維、粗砂	良好	Ⅱ4	27	12
102	Ⅱ B9h	Ⅱ層	口唇部平坦	LR×RL結束羽状縄文	繊維、細礫	脆弱	Ⅱ4	27	12
103	Ⅱ C8h	Ⅱ層	LRはO段多条	LR×RL結束羽状縄文	繊維、粗砂、細礫	脆弱	Ⅱ4	27	12
104	Ⅱ B9j	Ⅱ層	両方ともO段多条、口唇部丸み	LR×RL非結束羽状縄文	繊維、細礫	脆弱	Ⅱ5	27	12
105	Ⅱ B9i	Ⅱ層	両方ともO段多条、口唇部平坦、内面ナデ	LR×RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	良好	Ⅱ5	27	12
106	Ⅲ B9c	Ⅲ層	両方ともO段多条、縄端処理、内面ナデ	LR×RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	脆弱	Ⅱ5	27	12
107	Ⅲ B0g	Ⅱ層	口唇部断面やや内削ぎ状	LR×RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	良好	Ⅱ5	27	12
108	Ⅲ B6g	Ⅱ層	両方ともO段多条	LR×RL非結束羽状縄文	繊維、沼鉄、粗砂	脆弱	Ⅱ5	27	12
109	Ⅲ B4g	Ⅲ層上面	両方ともO段多条、口唇部断面やや削ぎ状	LR×RL非結束羽状縄文	繊維、粗砂	脆弱	Ⅱ5	27	12
110	Ⅱ B9i	Ⅱ層下位	口唇部平坦	RL	繊維、粗砂	良好	Ⅱ6a	28	12
111	Ⅲ B3h	Ⅱ層	口唇部平坦	RL	繊維、砂、粗砂	脆弱	Ⅱ6a	28	12
112	Ⅲ B0g	Ⅱ層	口唇部平坦	RL(O段多条)	繊維、砂、粗砂	良好	Ⅱ6a	28	12
113	Ⅲ B5g	Ⅱ層	口唇部平坦	RL	繊維、粗砂	良好	Ⅱ6a	28	12
114	Ⅲ B4h	Ⅱ層	口唇部にも縄文施文、口縁部無文部有	RL横	繊維、粗砂	良好	Ⅱ6a	28	12
115	Ⅲ B8g	I層	口唇部縄文施文、縄端処理、口縁部無文部有	RL横(O段多条)	繊維、砂	良好	Ⅱ6a	28	12
116	Ⅲ B3f	Ⅲ層上面	縄端処理による横位文、口縁部無文部有	RL(O段多条)	繊維、粗砂	脆弱	Ⅱ6a	28	12
117	Ⅲ B5f	Ⅱ層	口縁部無文部有、口唇部断面やや外削ぎ状	RL(O段多条)	繊維、粗砂	脆弱	Ⅱ6a	28	12
118	Ⅲ B4g	Ⅲ層上面	口唇部断面やや内削ぎ状	RL	繊維、粗砂	脆弱	Ⅱ6a	28	12
119	Ⅱ C4c	Ⅱ層	口唇部断面やや内削ぎ状	RL	繊維粗砂、粗砂	脆弱	Ⅱ6a	28	12
120	Ⅲ D0c	Ⅱ層	口唇部断面やや外削ぎ状	RL横	繊維少量、粗砂	良好	Ⅱ6a	28	12
121	Ⅲ B4g	Ⅲ層上面	縄端処理による横位文	RL横	繊維、沼鉄	脆弱	Ⅱ6a	28	12
122	Ⅲ B0g	Ⅱ層	縄端処理による横位文	RL横(O段多条)	繊維	脆弱	Ⅱ6a	28	12
123	Ⅲ B3g	Ⅲ層上面	縄端処理による横位文、口唇部平坦	RL	繊維	良好	Ⅱ6a	28	12
124	Ⅲ B8e	Ⅱ層	縄端処理による横位文、口唇部平坦		繊維、粗砂	脆弱	Ⅱ6a	28	12
125	Ⅱ C8g	Ⅱ層	ループ文、口唇部平坦	RL	繊維、粗砂	脆弱	Ⅱ6a	28	13
126	Ⅱ C8h	Ⅱ層		RL	繊維	脆弱	Ⅱ6a	28	13
127	Ⅲ B6c	Ⅱ層	口唇部断面丸み	RL	繊維、粗砂	良好	Ⅱ6a	28	13
128	Ⅱ C8h	Ⅱ層	口唇部断面先細り	RL横	繊維、粗砂	良好	Ⅱ6a	28	13
129	Ⅲ B4g	Ⅲ層上面		RL	繊維、細礫	脆弱	Ⅱ6a	28	13
130	Ⅲ B0g	Ⅱ層	丸底	RL	繊維、沼鉄、粗砂	脆弱	Ⅱ6a	28	13
131	Ⅲ B6f	Ⅲ層上面	口縁部緩い波状、口唇部断面平坦	LR(O段多条)	繊維、粗砂	脆弱	Ⅱ6a	29	13
132	Ⅲ B3g		口唇部平坦	LR(O段多条)	繊維	脆弱	Ⅱ6a	29	13
133	IV B0c	Ⅱ層	口唇部平坦	LR横(O段多条)	繊維、粗砂	良好	Ⅱ6a	29	13
134	Ⅲ B0h	Ⅱ層	口唇部やや丸み	LR?(O段多条)	繊維、粗砂	脆弱	Ⅱ6a	29	13
135	Ⅱ C8g	Ⅱ層		LR(O段多条)	繊維、粗砂	良好	Ⅱ6a	29	13
136	Ⅲ B6g	Ⅱ層		LR(O段多条)	繊維、粗砂	良好	Ⅱ6a	29	13
137	Ⅲ B6e	I層	口唇部ほぼ平坦、内面条痕	LR(O段多条)	繊維、粗砂	脆弱	Ⅱ6a	29	13
138	Ⅲ B4g	Ⅲ層上面	口唇部断面やや内削ぎ状	LR横(O段多条)	繊維	脆弱	Ⅱ6a	29	13
139	Ⅱ C8a	Ⅱ層	口唇部断面やや内削ぎ状	LR	繊維、沼鉄	脆弱	Ⅱ6a	29	13

第10表 土器観察表(2)



番号	出土地点	層位	特徴	地文	胎土	焼成	分類	図版	写真図版
140	III B5f	III層上面	口唇部断面やや外削ぎ状	LR	繊維、粗砂、細礫	良好	II6a	29	13
141	III B6f	III層	口縁部無文部有、口唇部断面やや外削ぎ状	LR横(O段多条)	繊維	良好	II6a	29	13
142	V A区	I層	波状口縁、口唇部断面丸み	LR横(O段多条)		良好	II6a	29	13
143	III B3g		口唇部断面丸み	LR横(O段多条)	粗砂、繊維	良好	6a	29	13
144	V A2h	II層	口唇部断面先細り	LR(O段多条)	繊維	脆弱	II6a	29	13
145	II B5i	II層	台状口縁? 内面状痕	LR縦	繊維、粗砂	良好	II6a	29	13
146	III B7c	II層	ループ文	LR横(O段多条)	繊維、粗砂	脆弱	II6a	29	13
147	III B6e	II層	ループ文	LR横(O段多条)	繊維	脆弱	II6a	29	13
148	III B9f	II層	口唇部平坦	LR横	繊維、沼鉄、粗砂	脆弱	II6a	29	13
149	III B6f	II層		LR	繊維、沼鉄	脆弱	II6a	29	13
150	II B8j	III層	口唇部平坦	LR	繊維、粗砂	良好	II6a	29	13
151	III B5g	III層	口唇部平坦	LR(O段多条)	繊維、粗砂	良好	II6a	29	13
152	II C8g	II層	横位綾絡文(編端処理)	LR横	繊維多量、粗砂	良好	II6a	29	13
153	II C8g	II層	横位綾絡文(編端処理)	LR横	繊維、粗砂	良好	II6a	29	14
154	III B2g	III層上面		LR(O段多条)	繊維、沼鉄	脆弱	II6b	29	14
155	II c7a	III層	ループ文、口唇部平坦	LRL	繊維、粗砂	脆弱	II6a	30	14
156	III B6f	II層	口唇部平坦	RLR	繊維	脆弱	II6a	30	14
157	III B5f	I層	口唇部丸み	RLR	繊維、砂、粗砂	良好	II6a	30	14
158	II B6g	黒色土	口唇部平坦	RL	繊維、粗砂、細礫	良好	II6a	30	14
159	II B9f	II層	口唇部平坦、内面ナデ	LR(O段多条)にL付加	繊維、粗砂	良好	II6a	30	14
160	II B6f	I層		LR(O段多条)	繊維、粗砂	脆弱	II6b	30	14
161	II B2g	III層上面	口唇部丸み	LR(O段多条)	繊維、粗砂	脆弱	II6b	30	14
162	IV B0b	II層	口唇部丸み	LR(O段多条)	繊維、沼鉄	脆弱	II6b	30	14
163	IV A4j	黒色土(黒木漬)	口唇を平坦にした後面取り	LR(O段多条)	繊維、粗砂	良好	II6b	30	14
164	III B5g	II層	口唇部やや丸み	LR(O段多条)	繊維、沼鉄	良好	II6b	30	14
165	III B6g	II層		LR?	繊維、粗砂	脆弱	II6b	30	14
166	III B5f	II層		LR	繊維	良好	II6b	30	14
167	III B8f	II層	口唇部平坦	LR(O段多条)	繊維、砂	脆弱	II6b	30	14
168	III B6e	II層	口縁部無文部有、口唇部平坦	LR横・縦羽状縄文	繊維、粗砂	良好	II6b	30	14
169	III B6d	III層上面		RL	繊維、粗砂	脆弱	II6b	30	14
170	III B4g	III層上面	口唇部やや丸み	LR(O段多条)	繊維、粗砂	良好	II6b	30	14
171	III B8g	III層		LR	繊維多量	良好	II6b	30	14
172	II C8f	II層		LR縦・横、羽状~菱形	繊維、砂	脆弱	II6b	30	14
173	III B5f	I層		RL	繊維、沼鉄、粗砂	良好	II6a	30	14
174	III B7c	III層	口唇部やや平坦	RL	繊維多量	脆弱	II6b	30	14
175	III B3h	III層上面	口唇部断面やや内削ぎ状	RL	繊維、粗砂	脆弱	II6b	30	14
176	III B6f	III層上面	口唇部平坦	RL(O段多条)	繊維、沼鉄	脆弱	II6b	30	14
177	III B4g	III層上面	口唇部丸み	RL	繊維、粗砂、細礫	脆弱	II6b	30	14
178	III B8f	I層		RLR	繊維	脆弱	II6b	30	14
179	III B5f	I層	口唇部平坦	RLR	繊維、粗砂	脆弱	II6b	30	14
180	III B0g	II層	口唇部平坦	RLR	繊維、粗砂	良好	II6b	30	15
181	III B4f	I層	口唇部やや丸み	RLR	繊維、砂、粗砂	良好	II6b	30	15
182	III B6f	III層	口唇部平坦	RLR	繊維	良好	II6b	30	15
183	III B6e	II層	口唇部平坦、補修孔	組縄文	繊維、粗砂	脆弱	II7	31	15
184	III B6e	II層	口唇部平坦	組縄文	繊維	良好	II7	31	15
185	III B6g	II層	口唇部平坦、内面ミガキ	組縄文	繊維、粗砂	良好	II7	31	15
186	III B8f	II層	口唇部平坦、内面ミガキ	組縄文?	繊維、沼鉄、粗砂	良好	II7	31	15
187	II C7c	II層	口唇部平坦	組縄文?	繊維、砂、粗砂	良好	II7	31	15
188	III B5g	II層	口唇部平坦、口縁部無文部有	組縄文?	繊維、粗砂、細礫	脆弱	II7	31	15
189	II B9g	II層上面	山形突起、口唇部平坦	組紐	繊維、沼鉄	良好	II8	31	15
190	III B3h	II層	山形突起、口唇部平坦	組紐	繊維少量、沼鉄	良好	II8	31	15
191	III B0h	II層	口唇部平坦	組紐	繊維、砂、沼鉄	良好	II8	31	15
192	III B4h	III層上面		R?燃糸文	繊維、粗砂	脆弱	II9	31	15
193	III B5g	III層上面		R?燃糸文	繊維	脆弱	II9	31	15
194	III B4h	III層上面	口唇部平坦	R?燃糸文	繊維、粗砂	脆弱	II9	31	15
195	III B3g	III層上面		R燃糸文	繊維、粗砂	脆弱	II9	31	15
196	II C8a	II層	L燃糸文、結節回転文	LR	繊維、粗砂	脆弱	II9	31	15
197	V A3a	II a層	R2条木目状燃糸文	LR	繊維、粗砂、細礫	脆弱	II9	31	15
198	II B4j	II層黒色土	L側面圧痕		繊維、粗砂	良好	II10a	31	15
199	II B8j	II層下位	L側面圧痕		繊維、粗砂	脆弱	II10a	31	15
200	III B5f	II層	押型文		繊維	脆弱	II10b	31	15
201	III B5g	II層	押型文		繊維	脆弱	II10b	31	15
202	III B1i	III層	半截竹管状工具による沈線		繊維	脆弱	II10c	31	15
203	III B0e	I層	繊維		繊維、粗砂	脆弱	II10c	31	15
204	V A2j	III a層		無文	繊維、粗砂	良好	II10d	31	15
205	V A6j	III b層	両方ともO段多条、結節回転文	LR×RL結束羽状縄文	繊維多量、粗砂	良好	II10e	31	15
206	IV B1b	II層	口唇部丸み	LR	繊維、粗砂、細礫	脆弱	II10f	32	16

第11表 土器観察表(3)

番号	出土地点	層位	特徴	地文	胎土	焼成	分類	図版	写真図版
207	Ⅲ B6g	Ⅲ層	丸底風尖底	RL	繊維	良好	Ⅱ11	32	16
208	Ⅲ B3g	Ⅱ層	丸底風尖底	LR(O段多条)	繊維、細礫	脆弱	Ⅱ11	32	16
209	Ⅲ B4h	Ⅱ層	丸底風尖底	LR	繊維、粗砂	良好	Ⅱ11	32	16
210	Ⅲ B6f	Ⅱ層	乳房状突起		繊維	良好	Ⅱ11	32	16
211	Ⅲ B5f	Ⅰ層	丸底	RL	繊維、細礫	良好	Ⅱ11	32	16
212	Ⅱ D6g	Ⅱ層	丸底風尖底	LR	繊維	脆弱	Ⅱ11	32	16
213	Ⅱ D5e	Ⅱ層	丸底風尖底	LR	繊維	脆弱	Ⅱ11	32	16
214	Ⅱ C8h	Ⅱ層	丸底風尖底		繊維	脆弱	Ⅱ11	32	16
215	Ⅲ B8e	Ⅱ層	丸底風尖底、乳房状突起	組縄文	繊維	脆弱	Ⅱ11	32	16
216	Ⅱ C8h	Ⅲ層		多軸絡条体	粗砂	脆弱	Ⅳ1	32	16
217	Ⅱ C5e	Ⅰ層	複合口縁	LR(O段多条)	粗砂	良好	Ⅳ2	32	16
218	Ⅱ C7c	Ⅱ層	渦巻文、沈線		砂、粗砂	脆弱	Ⅳ4	32	16
219	Ⅱ B5j	Ⅰ層	渦巻文、沈線		砂、粗砂	脆弱	Ⅳ4	32	16
220	Ⅱ B5j	Ⅰ層	磨消縄文、竹管刺突	RL(O段多条)		脆弱	Ⅳ5	32	16
221	Ⅱ B5j	Ⅰ層	竹管刺突、沈線			脆弱	Ⅳ5	32	16
222	Ⅱ C5a	Ⅰ層	竹管刺突、沈線			脆弱	Ⅳ5	32	16
223	V A区	Ⅰ層	沈線	LR		良好	Ⅳ6	32	16
224	Ⅳ A0g	Ⅰ層	沈線、内面ミガキ	LR	粗砂	脆弱	Ⅳ6	32	16
225	V B4a	Ⅰ層	沈線、口唇部にも施文	RL横	粗砂	良好	Ⅳ7	32	16
226	V B区	表探	沈線、内面ミガキ		粗砂	良好	Ⅳ7	32	16
227	V A6i	Ⅱa層	沈線、口縁部無文、内面ミガキ	燃糸文?	粗砂	良好	Ⅳ7	32	16
228	不明	表探	沈線	LR横	粗砂	良好	Ⅳ7	32	16
229	Ⅱ B6h	Ⅱ層	輪積み痕	無文	沼鉄	良好	Ⅳ8	32	16
230	Ⅱ B6h	Ⅱ層	輪積み痕	無文	粗砂	良好	Ⅳ8	32	16
231	Ⅱ C5f	Ⅱ層	平底	多軸絡条体	粗砂	脆弱	Ⅳ9	32	16
232	Ⅱ D5h	Ⅰ層	平底	LR	粗砂、細礫	脆弱	Ⅳ9	32	16
233	Ⅱ C8g		平底	無文	粗砂	良好	Ⅳ9	32	16
234	Ⅱ C5a	Ⅱ層黒色土	平底、縄端処理	LR	粗砂、細礫	良好	Ⅳ9	32	16
235	Ⅱ B8g	Ⅰ層	平底、底面網代痕	RL		良好	Ⅳ9	32	16
236	V B7a	Ⅱ層	平底、底面網代痕		粗砂	脆弱	Ⅳ9	32	16

第12表 土器観察表(4)

報告書番号	登録番号	器種	出土地点	層位	分類	石質	産地	生成年代	長さ	幅	厚さ	重量	図版	写真図版
5	3	ピエス・エスキュー	第1号土坑	埋土	Ⅲ	珪質泥岩	北上産地	中生界	1.6	1.5	0.4	1.13	21	8
7	4	石斧	第1号陥し穴	埋土上位	Ⅳ	ホルンフェルス	北上産地	中生界	8.95	4.65	1.6	80.67	21	8
14	1	不定形石器	第6号陥し穴	底面	Ⅱ	チャート質粘板岩	北上産地	中生界	2.7	2.65	1.0	5.58	21	8
15	2	ピエス・エスキュー	第6号陥し穴	底面	Ⅱ	珪質泥岩	北上産地	中生界	6.75	2.1	1.5	18.18	21	8
237	19	石鏃	Ⅲ B4f	Ⅱ層	Ⅰ	珪質泥岩	北上産地	中生界	1.55	1.2	0.2	0.44	33	17
238	17	石鏃	Ⅲ B4f	Ⅱ層	Ⅰ	珪質泥岩	北上産地	中生界	1.8	1.25	0.35	0.76	33	17
239	23	石鏃	Ⅲ B5g	Ⅱ層	Ⅰ	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	2.45	1.35	0.35	1.16	33	17
240	9	石鏃	Ⅲ B3f	Ⅰ層	Ⅰ	チャート	北上産地	中生界	2.2	1.5	0.4	1.08	33	17
241	27	石鏃	Ⅲ B9g	Ⅱ層	Ⅰ	チャート	北上産地	中生界	2.4	1.4	0.3	1.05	33	17
242	16	石鏃	Ⅲ B4h	Ⅲ層	Ⅰ	珪質泥岩	北上産地	中生界	2.5	1.3	0.3	0.81	33	17
243	6	石鏃	Ⅲ B区	表探	Ⅰ	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	2.6	1.4	0.4	0.99	33	17
244	12	石鏃	Ⅲ B3h	Ⅱ層	Ⅰ	凝灰質泥岩	北上産地	中生界	2.55	1.2	0.3	0.60	33	17
245	13	石鏃	Ⅲ B4g	Ⅲ層上面	Ⅰ	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	2.2	1.55	0.2	1.07	33	17
246	18	石鏃	Ⅲ B4f	Ⅰ層	Ⅰ	凝灰質泥岩	北上産地	中生界	2.55	1.9	0.35	1.72	33	17
247	21	石鏃	Ⅲ B4f	Ⅲ層上面	Ⅰ	チャート	北上産地	中生界	1.6	1.1	0.3	0.60	33	17
248	26	石鏃	Ⅲ B8h	Ⅲ層	Ⅰ	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	1.95	1.2	0.4	1.29	33	17
249	14	石鏃	Ⅲ B4g	Ⅱ層	Ⅰ	粘板岩	北上産地	中生界	2.2	1.35	0.3	0.80	33	17
250	8	石鏃	Ⅲ B3f	Ⅲ層	Ⅰ	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	2.0	1.4	0.3	0.93	33	17
251	25	石鏃	Ⅲ B7e	Ⅱ層	Ⅰ	凝灰質泥岩	北上産地	中生界	2.25	1.4	0.4	1.19	33	17
252	22	石鏃	Ⅲ B4f	Ⅱ層	Ⅰ	流紋岩質極粒凝灰岩	北上産地	中生界	2.2	1.3	0.35	0.96	33	17
253	7	石鏃	Ⅱ C区	表探	Ⅰ	緑色細粒凝灰岩	北上産地	中生界	2.15	1.4	0.3	0.86	33	17
254	24	石鏃	Ⅲ B6g	Ⅱ層	Ⅰ	粘板岩	北上産地	中生界	2.4	1.25	0.2	0.82	33	17
255	15	石鏃	Ⅲ B4h	Ⅰ層	Ⅰ	凝灰質泥岩	北上産地	中生界	2.25	1.5	0.55	1.54	33	17
256	29	石鏃	Ⅲ D区	表探	Ⅰ	粘板岩	北上産地	中生界	2.65	1.35	0.35	1.69	33	17
257	20	石鏃	Ⅲ B4f	Ⅱ層	Ⅰ	チャート	北上産地	中生界	1.8	1.25	0.3	1.23	33	17
258	10	石鏃	Ⅲ B3g	Ⅱ層	Ⅰ	粘板岩	北上産地	中生界	3.05	1.55	0.35	1.44	33	17
259	11	石鏃	Ⅲ B3h	Ⅲ層	Ⅰ	流紋岩質極粒凝灰岩	北上産地	中生界	2.15	1.4	0.35	0.55	33	17
260	28	石鏃	Ⅲ C区	表探	Ⅰ	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	2.25	1.6	0.35	1.20	33	17
261	30	石鏃	Ⅲ B1i	Ⅲ層	Ⅱ	珪質泥岩	北上産地	中生界	1.5	1.45	0.35	0.72	33	17
262	34	石鏃	Ⅳ B区	表探	Ⅱ	凝灰質泥岩	北上産地	中生界	2.2	1.4	0.4	1.15	33	17
263	33	石鏃	V A8g	Ⅰ層	Ⅱ	流紋岩質極粒凝灰岩	北上産地	中生界	2.35	1.3	0.45	1.14	33	17
264	31	石鏃	Ⅲ B4g	Ⅰ層	Ⅱ	流紋岩質極粒凝灰岩	北上産地	中生界	2.45	1.3	0.45	0.50	33	17
265	32	石鏃	Ⅲ B6g	Ⅱ層	Ⅱ	凝灰質泥岩	北上産地	中生界	3.1	1.45	0.4	1.09	33	17
266	35	石鏃	Ⅲ B区	表探	Ⅲ	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	2.8	1.2	0.5	1.55	33	17
267	36	石鏃	Ⅲ C区	表探	Ⅲ	チャート質粘板岩	北上産地	中生界	2.9	1.2	0.35	0.95	33	17
268	37	石鏃	Ⅲ B0f	Ⅰ層	Ⅲ	粘板岩	北上産地	中生界	(2.6)	1.5	0.45	(1.98)	33	17
269	38	石鏃	Ⅲ B3f	Ⅲ層上面	Ⅳ	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	1.7	1.2	0.3	0.51	33	17
270	39	石鏃	V A6i	Ⅲ層	V	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	3.4	1.0	0.5	1.50	33	17
271	40	石鏃	Ⅳ B3g			チャート	北上産地	中生界	2.95	0.85	0.3	1.28	33	17
272	41	石鏃	Ⅳ B1c	Ⅱ層		チャート質粘板岩	北上産地	中生界	4.2	2.25	0.45	6.30	33	17
273	50	石匙	Ⅲ B4h	Ⅲ層	Ⅰ a	チャート質粘板岩	北上産地	中生界	4.1	1.7	0.75	4.84	33	17
274	42	石匙	Ⅱ B1b	Ⅱ層	Ⅰ a	珪質泥岩	北上産地	中生界	4.5	1.5	0.55	2.50	33	17
275	51	石匙	Ⅱ B4j	Ⅰ層	Ⅰ a	粘板岩	北上産地	中生界	4.8	2.1	0.6	5.32	33	17
276	46	石匙	Ⅲ B4f	表探	Ⅰ a	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	4.95	2.55	0.6	6.23	34	17
277	48	石匙	Ⅲ B4g	Ⅰ層	Ⅰ a	硬質泥岩	北上産地	中生界	4.35	2.7	0.75	5.32	34	17
278	44	石匙	Ⅱ B6j	Ⅰ層	Ⅰ a	凝灰質泥岩	北上産地	中生界	5.2	2.5	0.7	6.92	34	17
279	43	石匙	Ⅱ B6j	Ⅰ層	Ⅰ a	チャート質粘板岩	北上産地	中生界	5.05	2.45	0.7	7.45	34	17
280	49	石匙	Ⅲ B4g	Ⅰ層	Ⅰ a	粘板岩	北上産地	中生界	(4.0)	1.9	0.6	(4.67)	34	17
281	52	石匙	Ⅲ B3g	Ⅰ層	Ⅰ a	珪質泥岩	北上産地	中生界	5.15	2.4	0.6	5.01	34	18
282	47	石匙	Ⅲ B3g	Ⅰ層	Ⅰ a	珪質泥岩	北上産地	中生界	5.5	1.9	0.65	6.53	34	18
283	45	石匙	Ⅱ B9g	Ⅰ層	Ⅰ a	珪質泥岩	北上産地	中生界	6.4	2.0	0.6	7.41	34	18
284	53	石匙	V A区	Ⅰ層	Ⅰ a	珪質泥岩	北上産地	中生界	7.3	3.0	1.0	17.82	34	18
285	61	石匙	Ⅲ B6g	Ⅲ層	Ⅰ b	流紋岩質極粒凝灰岩	北上産地	中生界	4.7	0.7	0.7	5.37	34	18
286	55	石匙	Ⅲ A2f	Ⅰ層	Ⅰ b	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	3.7	2.55	0.7	4.20	34	18
287	58	石匙	Ⅲ B4g	Ⅰ層	Ⅰ b	チャート質粘板岩	北上産地	中生界	4.3	2.55	0.95	10.18	34	18
288	56	石匙	Ⅲ B2h	Ⅲ層上面	Ⅰ b	珪質泥岩	北上産地	中生界	3.2	1.65	0.8	3.74	34	18
289	54	石匙	Ⅲ B区	表探	Ⅰ b	珪質泥岩	北上産地	中生界	4.1	2.45	0.8	7.05	34	18
290	59	石匙	Ⅲ B4g	Ⅰ層	Ⅰ b	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	5.65	2.7	0.9	9.10	34	18
291	57	石匙	Ⅲ B2h	Ⅰ層	Ⅰ b	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	(5.9)	2.5	0.6	(8.75)	34	18
292	63	石匙	V A5j	Ⅱ a層	Ⅰ b	珪質泥岩	北上産地	中生界	6.7	3.5	0.9	12.85	34	18
293	60	石匙	Ⅲ B6g	Ⅲ層	Ⅰ b	珪質泥岩	北上産地	中生界	11.45	4.15	2.0	35.17	34	18
294	62	石匙	Ⅲ B7e	Ⅱ層	Ⅰ b	チャート質粘板岩	北上産地	中生界	6.05	2.5	0.9	13.56	34	18
295	65	石匙	Ⅲ B6g	Ⅱ層	Ⅱ	珪質泥岩	北上産地	中生界	2.5	3.5	0.3	3.32	34	18
296	67	石篋	Ⅱ B7j	Ⅲ層		流紋岩質極粒凝灰岩	北上産地	中生界	3.8	3.3	1.1	16.85	35	19
297	64	石篋	Ⅲ B5g	Ⅲ層		チャート質粘板岩	北上産地	中生界	(4.1)	3.25	0.8	(11.34)	35	19
298	66	石篋	Ⅲ B0f	Ⅰ層		硬質泥岩	北上産地	中生界	5.2	3.7	1.2	22.84	35	19
299	68	石篋	Ⅲ B7j	Ⅲ層		粘板岩	北上産地	中生界	5.7	3.9	1.3	34.43	35	19
300	69	不定形石器	Ⅲ C区	表探	Ⅰ	粘板岩	北上産地	中生界	2.9	1.65	0.65	2.96	35	19
301	70	不定形石器	Ⅱ C8b	Ⅱ層	Ⅰ	硬質泥岩	北上産地	中生界	3.2	1.9	0.75	4.70	35	19
302	73	不定形石器	Ⅲ B6e	Ⅱ層	Ⅰ	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	3.3	2.15	0.6	5.23	35	19

第13表 石器一覽表(1)

報告書番号	登録番号	器種	出土地点	層位	分類	石質	産地	生成年代	長さ	幅	厚さ	重量	図版	写真図版
303	72	不定形石器	III B4g	II層	I	緑色細粒凝灰岩	北上産地	中生界	4.05	2.0	0.5	4.83	35	19
304	71	不定形石器	III B3h	III層	I	粘板岩	北上産地	中生界	3.5	2.9	0.75	7.40	35	19
305	75	不定形石器	III C区	表探	II	流紋岩質極粒凝灰岩	北上産地	中生界	3.0	1.3	0.5	2.14	35	19
306	74	不定形石器	III B6f	II層	II	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	4.15	2.7	0.6	7.01	35	19
307	76	不定形石器	III B2i	III層	II	チャート	北上産地	中生界	4.2	2.3	0.8	6.27	35	19
308	77	不定形石器	III B3g	II層	II	珪質泥岩	北上産地	中生界	4.05	2.15	0.7	5.64	35	19
309	78	不定形石器	III B7e	II層	II	チャート	北上産地	中生界	3.95	2.6	0.45	5.23	35	19
310	79	不定形石器	IV B8e	II層	II	硬質泥岩	北上産地	中生界	4.0	2.6	0.6	5.39	35	19
311	81	不定形石器	V A区	I層	II	チャート質粘板岩	北上産地	中生界	2.7	2.75	0.9	6.26	35	19
312	82	不定形石器	V B4a	I層	II	珪質泥岩	北上産地	中生界	3.7	3.0	1.2	15.19	35	19
313	80	不定形石器	III B4g	II層	II	珪質泥岩	北上産地	中生界	6.1	2.5	1.2	7.63	35	19
314	85	不定形石器	IV A4j	II層	II	珪質泥岩	北上産地	中生界	2.9	1.2	0.7	2.83	35	19
315	84	不定形石器	III B5g	III層	II	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	3.0	2.1	0.45	3.38	35	19
316	83	不定形石器	II C6f	II層	II	珪質泥岩	北上産地	中生界	2.9	3.0	0.45	3.82	35	19
317	86	不定形石器	IV B1b	III層	II	粘板岩	北上産地	中生界	3.0	3.2	1.15	12.67	35	20
318	89	不定形石器	II B6f	II層	II	硬質泥岩	北上産地	中生界	2.8	2.2	0.8	3.10	36	20
319	87	不定形石器	III B4g	I層	II	チャート質粘板岩	北上産地	中生界	3.55	2.0	0.6	4.38	36	20
320	88	不定形石器	III B6f	III層	II	流紋岩質極粒凝灰岩	北上産地	中生界	3.9	1.6	0.5	2.27	36	20
321	92	不定形石器	III C区	表探	II	凝灰質粘板岩	北上産地	中生界	2.9	2.95	0.9	8.32	36	20
322	90	不定形石器	III B0e	I層	II	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	3.8	3.4	0.7	12.05	36	20
323	91	不定形石器	III B4g	III層	II	粘板岩	北上産地	中生界	4.6	3.8	0.95	17.64	36	20
324	97	ピエス・エスキュー	III B3g	II層	I	チャート	北上産地	中生界	1.9	1.15	0.55	1.43	36	20
325	103	ピエス・エスキュー	III B4f	II層	I	チャート	北上産地	中生界	2.95	2.0	0.8	5.66	36	20
326	110	ピエス・エスキュー	III B5d	II層	I	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	2.82	2.0	0.83	(5.30)	36	20
327	109	ピエス・エスキュー	III B5d	II層	I	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	2.85	2.2	0.9	(5.26)	36	20
328	105	ピエス・エスキュー	III B4g	III層上面	I	凝灰質粘板岩	北上産地	中生界	3.4	2.2	0.7	5.25	36	20
329	93	ピエス・エスキュー	II C8f	II層	I	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	3.65	3.0	0.8	9.62	36	20
330	113	ピエス・エスキュー	V A1i	I層	I	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	3.7	2.2	1.1	12.50	36	20
331	95	ピエス・エスキュー	III B0f	I層	I	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	3.05	3.2	1.3	11.66	36	20
332	102	ピエス・エスキュー	III B4f	III層上面	I	チャート	北上産地	中生界	4.4	3.6	1.7	26.37	36	20
333	101	ピエス・エスキュー	III B4e	II層	I	チャート	北上産地	中生界	5.4	3.9	2.0	37.90	36	20
334	108	ピエス・エスキュー	II D5a	I層	I	極細粒凝灰岩	北上産地	中生界	1.9	2.3	0.92	(4.23)	36	20
335	96	ピエス・エスキュー	III B0f	I層	I	凝灰質粘板岩	北上産地	中生界	2.1	2.8	0.9	4.62	36	20
336	112	ピエス・エスキュー	III C区	表探	I	硬質泥岩	北上産地	中生界	1.92	2.85	0.95	5.22	36	20
337	104	ピエス・エスキュー	III B4f	II層	I	チャート	北上産地	中生界	2.2	3.1	0.8	5.00	36	20
338	106	ピエス・エスキュー	III B4h	II層	I	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	2.6	3.2	1.1	(6.06)	36	20
339	99	ピエス・エスキュー	III B4e	III層	I	チャート	北上産地	中生界	2.8	3.2	0.9	8.23	36	21
340	94	ピエス・エスキュー	III B0e	I層	I	粘板岩	北上産地	中生界	2.35	2.95	0.7	6.42	36	21
341	98	ピエス・エスキュー	V A3g	III層	I	凝灰質粘板岩	北上産地	中生界	2.7	2.7	0.8	6.15	36	21
342	107	ピエス・エスキュー	III B4g	III層	I	凝灰質粘板岩	北上産地	中生界	2.8	3.55	0.7	(5.64)	36	21
343	111	ピエス・エスキュー	III B6g	II層	I	硬質泥岩	北上産地	中生界	3.2	4.15	1.3	18.15	36	21
344	100	ピエス・エスキュー	III B4e	III層	I	チャート	北上産地	中生界	1.35	1.5	0.4	1.13	37	21
345	116	ピエス・エスキュー	III B4h	II層	II	チャート	北上産地	中生界	2.1	3.0	1.4	8.47	37	21
346	115	ピエス・エスキュー	III B4h	II層	II	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	2.4	2.75	0.9	4.05	37	21
347	114	ピエス・エスキュー	III B4g	II層	II	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	2.4	2.3	1.25	8.56	37	21
348	117	ピエス・エスキュー	III B5h	III層	II	チャート	北上産地	中生界	3.3	2.75	1.2	7.84	37	21
349	122	ピエス・エスキュー	V B8e	II層	III	珪質泥岩	北上産地	中生界	2.6	1.7	0.7	2.54	37	21
350	118	ピエス・エスキュー	III B3h	III層	III	チャート	北上産地	中生界	2.7	1.3	0.8	4.02	37	21
351	119	ピエス・エスキュー	III B4e	II層	III	チャート	北上産地	中生界	2.5	2.2	0.7	4.29	37	21
352	120	ピエス・エスキュー	III B4g	II層	III	チャート	北上産地	中生界	1.95	2.0	0.7	3.14	37	21
353	123	ピエス・エスキュー	V A区	I層	III	チャート	北上産地	中生界	2.95	1.9	1.0	5.71	37	21
354	121	ピエス・エスキュー	III B6f	II層	III	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	2.8	2.2	0.5	3.88	37	21
355	124	ピエス・エスキュー	IV B5f	III層	IV	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	3.0	1.9	0.5	2.76	37	21
356	125	ピエス・エスキュー	III B1g	I層	V	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	2.7	1.62	0.7	3.12	37	21
357	126	ピエス・エスキュー	III B6h	I層	V	硬質泥岩	北上産地	中生界	2.83	1.8	1.0	3.20	37	21
358	132	ピエス・エスキュー	IV B1b	I層	I	珪質泥岩	北上産地	中生界	3.5	2.3	1.0	7.35	37	21
359	133	ピエス・エスキュー	III B3h	III層	I	泥質凝灰岩	北上産地	中生界	2.92	2.2	1.1	9.25	37	21
360	129	ピエス・エスキュー	III B4g	II層	VI	チャート	北上産地	中生界	2.3	3.2	0.9	7.15	37	21
361	127	ピエス・エスキュー	III B4e	II層	VI	チャート	北上産地	中生界	2.4	3.39	1.1	9.53	37	21
362	134	ピエス・エスキュー	III B4g	I層	I	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	3.6	3.1	1.6	23.28	37	21
363	130	ピエス・エスキュー	III B4h	II層	VI	緑色細粒凝灰岩	北上産地	中生界	3.95	3.6	1.3	21.66	37	21
364	131	ピエス・エスキュー	III B6g		VI	赤褐色凝灰岩	北上産地	中生界	3.8	3.85	2.8	25.19	37	21
365	128	ピエス・エスキュー	III B4f	III層上面	VI	チャート	北上産地	中生界	6.32	2.2	2.8	48.46	37	22
366	135	ピエス・エスキュー	III B9h	I層	I	硬質泥岩	北上産地	中生界	6.3	4.5	2.2	77.73	37	22
367	149	石斧	III B5g	II層	I	細粒凝灰岩	北上産地	中生界	(3.1)	2.3	(0.8)	(10.39)	38	22
368	153	石斧	III E区	表探	I	細粒凝灰岩	北上産地	中生界	(5.6)	3.7	(2.35)	(84.46)	38	22
369	152	石斧	III B9i	II層	I	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	(7.35)	4.45	(3.1)	(153.82)	38	22
370	145	石斧	IV B1b		I	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	(7.2)	5.3	(1.9)	(122.40)	38	22
371	151	石斧	III B4g	III層上面	I	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(11.0)	4.1	(2.6)	(188.39)	38	22
372	150	石斧	II B9g	I層	I	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(7.1)	5.2	(2.7)	(165.66)	38	22

第14表 石器一覽表(2)

報告書番号	登録番号	器種	出土地点	層位	分類	石質	産地	生成年代	長さ	幅	厚さ	重量	図版	写真図版
373	155	石斧	II C8g	II層	I	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	10.5	5.1	1.9	(147.81)	38	22
374	147	石斧	III B7d	II層	I	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	(11.3)	4.9	(3.15)	(275.30)	38	22
375	160	石斧	III B5g	II層	II	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	(5.8)	4.3	(1.6)	(62.42)	38	22
376	154	石斧	II C7c	II層	II	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	(3.9)	4.95	(1.4)	(46.28)	38	22
377	146	石斧	II B5h	I層	II	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(5.9)	5.1	(2.2)	(93.62)	38	22
378	164	石斧	III D0c	II層	II	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(6.0)	3.9	(1.2)	(46.06)	38	22
379	163	石斧	III C区	表探	II	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(7.85)	5.1	(2.9)	(205.27)	38	22
380	167	石斧	II B9i	II層	II	安山岩	北上産地	中生界	(5.4)	4.7	(1.9)	(87.51)	39	22
381	156	石斧	II D5f	I層	II	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(7.3)	4.2	(2.8)	(135.89)	39	22
382	158	石斧	III B4g	II層上面	II	凝灰質硬砂岩	北上産地	中生界	(8.8)	5.2	(3.3)	(226.32)	39	22
383	165	石斧	V A5f	III層	II	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	(8.6)	4.4	(2.65)	(172.67)	39	22
384	173	石斧	III B2g	I層	II	安山岩	北上産地	中生界	(7.4)	5.5	(2.8)	(209.95)	39	22
385	179	石斧	III B8e	III層上面	II	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(8.4)	5.0	(3.2)	(219.04)	39	22
386	159	石斧	III B5e	I層	II	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	9.4	4.0	2.25	118.43	39	22
387	170	石斧	II C8e	II層	II	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	10.2	5.4	2.4	178.29	39	22
388	157	石斧	III B2g	III層上面	II	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(9.05)	5.55	(3.0)	(261.59)	39	23
389	171	石斧	II C8h	II層	II	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(10.4)	6.4	(4.4)	(603)	39	23
390	178	石斧	III B7f	II層	II	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	19.8	8.5	6.7	1695	40	23
391	148	石斧	III B7e	II層	III	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(8.1)	4.4	(2.9)	(162.65)	40	23
392	182	石斧	IV B0c	II層	III	安山岩	北上産地	中生界	13.8	5.5	3.5	(374)	40	23
393	181	石斧	IV B0b	II層	III	凝灰質粘板岩	北上産地	中生界	(9.7)	5.6	(3.65)	(368)	40	23
394	161	石斧	III B7d	III層上面	III	凝灰質硬砂岩	北上産地	中生界	18.1	6.6	3.4	585	40	23
395	180	石斧	III B9f	II層	III	凝灰質硬砂岩	北上産地	中生界	18.5	7.3	3.7	697	40	23
396	169	石斧	II C7a	III層	III	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	(10.0)	6.3	(3.5)	(393)	41	23
397	168	石斧	II C6d	III層	III	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(9.3)	5.4	(3.0)	(213.90)	41	23
398	166	石斧	不明	表探	III	砂質粘板岩	北上産地	中生界	(7.6)	4.8	(3.0)	(151.52)	41	23
399	176	石斧	III B6f	I層	III	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(8.5)	6.3	(3.5)	(240.28)	41	23
400	177	石斧	III B7b	II層	III	砂質粘板岩	北上産地	中生界	(7.7)	6.65	(3.5)	(257.75)	41	24
401	175	石斧	III B6d	III層	III	安山岩	北上産地	中生界	(7.6)	7.0	(4.1)	(263.03)	41	24
402	174	石斧	III B3f	I層	III	凝灰質粘板岩	北上産地	中生界	(6.6)	6.3	(3.3)	(201.15)	41	24
403	172	石斧	III B4h	III層上面	III	閃緑岩	北上産地	中生界	(10.9)	7.3	(3.8)	(466)	41	24
404	138	石斧	II C8g	II層	IV	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	5.4	3.0	1.2	31.13	42	24
405	143	石斧	III B5g	III層上面	IV	チャート質粘板岩	北上産地	中生界	6.3	3.0	1.1	21.32	42	24
406	140	石斧	III B3f	II層	IV	細粒凝灰岩	北上産地	中生界	6.15	2.9	1.2	25.19	42	24
407	139	石斧	III B0f	II層	IV	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	7.05	3.3	0.8	45.88	42	24
408	142	石斧	III B4g	III層上面	IV	チャート質粘板岩	北上産地	中生界	5.7	3.65	0.7	23.39	42	24
409	144	石斧	III B4e	I層	IV	粘板岩	北上産地	中生界	5.4	3.4	1.1	22.74	42	24
410	211	石斧	III B4g	III層上面	IV	緑質細粒凝灰岩	北上産地	中生界	9.5	3.4	1.4	59.38	42	24
411	185	石斧	II C8e	II層	IV	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	8.8	4.3	1.4	67.05	42	24
412	190	石斧	III B0h	II層	IV	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	8.1	4.7	1.5	64.96	42	24
413	203	石斧	IV B2c	II層	IV	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	8.6	4.2	1.6	63.80	42	24
414	196	石斧	III B7e	II層	IV	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	9.7	4.65	2.0	109.69	42	24
415	201	石斧	III C区	表探	IV	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	9.7	4.2	1.95	114	42	24
416	186	石斧	II C8f	II層	IV	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	10.8	5.5	2.2	153.40	42	24
417	202	石斧	III D区	表探	IV	凝灰質硬砂岩	北上産地	中生界	11.5	5.2	2.9	210.45	42	24
418	184	石斧	II B7j	III層	IV	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	(7.1)	4.45	(1.95)	(96.34)	42	24
419	195	石斧	III B6f	II層	IV	支那岩	北上産地	中生界	(7.4)	5.6	(1.5)	(81.74)	42	24
420	189	石斧	II C8h	II層	IV	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(7.3)	5.8	(2.35)	(114.76)	42	24
421	199	石斧	III B8e	III層上面	IV	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	12.2	6.45	2.1	259.15	43	25
422	194	石斧	III B5e	I層	IV	凝灰質砂岩	北上産地	中生界	12.7	6.2	2.9	314	43	25
423	192	石斧	III B4g	III層上面	IV	凝灰質硬砂岩	北上産地	中生界	13.4	6.2	2.45	307.97	43	25
424	188	石斧	II C8f	II層	IV	凝灰質硬砂岩	北上産地	中生界	10.1	6.8	3.5	472	43	25
425	191	石斧	III B3h	II層	IV	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	12.3	6.2	4.55	461	43	25
426	200	石斧	III B9b	III層	IV	閃緑岩	北上産地	中生界	13.2	7.3	4.0	451	43	25
427	187	石斧	II C8f	II層	IV	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	(7.5)	7.2	(2.7)	(209.71)	43	25
428	204	石斧	IV B5b	I層	IV	安山岩	北上産地	中生界	(7.1)	7.4	(2.35)	(174.33)	43	25
429	193	石斧	III B4g	III層上面	IV	安山岩	北上産地	中生界	14.5	5.4	4.3	443	44	25
430	197	石斧	III B5g	II層	IV	安山岩	北上産地	中生界	(12.6)	3.3	(3.4)	(446)	44	25
431	205	石斧	V A区	I層	IV	ヒン岩	北上産地	中生界	(11.7)	6.3	(2.5)	(268)	44	25
432	183	石斧	II C7f	II層	IV	安山岩	北上産地	中生界	(12.0)	6.5	4.3	(462)	44	25
433	137	石斧	II B9h	II層	V	粘板岩	北上産地	中生界	5.1	2.85	0.9	21.82	44	25
434	141	石斧	III B4g	III層上面	V	粘板岩	北上産地	中生界	5.7	2.7	1.0	17.04	44	25
435	136	石斧	I C8h	II層	V	緑色凝灰岩	北上産地	中生界	7.3	3.2	1.1	46.14	44	26
436	217	石斧	III B4g	III層	V	砂質凝灰岩	北上産地	中生界	7.2	3.85	1.65	69.78	44	26
437	215	石斧	II C7c	II層	V	安山岩	北上産地	中生界	6.5	3.1	1.6	57.02	44	26
438	222	石斧	IV B3d	I層	V	粘板岩	北上産地	中生界	6.6	4.65	1.65	77.82	44	26
439	214	石斧	II B7j	II層	V	砂質凝灰岩	北上産地	中生界	11.1	4.7	1.8	149.79	44	26
440	207	石斧	II B7j	III層	V	緑色凝灰角礫岩	北上産地	中生界	6.7	5.3	2.2	169.28	45	26
441	221	石斧	IV B0e	II層	V	砂質凝灰岩	北上産地	中生界	8.6	4.9	2.4	159.57	45	26
442	223	石斧	V B3a	III b層	V	ホルンフェルス	北上産地	中生界	9.9	4.2	2.4	115.93	45	26

第15表 石器一覽表(3)

報告書番号	登録番号	器種	出土地点	層位	分類	石質	産地	生成年代	長さ	幅	厚さ	重量	図版	写真図版
443	216	石斧	II C8h	II層	V	砂質凝灰岩	北上山地	中生界	9.8	4.0	2.0	118.97	45	26
444	218	石斧	II B5i	II層	V	緑色凝灰角礫岩	北上山地	中生界	11.3	5.4	3.0	266.51	45	26
445	219	石斧	III B4g	III層上面	V	安山岩	北上山地	中生界	(9.1)	5.85	(2.8)	(239.97)	45	26
446	220	石斧	III B6f	II層	V	粘板岩	北上山地	中生界	12.45	7.8	3.6	513	45	26
447	208	石斧	III B区	表採	V	砂質凝灰岩	北上山地	中生界	15.1	6.0	3.3	374	45	26
448	212	石斧	III B6f	I層	V	緑色凝灰角礫岩	北上山地	中生界	(7.9)	5.1	(3.8)	(193.54)	45	26
449	210	石斧	III B4g	III層上面	V	砂質凝灰岩	北上山地	中生界	(8.6)	5.95	(3.3)	(268)	45	26
450	213	石斧	III B5f	II層	V	砂質凝灰岩	北上山地	中生界	(9.55)	6.3	(4.2)	(359)	46	26
451	209	石斧	III B0g	I層	V	安山岩	北上山地	中生界	12.7	6.4	2.6	346	46	26
452	224	石鏟	II C8b	II層		安山岩	北上山地	中生界	3.9	4.3	1.2	26.14	46	27
453	225	石鏟	V A区	I層		緑質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	5.7	4.6	1.25	45.52	46	27
454	226	石鏟	V A4i	III b層		流紋岩質凝灰岩	北上山地	中生界	9.15	7.3	1.6	129.29	46	27
455	231	敲石	II C8h	II層	I	赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	4.8	5.0	2.9	114.66	46	27
456	239	敲石	III B9b	III層	I	粘板岩	北上山地	中生界	6.7	6.0	3.0	192.31	46	27
457	235	敲石	III B6d	II層	I	硬砂岩	北上山地	中生界	6.8	5.9	5.1	286.82	46	27
458	227	敲石	II C6a	I層	I	チャート	北上山地	中生界	6.55	6.4	4.35	261.64	46	27
459	232	敲石	III B2f		I	赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	7.7	7.0	5.3	411	46	27
460	236	敲石	III B6e	III層上面	I	チャート	北上山地	中生界	6.8	6.4	4.9	335	46	27
461	230	敲石	II C7c	II層	I	チャート	北上山地	中生界	7.9	6.2	4.6	321	46	27
462	233	敲石	III B6g	III層上面	I	粘板岩	北上山地	中生界	7.5	7.0	3.4	334	46	27
463	237	敲石	III B7e	II層	I	石灰質粘板岩	北上山地	中生界	7.3	7.7	6.2	514	46	27
464	238	敲石	III B8e	III層上面	I	石灰質粘板岩	北上山地	中生界	8.0	7.5	6.2	513	46	27
465	260	敲石	II C区	表採	I	安山岩	北上山地	中生界	8.4	3.49	2.8	136.40	47	27
466	229	敲石	II C6f	II層	I	石灰質粘板岩	北上山地	中生界	7.2	5.2	4.9	253.32	47	27
467	228	敲石	II C6a	I層	I	粘板岩	北上山地	中生界	8.0	6.05	5.1	368	47	27
468	266	敲石	V A3i	II層	I	粘板岩	北上山地	中生界	10.2	4.85	4.7	326	47	27
469	264	敲石	IV B3d	I層	I	砂質凝灰岩	北上山地	中生界	8.3	6.2	4.4	351	47	27
470	262	敲石	III B6g	III層上面	I	粘板岩	北上山地	中生界	9.5	6.8	4.0	454	47	27
471	263	敲石	III B6g	III層上面	I	粘板岩	北上山地	中生界	11.8	5.6	2.4	296.74	47	27
472	234	敲石	III B5g	III層上面	I	半花崗岩	北上山地	中生界	9.7	7.3	5.2	551	47	28
473	265	敲石	V A3i	II a層	I	砂質凝灰岩	北上山地	中生界	12.1	6.6	4.7	524	47	28
474	261	敲石	III B5g	III層	I	砂質凝灰岩	北上山地	中生界	12.3	6.9	3.7	485	47	28
475	267	敲石	V A4g	III層	I	安山岩	北上山地	中生界	10.1	7.6	6.5	523	47	28
476	242	敲石	II B9h	II層	II	チャート	北上山地	中生界	7.15	6.7	6.3	455	47	28
477	240	敲石	III B5g	II層	II	チャート	北上山地	中生界	7.45	6.9	5.95	393	47	28
478	241	敲石	II B7j	III層	II	チャート	北上山地	中生界	7.5	6.9	5.6	434	47	28
479	253	敲石	IV B0b	II層	II	チャート	北上山地	中生界	9.11	7.8	4.6	494	47	28
480	245	敲石	III B0f	II層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	8.0	6.9	3.9	426	48	28
481	244	敲石	II C8f	II層	II	珪質粘板岩	北上山地	中生界	8.7	8.0	3.9	393	48	28
482	246	敲石	III B3h	II層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	8.9	7.4	4.9	620	48	28
483	271	敲石	II C8h	II層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	9.8	8.95	3.5	494	48	28
484	249	敲石	III B5f	III層上面	II	粘板岩	北上山地	中生界	7.8	7.3	2.9	321	48	28
485	252	敲石	III D0c	II層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	7.7	8.85	4.8	468	48	29
486	243	敲石	II C区	表採	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	9.5	9.65	5.65	984	48	29
487	251	敲石	III B9g	III層上面	II	チャート	北上山地	中生界	9.7	8.2	6.2	713	48	29
488	268	敲石	II C8f	II層	II	粘板岩	北上山地	中生界	8.7	4.7	3.4	269.14	48	29
489	269	敲石	II C8h	II層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	8.4	5.9	3.3	291.74	48	29
490	277	敲石	III B6g	II層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	8.9	5.9	2.8	328	48	29
491	278	敲石	III B9i	II層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	9.3	6.5	4.3	491	49	29
492	276	敲石	III B8b	I層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	9.7	6.9	3.8	458	49	29
493	275	敲石	III B5f	II層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	14.5	6.0	3.2	492	49	29
494	279	敲石	III D3d	II層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	15.0	9.4	7.4	1648	49	29
495	247	敲石	III B5f	II層	II	チャート	北上山地	中生界	8.9	5.9	5.15	485	49	29
496	270	敲石	II C8h	II層	II	アルユース砂岩	北上山地	中生界	9.1	5.8	2.5	200.82	49	29
497	273	敲石	III B2g	I層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	13.2	7.4	3.9	603	49	30
498	272	敲石	III B2g	I層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	10.7	7.55	5.3	669	49	30
499	282	敲石	VI A0f	I層	II	チャート質凝灰岩	北上山地	中生界	9.8	6.9	5.3	495	49	30
500	280	敲石	IV B0a		II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	15.4	11.2	7.3	1568	49	30
501	255	敲石	II C8b	III層	III	砂質凝灰岩	北上山地	中生界	8.0	5.6	2.7	209.92	50	30
502	257	敲石	III B4g	III層上面	III	玄武岩	北上山地	中生界	7.7	7.7	4.8	388	50	30
503	254	敲石	II B8j	III層	III	粘板岩	北上山地	中生界	7.19	7.6	4.3	446	50	30
504	274	敲石	III B4g	III層上面	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	10.8	7.9	4.15	637	50	30
505	248	敲石	III B5f	III層上面	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	8.7	9.2	4.7	473	50	30
506	258	敲石	II B6j	I層	III	チャート	北上山地	中生界	6.7	6.7	4.1	268.43	50	30
507	259	敲石	V A8g	III層	III	粘板岩	北上山地	中生界	6.9	7.4	3.8	318	50	31
508	256	敲石	III B1g	II層	III	ホルンフェルス	北上山地	中生界	8.2	7.5	5.4	540	50	31
509	281	敲石	IV B0e	II層	II	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	10.4	7.15	3.1	386	51	31
510	287	敲石	III B4h	III層	IV	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	11.4	6.5	4.5	455	51	31
511	283	敲石	II C8g	II層	IV	砂質	北上山地	中生界	12.4	7.0	3.4	447	51	31
512	295	敲石	V A5g	III層	IV	砂質	北上山地	中生界	13.1	9.8	4.0	780	51	31

第16表 石器一覧表(4)

報告書番号	登録番号	器種	出土地点	層位	分類	石質	産地	生成年代	長さ	幅	厚さ	重量	図版	写真図版
513	289	敲石	V A区	I層	IV	流紋岩	北上山地	中生界	8.8	8.1	5.62	520	51	31
514	291	敲石	V A3g	III層	IV	安山岩	北上山地	中生界	10.1	8.3	3.6	479	51	31
515	296	敲石	V A5h	I層	IV	砂質	北上山地	中生界	(9.1)	(5.49)	(4.2)	(302.99)	51	31
516	288	敲石	III D0c	II層	IV	デイサイト	北上山地	中生界	10.6	9.7	4.6	660	51	31
517	294	敲石	V B4a	I層	IV	デイサイト	北上山地	中生界	11.8	7.5	4.35	604	51	31
518	290	敲石	V A2i	I層	IV	流紋岩	北上山地	中生界	(8.2)	(6.05)	(4.2)	(285.43)	51	31
519	286	敲石	III B4g	III層上面	IV	デイサイト	北上山地	中生界	(5.05)	6.8	(3.8)	(185.58)	51	31
520	292	敲石	V A3g	III層	IV	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	11.1	8.15	3.9	613	52	31
521	284	敲石	II D5a	I層	IV	デイサイト	北上山地	中生界	12.3	10.3	4.5	868	52	31
522	285	敲石	III B1f	II層	IV	デイサイト	北上山地	中生界	12.7	11.9	5.35	1304	52	32
523	293	敲石	V B3a	I層	IV	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	20.1	10.5	5.1	2199	52	32
524	297	磨石	III B9f	III層上面	II	安山岩	北上山地	中生界	12.1	9.7	5.1	844	52	32
525	298	磨石	III B4f	III層上面	II	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	10.6	9.1	5.0	694	52	32
526	299	特殊磨石	II B9g	I層	I	砂質粘板岩	北上山地	中生界	8.9	5.9	3.25	214.43	53	32
527	304	特殊磨石	V A5j	II b層	I	デイサイト	北上山地	中生界	11.3	6.2	4.4	440	53	32
528	300	特殊磨石	III B4g	III層上面	I	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	10.8	7.35	4.9	446	53	32
529	303	特殊磨石	IV A1f	I層	I	流紋岩	北上山地	中生界	13.1	7.0	4.4	592	53	32
530	305	特殊磨石	V A7h	IV層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	13.8	6.9	3.1	473	53	32
531	302	特殊磨石	III B6f	II層	I	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	12.2	7.75	4.65	578	53	32
532	301	特殊磨石	III B5f	III層上面	I	デイサイト	北上山地	中生界	12.5	6.0	5.8	538	53	33
533	250	特殊磨石	III B6g	III層上面	II	花崗閃緑岩	北上山地	中生界	13.7	6.7	4.2	651	53	33
534	309	特殊磨石	III B4g	III層上面	II	デイサイト	北上山地	中生界	12.65	7.35	4.2	544	53	33
535	310	特殊磨石	III B8f	III層上面	II	花崗閃緑岩	北上山地	中生界	15.4	8.65	5.7	1075	54	33
536	311	特殊磨石	IV B3a	II層	II	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	17.5	8.4	4.5	1058	54	33
537	308	特殊磨石	III B4g	III層上面	II	砂質粘板岩	北上山地	中生界	12.5	7.4	4.35	533	54	33
538	313	特殊磨石	V A7f	III層	II	長石ン岩	北上山地	中生界	14.9	8.9	4.9	795	54	33
539	312	特殊磨石	IV B区	表採	II	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	14.45	8.3	5.3	854	54	33
540	306	特殊磨石	II C6f	II層	II	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	15.9	8.85	5.1	908	54	33
541	307	特殊磨石	III B2f	II層	II	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	19.35	8.4	3.45	867	54	33
542	317	特殊磨石	II B9i	II層	I	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	12.75	7.7	5.1	669	54	33
543	314	特殊磨石	III B9i	II層	II	花崗閃緑岩	北上山地	中生界	12.1	6.8	5.95	716	54	33
544	315	特殊磨石	III B4g	III層上面	II	花崗閃緑岩	北上山地	中生界	11.5	7.5	5.6	634	55	34
545	319	特殊磨石	III B7e	I層	II	花崗閃緑岩	北上山地	中生界	15.2	7.3	5.3	974	55	34
546	318	特殊磨石	III B4g	III層上面	II	花崗閃緑岩	北上山地	中生界	15.0	7.3	5.8	845	55	34
547	316	特殊磨石	III B3g	II層	II	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	15.7	8.5	6.05	1157	55	34
548	322	凹石	III B4f	III層上面	II	砂質粘板岩	北上山地	中生界	12.0	9.55	4.5	757	55	34
549	326	凹石	III B9g	III層上面	II	アルヌース砂岩	北上山地	中生界	12.4	8.4	5.6	826	55	34
550	324	凹石	III B4h	III層	II	デイサイト	北上山地	中生界	11.4	10.0	4.5	729	55	34
551	320	凹石	II C8g	II層	II	安山岩	北上山地	中生界	9.5	7.95	5.55	596	55	34
552	323	凹石	III B4g	III層上面	II	デイサイト	北上山地	中生界	10.3	9.65	4.7	616	56	34
553	325	凹石	III B5f	III層上面	II	安山岩	北上山地	中生界	10.4	10.0	4.95	726	56	34
554	321	凹石	II C8h	II層	II	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	(8.35)	(9.1)	(4.75)	(547)	56	34
555	329	台石・石皿類	III B6g	III層上面	II	花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(13.6)	(8.9)	(4.6)	(1850)	56	35
556	327	台石・石皿類	III B0h	II層	II	安山岩	北上山地	中生界	(13.3)	(12.65)	(5.8)	(1495)	56	35
557	328	台石・石皿類	IV B4b	III層	II	アルヌース砂岩	北上山地	中生界	(15.6)	(13.9)	(4.4)	(1076)	56	35
558	332	台石・石皿類	III B6e	II層	II	花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(12.5)	(9.05)	(4.35)	(6000)	56	35
559	333	台石・石皿類	III B7d	II層	II	花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(9.0)	(12.6)	(2.9)	(4535)	57	35
560	330	台石・石皿類				安山岩	北上山地	中生界	14.65	12.05	5.0	9500	57	35
561	331	台石・石皿類	III B6g	III層上面	II	花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(13.9)	(11.7)	(4.65)	(9500)	57	35
562	365	礫器	III B8g	I層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	7.3	7.0	3.3	214.79	57	35
563	344	礫器	II C6f	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	8.45	6.5	2.9	205.47	57	35
564	359	礫器	III B5f	I層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	9.1	8.7	3.2	346	57	35
565	354	礫器	III B3h	III層上面	I	凝灰岩	北上山地	中生界	9.85	7.45	3.45	408	57	35
566	343	礫器	II C6c	II層	I	安山岩	北上山地	中生界	10.4	8.6	4.75	641	57	35
567	355	礫器	III B4f	I層	I	安山岩	北上山地	中生界	9.2	8.85	4.05	424	57	35
568	336	礫器	II B9i	II層下位	I	凝灰岩	北上山地	中生界	11.05	8.6	4.5	572	57	35
569	345	礫器	II C7a	II層	I	凝灰質礫砂岩	北上山地	中生界	9.9	9.6	3.8	486	57	35
570	340	礫器	II C5d	I層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	9.6	10.25	2.95	456	58	36
571	356	礫器	III B4g	III層上面	I	砂質粘板岩	北上山地	中生界	12.5	11.7	4.45	623	58	36
572	347	礫器	II C8g	II層	I	粘板岩	北上山地	中生界	11.35	10.9	4.4	649	58	36
573	335	礫器	II D5h	I層	I	粘板岩	北上山地	中生界	14.3	11.45	5.2	1074	58	36
574	361	礫器	III B6f	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	7.9	9.5	3.4	331	58	36
575	348	礫器	II C9c	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	8.45	8.7	3.05	281.91	58	36
576	360	礫器	III B5g	III層	I	赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	6.5	9.2	3.7	324	58	36
577	339	礫器	II C6a	I層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	7.6	8.6	2.3	282.81	58	36
578	338	礫器	II C6a	I層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	8.8	9.6	4.15	484	58	36
579	363	礫器	III B8d	I層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	7.9	9.2	3.0	214.77	58	36
580	362	礫器	III B7f	III層上面	I	ホルンフェルス	北上山地	中生界	9.2	14.5	5.5	942	58	36
581	350	礫器	III D0c	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	8.85	10.8	4.1	490	58	36
582	364	礫器	III B8e	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	10.75	7.4	2.6	253.77	58	36

第17表 石器一覽表(5)

報告書番号	登録番号	器種	出土地点	層位	分類	石質	産地	生成年代	長さ	幅	厚さ	重量	図版	写真図版
583	349	礫器	II C9i	II層	I	粘板岩	北上山地	中生界	9.4	10.3	4.35	569	59	36
584	342	礫器	II C6c	II層	I	粘板岩	北上山地	中生界	11.1	12.35	7.55	1252	59	36
585	357	礫器	III B4g	III層上面	I	凝灰岩	北上山地	中生界	6.25	9.75	4.95	376	59	36
586	334	礫器	III B5f	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	(6.8)	(9.0)	(3.0)	(316)	59	36
587	341	礫器	II C6c	II層	I	凝灰質硬砂岩	北上山地	中生界	7.0	9.7	4.55	369	59	36
588	352	礫器	III B1f	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	6.6	8.95	4.15	301.29	59	36
589	353	礫器	III B3h	III層上面	I	凝灰岩	北上山地	中生界	9.1	11.45	4.35	559	59	36
590	351	礫器	II D6f	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	8.7	11.15	4.2	620	59	36
591	346	礫器	II C7d	II層	I	砂質粘板岩	北上山地	中生界	8.95	8.8	4.6	471	59	36
592	366	礫器	IV B0e	II層	I	凝灰質硬砂岩	北上山地	中生界	9.2	8.5	3.7	342	59	36
593	337	礫器	II C区	表採	I	長石ヒン岩	北上山地	中生界	8.7	10.6	5.0	611	59	37
594	358	礫器	III B5f	III層上面	I	凝灰岩	北上山地	中生界	9.8	10.9	5.25	820	59	37
595	371	礫器	III B8f	III層上面	I	凝灰岩	北上山地	中生界	6.6	8.5	4.8	367	60	37
596	370	礫器	III B7d	III層上面	I	凝灰岩	北上山地	中生界	9.5	9.9	3.7	590	60	37
597	367	礫器	III B3g		I	凝灰質粘板岩			7.6	12.0	3.3	485	60	37
598	369	礫器	III B5g	III層上面	I	凝灰岩	北上山地	中生界	12.0	7.6	5.1	327	60	37
599	368	礫器	III B5g	II層	I	ホルンフェルス	北上山地	中生界	11.7	11.6	3.8	882	60	37
600	372	礫器	III B6f	II層	II	赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	6.4	4.8	3.6	147.51	60	37
601	373	礫器	III B9c	II層	II	溶結凝灰岩	北上山地	中生界	11.8	9.4	5.9	791	60	37
602	375	礫器	III B2g	III層上面	II	凝灰岩	北上山地	中生界	10.2	13.1	5.0	850	61	37
603	5	礫器	IV B2a	II層	II	砂質凝灰岩	北上山地	中生界	9.4	4.25	2.6	163.32	61	37
604	376	礫器	III B4e	III層上面	II	凝灰岩	北上山地	中生界	18.1	10.7	5.5	1381	61	37
605	374	礫器	III B9e	III層上面	II	砂質粘板岩	北上山地	中生界	17.7	13.4	4.4	1381	61	38
606	377	礫器	II B6h		III	凝灰岩	北上山地	中生界	8.7	7.2	2.65	225.90	62	38
607	378	礫器	V A区	I層	III	凝灰岩	北上山地	中生界	6.6	7.1	2.05	142.38	62	38
608	379	礫器	V A2g	II層	III	粘板岩	北上山地	中生界	13.3	11.5	3.8	716	62	38
609	382	軽石	II C8h	II層		軽石	二戸?	第四系	6.2	6.1	2.8	19.83	62	38
610	380	石製品	IV B4f	I層		緑質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	5.6	5.5	1.6	58.12	62	38
611	381	石製品	III D0c	II層		赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	9.3	7.9	7.5	519	62	38
162		石斧	III B9d	II層	II	凝灰質硬砂岩	北上山地	中生界						
198		石斧	III B6f	II層	IV	安山岩	北上山地	中生界	(8.2)	4.65	(1.9)	(91.39)		
206		欠番												
383		石鏃	II C8f		I	チャート	北上山地	中生界	2.7	1.6	0.3	1.11		
384		石鏃	III C区			流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	2.0	1.2	0.4	0.82		
385		石鏃	V A5i	III層		粘板岩	北上山地	中生界	3.1	1.95	0.5	2.37		
386		石鏃	III B2h	I層		珪質泥岩	北上山地	中生界	(2.1)	(1.5)	(0.3)	(1.33)		
387		石鏃	III B4f	II層		流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	(2.5)	(1.5)	(0.3)	(1.09)		
388		石鏃	III C区			珪質泥岩	北上山地	中生界	(1.9)	(1.5)	(0.5)	(1.57)		
389		石鏃	V A区	I層		チャート	北上山地	中生界	2.1	1.4	0.2	0.76		
390		石匙	III B5g	II層		珪質泥岩	北上山地	中生界	4.1	2.0	0.5	3.56		
391		石匙	III B6d	III層		粘板岩	北上山地	中生界	(3.7)	(2.2)	(0.5)	(3.14)		
392		石匙	II B6g	II層		粘板岩	北上山地	中生界	(2.9)	(2.05)	(6.5)	(3.12)		
393		石匙	III C区	表採		チャート	北上山地	中生界	(2.2)	(1.4)	(0.5)	(1.92)		
394		石匙	III D区	表採		流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	(3.95)	(2.0)	(0.7)	(6.34)		
395		不定形石器	III B0f	I層		流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	1.6	1.8	0.8	0.82		
396		不定形石器	III B2h	I層		流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	3.4	2.4	0.6	3.93		
397		不定形石器	III B3g	I層		流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	2.0	1.95	0.4	1.69		
398		不定形石器	III C区	表採		流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	3.1	3.1	1.3	5.54		
399		不定形石器	V A6h	I層		流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	1.5	1.35	0.9	3.70		
400		ピエス・エスキーユ	II C区	表採	I	流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	3.25	2.35	0.75	4.42		
401		ピエス・エスキーユ	II C区	表採	I	流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	3.35	2.0	1.0	6.77		
402		ピエス・エスキーユ	III B1h		I	流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	2.1	2.2	0.7	3.80		
403		ピエス・エスキーユ	III B2h	III層	I	チャート	北上山地	中生界	3.1	2.35	0.5	3.50		
404		ピエス・エスキーユ	III B3h	II層	I	チャート	北上山地	中生界	2.8	2.4	0.6	3.62		
405		ピエス・エスキーユ	III B3e	I層	I	流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	2.4	1.9	0.5	2.92		
406		ピエス・エスキーユ	III B4e	II層	I	チャート	北上山地	中生界	1.9	1.5	0.4	1.03		
407		ピエス・エスキーユ	III B3g	II層	I	粘板岩	北上山地	中生界	3.3	2.4	0.7	4.46		
408		ピエス・エスキーユ	III B4g	I層	I	流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	3.15	2.0	0.6	4.76		
409		ピエス・エスキーユ	III B4h	III層	I				2.6	1.75	0.7	1.64		
410		ピエス・エスキーユ	III B5g	III層	I	チャート	北上山地	中生界	2.1	1.7	0.5	2.02		
411		ピエス・エスキーユ	III B5g	III層	I	チャート	北上山地	中生界	2.4	1.55	0.45	1.75		
412		ピエス・エスキーユ	III B6e	I層	I	赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	4.8	2.35	1.1	11.60		
413		ピエス・エスキーユ	III B6e	I層	I	チャート	北上山地	中生界	2.7	1.8	0.9	4.87		
414		ピエス・エスキーユ	III B6f	III層上面	I	粘板岩	北上山地	中生界	4.75	3.2	1.15	16.37		
415		ピエス・エスキーユ	II C区	表採	I	流紋岩質細粒凝灰岩	北上山地	中生界	2.3	2.05	0.9	5.32		
416		ピエス・エスキーユ	III B2g	III層上面	II	チャート	北上山地	中生界	2.8	2.45	0.7	3.83		
417		ピエス・エスキーユ	III B3f	I層	II	チャート	北上山地	中生界	2.4	1.4	0.6	2.08		
418		ピエス・エスキーユ	II B9i	II層	III	チャート	北上山地	中生界	2.05	1.35	1.2	3.25		
419		ピエス・エスキーユ	III B3f	III層上面	III	粘板岩	北上山地	中生界	2.5	1.8	5.5	2.45		
420		ピエス・エスキーユ	III B4g	III層上面	III	チャート	北上山地	中生界	2.8	1.7	0.75	3.82		

第18表 石器一覽表(6)



報告書番号	登録番号	器種	出土地点	層位	分類	石質	産地	生成年代	長さ	幅	厚さ	重量	図版	写真図版
	421	ピエス・エスキュー	II D5a	I層	V	チャート	北上山地	中生界	3.1	2.1	1.75	13.09		
	422	ピエス・エスキュー	III B5g	III層	VI	チャート	北上山地	中生界	3.45	2.9	1.0	9.10		
	423	ピエス・エスキュー	III B7g	III層上面	VI	赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	3.15	2.0	0.7	3.97		
	424	ピエス・エスキュー	不明	II層上面		珪質泥岩	北上山地	中生界	3.7	1.75	1.0	6.03		
	425	ピエス・エスキュー	II C区	表探		粘板岩	北上山地	中生界	2.95	2.45	1.0	6.00		
	426	ピエス・エスキュー	III B2f			粘板岩	北上山地	中生界	2.8	2.25	0.45	3.56		
	427	ピエス・エスキュー	III B4h	II層		チャート	北上山地	中生界	2.4	2.05	0.8	3.48		
	428	ピエス・エスキュー	III C区	表探		粘板岩	北上山地	中生界	2.2	2.45	0.9	4.12		
	429	ピエス・エスキュー	III D区	表探		チャート	北上山地	中生界	2.35	1.45	0.6	2.36		
	430	ピエス・エスキュー	IV B0c	III層		チャート	北上山地	中生界	4.4	3.0	1.7	27.74		
	431	石斧	II B9g	I層	III	凝灰角礫岩	北上山地	中生界	(6.95)	(4.9)	(2.7)	(126.61)		
	432	石斧	II C6f	II層	III	凝灰岩	北上山地	中生界	(9.8)	(5.8)	(2.85)	(234.14)		
	433	石斧	II C8e	II層	III	輝石ヒン石	北上山地	中生界	(9.8)	(4.7)	(1.5)	(109.88)		
	434	石斧	III B0e	I層	III	輝石ヒン石	北上山地	中生界	(7.6)	(3.9)	(3.4)	(155.15)		
	435	石斧	III B0h	II層	III	凝灰岩	北上山地	中生界	(5.25)	(3.8)	(1.35)	(38.33)		
	436	石斧	III B4g	II層上面	III	凝灰岩	北上山地	中生界	(9.7)	(6.0)	(2.9)	(235.72)		
	437	石斧	III B4g	III層上面	III	凝灰岩	北上山地	中生界	(8.45)	(5.9)	(2.1)	(224.25)		
	438	石斧	III B5f	III層上面	III	凝灰岩	北上山地	中生界	(7.15)	(4.7)	(2.3)	(108.24)		
	439	石斧	III B5g	III層	III	凝灰岩	北上山地	中生界	(4.5)	(4.95)	(3.15)	(81.83)		
	440	石斧	III B5f	II層上面	III	凝灰岩	北上山地	中生界	(8.8)	(5.7)	(3.6)	(252.53)		
	441	石斧	III B6f	III層	III	安山岩	北上山地	中生界	(7.15)	(5.3)	(4.0)	(195.36)		
	442	石斧	III B6g	III層	III	凝灰岩	北上山地	中生界	(7.9)	(4.8)	(3.2)	(176.83)		
	443	石斧	II C8f	II層	IV	安山岩	北上山地	中生界	(6.8)	(6.9)	(4.2)	(296.88)		
	444	石斧	I C8h	II層	IV	安山岩	北上山地	中生界	(6.5)	(8.0)	(2.1)	(167.48)		
	445	石斧	II B9i	II層下位	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(5.85)	(3.7)	(1.7)	(46.59)		
	446	石斧	II C区	表探	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(4.7)	(5.85)	(1.9)	(78.07)		
	447	石斧	II C8g	II層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(6.1)	(4.75)	(2.7)	(101.18)		
	448	石斧	III B区	表探	IV	安山岩	北上山地	中生界	(5.45)	(4.85)	(3.0)	(81.28)		
	449	石斧	III B1h	I層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(4.9)	(5.3)	(2.6)	(98.81)		
	450	石斧	III B3g		IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(6.6)	(5.05)	(2.0)	(107.41)		
	451	石斧	III B4g	II層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(6.9)	(4.9)	(1.3)	(61.36)		
	452	石斧	III B4h	II層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(5.1)	(5.8)	(1.4)	(47.23)		
	453	石斧	III B5f	II層	IV	輝石ヒン石	北上山地	中生界	(6.5)	(6.6)	(2.6)	(133.58)		
	454	石斧	III B5f	II層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(5.35)	(3.55)	(1.85)	(45.94)		
	455	石斧	III B6d	II層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(5.7)	(4.15)	(2.0)	(67.41)		
	456	石斧	III B6f	II層	IV	安山岩	北上山地	中生界	(5.65)	(5.2)	(2.1)	(68.76)		
	457	石斧	III B6f	II層	IV	花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(5.45)	(6.7)	(3.1)	(127.92)		
	458	石斧	III B6g	III層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(5.0)	(4.6)	(1.4)	(50.16)		
	459	石斧	III B7d	I層	IV	輝石ヒン石	北上山地	中生界	(10.6)	(6.8)	(3.3)	(284.49)		
	460	石斧	III B9d	I層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(4.6)	(4.6)	(1.2)	(45.04)		
	461	石斧	III D0b	II層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(6.0)	(5.0)	(2.4)	(94.89)		
	462	石斧	III D0c	II層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(6.6)	(4.9)	(2.7)	(117.97)		
	463	石斧	IV A3j	I層	IV	安山岩	北上山地	中生界	(8.3)	(4.7)	(1.45)	(68.84)		
	464	石斧	IV B区	表探	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(5.5)	(3.6)	(1.1)	(32.19)		
	465	石斧	V A区	II層	IV	砂岩	北上山地	中生界	(12.25)	(5.45)	(1.6)	(97.99)		
	466	石斧	V B3a	II層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	(5.65)	(5.75)	(2.7)	(121.71)		
	467	石斧	V A3j	III層	IV	安山岩	北上山地	中生界	(5.1)	(6.4)	(2.5)	(82.90)		
	468	石斧	II C7c	II層	V	凝灰岩	北上山地	中生界	(13.35)	(10.35)	(3.9)	(705)		
	469	石斧	II C8g	II層	V	凝灰岩	北上山地	中生界	(6.6)	(5.75)	(1.9)	(78.72)		
	470	石斧	II C8f	II層	V	凝灰岩	北上山地	中生界	(9.5)	(7.9)	(3.0)	(289.86)		
	471	石斧	II D5a	I層	V	輝石ヒン石	北上山地	中生界	(10.8)	(6.0)	(5.2)	(455)		
	472	石斧	III B2f		V	安山岩	北上山地	中生界	(11.4)	(8.4)	(3.8)	(532)		
	473	石斧	III B6g	III層	V	凝灰岩	北上山地	中生界	(6.1)	(7.3)	(3.7)	(210.07)		
	474	石斧	III B6g	III層	V	アルユース砂岩	北上山地	中生界	10.5	7.3	2.9	314		
	475	石斧	II C7c	II層		凝灰角礫岩	北上山地	中生界	(6.0)	(9.4)	(3.8)	(289.52)		
	476	石斧	II D9a			凝灰岩	北上山地	中生界	(6.4)	(5.1)	(2.15)	(96.19)		
	477	石斧	II D9a			凝灰岩	北上山地	中生界	(6.15)	(5.2)	(2.9)	(163.25)		
	478	石斧	III B3d	I層		凝灰岩	北上山地	中生界	(3.4)	(3.95)	(1.0)	(19.74)		
	479	石斧	III B3g	II層		凝灰岩	北上山地	中生界	(3.8)	(4.65)	(1.65)	(38.82)		
	480	石斧	III B3g	II層		凝灰岩	北上山地	中生界	(3.4)	(3.45)	(1.5)	(21.43)		
	481	石斧	III B4f	II層		凝灰岩	北上山地	中生界	(4.85)	(4.7)	(1.9)	(61.37)		
	482	石斧	III B4g	III層上面		凝灰岩	北上山地	中生界	(2.95)	(3.7)	(1.25)	(14.96)		
	483	石斧	III B4h	II層		凝灰岩	北上山地	中生界	(3.6)	(3.6)	(1.6)	(24.88)		
	484	石斧	III B5e	I層		凝灰岩	北上山地	中生界	(3.8)	(3.7)	(1.5)	(25.76)		
	485	石斧	III B6f	II層		凝灰岩	北上山地	中生界	(2.9)	(4.3)	(1.6)	(19.19)		
	486	敲石	II C区	表探	I	安山岩	北上山地	中生界	(4.2)	(6.7)	(4.6)	(262.21)		
	487	敲石	II B6h	I層	I	粘板岩	北上山地	中生界	(8.2)	(7.1)	(5.0)	(541)		
	488	敲石	III B0j	III層	I	赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	8.1	7.0	5.9	411		
	489	敲石	III B2f		I	チャート	北上山地	中生界	9.0	7.95	6.9	667		
	490	敲石	III B2g		I	チャート	北上山地	中生界	10.1	9.9	7.0	963		

第19表 石器一覧表(7)

報告書番号	登録番号	器種	出土地点	層位	分類	石質	産地	生成年代	長さ	幅	厚さ	重量	図版	写真図版
	491	敲石	III B4g	III層上面	I	アルユース砂岩	北上山地	中生界	8.2	6.9	6.15	451		
	492	敲石	III B4g	III層上面	I	チャート	北上山地	中生界	7.9	6.5	5.5	405		
	493	敲石	III B5f	II層	I	ホルンフェルス	北上山地	中生界	7.1	7.6	3.9	447		
	494	敲石	III B5g	II層	I	チャート	北上山地	中生界	7.9	6.9	5.9	457		
	495	敲石	III B6e	III層上面	I	チャート	北上山地	中生界	10.3	8.25	6.75	703		
	496	敲石	III B6f	III層上面	I	アルユース砂岩	北上山地	中生界	(7.8)	(7.35)	(3.2)	(247.58)		
	497	敲石	IV B0f	II層	I	安山岩	北上山地	中生界	(7.3)	(7.9)	(5.55)	(481)		
	498	敲石	IV B8e	II層	I	粘板岩	北上山地	中生界	(5.1)	(6.5)	(4.0)	(201.79)		
	499	敲石	V A6j	I層	I	赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	6.25	6.35	4.2	225.15		
	500	敲石	VI A区	表探		チャート	北上山地	中生界	6.9	7.5	6.0	444		
	501	敲石	II B9i	II層	II	チャート	北上山地	中生界	(7.8)	(7.9)	(3.9)	(366)		
	502	敲石	III B3g	II層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	(7.1)	(6.3)	(4.2)	(329)		
	503	敲石	III B4h	III層	II	チャート	北上山地	中生界	9.5	8.3	6.0	666		
	504	敲石	III B3g		II	チャート	北上山地	中生界	7.7	6.39	6.5	474		
	505	敲石	III B5g	II層	III	粘板岩	北上山地	中生界	7.75	6.25	3.8	359		
	506	敲石	III B5g	III層	II	赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	(8.0)	(7.1)	(4.4)	(397)		
	507	敲石	III B5g	II層	II	チャート	北上山地	中生界	(6.9)	(6.05)	(5.4)	(368)		
	508	敲石	III B6g	II層	II	ホルンフェルス	北上山地	中生界	8.85	8.7	5.1	635		
	509	敲石	III B7e	II層	II	チャート	北上山地	中生界	(8.0)	(8.05)	(5.5)	(462)		
	510	敲石	IV B区	表探	II	チャート	北上山地	中生界	9.8	8.6	3.6	468		
	511	敲石	III B4g	III層上面	III	チャート	北上山地	中生界	(7.6)	(6.2)	(4.1)	(282.27)		
	512	敲石	III B4g	III層上面	III	ホルンフェルス	北上山地	中生界	7.35	6.65	5.25	331		
	513	敲石	III B6f	II層	III	チャート	北上山地	中生界	6.25	6.4	5.3	260.87		
	514	敲石	III B6g	III層	III	チャート	北上山地	中生界	5.7	5.65	3.9	167.47		
	515	敲石	IV B0b	II層	III	ホルンフェルス	北上山地	中生界	6.4	5.3	4.75	316		
	516	敲石	IV B2a		III	粘板岩	北上山地	中生界	7.95	8.55	6.5	540		
	517	敲石	II B9i	II層		チャート	北上山地	中生界	(7.85)	(7.25)	(6.9)	(376)		
	518	敲石	III B0g	II層		安山岩	北上山地	中生界	(7.18)	(6.8)	(2.4)	(178.04)		
	519	敲石	III B5g	III層		チャート	北上山地	中生界	(7.45)	(4.75)	(6.3)	(247.99)		
	520	敲石	III B6f	II層		チャート	北上山地	中生界	(7.4)	(6.85)	(6.6)	(433)		
	521	敲石	III B4e	III層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	13.9	9.7	3.9	844		
	522	敲石	III B3g	I層	I	砂岩	北上山地	中生界	12.6	4.7	2.6	216.67		
	523	敲石	III B4g	III層上面	I	凝灰岩	北上山地	中生界	11.3	6.3	2.95	352		
	524	敲石	IV A区	表探	I	粘板岩	北上山地	中生界	9.75	9.3	8.35	1078		
	525	敲石	II B区	表探	II	粘板岩	北上山地	中生界	11.5	8.3	5.5	720		
	526	敲石	II B7j	III層	II	粘板岩	北上山地	中生界	10.0	8.0	5.4	853		
	527	敲石	III B3h	III層上面	II	凝灰岩	北上山地	中生界	16.0	6.6	5.2	812		
	528	敲石	III B4h	III層上面	II	粘板岩	北上山地	中生界	11.45	9.15	5.8	1150		
	529	敲石	III B4g	III層上面	II	粘板岩	北上山地	中生界	12.35	8.6	3.85	634		
	530	敲石	III B5g	III層上面	II	粘板岩	北上山地	中生界	10.85	7.35	5.1	750		
	531	敲石	III D0a	I層	II	粘板岩	北上山地	中生界	9.95	7.6	4.3	582		
	532	敲石	IV B1f	I層	II	粘板岩	北上山地	中生界	(7.6)	(6.3)	(5.9)	(439)		
	533	敲石	II C6f	II層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	17.4	7.4	4.6	933		
	534	敲石	V B3a	III層下位	IV	安山岩	北上山地	中生界	7.75	6.5	3.3	233.19		
	535	敲石	III B6d	II層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	10.95	7.0	3.7	459		
	536	敲石	III B0d	I層	IV	粘板岩	北上山地	中生界	(6.4)	(4.05)	(2.9)	(132.59)		
	537	敲石	III B8e	III層上面	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	10.3	8.2	5.4	742		
	538	敲石	II C8e	II層	IV	安山岩	北上山地	中生界	12.3	10.55	6.1	940		
	539	敲石	II C8g	II層	IV	凝灰岩	北上山地	中生界	14.0	7.0	3.9	525		
	540	敲石	IV B1b	II層	IV	安山岩	北上山地	中生界	9.1	9.55	4.9	632		
	541	敲石	II C区	表探		粘板岩	北上山地	中生界	(8.6)	(7.4)	(2.7)	(231.76)		
	542	敲石	II C8g	II層		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(8.0)	(8.6)	(4.7)	(410)		
	543	敲石	II C8h	II層		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(7.0)	(5.1)	(3.4)	(192.66)		
	544	敲石	III C区	表探		安山岩	北上山地	中生界	(6.05)	(2.2)	(2.8)	(44.03)		
	545	欠番												
	546	敲石	III B0f	I層		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(3.6)	(3.65)	(4.3)	(68.09)		
	547	敲石	III B1g	III層		ダイサイト	北上山地	中生界	(8.5)	(3.6)	(4.2)	(166.76)		
	548	敲石	III B1h			ホルンフェルス	北上山地	中生界	(2.5)	(6.3)	(4.7)	(85.84)		
	549	敲石	III B3h	I層		粘板岩	北上山地	中生界	(4.5)	(5.5)	(1.4)	(61.12)		
	550	敲石	III B3g	II層		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(3.4)	(4.8)	(3.0)	(63)		
	551	敲石	III B3h	III層上面		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(4.4)	(7.1)	(5.0)	(189.61)		
	552	敲石	III B3h	III層		チャート	北上山地	中生界	(5.85)	(6.45)	(3.1)	(129.74)		
	553	敲石	III B4g	III層		チャート	北上山地	中生界	(5.45)	(7.2)	(3.0)	(147.88)		
	554	敲石	III B4g	III層上面		粘板岩	北上山地	中生界	(4.9)	(5.8)	(2.5)	(74.09)		
	555	敲石	III B4g	III層上面		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(5.55)	(4.4)	(4.3)	(118.35)		
	556	敲石	III B4h	II層		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(2.25)	(6.6)	(2.2)	(60.07)		
	557	敲石	III B5h	II層		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(6.4)	(6.15)	(1.2)	(72.31)		
	558	敲石	III B5h	II層		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(3.1)	(2.1)	(0.7)	(7.45)		
	559	敲石	III B5g	II層		硬砂岩	北上山地	中生界	(4.95)	(6.2)	(2.7)	(109.90)		
	560	敲石	III B5f	II層		チャート	北上山地	中生界	(5.1)	(6.0)	(3.4)	(83.38)		

第20表 石器一覧表(8)

報告書番号	登録番号	器種	出土地点	層位	分類	石質	産地	生成年代	長さ	幅	厚さ	重量	図版	写真図版
	561	敲石	III B6g	II層		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(5.2)	(6.0)	(4.6)	212.55		
	562	敲石	V A3i	I層		チャート	北上山地	中生界	(7.0)	(6.5)	(1.5)	(91.43)		
	563	敲石	V A3i	II a層		チャート	北上山地	中生界	(7.0)	(6.5)	(3.4)	(193.94)		
	564	特殊磨石	II B9g	I層		半花崗岩	北上山地	中生界	9.0	5.8	3.1	197.70		
	565	特殊磨石	III B0h	II層		アルユース砂岩	北上山地	中生界	12.7	5.0	5.15	416		
	566	特殊磨石	III B1i	III層		アルユース砂岩	北上山地	中生界	12.85	5.4	3.8	384		
	567	特殊磨石	III B4g	III層上面		安山岩	北上山地	中生界	14.3	10.1	7.5	1327		
	568	特殊磨石	III B4g	III層上面		安山岩	北上山地	中生界	10.6	7.4	5.5	479		
	569	特殊磨石	III B4g	III層上面		半花崗岩	北上山地	中生界	11.6	6.9	5.3	547		
	570	特殊磨石	V A2h	II層		凝灰角礫岩	北上山地	中生界	9.35	6.0	3.3	282.28		
	571	特殊磨石	V A4j	I層		凝灰岩	北上山地	中生界	12.6	7.7	4.7	837		
	572	特殊磨石	V A5f	III層		デイサイト	北上山地	中生界	16.4	6.0	4.5	627		
	573	特殊磨石	III B4h	III層上面		安山岩	北上山地	中生界	11.8	7.2	5.0	501		
	574	特殊磨石	III B9f	II層		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	11.65	6.1	5.0	437		
	575	特殊磨石	III B5g	III層		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	14.8	9.7	8.1	1060		
	576	特殊磨石	V A6a	III b層		デイサイト	北上山地	中生界	16.15	7.3	6.85	1027		
	577	特殊磨石	III B0h	II層		デイサイト	北上山地	中生界	11.9	9.1	7.1	933		
	578	特殊磨石	III B3g	III層上面		安山岩	北上山地	中生界	12.8	6.8	5.1	545		
	579	特殊磨石	III B4g	III層上面		安山岩	北上山地	中生界	14.9	10.1	7.5	1195		
	580	特殊磨石	III B8e	III層上面		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	14.0	7.2	6.9	828		
	581	特殊磨石	III B4g	III層上面		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(7.1)	(4.65)	(3.3)	(157.66)		
	582	特殊磨石	III B4g	I層		アルユース砂岩	北上山地	中生界	(8.7)	(6.0)	(5.3)	(217.44)		
	583	特殊磨石	III B6f	II層					(8.5)	(7.4)	(4.1)	(407)		
	584	特殊磨石	III B7f	III層		アルユース砂岩	北上山地	中生界	(5.7)	(6.3)	(3.4)	(167.13)		
	585	特殊磨石	III B9e	III層上面		硬砂岩	北上山地	中生界	(8.9)	(6.9)	(5.4)	(433)		
	586	特殊磨石	III B6g	III層上面		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(12.7)	(8.0)	(4.3)	(506)		
	587	特殊磨石	III B8e	VI層		アルユース砂岩	北上山地	中生界	(8.9)	(7.1)	(5.8)	(423)		
	588	特殊磨石	III B5c	II層		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(7.8)	(2.6)	(3.5)	(77.21)		
	589	特殊磨石	III B5f	III層上面		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(8.3)	(6.3)	(4.6)	(352)		
	590	特殊磨石	III B4g	III層上面		凝灰岩	北上山地	中生界	(7.2)	(7.5)	(6.4)	(297.66)		
	591	特殊磨石	III B4g	III層上面		凝灰岩	北上山地	中生界	(9.85)	(6.1)	(3.6)	(373)		
	592	特殊磨石	V A5i	I層		凝灰岩	北上山地	中生界	(5.9)	(3.05)	(3.4)	(98.73)		
	593	特殊磨石	III B3g	III層上面		流紋岩	北上山地	中生界	(8.65)	(7.5)	(6.0)	(536)		
	594	特殊磨石	IV B2a	II層		ホルンフェルス	北上山地	中生界	(11.3)	(6.7)	(4.4)	(391)		
	595	特殊磨石	II B7j	III層		安山岩	北上山地	中生界	(6.55)	(6.8)	(4.9)	(223.02)		
	596	特殊磨石	III B4g	III層上面		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(11.3)	(7.1)	(5.4)	(658)		
	597	特殊磨石	III B3g	III層上面		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(8.15)	(6.6)	(5.3)	(464)		
	598	特殊磨石	IV B5f	III層		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(6.3)	(6.35)	(4.1)	(200.85)		
	599	特殊磨石	V A4i	I層		凝灰岩	北上山地	中生界	(7.3)	(4.6)	(3.9)	(68.37)		
	600	特殊磨石	III B0h	II層		安山岩	北上山地	中生界	(4.15)	(6.8)	(4.5)	(235.53)		
	601	特殊磨石	III B2f			硬砂岩	北上山地	中生界	(7.05)	(7.65)	(6.4)	(456)		
	602	特殊磨石	III B1f	II層		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(6.55)	(6.8)	(5.25)	(332)		
	603	特殊磨石	III B0g	II層		凝灰岩	北上山地	中生界	(10.2)	(7.4)	(3.2)	(312)		
	604	特殊磨石	III B7e	II層		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(8.65)	(8.0)	(5.2)	(328)		
	605	特殊磨石	II C7a	III層		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(8.5)	(7.15)	(5.45)	(414)		
	606	特殊磨石	II C8a	III層		安山岩	北上山地	中生界	(6.3)	(6.05)	(5.0)	(228.19)		
	607	特殊磨石	II B9g	III層上面		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(10.3)	(6.8)	(4.95)	(478)		
	608	特殊磨石	III B5g	II層		凝灰岩	北上山地	中生界	(8.8)	(8.0)	(4.45)	(225.05)		
	609	特殊磨石	II D5h	I層		アルユース砂岩	北上山地	中生界	(8.5)	(6.7)	(4.6)	(391)		
	610	特殊磨石	III B0f	II層		安山岩	北上山地	中生界	(4.6)	(7.3)	(4.9)	(221.68)		
	611	特殊磨石	II C区	表採		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(8.8)	(7.1)	(4.5)	(368)		
	612	特殊磨石	II B7j	III層		凝灰岩	北上山地	中生界	(6.6)	(6.6)	(5.0)	(272.29)		
	613	特殊磨石	II C8h	II層		凝灰岩	北上山地	中生界	(6.7)	(4.1)	(2.2)	(118.37)		
	614	礫器	V A2i	II a層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	10.4	8.6	2.8	356		
	615	礫器	V B2a	I層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	11.1	9.35	3.3	640		
	616	礫器	III B1e	I層	I	ホルンフェルス	北上山地	中生界	8.5	10.0	(5.3)	(607)		
	617	礫器	IV B0c	II層	I	粘板岩	北上山地	中生界	10.25	9.7	3.1	421		
	618	礫器	II B9i	II層下位	I	凝灰岩	北上山地	中生界	11.0	8.8	3.6	546		
	619	礫器	VI A0f	II層	I	粘板岩	北上山地	中生界	9.1	7.8	3.3	298.47		
	620	礫器	III B6g	II層	I	粘板岩	北上山地	中生界	11.7	8.2	2.9	361		
	621	礫器	IV B7g	III層上面	I	凝灰岩	北上山地	中生界	9.35	9.5	3.9	614		
	622	礫器	IV B6f	I層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	8.85	10.8	4.0	613		
	623	礫器	III B7f	III層上面	I	安山岩	北上山地	中生界	10.2	13.45	5.2	1026		
	624	礫器	III C区	表採	I	安山岩	北上山地	中生界	13.0	10.35	4.1	885		
	625	礫器	III B6d	III層上面	I	凝灰岩	北上山地	中生界	7.95	7.65	4.9	438		
	626	礫器	III B5f	III層上面	I	凝灰岩	北上山地	中生界	7.4	8.6	4.8	459		
	627	礫器	III B5f	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	7.85	7.9	4.2	402		
	628	礫器	III B4g	III層上面	I	赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	6.0	6.2	5.5	287.18		
	629	礫器	III B2f	III層上面	I	チャート	北上山地	中生界	(5.8)	(8.7)	(4.4)	(210.91)		
	630	礫器	II C8f	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	9.25	9.2	4.9	622		

第21表 石器一覧表(9)

報告書番号	登録番号	器種	出土地点	層位	分類	石質	産地	生成年代	長さ	幅	厚さ	重量	図版	写真図版
	631	礫器	II B区	表採	I	粘板岩	北上山地	中生界	(10.8)	(7.75)	(3.6)	(451)		
	632	礫器	III B2f		I	ホルンフェルス	北上山地	中生界	8.5	10.5	4.6	489		
	633	礫器	II B区	表採	I	安山岩	北上山地	中生界	(8.7)	(7.7)	(3.9)	(305.72)		
	634	礫器	II C6f	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	7.6	6.0	2.5	161.30		
	635	礫器	II C6a	I層	I	ホルンフェルス	北上山地	中生界	(7.3)	(7.75)	(4.9)	(338)		
	636	礫器	II C区	表採	I	安山岩	北上山地	中生界	7.85	8.7	4.4	363		
	637	礫器	II C区	表採	I	安山岩	北上山地	中生界	(8.25)	(6.4)	(4.1)	(348)		
	638	礫器	III B9f	III層上面	I	ホルンフェルス	北上山地	中生界	(7.8)	(9.9)	(3.9)	(408)		
	639	礫器	II B8i	II層	I	半花崗岩	北上山地	中生界	(9.6)	(8.2)	(5.5)	(402)		
	640	礫器	II C6f	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	7.2	8.05	2.85	263.92		
	641	礫器	III B6f	II層	I	粘板岩	北上山地	中生界	9.7	6.5	4.3	294.72		
	642	礫器	II C8g	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	7.6	9.8	3.8	351		
	643	礫器	II B9i	II層	I	ホルンフェルス	北上山地	中生界	8.5	6.55	2.55	180.38		
	644	礫器	II B8j	III層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	9.9	6.9	4.25	508		
	645	礫器	III B4g	III層上面	I	粘板岩	北上山地	中生界	(9.2)	(7.55)	(3.0)	(274.27)		
	646	礫器	III B5f	I層	I	粘板岩	北上山地	中生界	8.4	7.05	2.4	191.34		
	647	礫器	II C8b	II層	I	凝灰岩	北上山地	中生界	7.95	7.95	3.35	329		
	648	礫器	III B0i	II層	I	安山岩	北上山地	中生界	11.1	8.9	3.45	544		
	649	台石・石皿類	III B6d	II層		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(22.3)	(19.4)	(12.2)	(8500)		
	650	台石・石皿類	IV B1c	I層		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(35.1)	(22.0)	(7.0)	(9000)		
	651	台石・石皿類	III B3h	II層下位		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	20.4	15.5	6.3	2918		
	652	台石・石皿類	III B3f	III層上面		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(12.8)	(8.6)	(8.3)	(2114)		
	653	台石・石皿類	III B6e	III層上面					(12.55)	(5.8)	(6.2)	(816)		
	654	台石・石皿類	III B4f	II層		安山岩	北上山地	中生界	(5.9)	(5.8)	(5.0)	(229.97)		
	655	台石・石皿類	III B5f	III層上面		角閃ヒン岩	北上山地	中生界	(10.7)	(7.2)	(7.6)	(591)		
	656	台石・石皿類	III B4g	III層上面		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(5.2)	(8.3)	(5.5)	(279.51)		
	657	台石・石皿類	III B6e	III層上面		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(24.5)	(10.9)	(6.6)	(2186)		
	658	台石・石皿類	III B4g	III層上面		角閃ヒン岩	北上山地	中生界	(9.0)	(6.2)	(2.2)	(132.81)		
	659	台石・石皿類	III B5g	II層		安山岩	北上山地	中生界	(6.6)	(6.9)	(3.9)	(253.52)		
	660	台石・石皿類	III B6e	II層		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(39.6)	(28.5)	(19.7)	(32500)		
	661	台石・石皿類	III B4g	III層上面		安山岩	北上山地	中生界	(9.15)	(8.3)	(6.3)	(542)		
	662	台石・石皿類	III B4g	III層上面		花崗閃緑岩	北上山地	中生界	(12.0)	(8.5)	(8.4)	(1312)		
	663	凹石	V A区	I層		デイサイト	北上山地	中生界	9.45	7.3	6.7	652		
	664	凹石	III B4h	III層上面		硬砂岩	北上山地	中生界	(7.0)	(6.15)	(2.65)	(173.34)		
	665	軽石	II C区	表採		軽石	産地不明	第4紀	(2.2)	(3.2)	(1.9)	(2.12)		
	666	Rフレ	V A2g	II層		泥質凝灰岩	北上山地	中生界	2.55	1.9	0.7	6.67		
	667	Rフレ	II B区	表採		赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	1.9	2.3	0.6	2.66		
	668	Rフレ	II C8a	III層		粘板岩	北上山地	中生界	5.4	3.65	0.8	15.64		
	669	Rフレ	III B0g	I層		チャート質凝灰岩	北上山地	中生界	4.9	4.15	1.6	32.69		
	670	Rフレ	III B2h	III層		泥質凝灰岩	北上山地	中生界	2.6	1.5	0.5	1.49		
	671	Rフレ	III D0a	I層		チャート	北上山地	中生界	3.25	1.55	0.3	2.42		
	672	Rフレ	III B2h	I層		赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	2.6	1.95	0.6	4.02		
	673	Rフレ	III B6g	II層		凝灰質粘板岩	北上山地	中生界	1.75	1.3	0.3	0.69		
	674	Rフレ	III B6e	I層		赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	2.65	2.1	0.4	2.41		
	675	Rフレ	III B7f	II層		チャート	北上山地	中生界	3.0	2.1	0.5	3.96		
	676	Rフレ	III B2h	I層		凝灰質粘板岩	北上山地	中生界	2.8	2.2	0.6	3.74		
	677	Rフレ	III D0c	II層		赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	3.0	2.7	1.0	9.85		
	678	Rフレ	V A4i	I層		泥質凝灰岩	北上山地	中生界	3.05	3.6	1.8	12.45		
	679	Rフレ	V A7g	I層		チャート質凝灰岩	北上山地	中生界	2.35	3.25	1.0	6.12		
	680	Uフレ	I C8h	II層		粘板岩	北上山地	中生界	3.15	2.8	0.65	5.71		
	681	Uフレ	IV B3c	II層		チャート	北上山地	中生界	3.25	1.6	0.5	2.47		
	682	Uフレ	I C8h	II層		粘板岩	北上山地	中生界	4.65	4.6	0.85	21.73		
	683	Uフレ	II C7a	II層		安山岩	北上山地	中生界	6.55	3.0	0.9	14.37		
	684	Uフレ	II B6e	I層		泥質凝灰岩	北上山地	中生界	4.6	3.75	0.9	16.12		
	685	Uフレ	II C区	表採		粘板岩	北上山地	中生界	1.6	3.5	0.7	4.88		
	686	Uフレ	III B区	表採		凝灰質粘板岩	北上山地	中生界	1.8	2.6	0.8	3.62		
	687	Uフレ	III D区	表採		赤褐色凝灰岩	北上山地	中生界	4.6	2.65	1.5	16.36		
	688	Uフレ	III B4g	III層		チャート	北上山地	中生界	1.5	2.6	0.5	1.57		
	689	Uフレ	III B4e	I層		チャート	北上山地	中生界	2.55	3.1	0.5	3.44		
	690	Uフレ	III C区	表採		流紋岩	北上山地	中生界	2.15	3.4	0.6	3.39		
	691	ピエス・エスキーユ	III B3e	I層					(12.55)	(5.8)	(6.2)	(816)		

第22表 石器一覧表(10)

## 引用・参考文献

\*それぞれ次のように略称した。

「岩手県埋蔵文化財センター」は「岩埋文」

「岩手県埋蔵文化財調査報告書」は「岩埋文調査報告書」

「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター」は「岩文振埋文」

「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書」は「岩文振埋文調査報告書」

「教育委員会」は「教委」

他県の報告書もこれに準じ省略して掲げた。

- 相原 淳一 1978：「東北地方の押型文文化をめぐって」帝塚山考古学研究所『縄文早期を考える』シンポジウム資料
- 青森県教委 1975：『中の平遺跡発掘調査報告書』青森県埋文調査報告書第25集
- 青森県教委 1980：『鷹架遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第63集
- 青森県教委 1982：『鴨平(1)遺跡』青森県埋文調査報告書第72集
- 青森県教委 1983：『和野前山遺跡』青森県埋文調査報告書第82集
- 青森県教委 1984：『売場遺跡発掘調査報告書(第3次・第4次)大タルミ発掘調査報告書』青森県埋文調査報告書第93集
- 秋田県教委 1990：『東北自動車道秋田線発掘調査報告書IV—下田遺跡・下田谷地遺跡—』秋田県文化財調査報告書第189集
- 岩埋文 1979：『二戸市沢内B遺跡』岩埋文調査報告書第7集
- 岩埋文 1983：『上里遺跡発掘調査報告書』岩埋文調査報告書第55集
- 岩文振埋文 1987：『大堤II遺跡発掘調査報告書』岩文振埋文調査報告書第119集
- 岩文振埋文 1988：『飛鳥台地I遺跡発掘調査報告書』岩文振埋文調査報告書第120集
- 岩文振埋文 1992：『鼻館遺跡発掘調査報告書』岩文振埋文調査報告書第171集
- 大沼 忠春 1975：「魚骨文の新展開について」『北海道考古学』第21輯
- 岡村 道雄 1979：「縄文時代石器の基礎的研究法とその具体例—その1—」『東北歴史資料館研究紀要』第5巻
- 岡村 道雄 1983：「ピエス・エスキーユ、楔形石器」『縄文文化の研究7 道具と技術』
- 熊谷 常正 1983：「岩手県における縄文時代前期土器群の成立」『岩手県立博物館研究報告』第1号
- 近藤 義郎 1984：『土器製塩の研究』
- 佐藤 達夫 1983：「青森県上北郡早稲田貝塚 第二次調査概報」『東アジアの先史文化と日本』
- 高橋亜貴子 1992：「東北地方縄文時代前期前葉組縄文について」『東北文化論のための先史学歴史学論集』
- 滝沢村教委 1986：『耳取遺跡』岩手県滝沢村文化財調査報告書第3集
- 滝沢村教委 1987：『仏沢III遺跡』岩手県滝沢村文化財調査報告書第5集
- 田村 壮一 1987：「陥し穴状遺構の形態と時期について」『(財)岩文振埋文 紀要』VII
- 階上町教委 1988：『白座遺跡・野場遺跡(3)発掘調査報告書』
- 福田 友之 1986：「考古学からみた『中振浮石』の降下年代」『弘前大学考古学研究』第3号
- 三宅 徹也 1989：「早稲田6類と表館式との関係」『東北・北海道における縄文時代前期中葉から前期初

頭にかけての土器編年について』縄文文化検討会シンポジウム資料

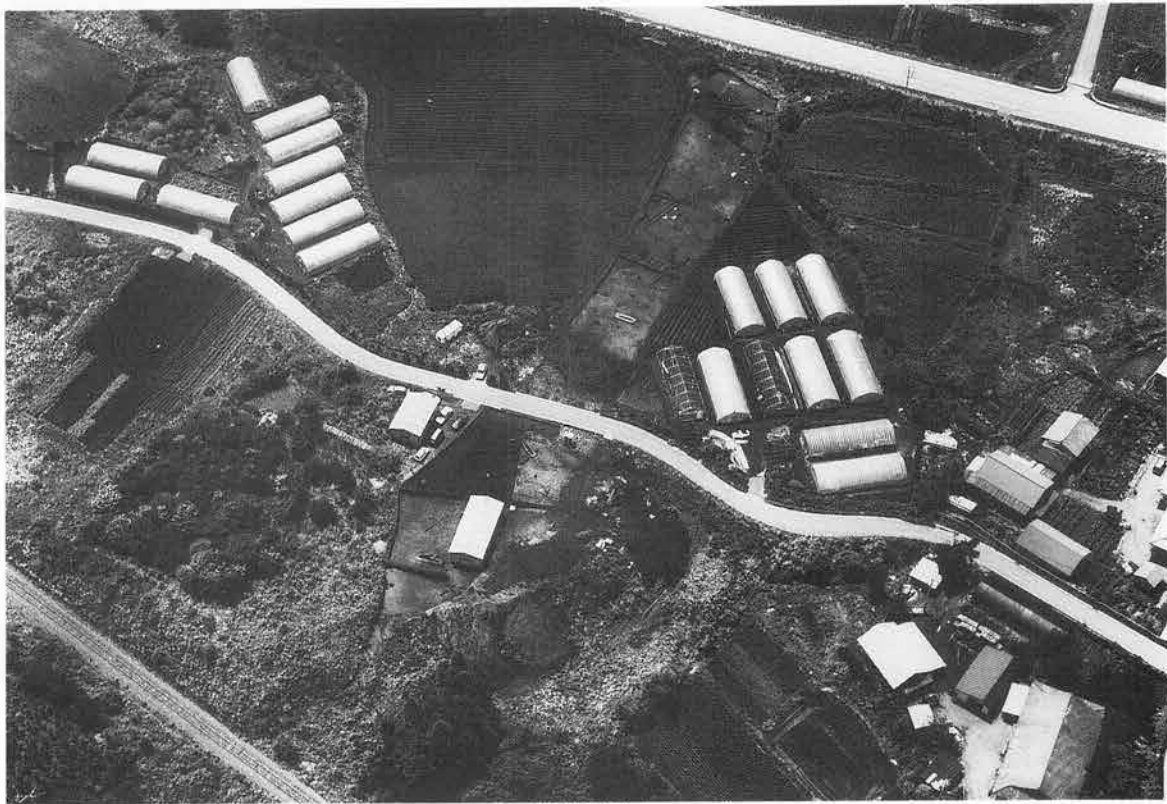
- 三沢市教委 1987：『根井沼(1)遺跡 発掘調査報告書Ⅲ』三沢市埋文調査報告書第5集
- 三沢市教委 1991：『小田内沼(1)・(4)遺跡 発掘調査報告書』三沢市埋文調査報告書第10集
- 宮古市教委 1979：『宮古市大付遺跡』
- 宮古市教委 1989：『千鶏遺跡』宮古市埋文調査報告書16
- 武藤 康弘 1988：「東北地方北部の縄文前期土器群の編年学的研究」『考古学雑誌』74-2 他
- 武藤 康弘 1991：「東北地方北部の縄文前期土器群の編年学的研究Ⅱ」『考古学雑誌』76-3

写 真 图 版



調査区遠景

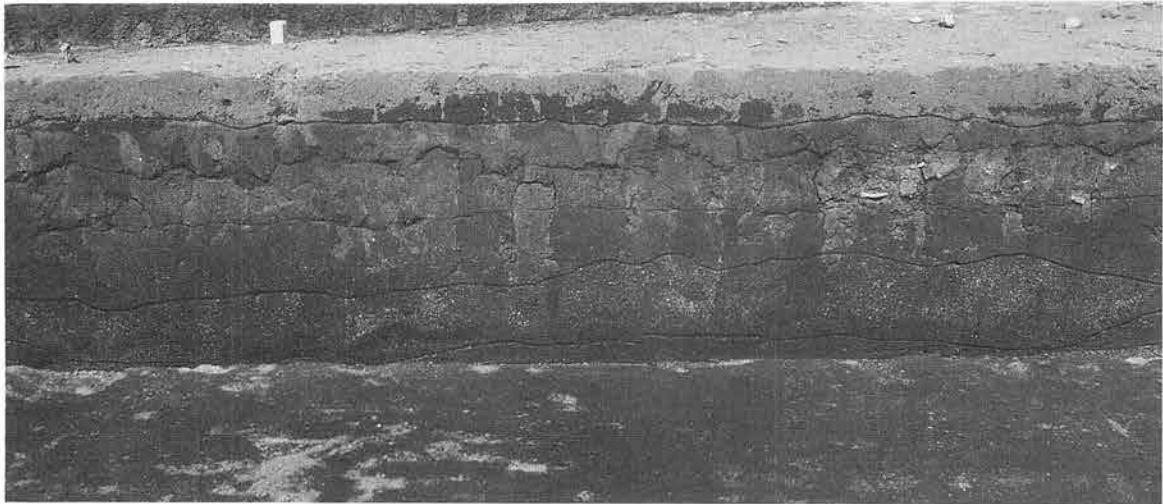
(東から)



調査区近景

(東から)





ⅢB区土層断面

(西から)



ⅢB4g付近遺物出土状況

(南から)



ⅢB5g付近遺物出土状況

(南から)



(平面)



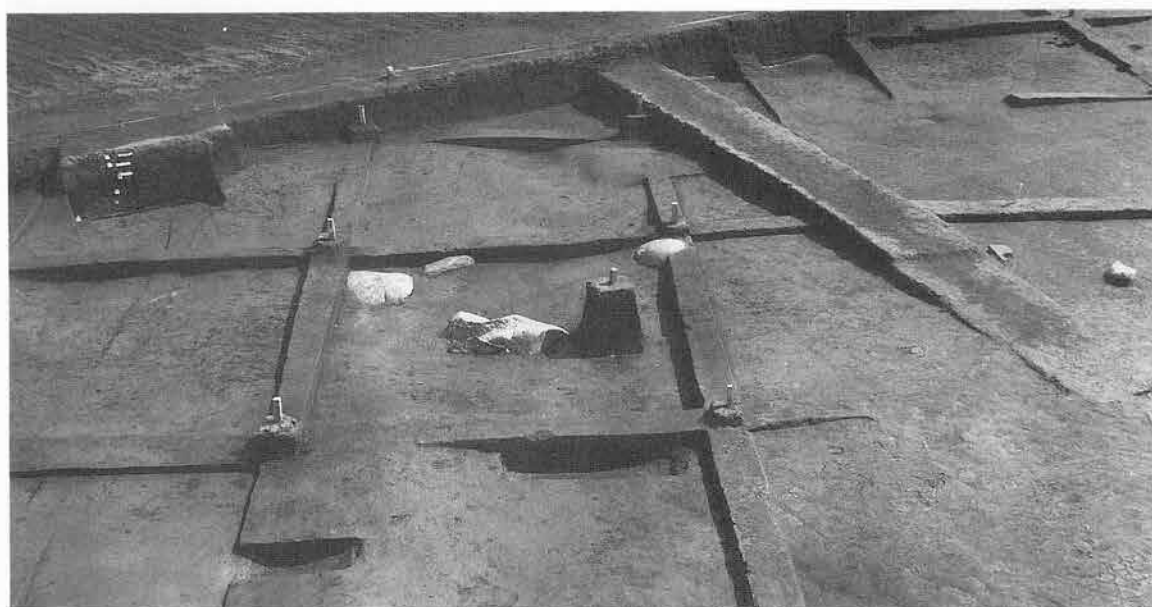
(平面)



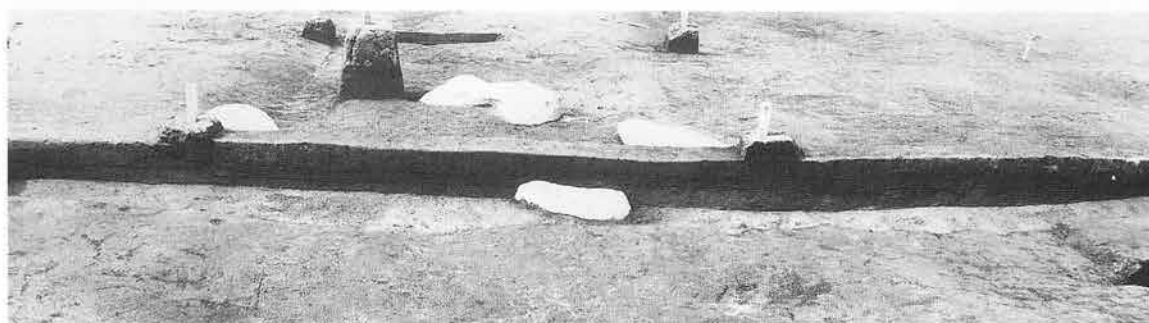
一括土器 (遺物番号43) 出土状況 (断面)



一括土器 (遺物番号45) 出土状況 (断面)



(平面)



III B区調査終了後の状況

(断面)

写真図版 3 遺物出土状況と調査終了後の状況



(全景)



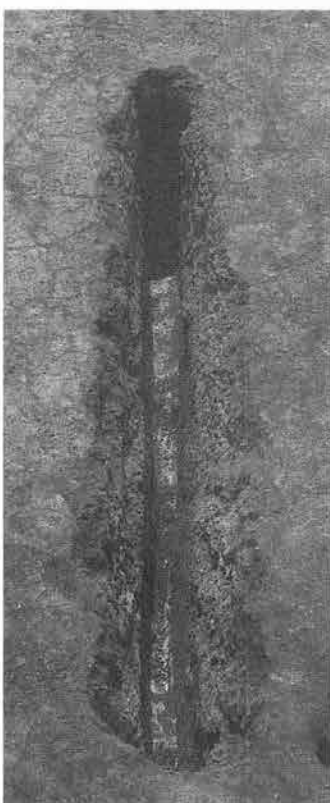
(全景)



第1号土坑 (埋土断面)



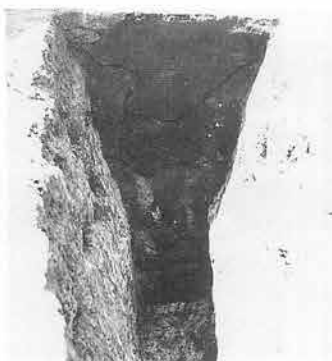
第2号土坑 (埋土断面)



第1号陥し穴 (全景)



第1号陥し穴 (埋土断面)



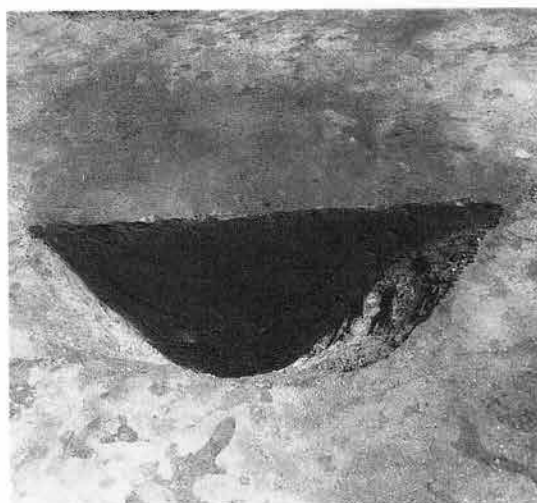
第2号陥し穴 (埋土断面)



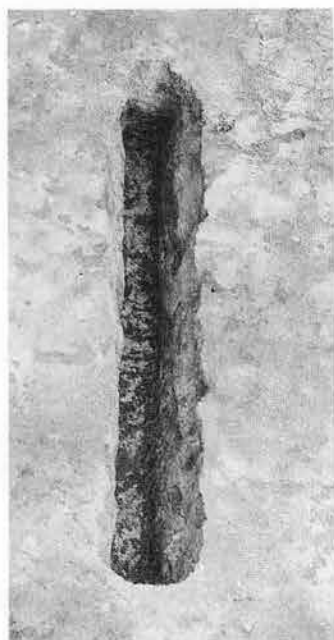
第2号陥し穴 (全景)



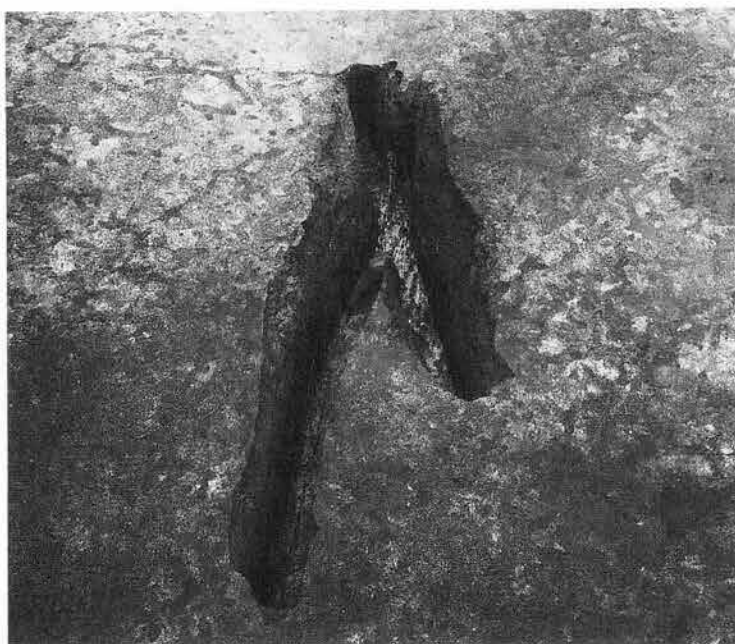
第4号陥し穴 (全景)



第4号陥し穴 (埋土断面)



(全景)



第5号(右)・第6号(左)陥し穴 (全景)



第3号陥し穴 (埋土断面)



第5号陥し穴 (埋土断面)  
写真図版5 陥し穴(2)



第6号陥し穴 (埋土断面)

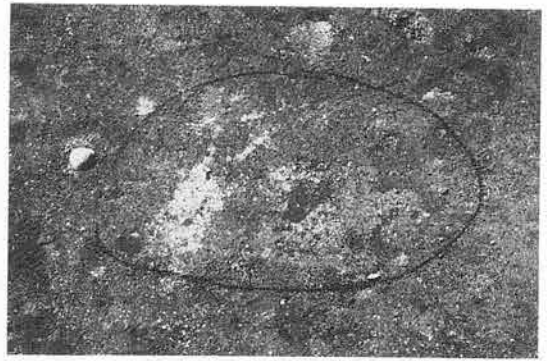




(検出状況)



第1号烧土 (断面)



(検出状況)



第2号烧土 (断面)



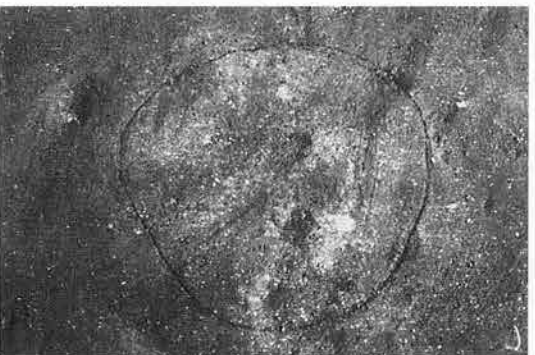
(検出状況)



第3号烧土 (断面)



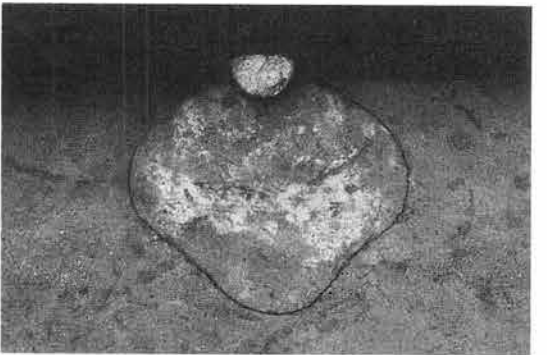
第4号烧土 (検出状況)



(検出状況)



第5号烧土 (断面)



(検出状況)



第6号烧土 (断面)



(検出状況)



第7号焼土 (断面)



(検出状況)



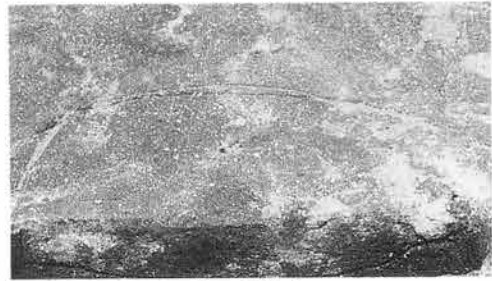
第9号焼土 (断面)



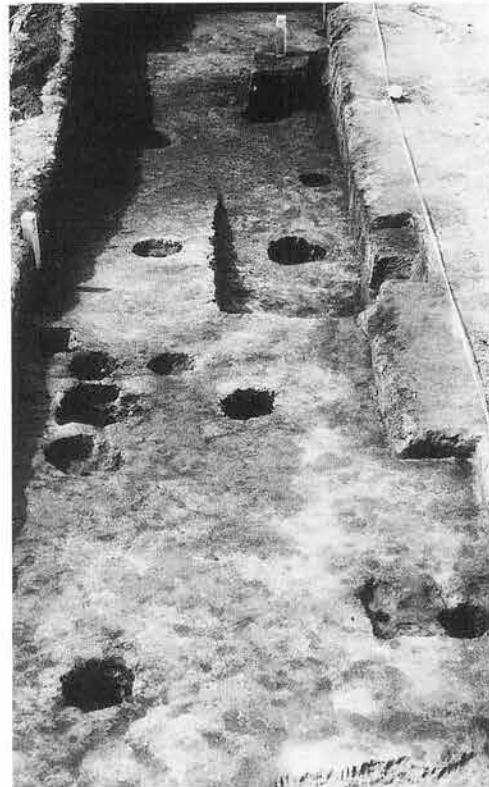
(検出状況)



第10号焼土 (断面)



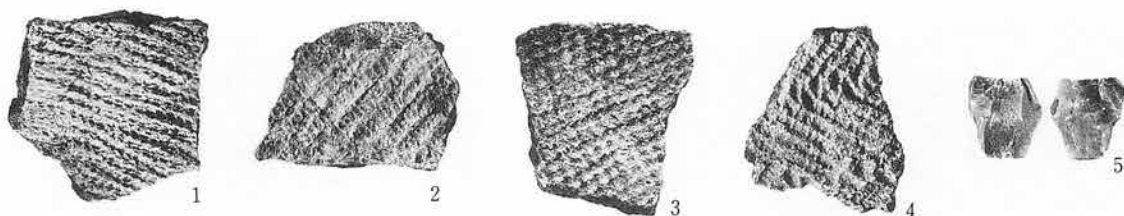
第8号焼土



II区柱穴状小土坑群



調査風景



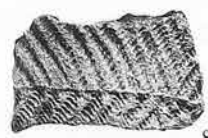
第1号土坑



第2号土坑



第1号陥し穴



8



9



11



12

第3号陥し穴



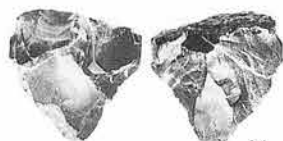
10

第2号陥し穴



13

第5号陥し穴



14

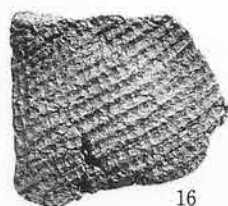
第6号陥し穴



15



「コハク」



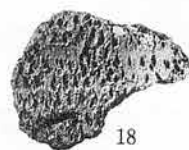
16

P 6



17

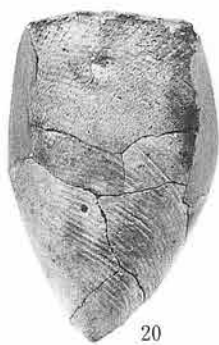
P 13



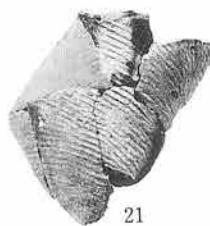
18



19



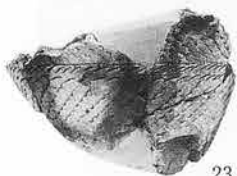
20



21



22



23



24



25



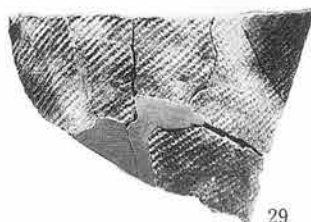
26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



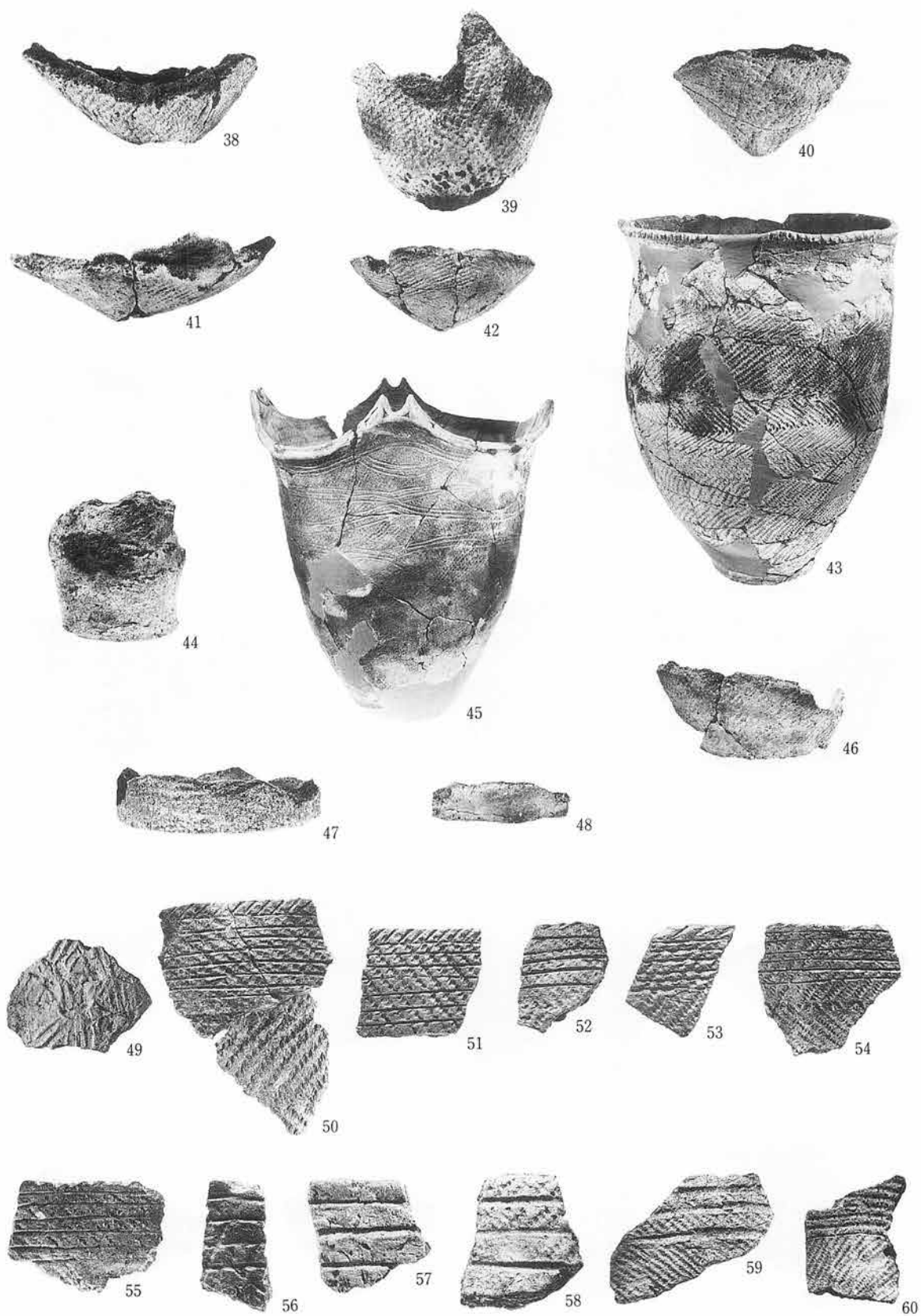
36



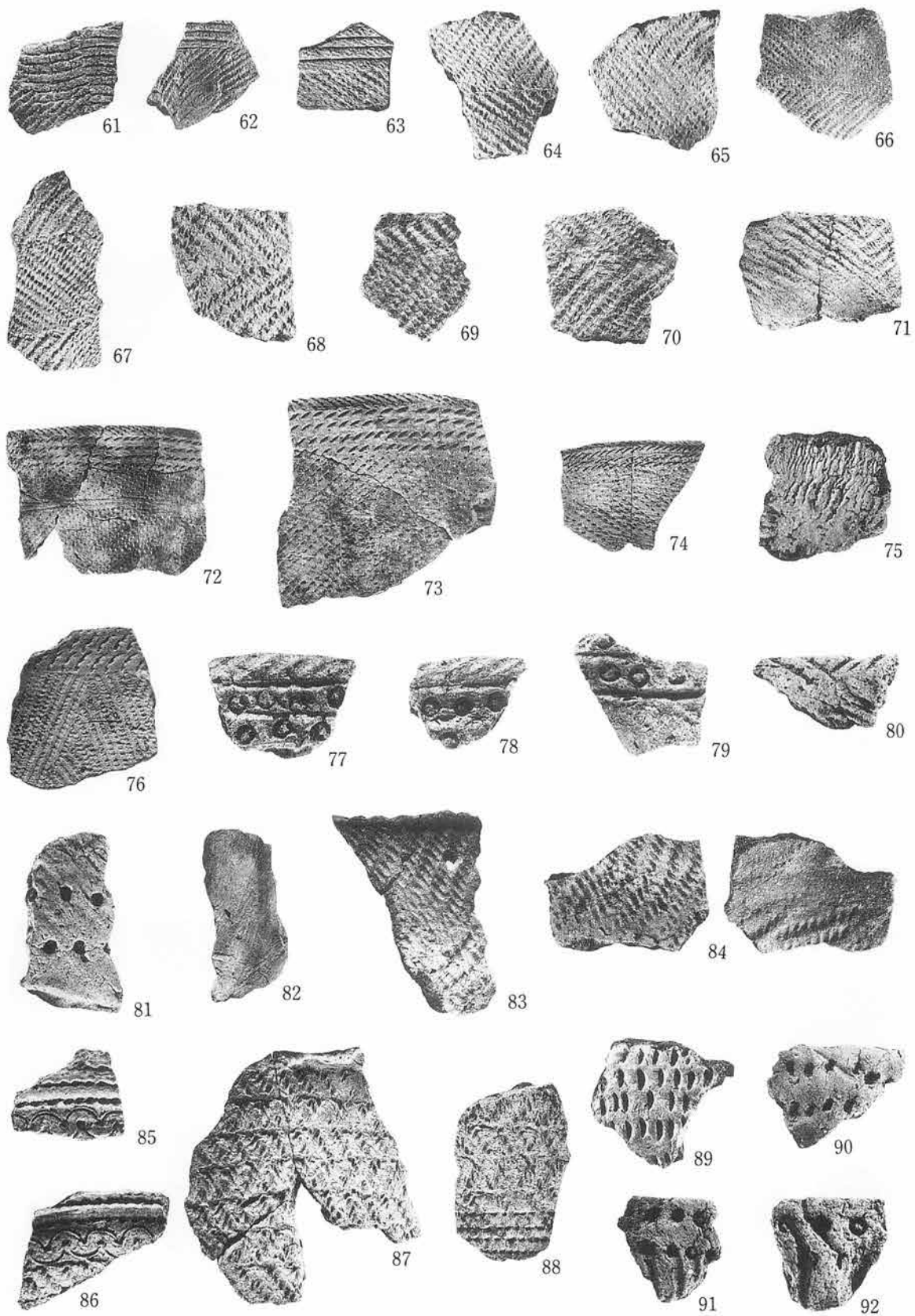
37

写真図版9 遺構外出土遺物 土器(1)

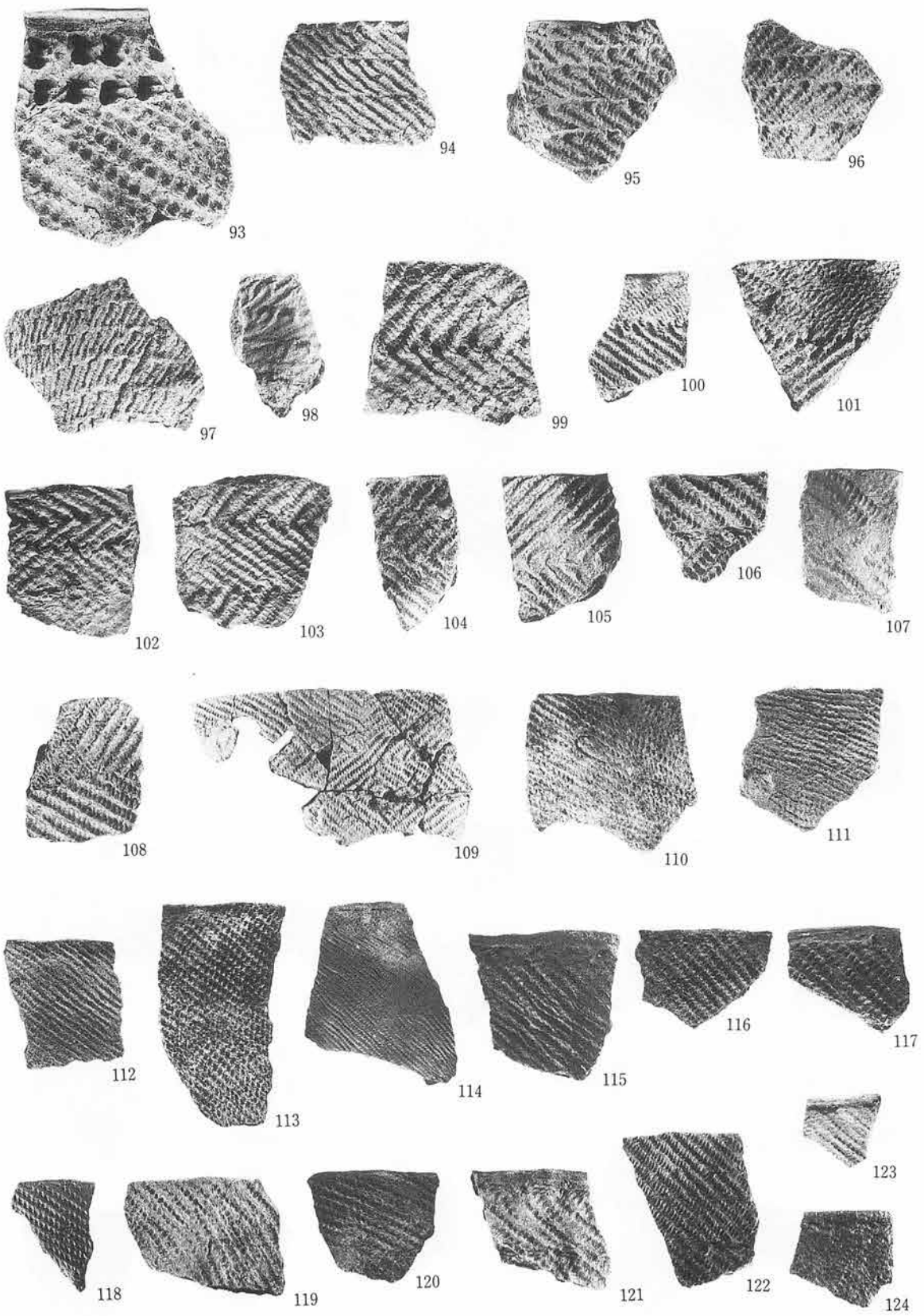




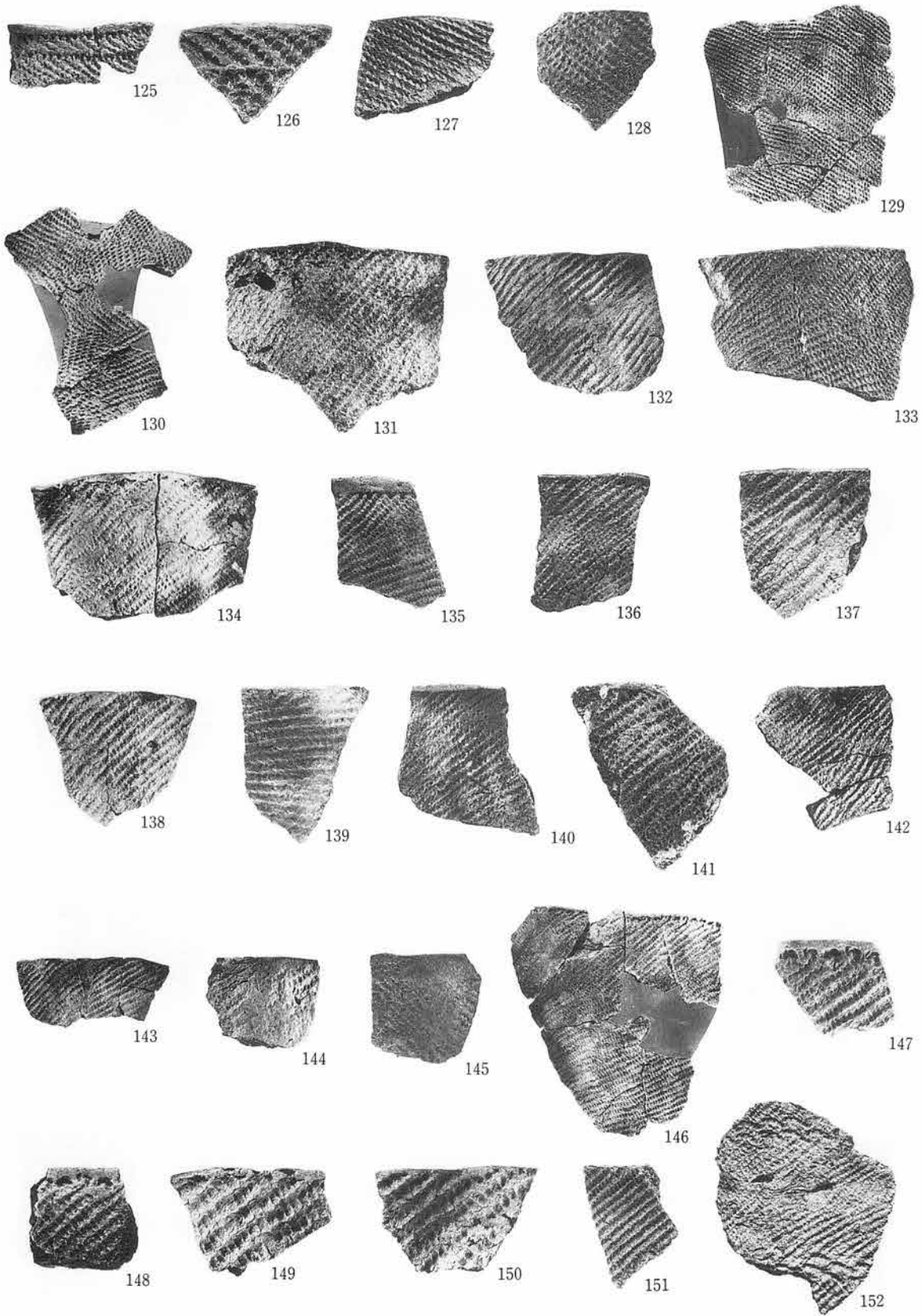
写真図版10 遺構外出土遺物 土器(2)



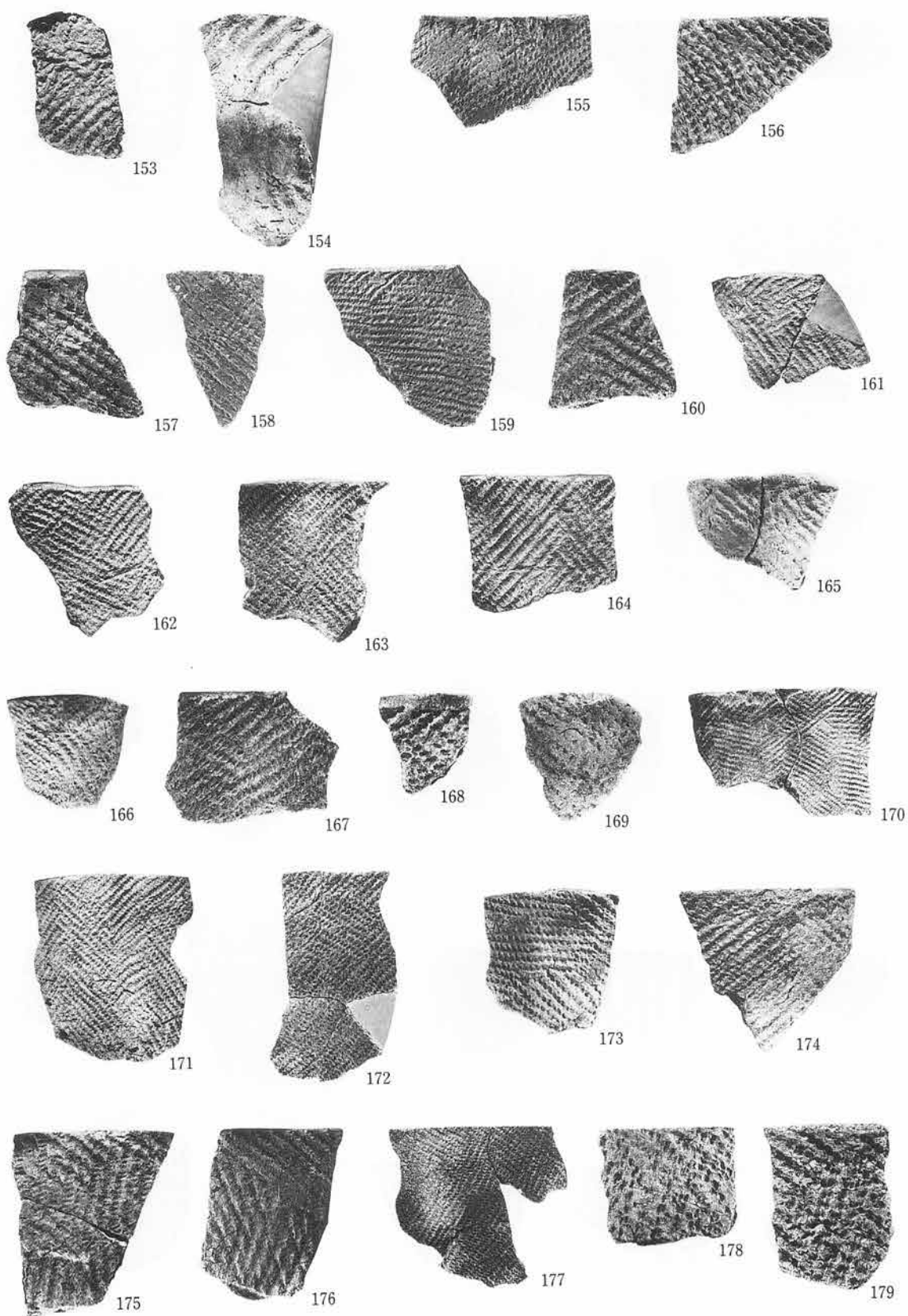
写真图版11 遺構外出土遺物 土器(3)



写真図版12 遺構外出土遺物 土器(4)

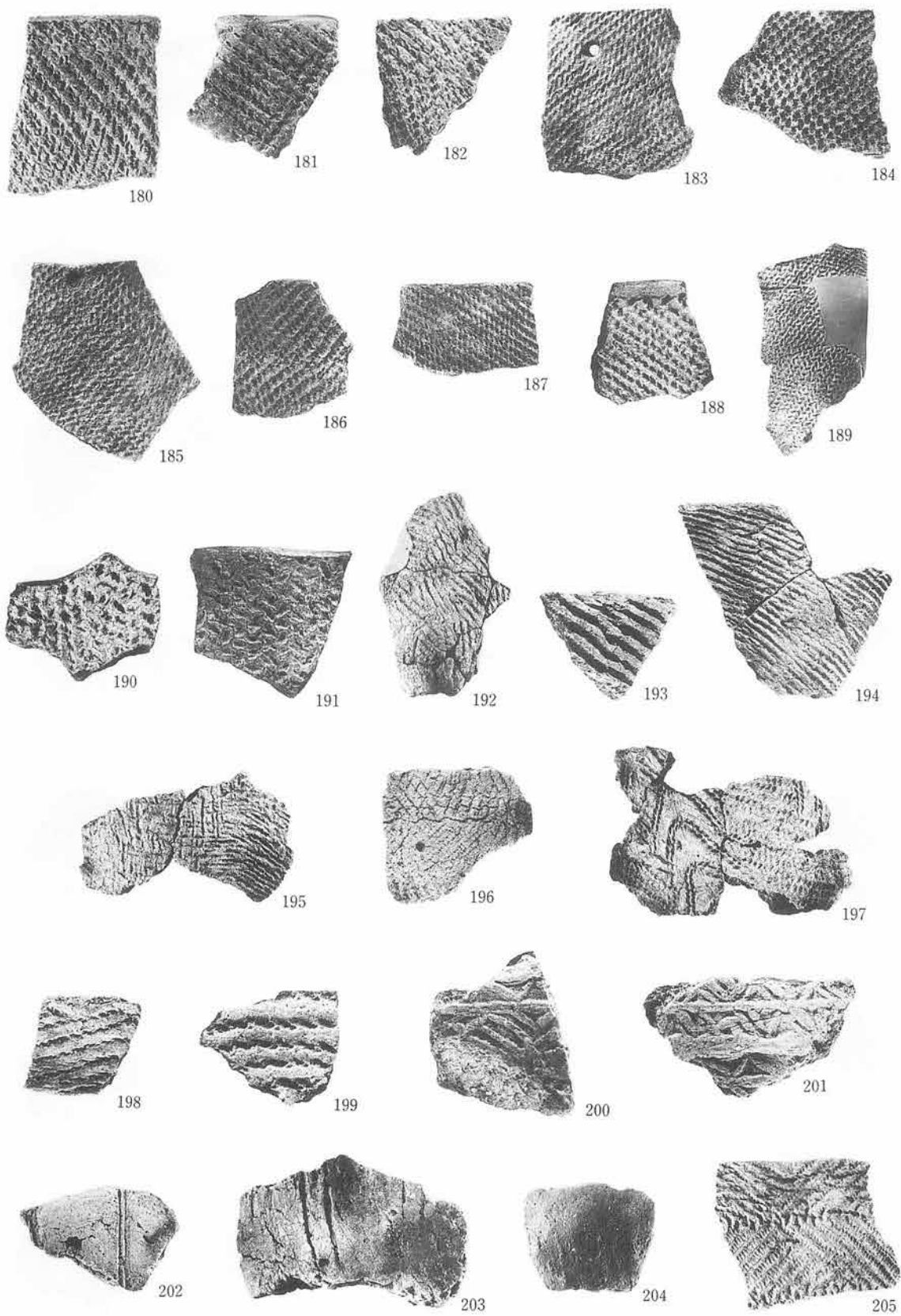


写真図版13 遺構外出土遺物 土器(5)

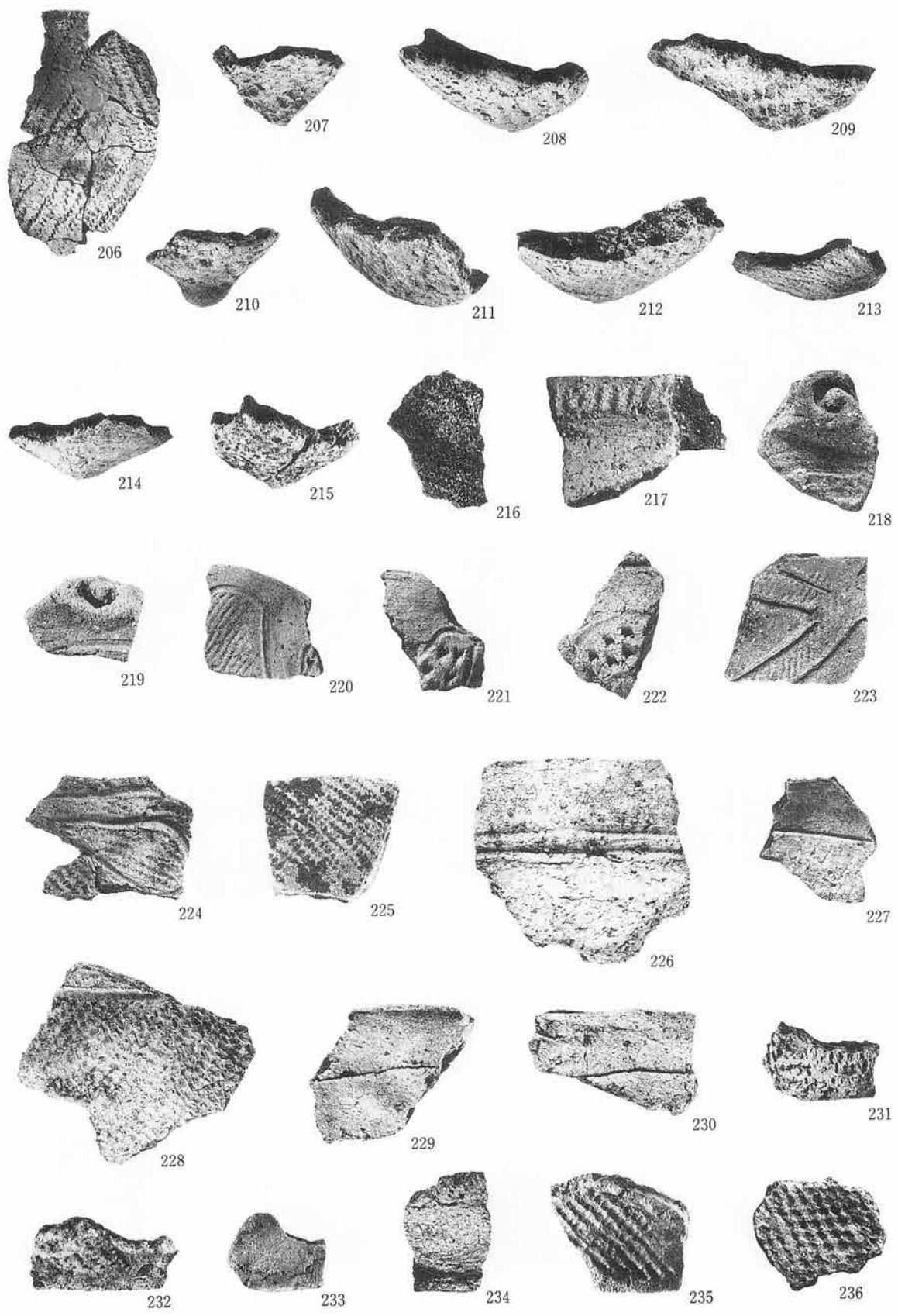


写真図版14 遺構外出土遺物 土器(6)

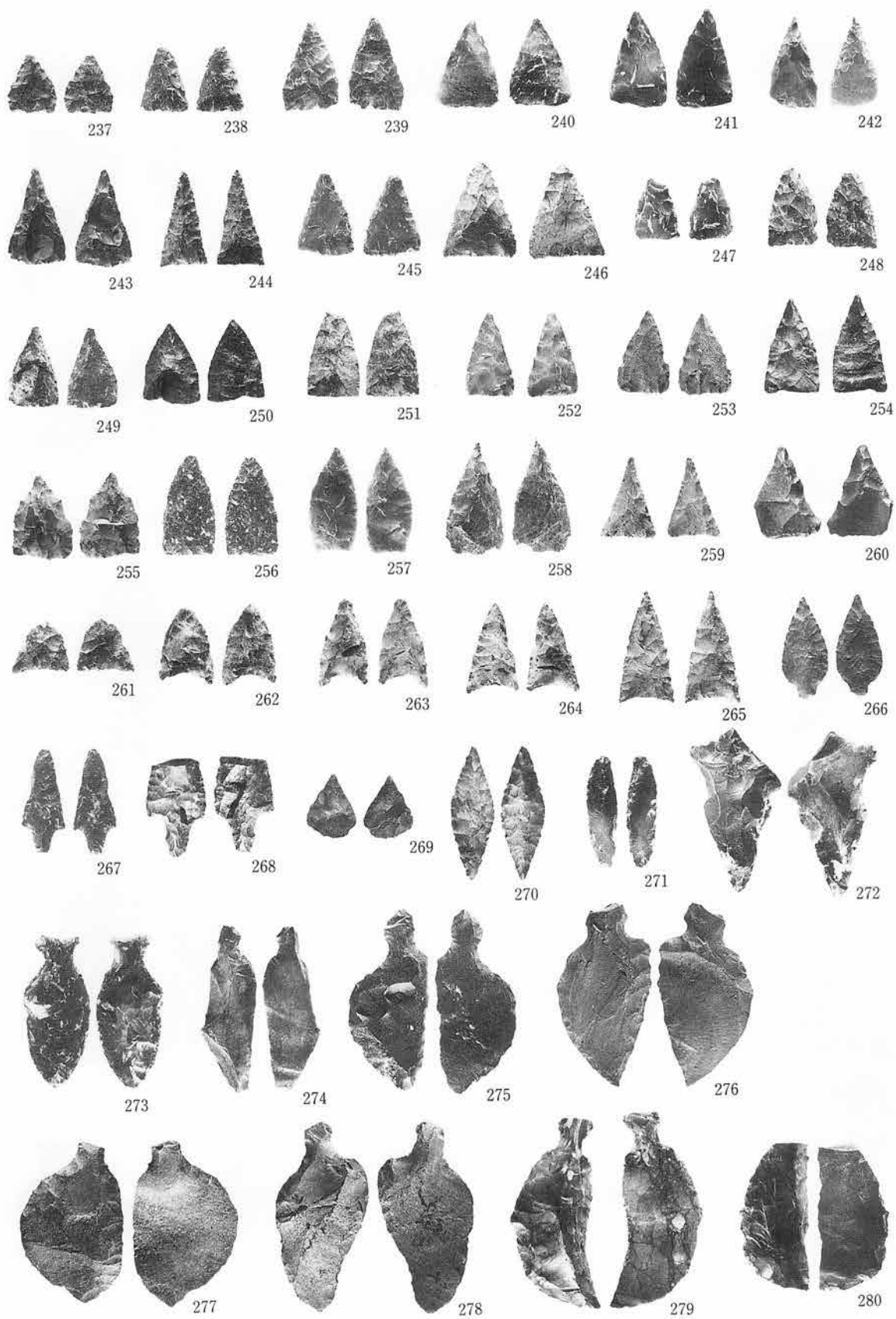




写真図版15 遺構外出土遺物 土器(7)

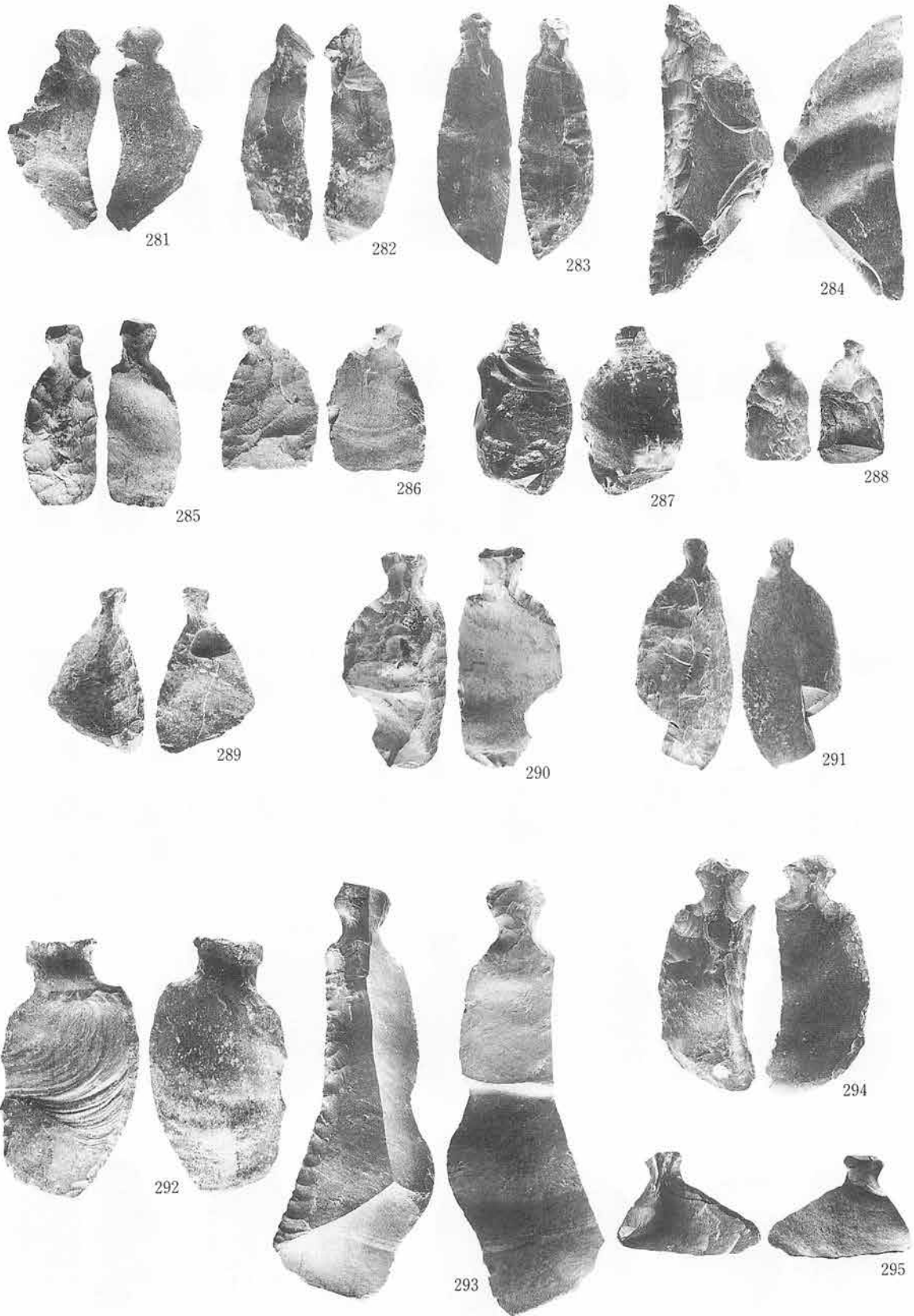


写真図版16 遺構外出土遺物 土器(8)

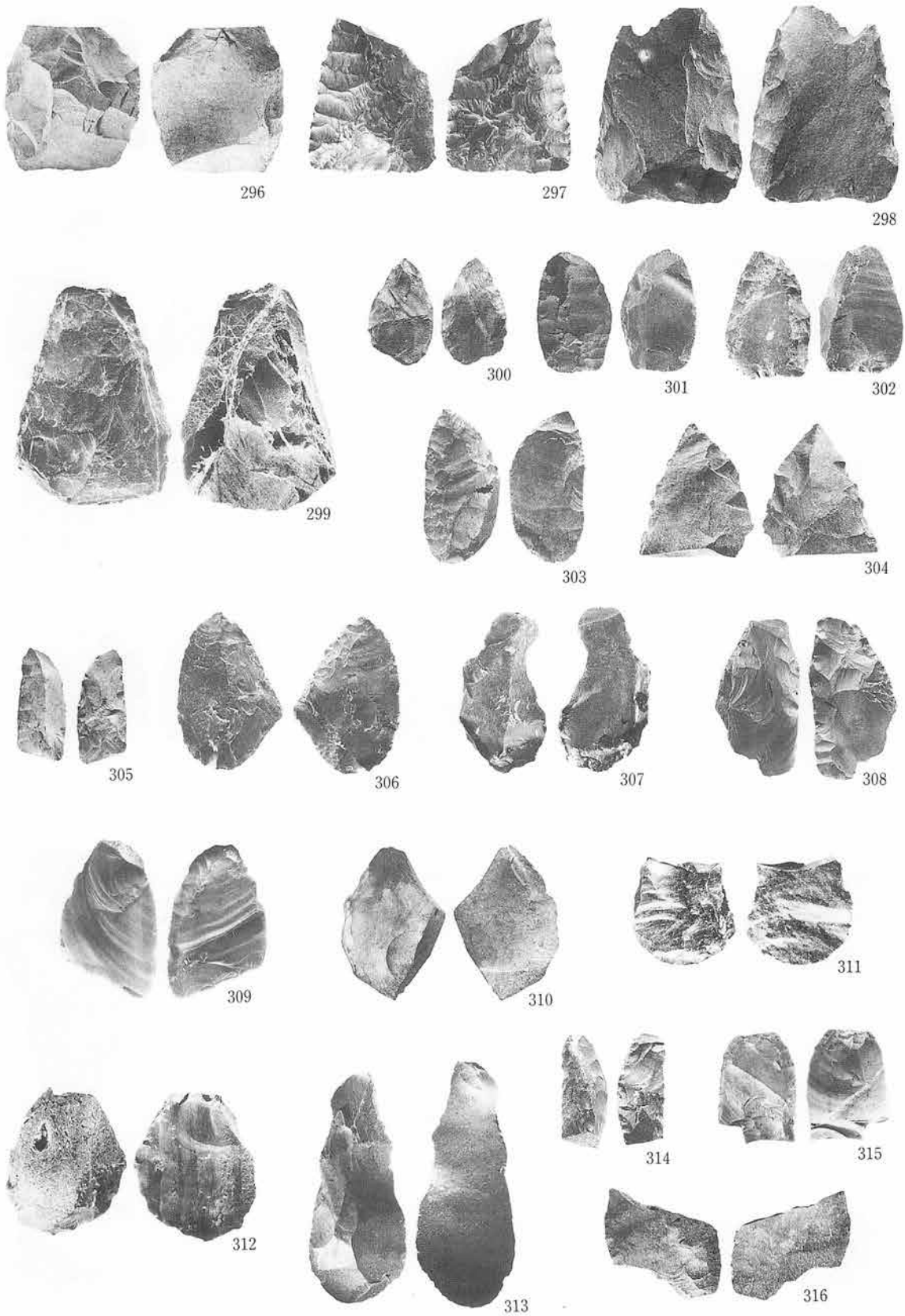


写真図版17 遺構外出土遺物 石器(1)

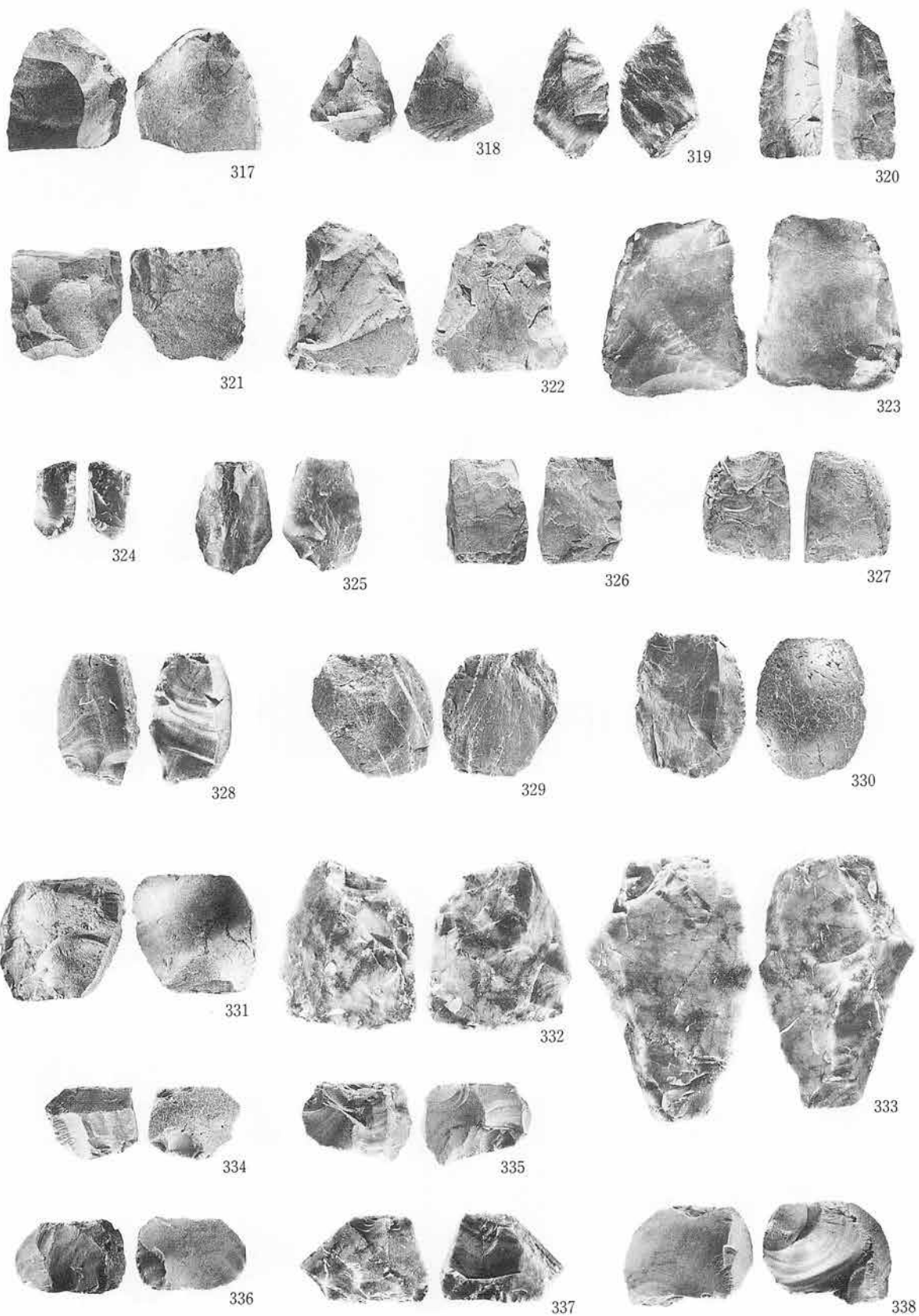




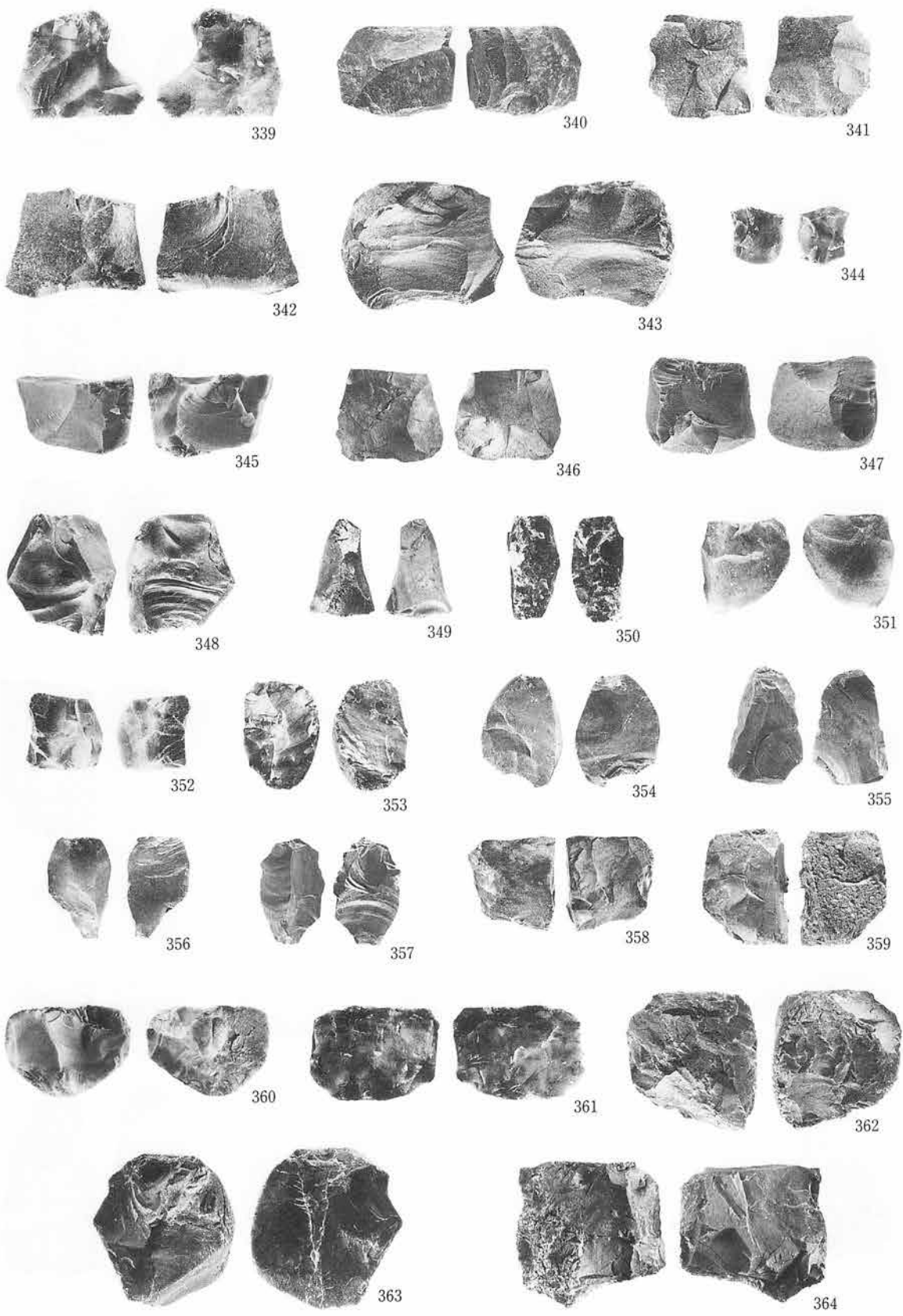
写真図版18 遺構外出土遺物 石器(2)



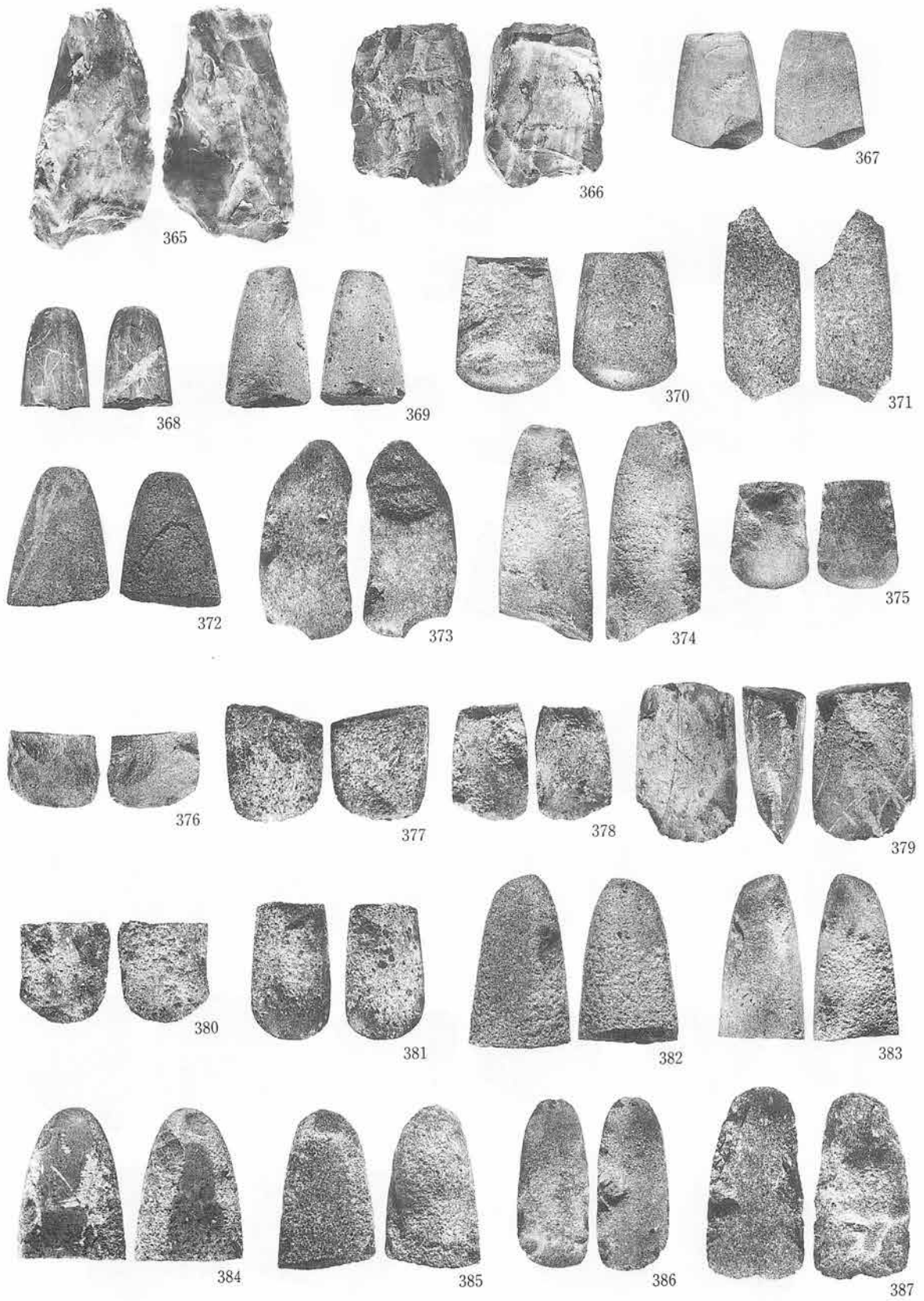
写真図版19 遺構外出土遺物 石器(3)



写真図版20 遺構外出土遺物 石器(4)

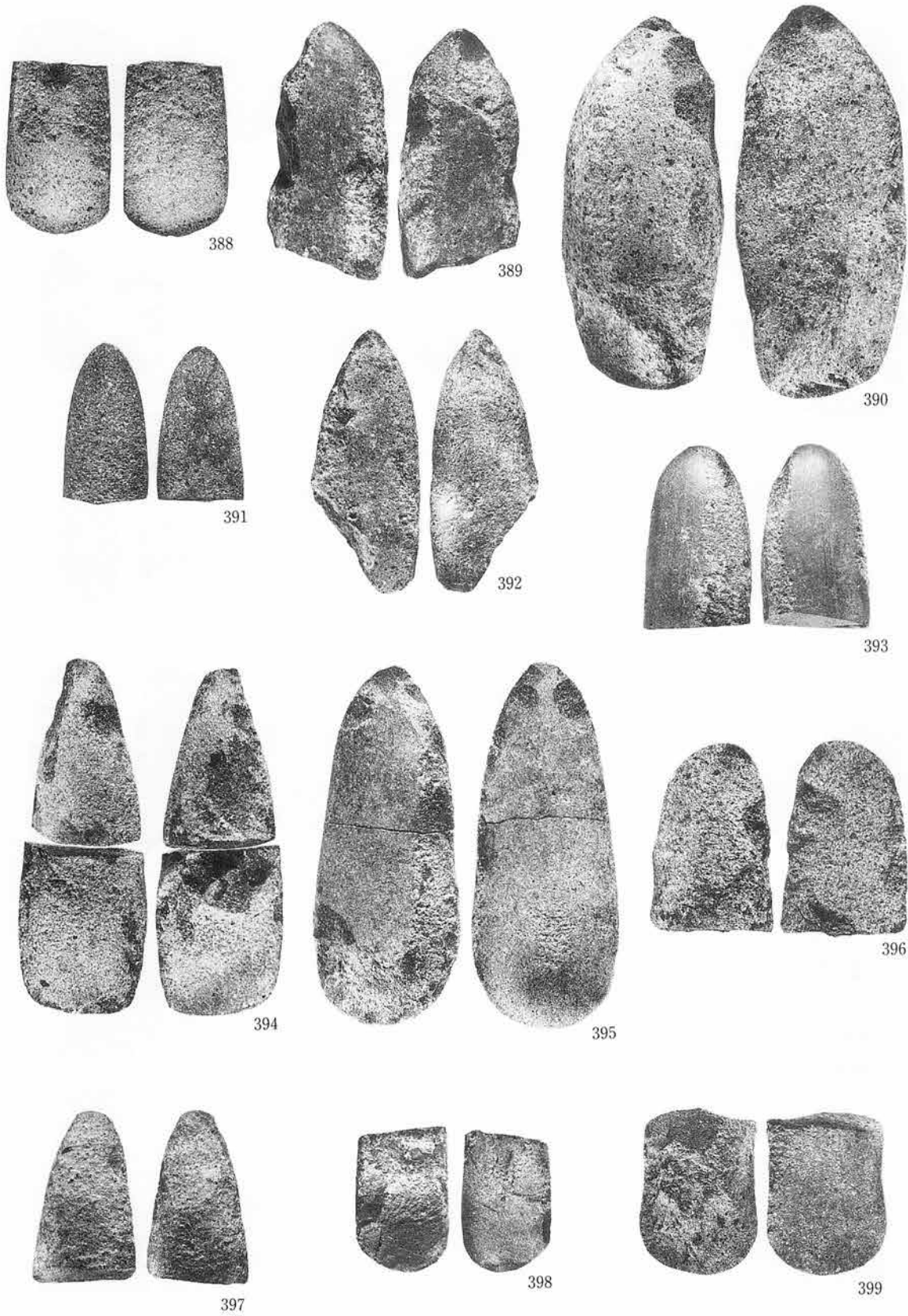


写真図版21 遺構外出土遺物 石器(5)



写真図版22 遺構外出土遺物 石器(6)





写真図版23 遺構外出土遺構 石器(7)

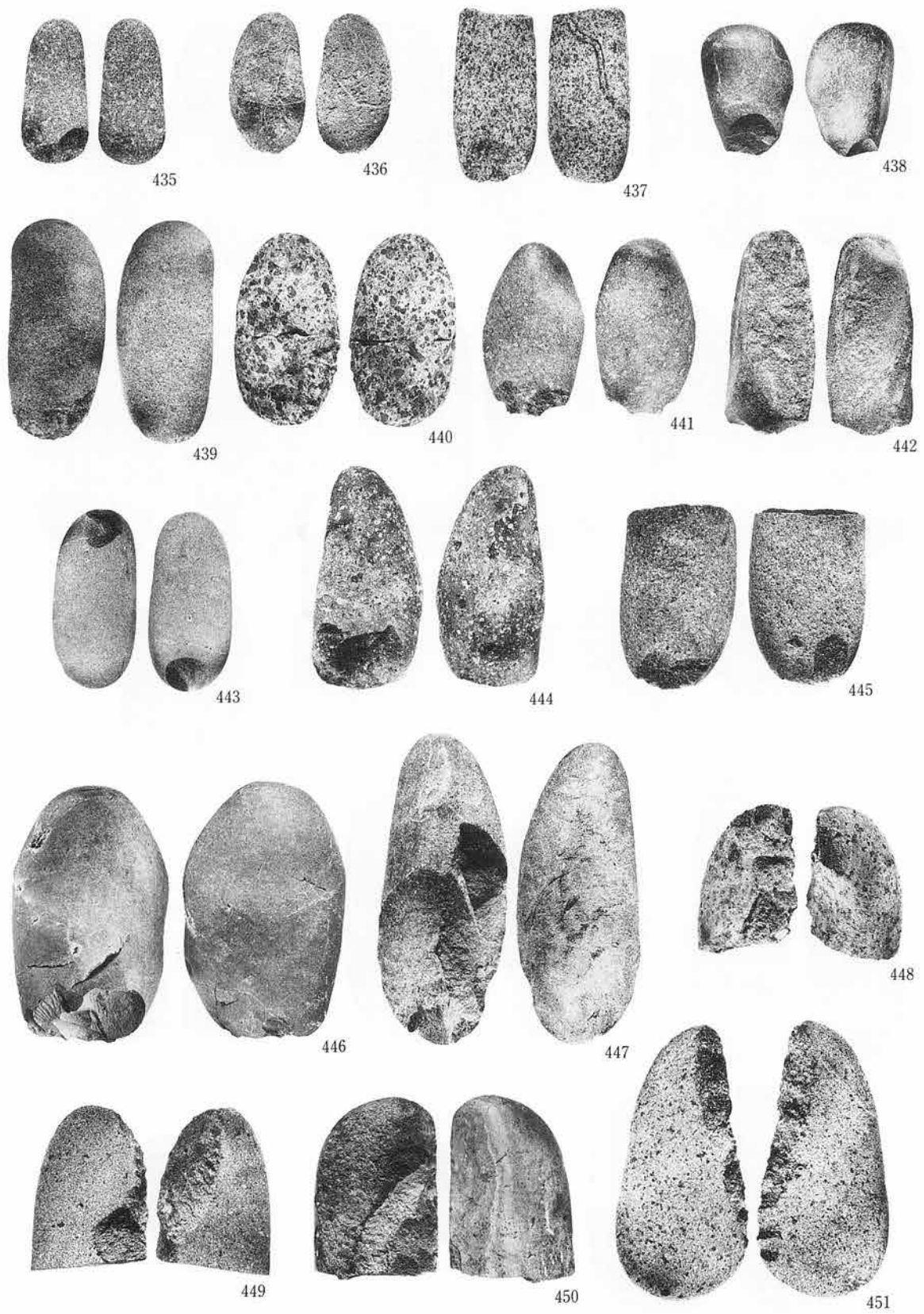


写真図版24 遺構外出土遺物 石器(8)

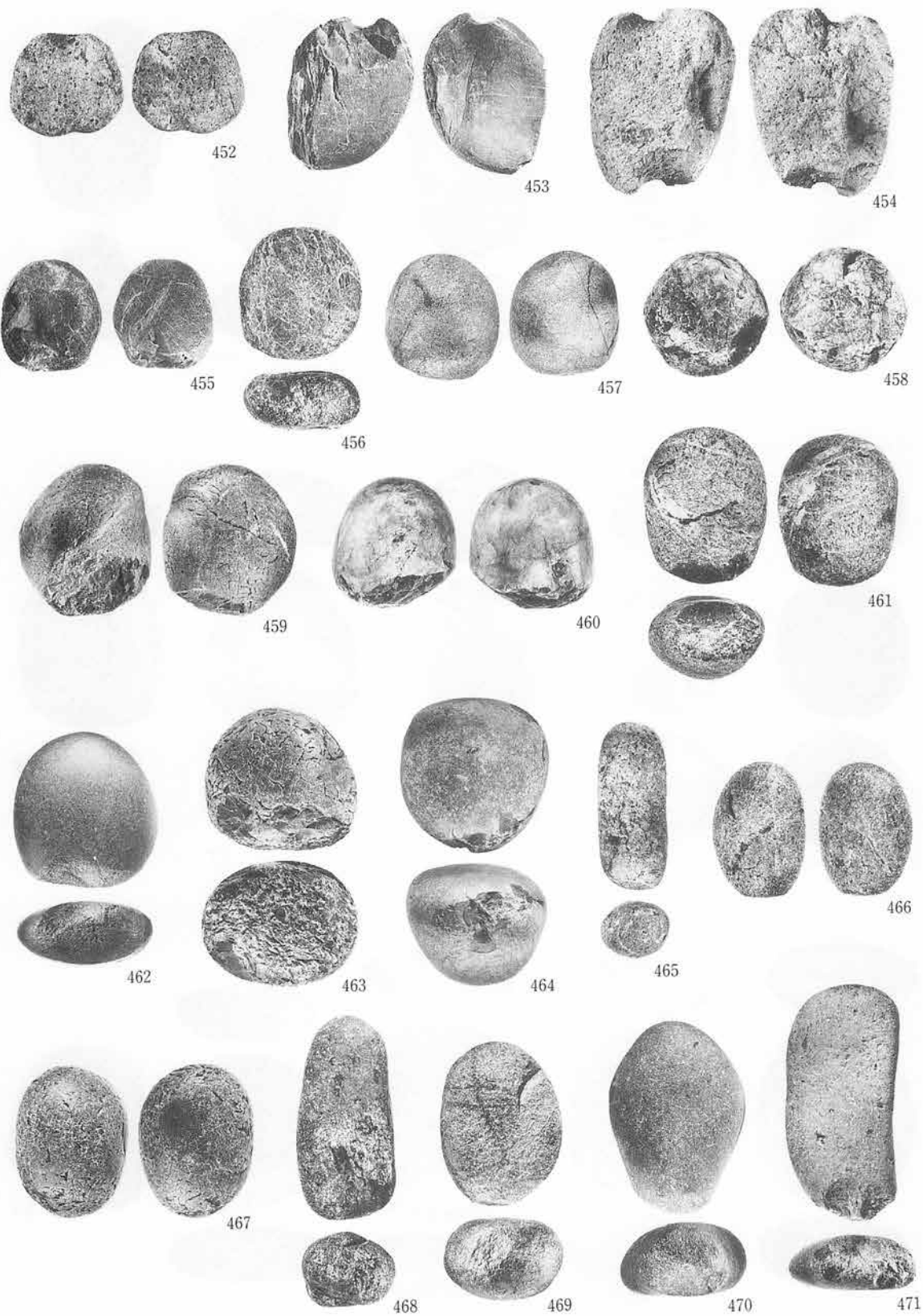


写真図版25 遺構外出土遺物 石器(9)

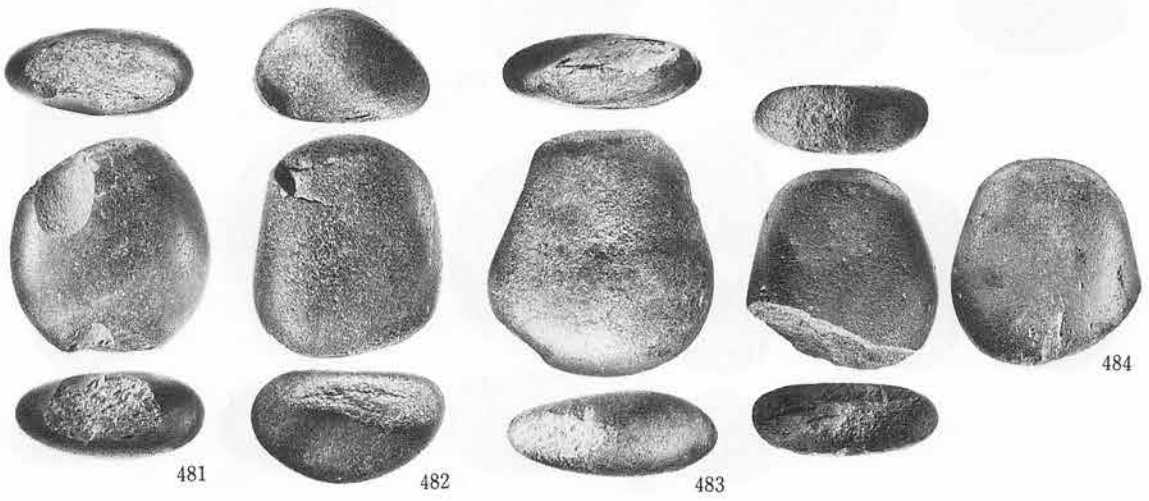
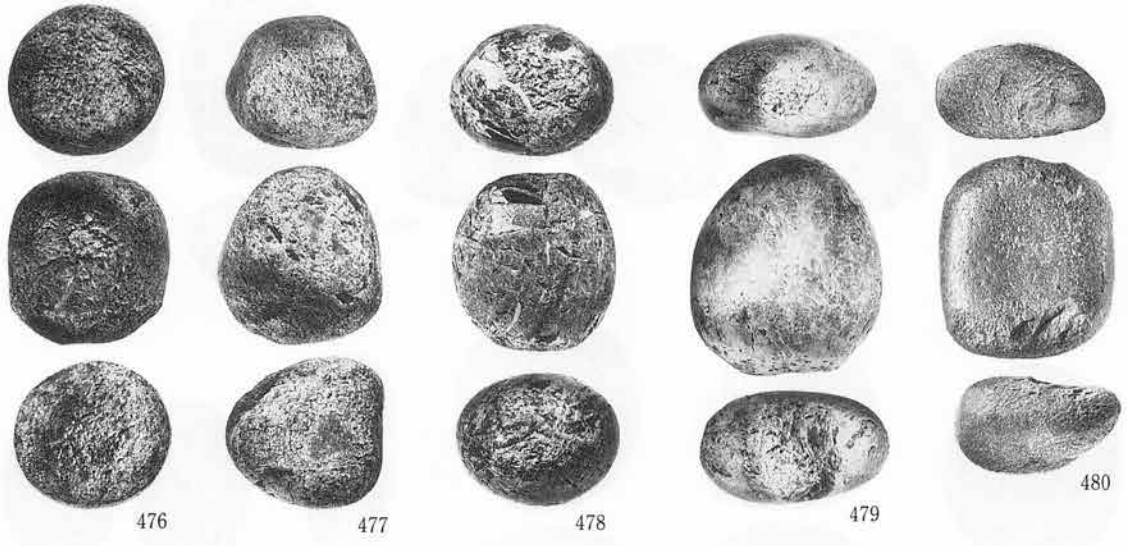
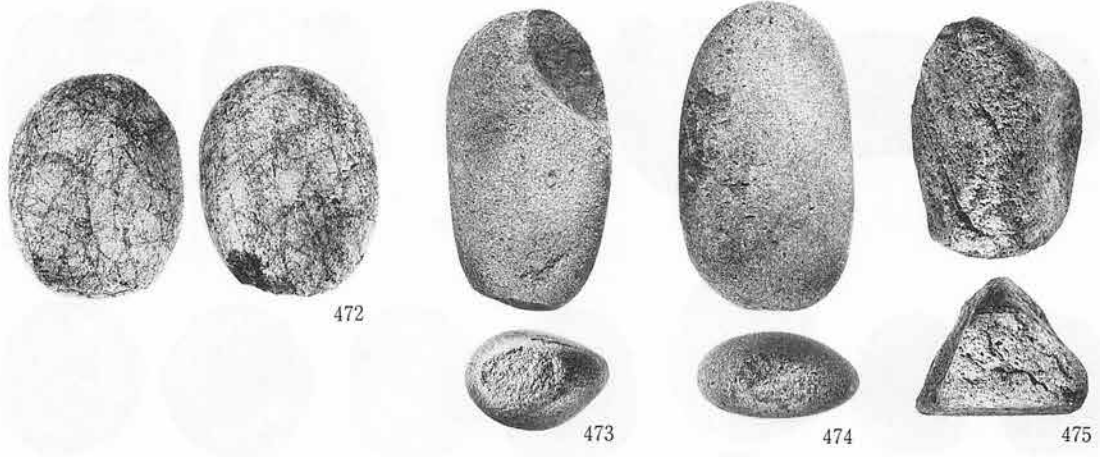




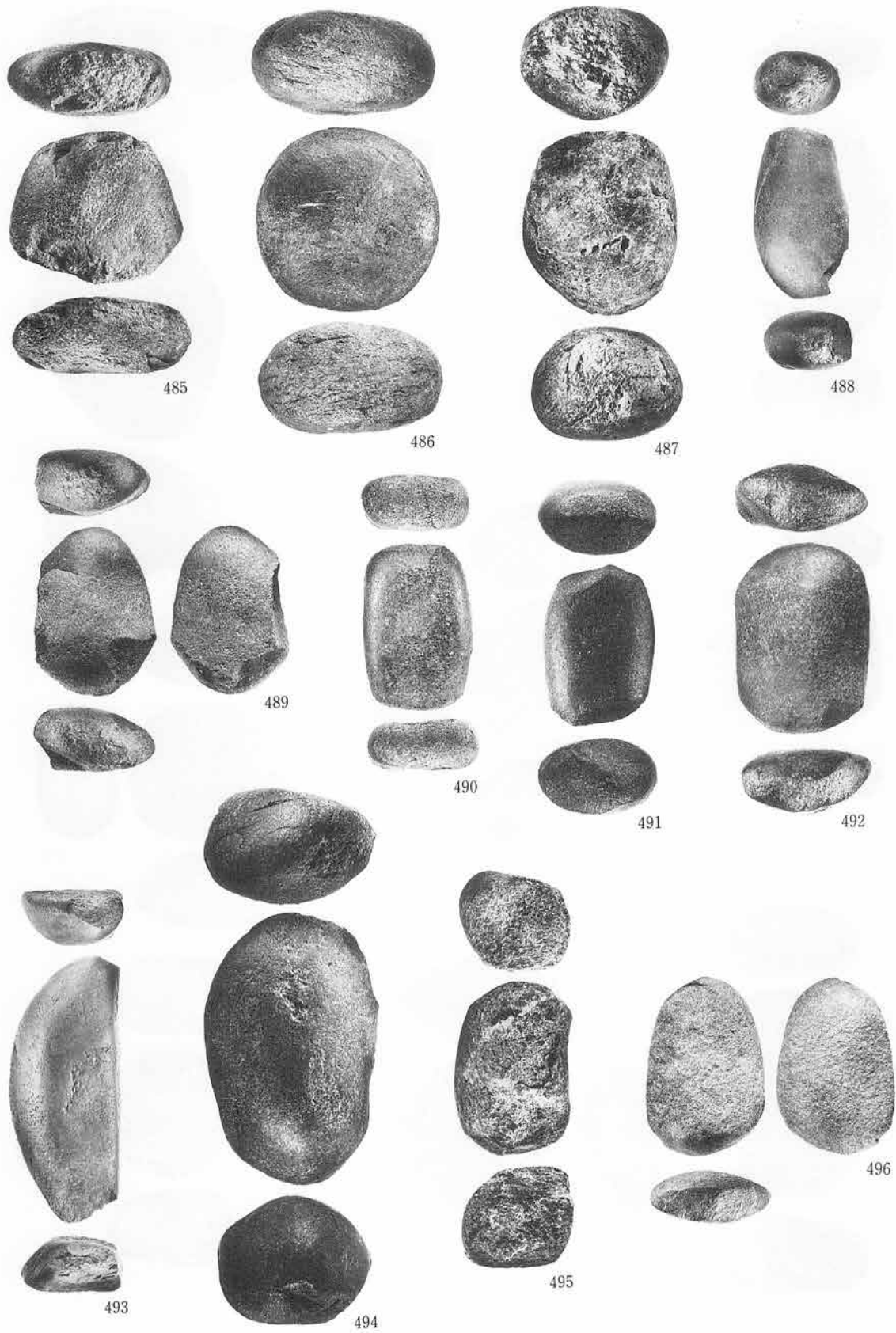
写真図版26 遺構外出土遺物 石器(10)



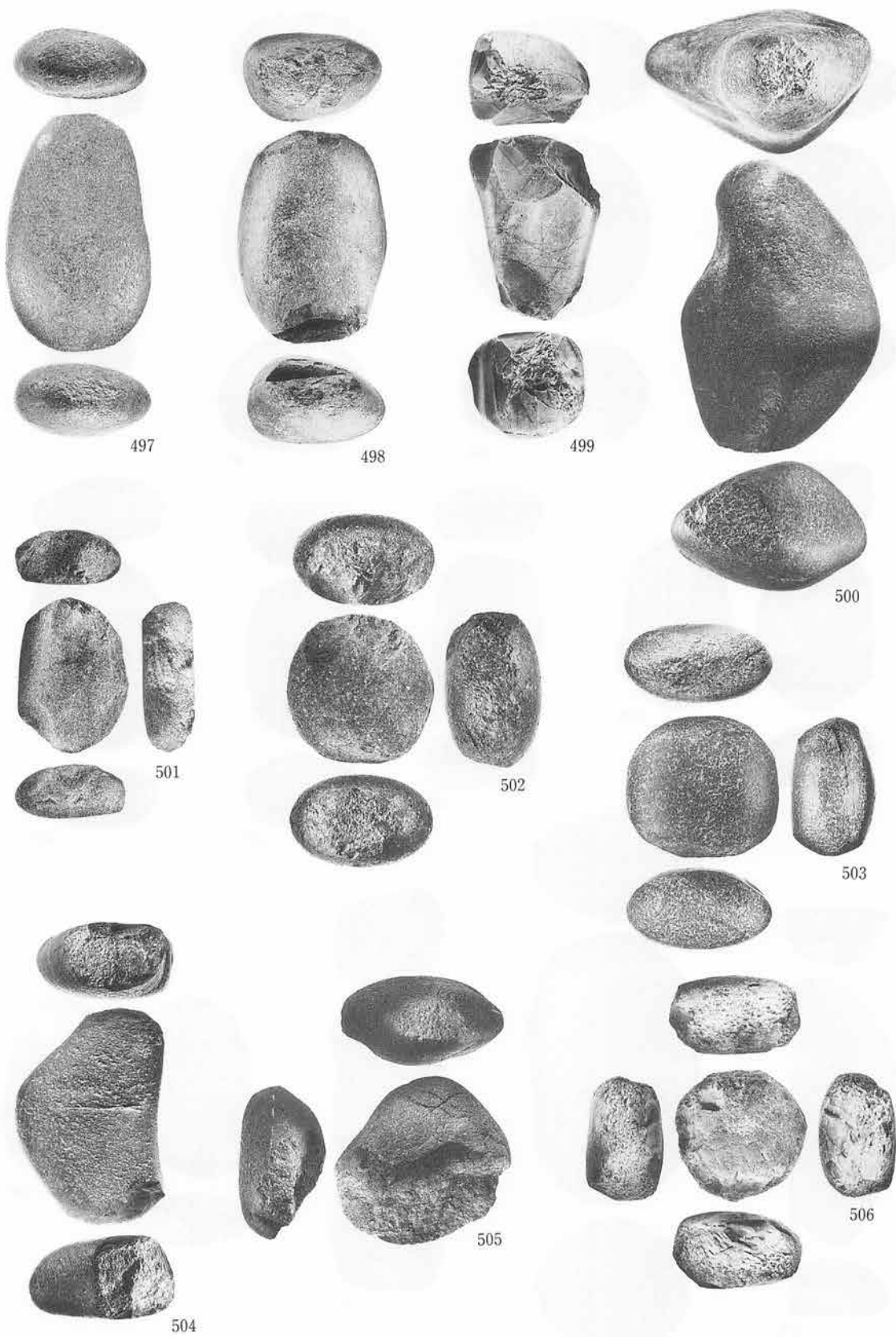
写真図版27 遺構外出土遺物 石器(11)



写真図版28 遺構外出土遺物 石器(12)

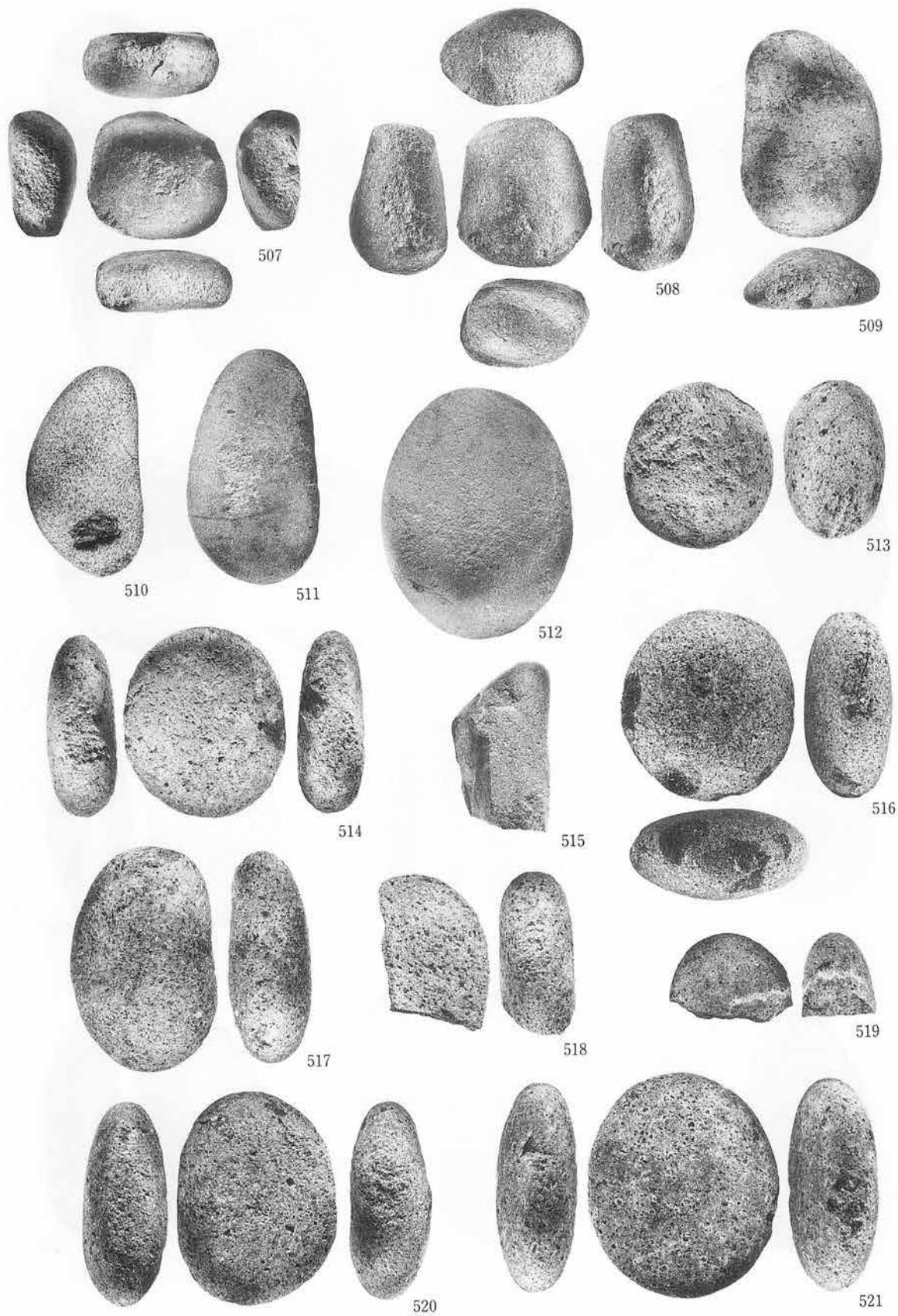


写真図版29 遺構外出土遺物 石器(13)



写真図版30 遺構外出土遺物 石器(14)





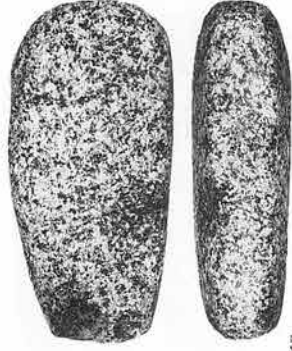
写真図版31 遺構外出土遺物 石器(15)



写真図版32 遺構外出土遺物 石器(16)



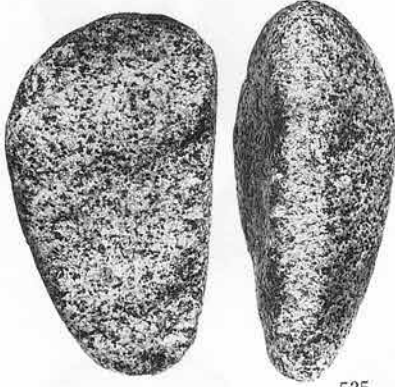
532



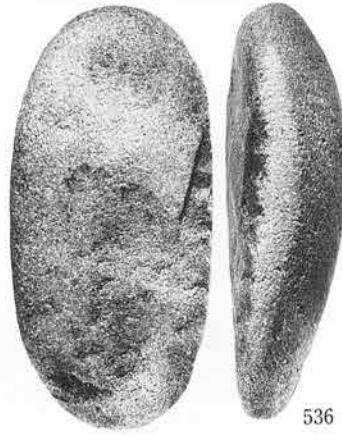
533



534



535



536



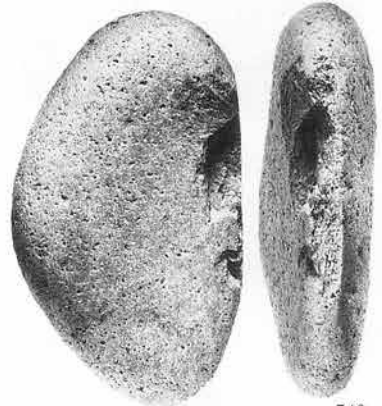
537



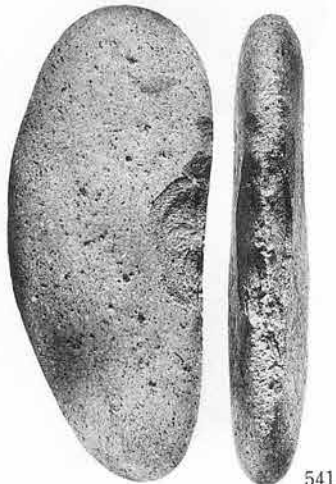
538



539



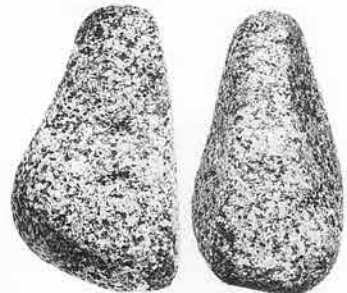
540



541



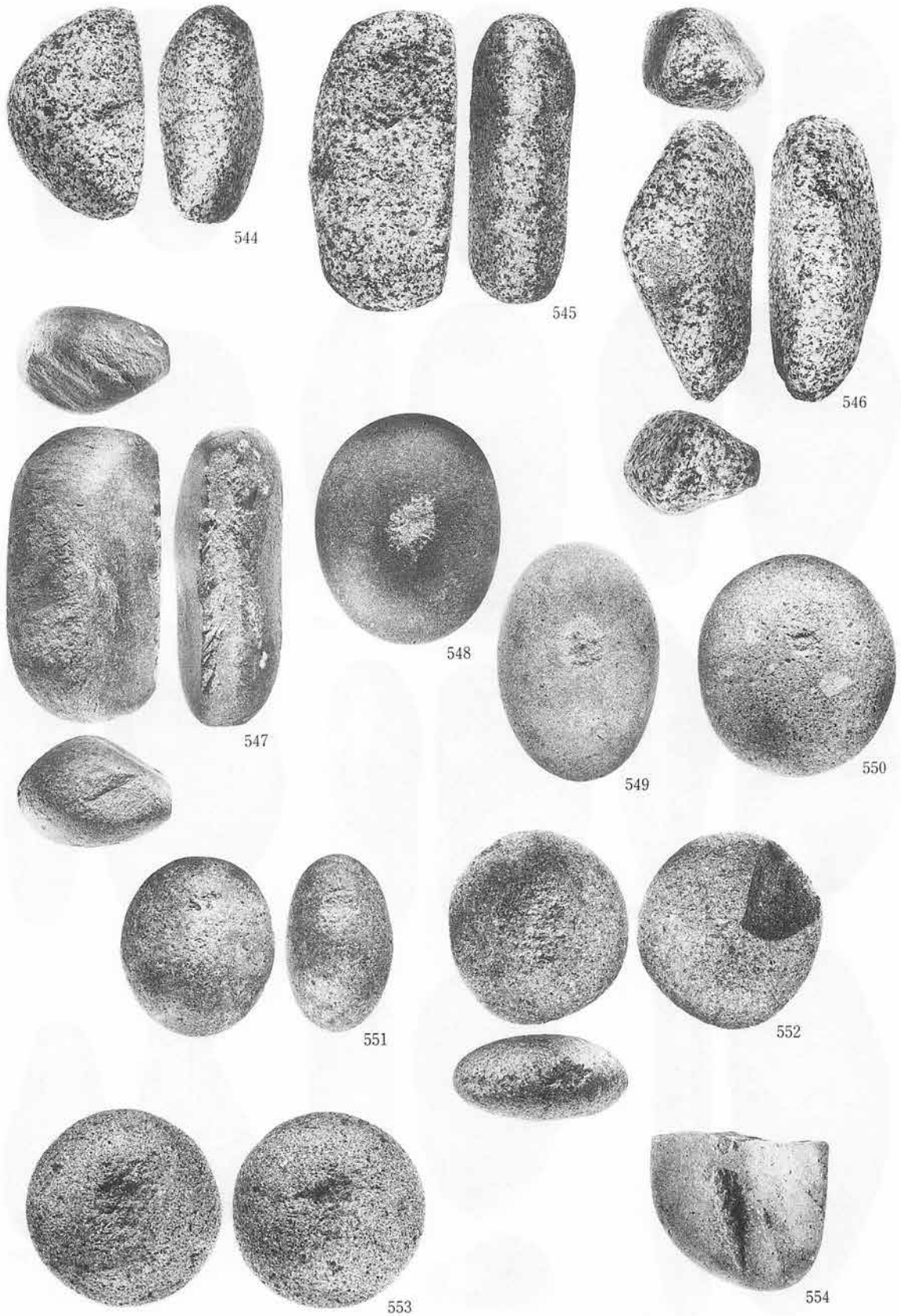
542



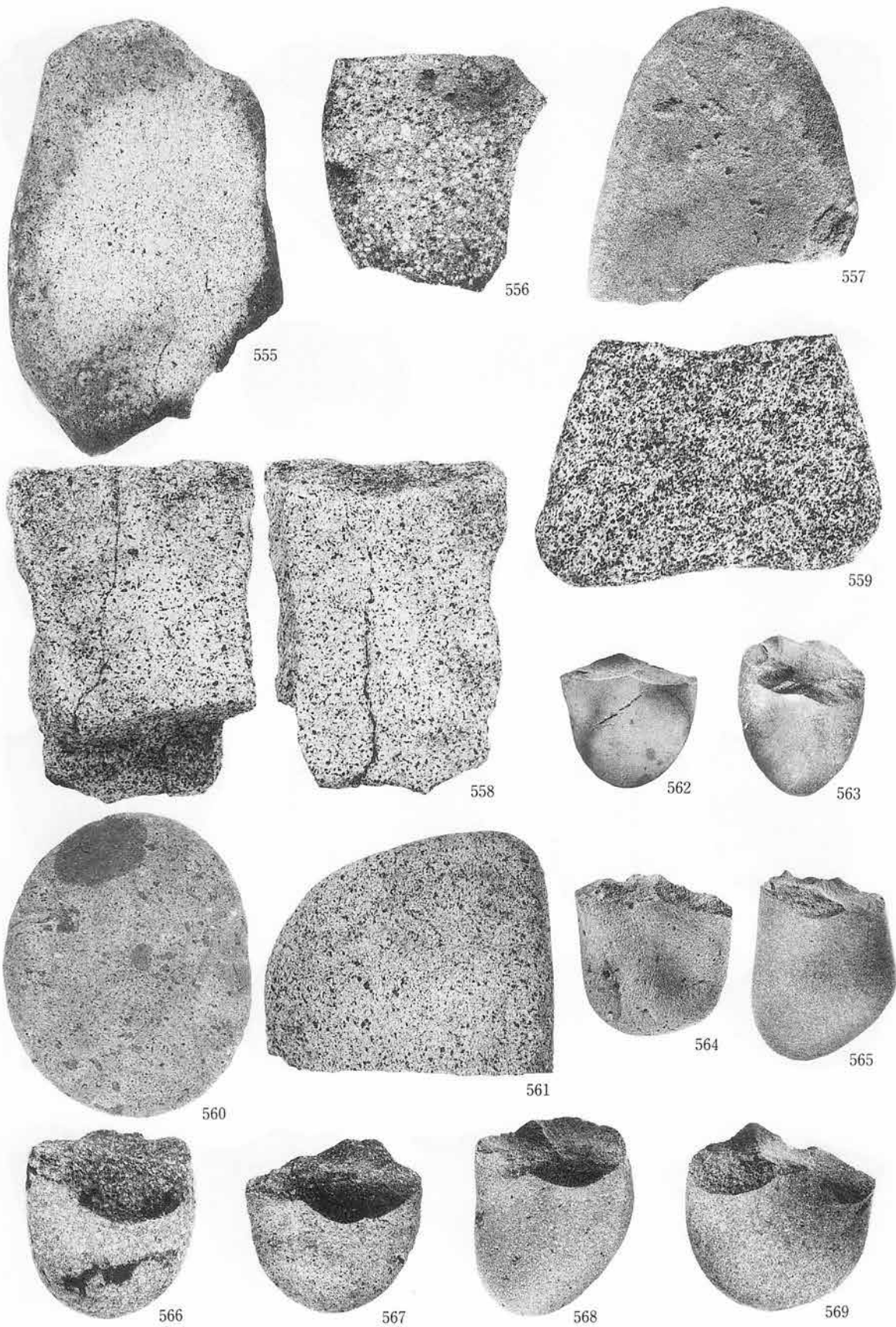
543

写真図版33 遺構外出土遺物 石器(17)

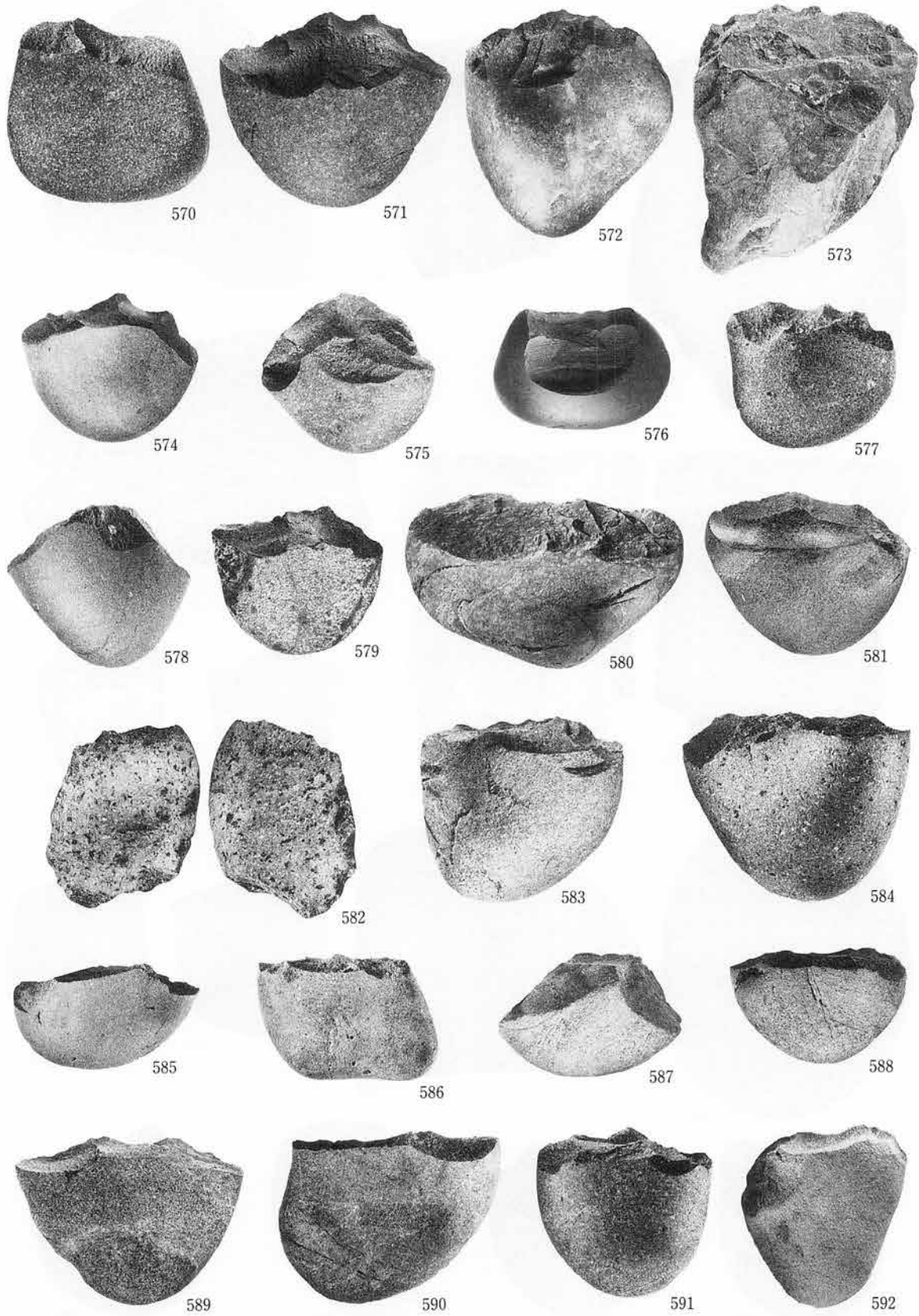




写真図版34 遺構外出土遺物 石器(18)



写真図版35 遺構外出土遺物 石器(19)

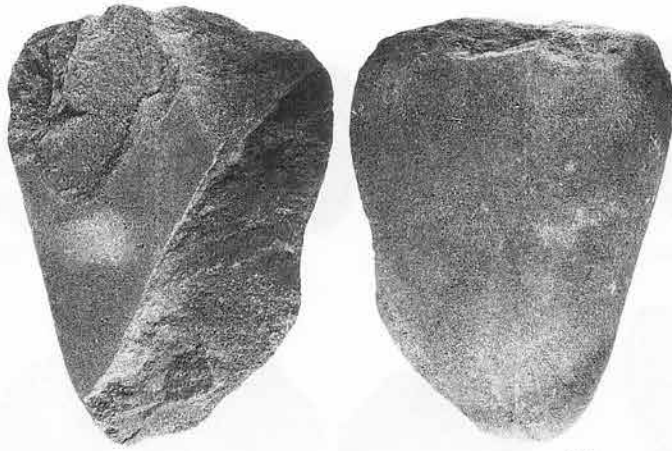


写真図版36 遺構外出土遺物 石器(20)



写真図版37 遺構外出土遺物 石器(21)





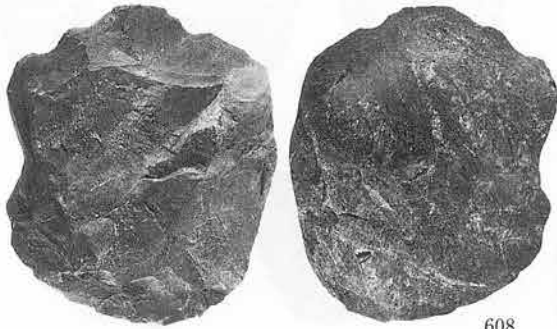
605



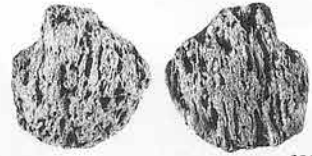
606



607



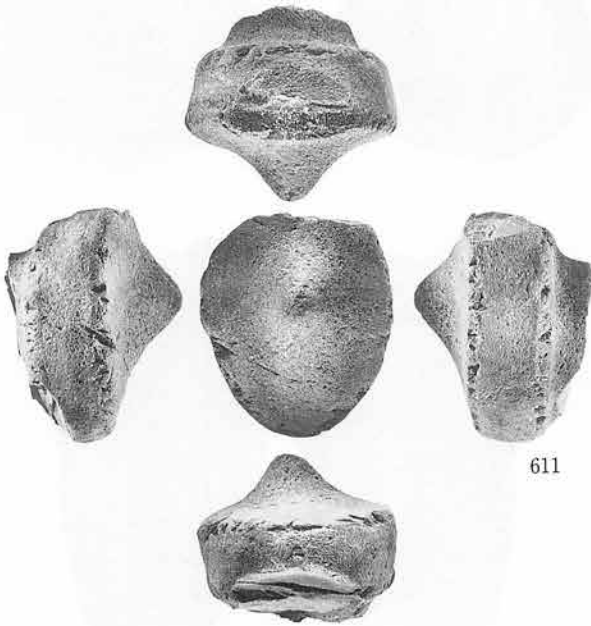
608



609



610



611



612

報告書抄録

ふりがな	ごっそういせきはつかつちょうさほうこくしょ							
書名	ゴッソー遺跡発掘調査報告書							
副書名	町道種市漁港線建設関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第238集							
編著者名	千葉孝雄							
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020 岩手県盛岡市下飯岡11地割185 TEL 0196-38-9001							
発行年月日	西暦 1996年 3月 29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
ゴッソー	岩手県九戸郡種市町第18地割字小路台29-13他	03502		40度 23分 54秒	141度 43分 06秒	19940413～ 19940729	3,456	道路（町道種市漁港線）建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
ゴッソー	狩り場	縄文	陥し穴 土坑 焼土遺構	6基 2基 10基	縄文時代早期の土器 縄文時代前期初頭の土器 と石器		日計式期の魚骨回転文土器、早期前葉の押型文土器が出土した。 石斧、敲石、礫器の出土多い	
		不明	柱穴状小土坑	33基				

# 財団法人岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長 高 橋 重 實

副 所 長 千 葉 政 男

## [管理課]

管 理 課 長 澤 田 寛

主 事 佐 藤 理

〃 久保田 幸 恵

嘱 託 吉 田 十 次

〃 野 崎 他 夫

## [調査課]

調 査 課 長 鈴 木 恵 治

課 長 補 佐 三 浦 謙 一

〃 高橋 與右衛門

主任文化財 菊 池 強 一

専門調査員 〃 渡 辺 洋 一

〃 工 藤 利 幸

〃 中 川 重 紀

〃 佐々木 清 文

〃 高 橋 義 介

〃 中 村 英 俊

〃 酒 井 宗 孝

文 化 財 千 葉 孝 雄

専門調査員 〃 菊 池 人 見

〃 伊 東 格

〃 吉 田 充

〃 斎 藤 邦 雄

〃 高 橋 一 浩

〃 鎌 田 勉

〃 小 山 内 透

〃 松 本 建 速

〃 笹 平 克 子

〃 花 坂 政 博

文 化 財 佐々木 務

専門調査員 〃 金 子 昭 彦

〃 木 戸 口 俊 子

〃 大 道 篤 史

〃 阿 部 勝 則

〃 星 雅 之

〃 羽 柴 直 人

〃 高 木 晃

〃 村 上 拓

〃 高 橋 佐 知 子

〃 杉 沢 昭 太 郎

〃 溜 浩 二 郎

期 限 付 高 橋 英 樹

専門職員 〃 佐 藤 修 一

〃 稲 垣 雅 宏

〃 元 吉 弘 明

〃 熊 谷 和 明

〃 佐々木 裕 司

〃 千 葉 貴 子

〃 沼 田 和 宏

〃 後 藤 円

## [資料課]

資 料 課 長 駒 嶺 高 幸

主任文化財 高 橋 正 之

専門調査員

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集

## ゴッソー遺跡発掘調査報告書

町道種市漁港線建設関連遺跡発掘調査

印刷 平成8年3月25日

発行 平成8年3月29日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県盛岡市下飯岡11-185

電話 (0196) 38-9001

印刷 山口北州印刷株式会社

盛岡市青山4丁目10-5